T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	日本における歴史的価値を転用する街のイメージ形成の枠組み
Title(English)	
著者(和文)	香月歩
Author(English)	Ayumi Katsuki
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10522号, 授与年月日:2017年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:奥山 信一,屋井 鉄雄,那須 聖,藤田 康仁,十代田 朗
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10522号, Conferred date:2017/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Type(English)	Doctoral Thesis

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

博士学位論文

論文題目

日本における歴史的価値を転用する街のイメージ形成の枠組み

指導教員：奥山信一　教授

論文提出者：香月歩

謝辞

この研究を進めるに際しまして、多くの方々にご指導、ご助言、そしてご協力をいただきました。これらの方々に心から感謝の意を表します。

指導教官の奥山信一先生には、研究の着想から論理の構築および展開、分析結果の解釈に到るまで、長い時間をかけてご指導いただきました。特に本研究の根幹である、建築・都市を取り巻く社会的枠組みを読み解く視点およびその意義について、論文をまとめていく中で幾度となく議論させていただき、その都度私の拙い考えに対して的確なご助言をいただきました。同先生の多大なるお力添えに心から感謝いたします。

さらに、私が論文執筆時に助教であられた塩崎太伸氏（東京工業大学准教授）、補佐員であられた四ヶ所高志氏（福岡大学助教）、大嶽陽徳氏（宇都宮大学助教）には、研究室の先輩として多くの貴重なご意見と励ましの言葉をいただきました。また博士課程の同期であった鈴木淳平氏（東京工業大学附属高校助手）とは、本論文が扱う情報デザイン学という新たな研究分野にともに取り組む者として、研究の論理構築やその展開について議論を重ねました。これらの先輩方、同期から、本研究の展開につながる数々の視点をいただきました。そしてこのほか、奥山研究室の多くの諸先輩後輩の方々にもご協力をいただきました。とくに付録の資料編の作成には、奥山研究室の大学院生であられる阿部光葉氏、織大起氏、桑原萌氏、笹岡賢佑氏、支小咪氏、柴田皓一郎氏、平野優太氏にご尽力いただきました。お礼申し上げます。

そして、大変ご多忙の中、この論文の審査をお引き受けくださった東京工業大学教授であられる屋井鉄雄先生、同大学准教授であられる十代田朗先生、那須聖先生、藤田康仁先生には、幾度となくお集まりいただき、本論文をまとめる中で検討の足りていなかった点、見落としていた点について、多くのご助言をいただきました。心から感謝いたします。

平成 30 年 2 月　　香月 歩

目次

第１章　序論

１．１．本論文の背景と目的
１．２．研究の資料と分析の方法
１．３．論文の構成と概要
１．４．本論文に関連する既往研究

第２章　江戸を転用する街の価値の意味内容

２．１．本章の目的と概要
２．２．価値対象と歴史属性にみる街の価値の意味内容
　２．２．１．価値対象の分類
　２．２．２．歴史属性の分類
　２．２．３．価値対象と歴史属性の関係
２．３．価値グループにみる街の価値の階層的性格
　２．３．１．言語表現にみられる価値対象同士の階層関係
　２．３．２．価値グループの階層構造の複雑性
　２．３．３．価値グループにみられる街の価値の階層的性格
２．４．価値グループの集合にみる江戸を転用する街の価値の総体
２．５．小結

第３章　京都を転用する街の価値の意味内容

３．１．本章の目的と概要
３．２．価値対象と歴史属性にみる街の価値の意味内容
　３．２．１．価値対象の分類
　３．２．２．歴史属性の分類
　３．２．３．価値対象と歴史属性の関係
３．３．価値グループにみる街の価値の階層的性格
　３．３．１．言語表現にみられる価値対象同士の階層関係
　３．３．２．価値グループの階層構造の複雑性
　３．３．３．価値グループにみられる街の価値の階層的性格
３．４．価値グループの集合にみる京都を転用する街の価値の総体
３．５．小結

第４章　歴史的価値を転用する街の価値の階層構造

４．１．本章の目的と概要
４．２．価値グループの階層構造
　　４．２．１．複合階層における階層の大小関係
　　４．２．２．複合階層における結合の密度
　　４．２．３．価値グループにおける結合の形式
４．３．価値グループにおける歴史属性の分布
　　４．３．１．歴史属性の分布
　　４．３．２．価値グループにおける歴史属性と階層構造の関係
４．４．価値グループの集合にみる街の価値の階層構造
４．５．小結

第５章　歴史的価値を転用する街の価値の特性

５．１．本章の目的と概要
５．２．街の価値の意味内容の比較
５．３．街の価値の階層的性格の比較
５．４．街の価値の総体の比較
５．５．街の価値の総体と階層構造の関係
５．６．小結

第６章　結論

第１章　序論

１．１．本論文の背景と目的
１．２．研究の資料と分析の方法
１．３．論文の構成と概要
１．４．本論文に関連する既往研究

1．1．本論文の背景と目的

本論文は、現代社会における場所のイメージについて、イメージ形成の枠組みとしての意味の構造に着目し、他の場所からの歴史的価値の転用というイメージの思考の形式に焦点を当て、そのメカニズムの一端を明らかにするものである。

イメージとは、広辞苑[1-1]によれば「①心の中に思い浮かべる像。心象。②姿。形象。映像。」といった意味があるが、本論では人々の知覚的経験を介して形成される主観的認識の総体をイメージと呼ぶ。例えば経済学者のK・ボウルディングは、イメージを「人々の世界に関する知恵の総体」とし、個人の経験を介して社会的かつ私的に形成されたイメージが人々の行動を決定づける基底をなすと論じている[1-2]。

建築家にとって、場所、あるいは都市は、自らのつくる建築やその論理の構想において密接な関わりをもつもの、あるいは新たな発想をもたらすものとして、常に思考の対象であり続けてきた。R・ヴェンチューリの示すラスベガスに見出される象徴としての建築のあり方[1-3]、A・ロッシによる中世イタリア都市建築のタイポロジー[1-4]、槇文彦が示す東京の歴史的断片が重層する都市空間の構造[1-5]など、建築家の描き出す様々な都市の姿は、今もなお私たちの場所に対する見かたを揺さぶり、私たちが抱く場所のイメージを書き換えるほどの魅力を放ち続けている。

これらの場所の認識は、建物や街路、地形、景観といった場所の空間的特徴を構成するエレメントから論じられるものであるが、一方でこうした場所の空間的、実体的な側面から形成されるイメージのほかに、場所の意味的な側面から形成されるイメージが存在する[注1-1]。ある場所を認識するとき、私たちはその場所の全てを一様に認識しているのではない。場所を対象として認識する以前に、その場所の様々な事柄に対する意味を何らかの形で認識しているのだ。例えば、その場所にまつわるエピソード、見所のスポット、季節のイベント、名物の店、モノ、人…。そうした場所そのものあるいは場所を構成する事柄に対する意味が、個人の経験を介して、あるいは社会的に共有されたものとして、ある濃淡をもって人々のなかに形成されている。これらの意味の濃淡が、場所に対する見かたを決定づけ、私たちの場所のイメージを現実から独立したものとして成立させているのだ。

本論文は、こうした場所のイメージ形成に関わる意味に着目するものであり、その分析の対象としてメディアを用いている。M・マクルーハンが発話から活字、電子媒体に至るあらゆるメディアを総じて「人間の拡張の諸相」と位置づけ論じているように、メディアは人間の身体感覚の拡張といえ、私たちはそうしたメディアから世界に対する自らの認識を再び取りこみ認識するという再帰的なサイクルのなかで、文化を形成してきた[1-7]。すなわち、今日私たちが場所に対して投影する様々な意味は、メディアなしには存在し得ないものと考えることができ、このようなメディアそのものにみられる場所の意味の多様なあり方を観察することは、人間が培ってきた文化における場所の本来的なあり方を考えることにもつながるものと考える。

以降本節では、本論文の背景について、現代社会において場所のイメージを捉えることの意義、場所の価値の転用というイメージ形成の枠組み、イメージ形成におけるメディアのはたらきといった点から論じ、本論文の目的および建築意匠論における意義を位置づける。

現代社会における場所のイメージ

人々が抱く様々な場所に対するイメージは、場所そのものの実体的な有様だけでなく、社会や人々の生活の変容に応じても変化してきた。言い換えれば、私たちは社会の変容とそれに伴う生活のあり方の変容とともに、場所に対して新たな意味や価値を見出し、そのイメージを成立、変化させてきたといえる。

現代において、場所に見出される意味はますます多様化し、拡張している（図 1-1, 1-2）。例えば人々の観光の目的は、個人の趣味を満足し特異な体験を提供するものとして多岐化し、いまや景勝地やリゾート地といった場所だけでなく、農山村地域、工業地帯、映画やアニメのロケ地など様々な場所に対して価値が見出され、それらの場所に多くの人々が訪れる状況にある。また近年若年層を中心に活発化している都市部から地方への移住や二拠点居住といった現象は、場所に対する意味や価値観の多様化が、私たちの普段住まう場所に対しても生じていることを示している[注 1-2)]。

アグリツーリズム

イタリア トスカーナ地方

産業遺産観光

群馬県 旧富岡製糸場

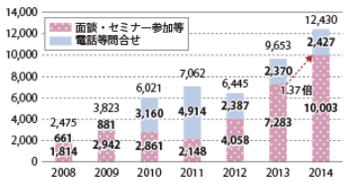
映画ロケ地の観光

北海道 富良野市

図 1-1 多岐化する観光の目的と観光地

島根県海士町
地域おこしで島外出身者の移住が増加

移住情報誌
「TURNS」創刊
（2012 年）



ふるさと回帰支援センター（東京）の
問合せ・来場者数の増加を示すデータ
（国土交通省作成）

図 1-2 若年層における地方移住の活発化

かつて坂本一成は、高度成長期後の日本における住宅のかたちとその意味の多様化を取り上げ、人々にとって住宅が「使用対象」から「所有対象」として変化したことを指摘し、人々が住宅に投影するイメージを次のように論じた[1-10)]。

> *今日、所有対象化した家に住むということは、そこに〈あこがれの対象〉あるいは〈あこがれのライフスタイル〉を見ることによって、それと自分自身との関係において住まうことのイメージを形成し、そのイメージの内に家をつくり、そのイメージに住みながら生活することである。つまり、見ることによって記号として現れた屋根や玄関のかたちがつくりだすイメージ（それは雨、露をしのぐ屋根、出入口としての玄関、ではなく、豪華で重厚な、そして新しい感覚の記号としての屋根や玄関）のなかに自分の住む場を見出し、そこで生きることを求められているということになる。*
>
> 所有対象としての住宅 , 1985

上記のような状況を鑑みれば、今日では住宅のみならず場所までもが所有対象としての意味を担い、どこに住み、どこで働き、どこで遊ぶかといった個人の場所の選択が、自らの生活のスタイルを表す記号として機能する状況にあるといえるのではないだろうか。このような状況は、人々の場所に対する価値観の多様化といった個人から発せられる要因によって一義的に決定づけられるものではなく、グローバリゼーションに代表される人やモノ、情報の流動化、また日本をはじめとした先進国における第一次・二次産業の衰退など、様々な社会的動向のなかで生じているものである[1-9]。つまり、人々が場所に対して見出す意味とは、個人の趣味や嗜好によって決定されるものではなく、社会によって枠組みづけられたものと考える。以上のような観点から、現代社会において場所に対してどのような意味が見出され、イメージが形成されているかを明らかにすることは、今日における人々と場所の関係性、あるいは社会における場所そのもののあり方を問うことにもつながるものと考える。

他の場所からの価値の転用

場所のイメージは、街並みやランドマークといった視覚的な特徴、祭礼や特産品といった文化的な特徴、歴史的な事件や映画の舞台といったエピソードなど、様々な要因により想起されるものであるが、本論では他の場所からの価値の転用という類推的なイメージの思考の形式に着目する。これは、例えば図 1-3 の「△△銀座商店街」「××の小江戸」「○○のナポリ」といった名称で形容される街のように、街の有する様々な特徴が、銀座、江戸、ナポリという人々に広く知られる都市に類推され、その名称が転用されるものである。このような地名の転用により、これらの都市から想起される様々なイメージが街の価値として類推されるが、転用先の街はこれらの都市と全てが類似するものではないことから、転用元の都市からは変容した街独自のイメージが形成されるものと考えられる。本論文では、このような地名の転用により生じる、場所の価値の類推と変容という複層化した意味作用を総じて価値の転用と呼んでいる[注 1-3]。

このような思考の形式は、海外においても「リトルトーキョー」や「リトルヴェニス」といった表現として散見されるが、特にわが国においては「見たて」や「あやかり」といった概念として定着し、日本の空間や文化を特徴づける重要な概念として位置づいていることを磯崎新や多木浩二らが指摘している[1-12) 1-13]。

銀座 を転用する街

戸越銀座商店街
東京都大田区

江戸 を転用する街

小江戸川越
埼玉県川越市

海外 を転用する街

東洋のナポリ
鹿児島県鹿児島市

図 1-3 場所の価値の転用

以上で示した通り、わが国には様々な場所からの価値の転用がみられるが、なかでも「小江戸」および「小京都」という対的な表現がみられるように、江戸または京都というわが国を代表する歴史都市の名を掲げることでこれらの都市の歴史的価値を転用する街（以下、歴史的価値を転用する街）が全国各地にみられる[注 1-4]。

ここで、歴史的価値とは、一般的には歴史学的な評価が付与されたものに対して認められる価値として用いられるものであるが、本論では歴史学的な評価によらず、街に残る特定の年代との関連性や古びた雰囲気などに見出される記号的価値を広義の歴史的価値として用いる。

これらの街では、江戸、京都という言葉が喚起する都市空間、時代性、風俗といった様々なイメージが自由に解釈され、街の価値として転用されることで、江戸および京都からは変容した独自のイメージが形成されていると考えられ、共通したイメージの思考の形式を指摘できる。しかしながら、江戸は履歴としては現在の東京に接続しているが、都市の呼称としては特定の時代に限定されるのに対して、京都は平安時代から現代にわたる長大な履歴を有する都市であり、現在でも世界的な歴史都市としてその呼称が広く流布されていることから、江戸、京都という言葉に投影される意味の広がりには相違が存在し、これらの言葉を転用する街[注 1-5]において異なる歴史的価値の転用のメカニズムを見出すことができると考えられる（図 1-4 ）。

このような観点から、本論文では江戸および京都の歴史的価値を転用する街について、そのイメージのメカニズムを検討し、それらの比較を通して江戸、京都それぞれの歴史的価値の転用の特性を考察することで、日本における歴史的価値の転用による場所のイメージ形成の枠組みを明らかにすることを目的としている。

	江戸 を転用する街	京都 を転用する街
	「小江戸川越」/ 埼玉県川越市	「みちのくの小京都」/ 秋田県角館
江戸 / 京都からの価値の類推	**江戸の形式を残す蔵の町並み 江戸時代から伝わる川越氷川祭**	**京都の公家が残した枝垂れ桜 京都に似た地形**
街独自の価値の付加	**昭和の下町情緒ある横丁 大正時代に建てられた銀行建築**	**江戸時代から続く武家屋敷の町並み 伝統工芸の樺細工**
江戸と京都の違い	江戸 ‥履歴としては現在の東京に接続しているが、都市の呼称としては特定に時代に限定される	京都 … 平安時代から現代にわたる履歴を有する都市であり、世界的な歴史都市として広く知られる

⇩

異なる歴史的価値の転用のメカニズムを見出すことができる

図 1-4 歴史的価値を転用する街におけるイメージ形成のメカニズム

場所のイメージ形成におけるメディアのはたらき

以上で述べた歴史的価値を転用する街のイメージのメカニズムについて、本論文ではメディア[注1-6)]を分析の対象としている。

場所のイメージは、その場所に住むあるいは訪れるといった直接的な経験を通して形成される場合と、その場所についての情報を見聞きするという間接的な経験を通して形成される場合とが存在すると考えられる。例えば、情報化がすすみ様々なメディアが環境化した現代においては、私たちは場所についての様々な情報に受動的にも能動的にも接することができる。週末どこかへ行くとすれば、テレビで紹介された場所を思い出して行き先を決め、インターネットや旅行雑誌をチェックしながら現地での旅程を計画し、現地ではスマートフォンの地図と旅行案内のウェブサイトの情報を片手に散策する。自分の住む場所においても、タウン情報誌やインターネット上の口コミといった様々なメディアから情報を得、どこで遊ぶか、どこで食べるか、あるいはどこに住むかといった選択を行っている。このように、私たちのあらゆる場所における経験は、メディアから先行して得られる情報からの強い影響を受けている。

歴史学者のD・ブーアスティンは、近代以降の人々の旅行をはじめとした場所に対する経験が、未知のものに対する開拓的経験ではなくメディアからの情報を通して事前に形成されるイメージを前提とした追認的体験へと変化したことを指摘し、さらにそうした傾向があらゆる側面に展開していることを20世紀初頭に西欧で流行した冒険的旅行を例にとり次のように論じている[1-15)]。

> *われわれの興味の大部分は、われわれの印象が新聞・映画・テレビに出てくるイメジに似ているのかどうかを知りたいという好奇心から生まれる。ローマのトレビ噴水は、本当に『愛の泉』という映画のなかで描かれたようなものなのであろうか？そこはスージー・ウォンでいっぱいなのであろうか？われわれは現実によってイメジを確かめるのではなく、イメジによって現実を確かめるために旅行する。…われわれは、危険や冒険さえも作り出さなければならない。さもなければ一生懸命になって捜し求めなければならない。リチャード・ハリバートンの著作が人気を博したのは、旅行がアメリカ人にとって快適な、危険のない商品になったのと同時期である。旅行を輝かしい冒険にするために、ハリバートンは古代の冒険を再現しなければならなかった。彼はギリシャ神話のレアンゲルのように、ダーダネルス海峡を泳いで渡った。またユリシーズ、コルテス、バルボア、アレキサンダー大王、ハンニバルなどの通った道を探検した。*
>
> The Image, 1962　幻影（イメジ）の時代 , 1964

また文化人類学者の今福龍太は、こうした人々の場所に対する「観光的な」姿勢が、現代の人々の生活のあらゆる水準に浸透していることを次のように指摘している[1-16)]。

> *われわれは、たんに旅に出る出ないというだけじゃなくて、日常生活のさまざまな機会において、観光的な行動基準というのを、知らないうちにさまざまな局面で繰り返してしまっている。つねに観光客でいるというのが、われわれの日常生活の作法にすらなっている。こう考えてみると、じつはこの日常性の自動回路というものにも、当然、文法があるということになる。*
>
> 知のケーススタディ , 1996

このようなイメージとメディアとの関係は現代に限られたものではなく、例えば江戸時代の庶民における伊勢詣りや富士詣りなどの旅行の隆盛をもたらした要因の

一つとして、歌川広重の「東海道五十三次」や十返舎一九の「東海道中膝栗毛」などの浮世絵や書物を挙げることができ、西洋においても中世にマルコ・ポーロの「東方見聞録」によってもたらされた東洋に対するイメージが、後の大航海時代において多くのヨーロッパ人をアジアへ送り出す原動力としての役割を果たしている[1-17]。このように、古くから人々は絵画や書物、また伝聞などを通して未知の場所に関する情報を得、そのイメージを形成してきたといえる。言い換えれば、場所が対象として認識される過程においては、言語をはじめとしたあらゆるメディアを介して形成される意味の存在が本来的に必要不可欠なものであると考えられる。

例えば瀬尾文彰は、環境認識論の観点から、主体が対象を認識することにおいて「意味」の存在が前提的に必要なものであることを次のように指摘し、ア・プリオリなものとしての認識の存在を否定している[1-18]。

> *たとえばピアジェという心理学者は、「最初に刺激があるのではなく刺激への感受性がある。」と言っている。そう考えると、刺激体系としての環境という概念がもはや成立し得なくなる。刺激を顕在化させるのは外界ではなく、むしろ主体の方だということになるからである。…感受性の側から《意味》ありと認められる対象だけが、はっきりした感覚内容として浮上してくるのである。つまり、感覚内容が存在するためには、客体が存在するだけでは不十分であり、主体の側からの意味づけを必要とする。環境に関しても同様のことが言える。*
>
> 意味の環境論 , 1981

また、社会学者のJ・アーリは、M・フーコーの「まなざし」の概念を援用し、人々の認識が個人的かつ社会的に構成された「まなざし」によって枠組みづけられたものであることを指摘し、それを観光の経験へと敷衍して論じている[1-8]。

> *まなざしという概念で言いたいことは、モノ・コトを見るということは、実は習得された能力であって、純粋で無垢な目などはありえないということである。医学的なまなざしが、診て、かつ見えるようにしているものは、ミシェル・フーコーによれば、単純に「そとに」待ち構えているような既知の実像などではないのだ。では、なにかというと、それはエピステーメ〔認識の枠組み〕なのだ。…ある特定の景色へのまなざしは、その個人の体験や思い出によって決まり、その枠組みは規範や様式で決まり、また、流布しているあれこれの場所についてのイメージとテクストにもよる。こういう「枠組み」は決定的な動機、技法、文化的なメガネとなって観光者が、具体的なモノや実体的な場所を「面白い、いい感じ、美しい」と見るより先に、先行してそう見えるようにしてしまっているのだ。観光地はたんなる景色そのものではないのだ。そして、そのメガネなしには、自然の中にある美的な秩序や構築された世界はきわめて違ったものになるだろう。見方が異なってしまうことで、モノとしての、構築された世界はいかようにでも違って見える。*
>
> Tourist Gaze 3.0, 2011　　観光のまなざし 増補改訂版 , 2014

こうしたまなざし、言い換えれば場所のイメージ形成の枠組み[注1-7]をなすもののひとつとして、メディアを位置づけることができる（図 1-5）。特にあらゆるメディアが環境化している現代社会において、私たちはメディアが提示する情報によってフレーミングされた視野のなかで場所を認識しているといえ、それは場所における実際の経験をも支配していると捉えることができる。哲学者のJ・ボードリヤールは、こうした様々なメディアから発信される情報が現実の有様を超えて人々の世界に対する認識を形成するほどの影響力をもつことを次のように指摘している[1-19]。

マス・メディアの機能は、世界がもっている現実に生きられた ――回限りの―出来事としての性格を中和し、互いに意味を補完し合い指示し合う同質な各種のメディアからなる多次元的な世界で現実の世界をおきかえてしまうことだ

La société de consommation, 1970　　消費社会の神話と構造 , 1979

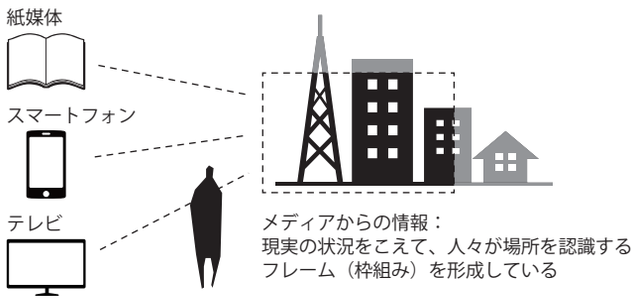


図 1-5 メディアと場所のイメージとの関係

以上のような文献のほかにも、人々の都市空間の認知にメディアの情報が与える影響を実証的に検討した中川、大野らによる研究[1-20]および柴田、材野による研究[1-21]、またメディアが人々にとっての場所の魅力を形成するものとして観光振興の観点から検討した日高、荻原らによる研究[1-22]なども、場所のイメージ形成の枠組みとしてのメディアの役割を裏付ける根拠として挙げることができる。これらの研究に対して、本論文はメディアにみられる場所の価値の構造を通して、観光という文化的現象を現代社会における場所のイメージ形成に関わる問題として位置づけ、記号学的観点から考察するものであり、本論文の視点は、都市認識論の新たな分析概念として、建築意匠論における有用な視座を与えるものと考える[注 1-8]。

また記号学の観点からメディアを扱った研究の先駆的事例として、R・バルトの「モードの体系」が挙げられる。バルトはファッション誌の言語分析を通して、モードという文化現象に内在する記号のシステムを記述し、その記号学的な研究の視点について以下のように論じている[1-23]。

しかし、現実のモードについてではなく、書かれた（いや、もっと正しくいうならば《記述された》）モードについて研究を進めたために著者は、結局この記号学的な企画のもつある種の複雑さとある種の秩序を尊重することになったと確信している。研究の素材がひとえにことばによる陳述、つまり「文章」だけからなりたっているとはいえ、分析は決してフランス語というひとつの言語体系の一部分をその対象としているのではない。なぜならここで、ことばが担っているものは決して現実の対象物の任意の集合ではなく、（少なくとも理念の上では）すでに意味作用の体系として構成されているもの、すなわち衣服の特徴群なのだ。この分析の対象は、だから、単なる用語体系ではなく、たとえそのコードが「話された」にすぎないものであるとしても、まぎれもない一種のコード〔記号と意味の体系〕である。従ってこの研究の取り扱う対象は、実をいうと衣服でもなければことばでもない、いわば一方から他方への「翻訳」だということになる。衣服自体がすでにひとつの記号体系であるかぎり、そういっていいわけだ。

Système de la mode, 1967　　モードの体系 , 1972

バルトの言葉を借りれば、本論文はメディアを通して、現代の観光をめぐる文化現象に内在する場所に関するコードの一端を読み解こうとするものである。

近年の建築家の活動領域からみた本研究の意義

ここまでに述べたように、本論文は、現代社会における場所のイメージを、メディアというイメージ形成の枠組みから検討するものであり、場所の情報デザイン学ともいえる、場所を解析するための新たな方法論を提示するものである。

このような本論文の視点は、近年の建築家の活動領域においても重要性を有するものと考える。本節の冒頭で述べたように、昨今では場所に対するアイデンティティとは自然発生的に形成されるものではなく、それぞれの場所で自ら発見し、創出していかねばならないという状況にあり、まちづくりやコミュニティデザインといった活動を通じて建築家も積極的に参画しているが、これらの活動を対外的に発信する段階では多くが広告代理店や雑誌社が関わるのみであり、こうした段階においても空間と人々との関係を横断的に思考する建築家の能力は有効であると考えられる。また一方で、まちづくりや住民とのワークショップといった建築が立ち上がる以前の問題に積極的に関わる建築家の活動において、そこで得られる人々の意見をいかに総合化し、建築の設計に反映させるかは、建築家自身の判断によるものであり、そこにこそ建築家の設計者、表現者としての手腕が問われるものといえる。その上で、これらの人々の意見を形成する社会的な枠組みへの視点を持つことは重要であり、そうした包括的な視点がなければ、設計は一つ一つの意見に対する場当り的な対応となり、建築家の一回的なパフォーマンスに陥ってしまうだろう。

現代は「地方の時代」ともいわれるように、様々な場所のあり方が、グローバルとローカル、中央と地方といった従来の単純な構造を越えたものとして論じられ、構想される状況にあるといえる。多木浩二はこうした状況において、観光という文化現象が「都市や生活をどこかから変質させていくような、影響力のある文化として広まった」ことを指摘し、その上で観光が私たちと世界との関係を捉えるひとつの方法となりうる可能性を次のように示唆している[1-16)]。

> *旅という今では万人が経験しているものを、文化史的研究の対象ではなく方法としたときに、見えないでいた世界を発見し、同時にわれわれと世界との関係が問題になるだろう、と思って話しあったのである。あえて言えばここにも、人間の主体とはなにか、人間の生存の方法とはなにか、という大まじめな問題が潜んでいるのだ。*
>
> 知のケーススタディ , 1996

建築家の活動は今後ますます単体の建築の設計を越えてより広域的な場所に関わるものとなることが予測され、こうした場所や観光をめぐる現代的な現象をメディアを通して俯瞰的に捉える本論の視点は、これらの建築家の活動領域においても重要性を有するものと考える。

本論文では以上で述べた背景、意義のもと、江戸および京都の歴史的価値を転用する街について、メディアに表れる街の価値の意味内容とその構造を分析、検討することで、日本における歴史的価値の転用による場所のイメージ形成の枠組みを明らかにすることを目的とする。

1．2．研究の資料と分析の方法

研究の資料

前節でも述べたように、場所についての情報を発信するメディアには雑誌やテレビなど様々なジャンルが想定しうるが、その全てを本論における研究の対象とすることは難しい。そこで本研究では観光パンフレットを資料とする。これらは図 1-6 に示すように、自治体の商工観光系の部局や観光協会により制作されるものであり、街の内部の人々の視点から街の魅力を発信する性格のメディアであるといえる。またこれらは全て現地の観光案内所や交通機関などにおいて無料で配布され、なかには希望者に郵送されるものや、インターネット上で自由に閲覧できるものもあることなどから、不特定多数の人々の目にふれることを意図して制作されるメディアであるといえる。以上のような点から、観光パンフレットからは街が主体的に発信するイメージ形成の枠組みを読み取ることが可能である。

このようなメディアを資料とした根拠は、テレビやインターネットのウェブサイトに比べて紙媒体の方が情報の安定性および資料体系の確定性の点において優位であること、また本論の題材である場所の価値の転用とは、街が主体的に価値を発見するという性格のものであることから、紙媒体の中でも街の行政や観光協会により主体的に制作される観光パンフレットが資料として妥当と判断した。また街が主体的に制作するメディアにはウェブサイトも挙げられるが、インターネットが人々の生活に浸透した今日においても、観光パンフレットのような紙のメディアがどの観光地においても用意され、多くの人々がそれを手にしているということは、ウェブサイトとは異なる紙媒体の特質が今日でも意味を有するものと考えられ、このような事実からも観光パンフレットの資料としての有効性を指摘できる。

図 1-6 歴史的価値を転用する街の観光パンフレット

資料の選定にあたっては、江戸および京都との関連を示す街の団体である「小江戸サミット[注 1-9)]」および「全国京都会議[注 1-10)]」に加盟する 50 の街、および下記別表に示す歴史性をテーマとした観光ガイドブックおよび紀行文に掲載のある街を対象に、その観光パンフレットを通覧し、江戸もしくは京都に関連するキーワードが街全体を形容する表現として表紙や紙面の見出しに記されているものを選定した。

付表　対象地の選定における参考書籍

書籍名	著者名	出版社	出版年
歴史の散歩路 -小江戸紀行一〇八巡り	池田直樹	東洋書院	2001
歴史遺産日本の街並み108選を歩く	吉田桂二	講談社	2001
地図で歩く城と城下町100選		平凡社	2001
城下町を歩く 中部編	内田和浩 他	世界文化社	2005
城下町を歩く 四国編	内田和浩 他	世界文化社	2006
小さな町小さな旅/関東版		山と渓谷社	2006
小さな町小さな旅/東海版		山と渓谷社	2006
小さな町小さな旅/関西版		山と渓谷社	2006
小さな町小さな旅/関東・甲信越	亀井千歩子	山と渓谷社	2006
小さな町小さな旅/東海・北陸	与呉日出夫	山と渓谷社	2006
小さな町小さな旅/関西周辺		山と渓谷社	2006
小さな町小さな旅/東北・北海道		山と渓谷社	2007
小さな町小さな旅/九州・沖縄	宮川透	山と渓谷社	2007
小さな町小さな旅/中国・四国		山と渓谷社	2007
この道歩こうベスト40関西周辺		山と渓谷社	2008
この道歩こうベスト44関東周辺		山と渓谷社	2008
関東むかし町歩き		JTB パブリッシング	2008
関西むかし町&古街道を歩く		JTB パブリッシング	2010
遠くへ行きたい 特選の旅		実業之友社	2010
東海の城下町を歩く	中井均	風媒社	2010
日本の街道を旅する	佐々木節	学研 パブリッシング	2011
日本の町並み250		山と渓谷社	2013
街道散歩	自然環境研究オフィス	東方出版	2013

注)2014 年 6 月時点で過去 15 年内に出版されたものを対象とした。

分析の方法

観光パンフレットには言語、写真、地図といった表現によって街の魅力となる価値[注 1-11)]が示されている。本論文では観光パンフレットに提示される歴史的価値を転用する街の価値を構造的に捉えるために、言語による情報が街の価値の意味内容を直接的に提示する最も重要な情報と捉え、分析の対象としている[注 1-12)]。

これらの言語表現に示される街のイメージ形成の枠組みについて、本論文では言語表現から街の価値として示される内容を単語を基準に抽出し、その意味内容を分析する方法をとっている。これは、歴史的価値を転用する街の価値を分節された単位として捉えることで、その意味内容の広がりと意味の構造とを捉えるためである。

本論における具体的な分析の方法を述べると、まず第２章および第３章では、歴史的価値を転用する街の価値の意味内容について、資料の言語表現から、街の価値を構成する要素と捉えられるものを名詞や名詞句を基準に抽出し、さらにそれらの歴史性を示す表現をあわせて抽出し、その内容の広がりを各章の２節で検討している。そして各章の３節および４節では、複数抽出された街の価値を構成する要素の意味的な階層関係を検討し、それによって構造化される街の価値のモデルについて、その階層関係の基軸となる要素の内容を検討している。つづく第４章では、歴史的価値を転用する街の価値の階層構造について、第２章および第３章で得られた街の価値のモデルの階層構造を検討している。

さらに第５章では、街のイメージ形成の枠組みの特徴について、上記の第２章から第４章で得られた結果について比較を行い、江戸を転用する街と京都を転用する街で共通する内容および独自にみられる内容を検討している。

1．3．論文の構成と概要

本論文は、以下の６章から構成される（図 1-7）。

第１章「序論」では、研究の目的、背景、資料、方法、および論文の構成と概要を位置づけた上で、本論文が、既存の歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みを検討するものであり、それに際して江戸、京都という我国を代表する歴史都市を転用の対象とすることの優位性、およびそうした転用を示す街の行政や観光協会により制作される観光パンフレットを資料とすることの妥当性を、イメージ形成の枠組みに関与するメディアの役割を論じることで位置づける。そして、資料とした街の価値の意味内容とその階層構造を捉えるとともに、それらを総合的に比較・検討することで、日本における歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みを明らかにすることが本論の目的であることを述べる。

第２章「江戸を転用する街の価値の意味内容」では、江戸という都市に関連する事柄を転用する街の観光パンフレットを資料に、その言語表現から、街の価値を構成する要素である価値対象と、価値対象の歴史性を形容する歴史属性を抽出した上で、複数抽出される価値対象の意味的な階層関係をモデル化し、それらの資料単位での集合を検討する。その結果、江戸を転用する街の価値の意味内容は、１つの価値対象を基点とした階層関係により集約的に構造化されるものと、複数の価値対象を基点とした階層関係により分散的に構造化されるものとで大きく位置づけられることを示す。

第３章「京都を転用する街の価値の意味内容」では、京都という都市に関連する事柄を転用する街の観光パンフレットを資料に、その言語表現から、街の価値を構成する要素である価値対象と、価値対象の歴史性を形容する歴史属性を抽出した上で、複数抽出される価値対象の意味的な階層関係をモデル化し、それらの資料単位での集合を検討する。その結果、京都を転用する街の価値の意味内容は、街全体の特性を示す要素を基点とした階層関係により構造化されるものと、街の空間を構成する要素を基点とした階層関係により構造化されるものとで大きく位置づけられることを示す。

第４章「歴史的価値を転用する街の価値の階層構造」では、第２章および第３章で得られた価値対象の意味的な階層関係を示すモデルについて、その階層構造を細分化の深度と集中の度合いから位置づけた上で、それらの資料単位での集合を検討する。その結果、歴史的価値を転用する街の価値の階層構造は、単一の場合と複数の場合の双方がみられ、複数の階層構造からなる場合はそれらの主従、並列という関係図式から捉えられることを示す。

第５章「歴史的価値を転用する街の価値の特性」では、第２章から第４章までに得られた結果を比較することで、江戸を転用する街と京都を転用する街で相互に共通する内容および独自にみられる内容を検討する。その結果、双方の街で独自にみられる価値の内容は、江戸を転用する街では街の空間や生活を基点とした階層関係により構造化されるもの、京都を転用する街では街全体の特性や周縁の自然環境を基点とした階層関係により構造化されるものであることを示す。

第６章「結論」では、以上で得られた結果をまとめ、歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みについて、本論文で得られた知見を総括する。

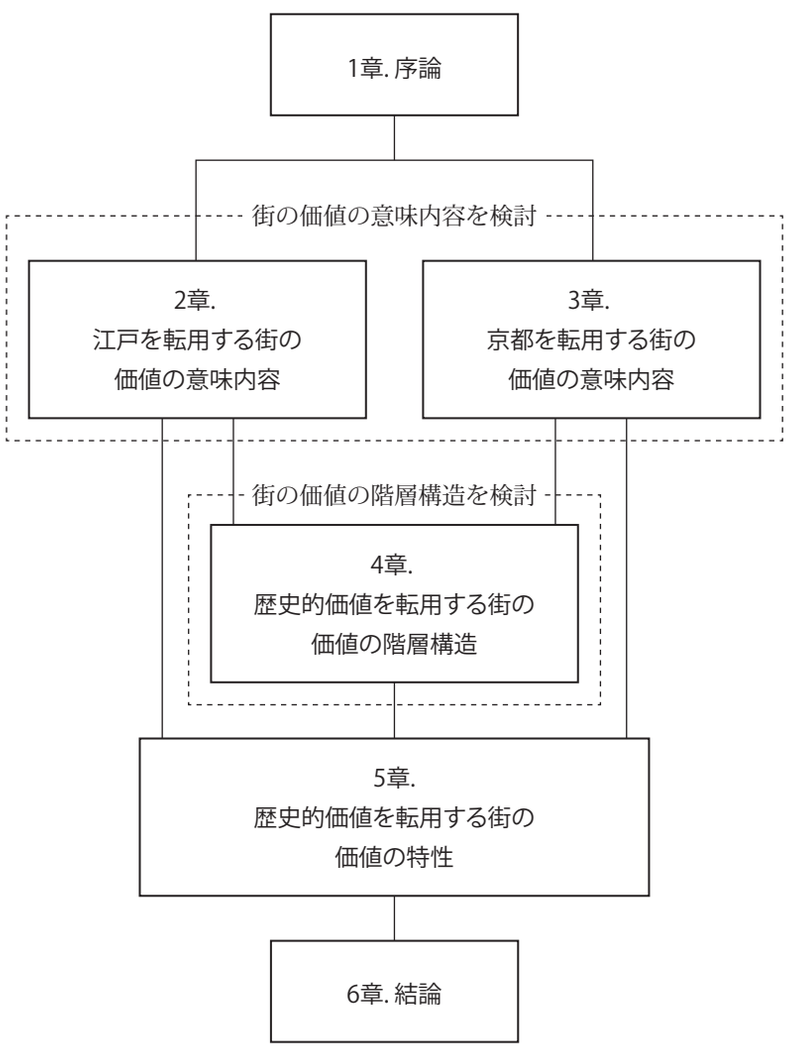


図1-7 論文の構成

1．4．本論文に関連する既往研究

本論文に関連する既往研究として、以下のものが挙げられる。

場所の価値の転用に関する研究

日本における場所の価値の転用を題材とした研究としては、佐藤、後藤らによる「銀座」の名を冠する商店街についてその設立の経緯を戦前戦後の土地利用の状況などから検討したもの[1-24]が挙げられる。そのなかで特に歴史的価値の転用に冠する研究としては、江戸を転用する街に関する研究はこれまでのところ見受けられないが、京都を転用する街に関する研究として、星野、越野らによる「小京都」と呼ばれる街の特性についてその成立背景や特徴的な要素を検討したもの[1-25]、岡本、上村らによる「小京都」として認識される歴史的景観の特徴についてアンケート調査をもとに考察し、歴史的市街地における修景の施策を提案したもの[1-26]などが挙げられる。また、転用元である江戸および京都の都市イメージを題材とした研究として、辻川、北浦による近世に描かれた江戸の図屏風の分析を通して江戸の都市空間のイメージを構成する要素について検討したもの[1-27]、藤原、川崎らによる京都の歴史的な建物や史跡に関するアンケート調査から京都の歴史的イメージの形成要因を考察したもの[1-28]これらは場所の価値の転用における背景や場所の景観といった実態的な側面に着目し、都市計画学的観点から考察した研究として成果をあげているが、これらの街にみられる歴史的価値の転用によるイメージ形成のメカニズムに着目し、その枠組みについてメディアを対象に建築意匠論の観点から検討した研究はこれまでのところ見受けられない。

建築や都市のイメージに関する研究

建築や都市のイメージを題材とした研究には、岩岡、坂本らによる商品化住宅の外形に関するアンケート調査をもとに人々の住宅についてのイメージを類型化し意匠論的観点から考察したもの[1-29][1-30]、安田、三輪らによる雑誌等の紙媒体が人々の都市のイメージ形成に与える影響についてアンケート調査を行い考察したもの[1-31]、呉、後藤らによる東京の商業地のイメージと居住者の生活実態との関連を調査し今後の都市型観光の施策を考察したもの[1-32]などがある。それらのなかで特にメディアにみられるイメージの枠組みに着目した研究としては、住宅の新聞広告上の画像と言語表現を分析することで、広告にみられる住宅のイメージ形成の枠組みを類型化した劉、北川による研究[1-33]、街路を撮影した写真作品の画面構成を分析することで、街路を中心とした都市空間の視覚的イメージの枠組みを類型化した升田、寺内による研究[1-34][1-35]、旅行雑誌に掲載された歴史的街並みを残す観光地についての記述内容の通時的変遷を検討し、歴史的街並みを基軸とした街のイメージ形成の枠組みを都市計画学的観点から考察した倉澤、十代田らによる研究[1-36]、明治から昭和初期の大阪の都市計画に関する雑誌記事を検討

し、近代大阪の都市イメージの変遷を考察した吉本、篠野による研究[1-37]などが挙げられる。これらに対して本研究は、江戸および京都に関連するキーワードを掲げる複数の街について、それらの街が主体的に提示する言語表現に着目し、その中で街の価値がいかなる意味内容及び意味の構造を伴って示されるかを総体的かつ相対的に検討することで、現代社会における歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みの多様なあり方を捉えることを目的とするものである。

注

注 1-1)　K・リンチは参考文献 1-6 において、都市のイメージを形成するものとして、アイデンティティ（そのものであること・役割）、ストラクチャー（構造・空間的関係）、ミーニング（意味・象徴）の 3 つの水準を提示している。

注 1-2)　例えば社会学者の J・アーリは、「観光のメディア化が膨張するにつれ観光地は世界中で増殖し、ふだんの活動の場も、テーマ化された環境として「観光」モードに衣替えしてしまう。」（参考文献 1-8）と述べ、あらゆる場所がテーマ化された環境として人々に消費される現代の状況を指摘している。また人類学者の山下晋司は、「観光と移住は二項対立的に捉えるべきではなく、現実にはきわめて連続的な人びとの移動のスペクトラムを構成しているのである。」（参考文献 1-9）と述べ、人々の場所への関わり方が移動を中心とした状態へと変移しつうたることを指摘している。

注 1-3)　日本における場所の価値の転用については民俗学の分野からの研究が散見される。「小江戸」および「小京都」にみられる現象を「うつし文化」として取上げた参考文献 1-11 には、四国八十八箇所霊場をモデルとした「うつし霊場」や、「小富士」、「ミニ銀座」、ねぶた祭りや阿波踊りなどの全国的広がりなどが同様の題材として民俗学分野においてこれまで取上げられてきたことが指摘されている。

注 1-4)　わが国において確認される歴史的価値の転用には、江戸および京都の地名を転用するもののほかに、「信州の鎌倉」（長野県上田市）という鎌倉の地名を転用するものもみられたが、該当するものが 1 事例と少ないことから、本論文では検討の対象としなかった。またこのような実態を踏まえ、本論では江戸および京都を転用する街を総じて、日本における歴史的価値を転用する街とした。

注 1-5)　本論では「小江戸」、「江戸風情漂う」、「黄門さまのふるさと」といった近世都市江戸もしくは江戸時代を想起させる呼称を掲げることで江戸という都市に関連する事柄を転用する街を、江戸を転用する街と定義し、「小京都」や「西の京」といった京都に関連する呼称を掲げることで京都という都市に関連する事柄を転用する街を、京都を転用する街と定義した。その成立の歴史としては、江戸を転用する街は、「小江戸」という呼称を掲げる街について民俗学や地理学の観点から考察した参考文献 1-11 および 1-14 によれば、このような呼称は古くは江戸時代から存在し、街の経済や文化的な繁栄に対して「小江戸」や「江戸まさり」などと形容された記録が残されているが、今日確認できる事例の多くは戦後の高度経済成長期以降に広まったものであり、1976 年の伝統的建造物群保存地区制度の開始により全国的に展開した歴史的街並みの保存活動や、1980 年代から 1990 年代にかけての東京論ブームに伴う江戸への注目の高まりなどがその背景として指摘されている。京都を転用する街は、「小京都」という呼称を掲げる街には戦国時代に為政者によって京都に模した街づくりがなされたものや、京都からの祭礼等の文化の伝搬がみられるものなどあるが、「小京都」あるいはそれに準ずる呼称が定着したのは、戦後 1970 年代以降であり、要因として旧国鉄のディスカバージャパン・キャンペーンなどによる国内観光の流行が挙げられている。

注 1-6)　ここでのメディアとは、新聞、書籍、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報伝達媒体を指す。

注 1-7)　枠組みの意味について、例えば広辞苑（参考文献 1-1）には、「①枠を組むこと。また、その枠。②物事の仕組み」とある。本論文ではあるメディアによって発信される情報が人々の事物を認識する際のフレーム（枠）として機能し、またこれらの無数のメディアからなる多次元的な情報のネットワークが事物に対する意味を形成し、定着させる仕組みとして機能すると捉えられることから、メディアをイメージ形成の枠組みとして位置づけるものである。

注 1-8)　意匠論とは、建築の設計に関わる事柄を扱う分野であり、本論のような社会において建築や都市がいかなる意味を伴って存在しているかを問う建築 / 都市の認識論は、社会との関わりを常に求められる建築の創作と思想の構築に有用な視座を与えるものとして、広義での意匠論に位置づけられるものと考える。

注 1-9)　栃木県栃木市、埼玉県川越市、千葉県香取市で開催される「小江戸」をキーワードとした歴史を活かした街づくりを議論するイベント。1996 年から毎年開催されている。

注 1-10)　京都市および全国各地の京都とのゆかりを掲げる地域により結成された団体。1985 年に結成され、現在は 47 地域が加盟する。

注 1-11)　本論で検討する街の価値は、資料の性格から、街の内部の人々が街の外部へ向けて発信する価値と位置づけている。しかしながら本来的には、メディアが介在するコミュニケーションにおいて、発信 / 受容という関係は固定化されず、さらには街の外部 / 内部という構造自体も成立しえないものといえる。こうしたメディアを介した双方向的なコミュニケーションについて、M・マクルーハンは次のように述べ、メディアそのものが人間の意識の拡張であり、人間の文化はメディアを介した再帰的な認識のサイクルの中で形成されるものであることを指摘してい

る。「メディアの力が経験を新しい形式に転換するのを見れば、いっさいのメディアが活発なメタファーであると言える。話されることばは人間の最初の技術であった。それを用いることによって、人間はその環境を新しい方法で掴むために、いったんそれを放すことができた。ことばは一種の情報検索の道具であって、人間の環境と経験の全体に高速度で及ぶものだ。…この電気の時代にいたって、われわれ人間は、ますます情報の形式に移し替えられ、技術による意識の拡張を目ざしている。…われわれは、ますます自身を越える別の表現の形式に自分自身を移し変えることができる、と言っているのである。人間は、自身を反復し、造物主の賞賛を反響させることを伝統的に期待されている、一種の表現の形式なのだ。」（参考文献 1-7）

注 1-12) 例えば R・バルトは参考文献 1-23 におけるモード雑誌の言語分析について、「意味作用をもつありとあらゆるものは宿命的にことばの中継を必要とするのではないか？…人間は分節的なことばに宿命づけられており、どんな記号学的な仕事もそれを無視することはできない」と述べ、人間の文化における事物の意味の体系化おいて言語の存在が必然であることを指摘している。

参考文献

1-1) 新村出編：広辞苑 , 第六版 , p.1371, 岩波書店 , 2008

1-2) ケネス・E・ボウルディング著 , 大川信明訳 : ザ・イメージ , pp.1-21, 誠信書房 , 1962

1-3) ロバート・ヴェンチューリ , デニズ・S・ブラウン , スティーヴン・アイゼンアワー著 , 石井和紘 , 伊藤公文訳 : ラスベガス , 鹿島出版会 , 1978

1-4) アルド・ロッシ著 , 大島哲蔵 , 福田晴虔訳 : 都市の建築 , 大龍堂書店 , 1991

1-5) 槇文彦 , 若月幸敏 , 大野秀敏 , 高谷時彦 : 見えがくれする都市 , 鹿島出版会 , 1980

1-6) ケヴィン・リンチ著 , 丹下健三 , 富田玲子訳 : 都市のイメージ 新装版 , 岩波書店 , 2007

1-7) マーシャル・マクルーハン著 , 栗原裕 , 河本仲聖訳 : メディア論 人間の拡張の諸相 , pp.59-60, みすず書房 , 1987

1-8) ジョン・アーリ , ヨーナス・ラースン著 , 加太宏邦訳：観光のまなざし 増補改訂版 , pp.44-45, pp.2-4, 法政大学出版局 , 2014

1-9) 山下晋司 : 観光人類学の挑戦「新しい地球」の生き方 , pp.8-21, 講談社 , 2009

1-10) 坂本一成 : " 環境としての建物と対象としての建物 "" 所有対象としての住宅 ", 建築に内在する言葉 , pp218-255, TOTO 出版 , 2011（初出 建築文化 1985 年 7,8 月号）

1-11) 松崎憲三編著：小京都と小江戸 ―「うつし」文化の研究 , 岩田書院 , 2010

1-12) 磯崎新 : 見立ての手法 , pp.122-130, 鹿島出版会 , 1990

1-13) 多木浩二：生きられた家 経験と象徴 , pp.173-174. 青土社 , 1984

1-14) 荒山正彦：小京都から小江戸へ ―都市にそそがれるまなざし , 地理 45-3, pp.66-71, 古今書院 , 2000.3

1-15) ダニエル・J・ブーアスティン著 , 星野郁美 , 後藤和彦訳 : 幻影（イメジ）の時代 , pp.125-128, 東京創元社 , 1964

1-16) 多木浩二 , 今福龍太：知のケーススタディ , pp.13-14, pp.176-177, 新書館 , 1996

1-17) 堀野正人 : " 観光の記号とメディア ", 観光メディア論 , pp4-17, ナカニシヤ出版 , 2014

1-18) 瀬尾文彰：意味の環境論 , pp.5-36, 彰国社 , 1981

1-19) ジャン・ボードリヤール著 , 今村仁司 , 塚原史訳：消費社会の神話と構造 普及版 , pp.175-186, 紀伊国屋書店 , 1995

1-20) 中川那由多 , 大澤昭彦 , 大野隆造：観光地の見所に関する事前及び観光中の情報提供のあり方が来訪者の満足度に与える影響 , 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1, pp.587-588, 2014.9

1-21) 柴田耕次 , 材野博司：観光情報と観光客の行動に関する研究 - 京都市における観光雑誌の掲載記事を通して , 日本建築学会近畿支部研究報告集 36, pp.945-948, 1996.7

1-22) 日高圭一郎 , 伊藤解子 , 鵤心治 , 佐谷宣昭 , 坂井猛 , 萩原哲：観光画像情報か らみた観光資源に関する一考察 - 北九州市を事例として -, 日本建築学会計画系論文集 512, pp.213-220, 1998.10

1-23) ロラン・バルト著 , 佐藤信夫訳 : モードの体系 , pp.5-9, みすず書房 , 1972

1-24) 佐藤宏亮 , 後藤春彦 , 三宅諭：「地方銀座」の設立に関する基礎的研究 , 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1, pp405-406, 1998.7

1-25) 星野貴 , 越野武 , 角幸博 , 池上重康 :「小京都」考 , 日本建築学会北海道支部研究報告集 69, pp.593-596, 1996.3

1-26) 岡本亮直 , 上村信行 , 宇高雄志 , 安積克哉 : 歴史的市街地における伝統的風土の保全と地域振興その 3 : 伝統的風土における「わが町意識」の醸成について -「小京都」を事例として , 日本建築学会中国支部研究報告集 21, pp.541-544, 1998.10

1-27) 辻川ひとみ、北浦かほる：屏風絵にみる都市イメージの分析 - わかりやすさの原因 -, 日本建築

学会計画系論文集 506, pp69-74, 1998.4
1-28) 藤原篤 , 福永太郎 , 川崎清：京都の都市イメージにおける伝統的要素の想起要因 , 日本建築学会計画系論文集 462, pp.107-116, 1994.8
1-29) 岩岡竜夫 , 坂本一成 : 商品化住宅の外形における図像的イメージ 現代住宅の意匠性に関する研究 , 日本建築学会計画系論文報告集 380, pp.145-155, 1987.10
1-30) 岩岡竜夫 , 坂本一成 , 加茂紀和子 : 商品化住宅の外形イメージにおける言葉 現代住宅の意匠性に関する研究 , 日本建築学会計画系論文報告集 383, pp141-149, 1988.1
1-31) 安田丑作 , 三輪康一 , 末包伸吾 , 木山正典 , 小川大志 : 都市のイメージ形成に与えるプリントメディアの影響に関する研究 , 日本建築学会近畿支部研究報告集 . 計画系 35, pp597-600, 1995.6
1-32) 呉家瑋 , 後藤春彦 , 佐藤宏亮：国際観光に影響を与えるファッションタウンの生活像 - 台湾人女性から見た生活のイメージと代官山における居住者のライフスタイルを通して -, 日本建築学会計画系論文集 622, pp.153-159, 2007.12
1-33) 劉陽陽 , 北川啓介 : 1961 年から 1985 年までの新聞広告における住宅像 , 日本建築学会東海支部研究報告書 51, pp.469-472, 2013.2
1-34) 升田梨弥 , 寺内美紀子：街路空間写真の構成要素 写真作品における日本の街路空間の構成からみた都市のイメージ (1), 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2, pp651-653, 2007.7
1-35) 升田梨弥 , 寺内美紀子：空間構成からみた街路空間タイプ 写真作品における日本の街路空間の構成からみた都市のイメージ (2), 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2, pp653-654, 2007.7
1-36) 倉澤知久 , 十代田朗 , 津々見崇 : 旅行雑誌にみる町並み観光地のイメージの変遷と地域特性との関連に関する研究 , 都市計画論文集 48, pp.1095-1100, 2013.10
1-37) 吉本憲生 , 篠野志郎：大阪都市協会の機関雑誌『大大阪』の記事にみる大阪駅周辺の地域像 - 近代大阪の都市像形成に関する研究 -, 日本建築学会関東支部研究報告集 83(II), pp.705-708, 2013.3

関連論文目録

本論文に関係する審査論文

観光パンフレットの言語表現にみる「小江戸」を想起させる街のイメージ形成の枠組み
－場所のイメージ形成の枠組みに関する研究　その 1
香月歩 , 奥山信一 , 日本建築学会計画系論文集 726, pp.1809-1818, 2016.8
……（第 2 章に対応）

観光パンフレットの言語表現にみる「小京都」を掲げる街のイメージ形成の枠組み
－場所のイメージ形成の枠組みに関する研究　その 2
香月歩 , 奥山信一 , 日本建築学会計画系論文集 731, pp.251-261, 2017.1
……（第 3 章に対応）

観光パンフレットの言語表現にみる歴史的価値を転用する街の価値の階層構造
－場所のイメージ形成の枠組みに関する研究　その 3
香月歩 , 奥山信一（投稿準備中）
……（第 4 章に対応）

本論文に関連する口頭発表論文

ウェブサイトにみられる銀座商店街の価値構造　－場所のイメージの価値形成に関する研究（1）
中山雄一 , 稲用隆一 , 塩崎太伸 , 奥山信一 , 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2, pp.97-98, 2011.8

銀座商店街のウェブサイトにみられる言語表現　－場所のイメージの価値形成に関する研究（2）
中山雄一 , 稲用隆一 , 塩崎太伸 , 奥山信一 , 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2, pp.99-100, 2011.8

「小江戸」を掲げる街の観光パンフレットにみられる言語表現　－場所のイメージの価値形成に関する研究（3）
香月歩 , 塩崎太伸 , 四ヶ所高志 , 奥山信一 , 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2, pp.605-606, 2012.9

観光パンフレットにみる「小江戸」を掲げる街のイメージ　－場所のイメージの価値形成に関する研究（4）
香月歩 , 塩崎太伸 , 四ヶ所高志 , 奥山信一 , 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2, pp.607-608, 2012.9

ウェブサイトの言語表現にみる海外の地名を借用する街のイメージ　－場所のイメージの価値形成に関する研究（6）
宮村萌子 , 奥山信一 , 塩崎太伸 , 四ヶ所高志 , 大嶽陽徳 , 香月歩 , 鈴木淳平
日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2, pp.573-574, 2015.9

その他の口頭発表論文

29 編 , 日本建築学会大会学術講演梗概集（共著）

第２章　江戸を転用する街の価値の意味内容

２．１．本章の目的と概要
２．２．価値対象と歴史属性にみる街の価値の意味内容
２．３．価値グループにみる街の価値の階層的性格
２．４．価値グループの集合にみる江戸を転用する街の価値の総体
２．５．小結

２．１．本章の目的と概要

本章の目的

高度経済成長期以降、都市部への人口集中や市街地開発が進んだ結果、地方都市における商店街の衰退化や、郊外地域における景観や文化の無個性化といった様々な問題が日本各地で指摘されるようになった。疲弊した街の活性化を目指して、固有の文化や風土から街の個性を見直し、それらを主体的に発信する取組みが、多くの街の自治体や住民らによって行われている[注2-1)]。そのような街のひとつに古い街並や伝統的な祭礼といった街に残る歴史的な要素を自らの価値として提示する街が挙げられるが、なかでも「小江戸」といった江戸に関連する呼称を掲げる街では、近世の大都市江戸の名を転用することで街の歴史的価値の向上が試みられているといえる。しかしながら、江戸という言葉が都市空間、風俗、時代性など様々な水準での意味をもつことから、それぞれの街において江戸に関連させて提示される要素の内容には違いがみられる。また、江戸とは直接関連しない歴史性を併せて提示する街もみられることから、それぞれの街では江戸からの歴史的価値の転用が多様に解釈され、独自の街のイメージが形成されていると考えられる。ここでは、上記のような街にみられる歴史的価値の転用による街のイメージ形成のメカニズムに着目し、江戸という都市に関連する呼称を掲げる街を総じて江戸を転用する街[注2-2)]とし、研究の対象とした。

江戸を転用する街の自治体や観光協会が発行する観光パンフレットには、街の魅力が言語、写真、地図などによって提示されており、街が主体的に発信するイメージ形成の枠組みを読み取ることができる。本章ではこのような認識のもと、江戸を転用する街の観光パンフレットを資料に、その言語表現から街の価値として提示された要素とその歴史性に関する記述を抽出し、それら要素間の関連性を検討することで、近世都市江戸からの歴史的価値の転用における街の価値の意味内容を明らかにすることを目的とする。

本章の概要

資料とした江戸を転用する街の観光パンフレットでは、街の沿革、見所、名物などが言語表現によって示されており、これらの内容を街の魅力として提示される価値と捉えた。言語表現は図 2-1 のように、あるテーマについて紹介する見出しと説明文から構成され、それらをひとまとまりの分析単位として抽出できる[注 2-3)]。本論文では歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みを明らかにするため、これらの分析単位のうち街の歴史性に関する内容を含むものに限定した。

以上の方法で抽出した言語表現について、まず 2 節ではそこで提示される街の価値の意味内容を検討する。例えば図 2-2 の分析単位 No.10-A と No.10-E からは、「蔵造り」が建ち並ぶ「江戸情緒あふれる景観」や、「江戸『天下祭り』を今に伝える山車行事」などが街の価値として提示されていると読み取れる。このように「蔵造り」とそれが建ち並ぶ「景観」、また「山車行事」とその中に登場する「山車」や「囃子」などを価値対象として抽出し[注 2-4)]、さらに価値対象を形容する表現の中でも「江戸情緒あふれる」や「江戸『天下祭り』を今に伝える」のように歴史性を示すものを歴史属性として抽出し[注 2-5)]、それらの内容を検討、整理する[注 2-6)]。続く 3 節では、価値対象同士の階層関係に注目する重要性を指摘し、それを検討することで、言語表現に提示される街の価値の階層的性格を捉える。そして 4 節では、価値対象間の階層関係を資料単位で比較し、江戸を転用する街の価値の総体を考察する。

図 2-1 観光パンフレットの構成と分析単位の抽出例

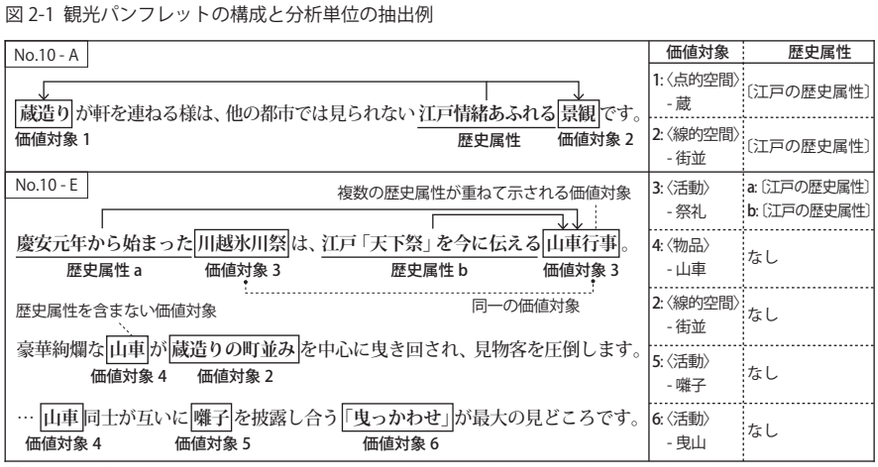


図 2-2 分析例 (2 節)　　注) 歴史属性が複数の価値対象にかかる場合はそのつど数を集計した。

資料リスト

資料No.	地域名	都道府県	観光パンフレット名称	制作主体	発行年	分析対象頁数 / 総頁数	分析単位総数
1	松前	北海道	旅はさくら色 松前	自	2014	6 / 8	8
2	江差	北海道	江差之旅かわら版・総合案内版 北海道の里 追分流れるロマンの町	自	2013	2 / 2	2
3	山形	山形県	やまがた時代絵巻 建物編	観	2013	4 / 4	5
4	大内	福島県	国選定伝統的建造物群保存地区 宿場 大内宿	観	記載なし	4 / 4	3
5	新発田	新潟県	新発田市観光ガイド さんさくシバタ・ビ	連名	記載なし	12 / 14	12
6	水戸	茨城県	水戸市観光マップ 黄門さまのふるさと水戸	自	2012	5 / 5	6
7	土浦	茨城県	遊覧都市つちうら 水辺と歴史の街さんぽ	自	2014	8 / 13	8
8	古河	茨城県	古河市観光ガイドブック歴史浪漫の街古河	自	2013	21 / 23	15
9	栃木	栃木県	栃木市観光ガイド ぶらりのんびり栃木へようこそ	連名	2014	8 / 10	5
10	川越	埼玉県	時薫るまち川越 小江戸川越たっぷり満喫散策マップ	観	2014	4 / 4	5
11	木更津	千葉県	木更津市観光ガイド まるごとKISARAZU	自	2010	13 / 22	8
12	大多喜	千葉県	城と渓谷の町 大多喜情報マップ	観	2013	4 / 4	2
13	佐原	千葉県	小江戸めぐり佐原	観	2012	5 / 5	5
14	甲府	山梨県	歴史物語都市こうふ 歴史散策ガイドブック	自	2013	8 / 8	14
15	奈良井	長野県	重要伝統的建造物群保存地区 中山道奈良井宿 観光ガイドブック	観	2013	7 / 7	4
16	下諏訪	長野県	信州下諏訪 下諏訪町総合観光ガイド	観	2014	8 / 10	9
17	上松	長野県	信州木曽 あげまつ	観	2014	13 / 16	12
18	南木曽	長野県	ぶらり信州南木曽	連名	2013	8 / 12	9
19	馬籠	岐阜県	中山道馬籠宿	自	2012	3 / 4	7
20	美濃	岐阜県	美濃市観光ガイド 和紙とうだつのまち	連名	記載なし	8 / 8	9
21	静岡	静岡県	静岡市観光ガイド ぷちりょこ静岡	観	2012	14 / 17	12
22	江尻	静岡県	江尻宿 解説マップ 家康公の想いにふれるコース	観	2011	2 / 2	2
23	蒲原	静岡県	東海道十五番目の宿場町 蒲原	自	記載なし	4 / 4	2
24	丸子	静岡県	丸子宿 解説マップ 戦国から江戸時代の面影を歩く	観	2011	1 / 1	2
25	浜松	静岡県	Welcome to HAMAMATSU 浜松・ 浜名湖	連名	2013	2 / 10	3
26	岡崎	愛知県	岡崎 GUIDE TO OKAZAKI	連名	2012	8 / 10	10
27	半田	愛知県	歴史と文化のまち 半田観光ガイド	連名	2014	3 / 4	9
28	甲賀	滋賀県	甲賀市観光ガイド	連名	2010	9 / 11	8
29	亀岡	京都府	江戸時代の丹波亀山城下を歩く 京都・亀岡城下町散策MAP	連名	2013	8 / 8	8
30	坂越	兵庫県	赤穂市指定文化財 旧坂越浦会所	自	記載なし	2 / 2	4
31	奈良町	奈良県	ならまちめぐり	観	2011	9 / 9	8
32	今井町	奈良県	重要伝統的建造物群保存地区 なら かしはら 今井町	連名	2014	8 / 8	7
33	和歌山	和歌山県	わかやま市 観光虎の巻	観	2013	18 / 28	9
34	御手洗	広島県	江戸時代の港町 見たらいい町、御手洗マップ	観	記載なし	1 / 1	1
35	竹原	広島県	竹原市観光ガイドマップ 歴史情緒と潮風が薫る町	連名	2012	7 / 9	5
36	萩	山口県	萩観光ガイド 江戸時代の地図がそのまま使えるまち	自	2014	6 / 7	9
37	卯之町	愛媛県	卯之町 町並み散策マップ	自	2012	2 / 2	2
38	山鹿	熊本県	くまもと山鹿 探訪めぐり歩き ゆったりとした時間を楽しむまち	自	2012	6 / 7	5
39	日田	大分県	日田町歩きマップ	連名	2014	15 / 22	12
40	杵築	大分県	時と和が紡ぐ物語 杵築城下町	自	2013	30 / 30	9
41	美々津	宮崎県	国選定伝統的建造物群保存地区 美々津町歩き	観	記載なし	2 / 2	7

制作主体の凡例）　自：自治体の商工観光系部局　観：観光協会　連名：自治体 / 観光協会連名
注）資料の総頁数について、テキストを含まない地図や交通情報のみを示す頁は除いた。

2．2．価値対象と歴史属性にみる街の価値の意味内容

本節では江戸を転用する街の観光パンフレットの言語表現において提示される街の価値の意味内容を、価値対象及びその歴史属性として抽出し、検討する。

2．2．1．価値対象の分類

街の価値を構成する価値対象に関しては、街全体から山や海といった周辺の自然環境、城などの建築物、さらに土産物などの物品まで様々な内容がみられたため、それらを分類、整理して表 2-1 に示した。それらには街の特性を示す名称で街全体を示すもの（《全体像》注 2-7)、街の周辺の自然要素（《周縁部》）などもあるが、多くは街を構成する要素として捉えられるものであり、これらを街の空間を構成する要素（《空間》）と街の生活を構成する要素（《生活》）に大別した。さらに《空間》は道や街並など線的な要素で構成された連なりのある空間として捉えられる要素（〈線的空間〉注 2-7)）と、建物や史跡などの単独の完結した空間として捉えられる要素（〈点的空間〉）に分類し、《生活》は祭りなどの人々のアクテビティを示すもの（〈活動〉）と、特産品などの実体的な要素（〈物品〉）に分類した。次頁ではそれぞれの内容を概説し、具体例を示す。

表 2-1 価値対象の分類

街の全体	《全体像》88		街の履歴を示す 75	宿場町 28 城下町 20 商家町 10 温泉町 9 港町 7 寺町 3 寺内町 天領 花町 製磁町 荘園 外京 忍者集落 (重複 9)
			履歴なし 13	山間地区 3 海浜地区 2 河川流域 人工島 その他 6
街を構成する要素	街の空間を構成する要素《空間》428	〈線的空間〉139	道 67	街道 28 (中山道 5 東海道 5 古道 4) 小路 6 坂 5 路地 5 石畳 4 通り 4 曲り道 2 枡形 2 鉤の手 辻子 参道 商店街 横丁
			街並 30	宿場の街並 7 町家・商家の街並 6 蔵の街並 3 城下町の街並 2 格子状の町割 2 街並テーマパーク 2 家並 港町の街並 など
			川 27	川 23 (木曽川 2 渡良瀬川 2) 堀 2 堰 運河
			その他	林 6 (桜 5) 田畑 4 港 3 花畑 2
		〈点的空間〉289	建物 191	住宅 45 (武家屋敷 10 旧宅 8 町家・商家 7 民家 3 庭 3 土間 2) 寺社仏閣 39 (寺院 21 神社 11 宝塔 祠堂 五重塔) 城 33 (城址 10 城 7 堀 4 石垣 3 土塁 2 天守) 蔵 11 (土蔵 5) 物販店舗 7 博物館 5 温浴施設 5 資料館 5 飲食店 4 宿泊施設 4 会所 奉行所 本陣 藩校 鐘楼 宿場 洋館 動物園 果樹園 など
			史跡・公園 52	公園 12 遺跡 6 碑 4 墓碑 4 古墳 3 古戦場 3 庭園 3 石仏 2 道標 2 砲台跡 木戸跡 生誕地
			建物部位 29	海鼠壁 4 格子 4 漆喰壁 3 土塀 3 門 2 赤レンガ 2 懸魚 出桁 卯建 虫籠窓 アーチ窓 黒板囲い 箱階段 など
			その他	樹木 9 (桜 2) 花 3 橋 3 岩石 水車
	街の生活を構成する要素《生活》267	〈活動〉165	祭礼 60	祭礼 39 (曳山祭 6 行列 5 雛祭 3) 曳山 6 囃子 4 奉納演技 4 民謡 舞踊 獅子舞 鵜飼い 三味線 大衆演劇
			歴史上の人物 51	江戸時代の人物 18 戦国時代の人物 7 職人 5 など
			体験 22	工芸教室 4 海水浴 3 霊場巡り 2 寺院巡り 座禅 忍者体験 和装 甲冑着用 人力車 屋形船 渡し船 鉄道 遊歩道 サイクリング ハイキング ロープウェイ
			その他	伝説・神話 14 地名 6 サービス 4 など
		〈物品〉102	食品 34	水産物 10 (ウナギ 2) 酒 3 果物 3 和菓子 2 味噌 豆腐 醤油 など
			所蔵・展示品 28	仏像・仏具 6 行燈 2 刀剣 2 土器 金の鈴 絵馬 釜戸 鎧 彫刻 天井画 看板 暖簾 かまど 戦艦 図書 ベンチ アート作品
			工芸品 19	陶芸 4 和紙 3 灯籠 2 曲物 下駄 和傘 団扇 木工
			祭礼用品 16	山車 5 神木 2 御輿 雛人形 神酒 獅子頭 山鉾 など
			その他	温泉 地下水 木材 など
街の周辺	《周縁部》54			山 24 (峠 7 富士山 2 御嶽山 2) 海 13 (湾 2 海岸 2) 渓谷 5 森林 4 湖 3 島 2 滝 湧水地 砂丘

《全体像》

《全体像》には街の履歴を含めた特性を示すものと含めないものがみられ、前者では「宿場町」や「城下町」といった近世の街の履歴が多く、そのほかに「商家町」や「温泉町」といった履歴もみられた。

「黄門さまのふるさと**水戸**」は、徳川御三家の一つ水戸藩の**城下町**として栄えました。（No.3 水戸）

蔵の街**とちぎ**は、日光例幣使街道の**宿場町**として、また、江戸との舟運で栄え「小京都」「小江戸」とも呼ばれており独特の風情を感じさせる街です。（No.9 栃木）

中山道の旅人になる。南木曽駅から**妻籠宿**を抜け**馬籠宿**へ。古き時代を、身近に感じるとともに、今も残る江戸のたたずまいは、旅人の心をいやす優しさがあります。（No.18 南木曽）

約百四十年の歴史を誇る**花街・元林院町**　戦前は二百人以上の芸舞妓がいた町。（No.31 奈良町）

湯坂温泉郷　伝説の湯に、心も体も癒される。負傷した鶴が良質な湯を飲んで傷を癒したことから「鶴の井」と呼ばれ、親しまれてきました。（No.35 竹原）

慶長 9 年に毛利輝元が萩城を築き、**城下町**ができてから 400 年余たった**萩**は、毛利藩政期 260 年間に形成された**城下町**の佇まいが、今日まで継承されており、今も「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」となっています。（No.36 萩）

《空間》

〈線的空間〉

〈線的空間〉には「道」「街並」「河川」などの内容があり、特に「道」に関するものが多く、東海道や中山道といった街道や、石畳や枡形といった古い道の特徴を示すものがみられた。

巴波川沿いや**日光例幣使街道**沿いには、黒塗りの見事な見世蔵や、白壁の土蔵群が残り、多くの建物は国の登録有形文化財になっています。（No.9 栃木）

蔵造りの町並み　一番街　川越の土蔵造りの店舗は、いわゆる「蔵造り」として有名です。…30 数棟の蔵造りが軒を連ねる様は、他の都市では見られない 江戸情緒あふれる景観です。（No.10 川越）

中山道は江戸日本橋を起点に京へ向かう百三十五里三十四町の道。　残された**石畳の道**には、行き交う行列や先急ぐ旅人達の声や、足音がしみています。江戸風情の漂うこの**街道**はなぜか懐かしく、つい、ぶらり歩きたくなります。（No.18 南木曽）

馬籠は急峻な**坂**の宿場です。大雨から守る為に敷かれた**石畳**や、宿場に敵の侵入を防ぐため街道を鉤の手に曲げた「**枡形**」などが、当時の雰囲気を漂わせています。（No.19 馬籠）

丸子宿と岡部宿を結ぶ宇津ノ谷峠は、**東海道**屈指の難所。「伊勢物語」をはじめ、「十六夜日記」や「東海道中膝栗毛」、歌川広重の浮世絵など数々の文学・芸術作品に描かれてきました。（No.21 静岡）

黒板囲いの醸造蔵が建ち並ぶ**半田運河**沿いは江戸の面影を残す散策スポットです。（No.27 半田）

江戸時代の**町割り**が残るまち　豆田町　　慶長 6 年、小川光氏が丸山城を築城の際、城下町として建設された「豆田町」は、江戸時代初期から天領（徳川幕府の直轄地）となり、…**碁盤目状の町並み**には旧家や資料館が建ち並び、近世後期の町人・商人町の面影を色濃く残す貴重な地区です。（No.39 日田）

〈点的空間〉

〈点的空間〉は最も多く（全 837 の価値対象中 289）、「建物」「史跡・公園」「建物部位」などがみられた。特に「建物」では武家屋敷や城などの近世以前の都市を構成する建物や、寺社や蔵などの伝統的な建物が多く、そのほかに「建物部位」でも海鼠壁や格子などの伝統的なものがみられた。

江戸城にもひけをとらぬほど見事な**新発田城**を築城した、名君の誉れ高い初代藩主、溝口秀勝侯。凛とした武士道の美意識は、いまも、**新発田城**をランドマークとして、往時の道筋や建物に連綿と守り継がれています。(No.5 新発田)

水戸徳川家の歴史的文化遺産（**偕楽園**、**仙波湖**、**保和苑**、**弘道館**、**水戸城跡**など）は「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選定されています。(No.6 水戸)

蔵造りの町並み 一番街　川越の**土蔵造りの店舗**は、いわゆる「蔵造り」として有名です。…30 数棟の**蔵造り**が軒を連ねる様は、他の都市では見られない 江戸情緒あふれる景観です。(No.10 川越)

頂上から西に御嶽山、東に木曽駒ヶ岳を望むことができ、古道の途中には松尾芭蕉をはじめ俳人・歌人の**句碑**や**石仏**が数多く立っています。(No.15 奈良井)

No.16 下諏訪
古事記や日本書紀にも登場する**諏訪大社**が鎮座し諏訪湖が豊かな水をたたえる湖と神話のふる里・下諏訪。(No.16 下諏訪)

一帯には、屋根に「**うだつ**」が上がる**町家**が続き威風堂々、独特の雰囲気を漂わせています。(No.20 美濃)

海と断崖に囲まれた台地を上手く利用した城下町で、商人の町を南北の**武家屋敷**が挟む形は、日本でもめずらしい。(No.40 杵築)

《生活》

〈活動〉

〈活動〉には「祭礼」「歴史上の人物」に関わるイベントなどが多く、そのほかに工芸教室や海水浴などの「体験」などがみられた。

民謡の王様といわれる「**江差追分**」をはじめとする伝統芸能や生活文化など有形、無形の遺産が数多く伝承、保存されております。(No.2 江差)

国指定重要無形民俗文化財 江戸まさり **佐原の大祭**
7 月と 10 月の年 2 回、市内が熱気であふれる**佐原の大祭**は、約 300 年の伝統を引き継ぎ、国の「重要無形民族文化財」に指定されています。(No.13 佐原)

智将**武田信玄**で有名な甲府ですが、…その治世は戦のみならず、「法」「土木」「通貨」に至るまで優れ後の江戸幕府のお手本となったことは有名です。(No.14 甲府)

最古の記録では平安時代、桓武天皇の御代に盛大に行われたとされる「**諏訪のおんばしら**」。太古から連綿と続く自然信仰の姿を今日に留める、貴重な**祭り**です。(No.16 下諏訪)

徳川家康公と**三河武士**のふるさとでも知られるこの地には日本の歩みを伝えるさまざまな**逸話**が残されています。(No.26 岡崎)

〈物品〉

〈物品〉には街の特産の「食品」、寺社や博物館にある「所蔵・展示品」、陶芸品や和紙などの「工芸品」、山車や御輿などの「祭礼用品」などがみられた。「食品」では水産物や酒、味噌、醤油などの醸造品が多くみられ、「所蔵・展示品」では仏像、仏具や浮世絵といった内容がみられた。

湖畔の町・土浦は、**ワカサギ**や**ウナギ**など水産物や水産加工品の宝庫！また、「カレーのまち土浦」を目指し、特産品の**レンコン**を使った**カレー**が評判です。歴史ある城下町としての顔も持つ土浦には、伝統ある**菓子類**もたくさんあります。(No.7 土浦)

開基を室町時代とする長楽寺は**木造薬師如来座像**を本尊とし、**金銅孔雀文磬**（南北朝時代の仏具）、**金銅五鈷鈴**（鎌倉時代の仏具）等、まさに文化財の宝庫です。(No.7 土浦)

佐原の大祭は、約 300 年の伝統を引き継ぎ、国の「重要無形民族文化財」に指定されています。夏は 10 台、秋は 14 台の勇壮豪華な**山車**は、哀調漂う佐原ばやしの音と共に、時に優雅に、時に豪快に町の中を曳き廻されます。(No.13 佐原)

幾つもの山ひだに囲まれ、深い緑をたくわえた木の国、上松町。　…尾張藩の厳格な森林保護のもと、**木曽木材**の中心地として名を馳せ、今日まで多くの物語を紡いできました。(No.17 上松)

正倉院所蔵の戸籍に始まる**美濃和紙**の歴史。連綿と続けられて来た紙漉きの歴史は約 1300 年を数えます。(No.20 美濃)

江戸時代、海運で栄えた半田から江戸へと、特産の**酒**や**酢**が運ばれました。運河沿いにはその醸造蔵が建ち並び、江戸の面影を今に伝えています。(No.27 半田)

《周縁部》

《周縁部》としては大半が「山」や「海」に関する内容であり、そのほかに「渓谷」や「森林」、「湖」などがみられた。

土浦市は、日本で 2 番目の広さを誇る湖「**霞ヶ浦**」の西岸と関東の名峰「**筑波山**」の南麓に位置する、水郷筑波国定公園の玄関口として、**霞ヶ浦**の雄大な眺めと**筑波山麓**の豊かな自然に恵まれた緑あふれるまちです。(No.7 土浦)

江戸の前面に広がる**海**が「江戸前」。そこで採れる新鮮な海の幸が江戸前の味。…木更津もまた、お江戸と繁栄をともにしてきた 江戸前のまち。(No.11 木更津)

日本三大美林のひとつに数えられる**赤沢自然休養林**、樹齢三〇〇年、雄大な木曽檜の世界。(No.17 上松)

明治 32 年 (1899) 外国貿易の開港場に指定された清水港。…正面に**霊峰富士**を望む埠頭に立ち遠い異国に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。(No.21 静岡)

弧を描く特徴的な地形の**坂越湾**と、その湾に浮かぶ**生島**は、坂越を風や波から守り、この地を天然の良港にしました。(No.30 坂越)

2．2．2．歴史属性の分類

価値対象に付加的な意味を与える歴史属性は、価値対象を形容する記述として示される場合と、価値対象の語句そのものに歴史性が含まれる場合がある[注2-8)]。それらの内容には、江戸との関連を明確に見出せるもの（〔江戸の歴史属性〕[注2-7)]）のほかに、江戸との関連は見出せないが何らかの歴史性を読み取れるもの（〔その他の歴史属性〕）もみられた（表2-2）。江戸を転用する街において、江戸に関連しないその他の歴史属性が提示されているということは、江戸の有する意味が江戸との関連性を越えて単なる古さを示すものとしても解釈されていると考えられることから、これらの歴史属性についても分析の対象とした。〔江戸の歴史属性〕は直接的に江戸を転用する街としての性格を形成するものであるのに対して、〔その他の歴史属性〕は街の古さを示すことで間接的に江戸を転用する街としての性格を補完するものであるといえる。

これらの歴史属性は、図2-2下段の分析例中の「山車行事」にみられるように、1つの価値対象に対して異なる内容が重ねて示される場合もみられた。

次頁ではそれぞれの内容を概説し、具体例を示す。

表2-2 歴史属性の分類

〔江戸の歴史属性〕323	〔その他の歴史属性〕340
江戸時代からの来歴 221 史実 103 雰囲気 56 継続性 48 江戸情緒 26	**具体性あり 181** 具体的な歴史性を示すもの 特定の時代からの来歴 124 明治 29 戦国・安土桃山 22 大正 16 昭和 15 奈良 10 平安 7 鎌倉 4 古墳 3 飛鳥 3 室町 南北朝 弥生 古事記の時代 日本書紀の時代 など
江戸時代の人物との縁故 80 徳川家康 徳川家 徳川光圀 徳川吉宗 徳川慶喜 水戸徳川家 紀州徳川家 譜代大名 藩主 和宮 赤穂浪士 安藤広重 葛飾北斎 喜多川歌麿 松尾芭蕉 本居宣長 吉田松陰 木戸孝允 高杉晋作 青木周弼 弥次喜多 隠れキリシタン シーボルト 朝鮮通信使 など	歴史上または物語上の人物との縁故 64 西園寺公望 太宰治 尾崎放也 新美南吉 ロダン 種田山頭火 ツェッペリン伯号 織田信長 武田信玄 豊臣秀吉 明智光秀 上杉謙信 上杉景勝 猿飛佐助 弘法大師 雪舟 柿本人麻呂 小野小町 聖武天皇 神武天皇 浦島太郎 須佐之男命 など （重複7）
近世都市江戸との関連性 52 文化的関連 26 地理的関連 18 交易上の関連 5 小江戸らしさ 4	**具体性なし 159** 漠然とした古さを示すもの 伝統の 24 歴史ある 16 文化財登録 14 今も残る 11 懐かしい 10 価値対象自体が示す歴史性 63
価値対象自体が示す江戸の歴史性 39 （重複69）	

注）1つの価値対象に同じ種類の歴史属性が伴う場合は1つの歴史属性として集計した。
〔その他の歴史属性〕の**具体性なし**は、価値対象に単独で示される場合に限り抽出した。

〔江戸の歴史属性〕

〔江戸の歴史属性〕は「江戸時代からの来歴」に関するものがそのほとんどを占め、その内容は、当時の繁栄ぶりや出来事といった史実、江戸風の雰囲気、江戸時代からの継続性などであった。そのほかに、「江戸時代の人物との縁故」、「近世都市江戸との関連性」を示すものがみられ、前者では、徳川家の人物や藩主などの江戸時代の為政者、葛飾北斎や松尾芭蕉などの芸術家、吉田松陰や高杉晋作などの幕末に活躍した人物などがみられた。また後者では、「江戸『天下祭り』を今に伝える」（No.10）注2-7) のように江戸との文化的関連を示すものが最も多く、そのほかに「江戸から七十一里」（No.17）のように地理的関連、「この運河から江戸へと醤油を輸送」（No.27）のように交易上の関連、「小江戸気分が漂った」（No.14）のように漠然とした小江戸らしさを示すものがみられた。以下、具体例を示す（下線部が該当する歴史属性、□は対応する価値対象を示す）。

・江戸時代からの来歴

扇状地に築かれた **400 年前の名残を留める** 城下町 (No.3 山形)

渡辺家住宅 **嘉永 2 年（1849 年）4 月に建てられた** 商家造りの家で、**大多喜藩御用金御用達を任されていた** 住宅です。(No.12 大多喜)

豪華な 山車 と勇壮な 曳き廻し、からくり人形・獅子舞・三番曳奉納 の妙技。**三百年受け継がれてきた** 祭り絵巻 です。(No.27 半田)

山鹿に 和紙 の**製造技術が伝えられたのは江戸時代後期**。(No.38 山鹿)

・江戸時代の人物との縁故

「**黄門さまのふるさと** 水戸」は、**徳川御三家の一つ水戸藩の城下町として栄えました**。(No.6 水戸)

古道 の途中には**松尾芭蕉をはじめ俳人・歌人の** 句碑 や 石仏 が数多く立っています。(No.15 奈良井)

江戸の風情が漂う 家康公ゆかりの 城下町 **徳川家康公により築城された** 駿府城 の 城下 は、南に町人町と寺町、東西北は武家屋敷で囲まれていました。(No.21 静岡)

幕末には吉田松陰、木戸孝允、高杉晋作、伊藤博文など維新の志士たちを数多く輩出し、 生誕の地 や 旧宅 などロマンあふれる史跡が各所に残っています。(No.36 萩)

・近世都市江戸との関連性

「**松前の春は江戸にもない」と言われた城下。その街並を再現した**のが 松前藩屋敷 です。(No.1 松前)

川越氷川祭 は**江戸「天下祭」を今に伝える** 山車行事 。(No.10 川越)

江戸の前面に広がる 海 **が「江戸前」**。そこで採れる新鮮な 海の幸 **が江戸前の味**。… 木更津もまた、**お江戸と繁栄をともにしてきた江戸前のまち**。(No.11 木更津)

江戸時代、海運で栄えた半田から江戸へと、特産の酒や酢が運ばれました。 運河 沿いにはその 醸造蔵 が建ち並び、江戸の面影を今に伝えています。(No.27 半田)

・小江戸らしさ

幕府直轄領でもあった 甲府（駅南部） には、安心感からか職人や商人の暮らす下町にも**小江戸気分が漂いました**。(No.14 甲府)

〔その他の歴史属性〕

上記に対して〔その他の歴史属性〕は、具体的な歴史性を示すものと漠然とした古さのみを示すものがみられた[注2-9)]。前者では弥生から昭和まで幅広い時代に関連する来歴や歴史上の人物との縁故がみられ、なかでも明治、戦国・安土桃山など江戸時代前後の時期が多く、そのほかに浦島太郎や日本書紀など昔話や神話に関連する歴史性を示すものもみられた。以下、具体例を示す（下線部が該当する歴史属性、□は対応する価値対象を示す）。

・具体的な歴史性を示すもの

今なお語り継がれる 高倉以仁王伝説 **平清盛の全盛期に反平氏の挙兵をした高倉以仁王《後白河天皇第二皇子》が、戦いに敗れこの村に潜行したと伝えられます。**(No.4 大内)

昭和初期には 70 軒とはいかないまでも、今でも 20 数軒の店舗が連なり合う 菓子屋横丁。(No.10 川越)

臨済宗に帰依した信玄が、京都や鎌倉五山にならい定めた 甲斐五山。(No.14 甲府)

寝覚の床 白々とした大岩・奇岩が並びたち、その底に翠緑の水をたたえる木曽の名勝。…寝覚の床、この不思議な名は、晩年をこの地で過ごした**浦島太郎の伝説に由来するもの**。(No.17 上松)

明治 32 年 (1899) 外国貿易の開港場に指定された 清水港。西洋の趣漂うベイサイドエリアには **110 余年の港の歴史と意匠があふれています**。(No.21 静岡)

甲賀市は**甲賀忍者のかくれ里**。(No.28 甲賀)

古戦場跡・**雑賀孫一 雑賀衆ゆかりの地** 戦国時代に鉄砲と奇抜な作戦で、**織田信長ら時の権力者と戦った**気骨の集団「雑賀衆」(No.33 和歌山)

大自然の造形美と出会う 須佐地域 **八岐大蛇退治で知られる須佐之男命にまつわる** 神話 が残る土地で、**名前もそれに由来**しています。(No.36 萩)

遥か古代から、独特の文化に彩られてきた 菊地川流域。点在する **装飾古墳**や**古代** 山城、歴史的価値の高い仏像の数々は人々の手で大切に受け継がれ、先人たちの暮らしや文化を今に伝えます。(No.38 山鹿)

・漠然とした古さを示すもの

巴波川沿いや日光例幣使街道沿いには、黒塗りの見事な 見世蔵 や、白壁 の 土蔵群 が残り、多くの建物は**国の登録有形文化財になっています**。(No.9 栃木)

坂越の まち並み は、江戸期にさかのぼるものはさほど多くないものの、**伝統的な 和風建築物 を全体としてよく残し**、…(No.30 坂越)

今でも一子相伝、脈々と受け継がれている、普段使いの民陶「小鹿田焼」(No.39 日田)

2．2．3．価値対象と歴史属性の関係

ここまでに抽出した価値対象と歴史属性の組合せを検討したものが図 2-3 である。まず価値対象が歴史属性を伴うか否かの割合をみると（図 2-3 左側）、全 837 の価値対象のうち 609 が歴史属性を伴うものであり、特に《全体像》〈点的空間〉は歴史属性を伴う割合が高いことがわかる。次に価値対象の分類毎の歴史属性の内容の内訳をみると（図 2-3 右側）、《全体像》及び〈線的空間〉では〔江戸の歴史属性〕を含むものが比較的多くみられた。さらに《全体像》は〔江戸の歴史属性〕と〔その他の歴史属性〕が重ねて示されるものが比較的多いのに対して、〈線的空間〉は〔江戸の歴史属性〕のみが示されるものが大半を占めた。以上から、街の全体や道といった街を広域的な空間として印象づける価値対象には江戸との関連性が直接的に投影されやすく、特に道や街並などの街の構造的な特徴を示す価値対象では、その傾向がより顕著にみられることを確認できる。この背景としては、五街道をはじめ多くの街道は江戸時代に整備されたものであり、また宿場町や商家町などの歴史的な街並の多くが江戸時代に形成されたことなどから[2-5]、これらの空間が江戸を表すものとしての性格を強く有すると推察される。

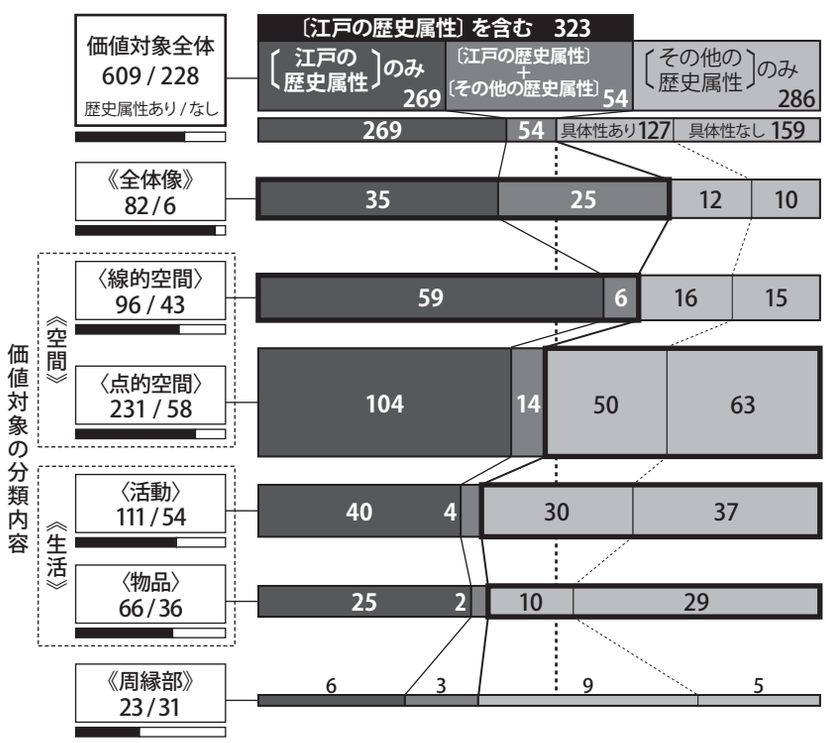


図 2-3 価値対象と歴史属性との関係

2．3．価値グループにみる街の価値の階層的性格

1節でみたように、資料の観光パンフレットから抽出した言語表現は原則複数の分析単位から構成されており、前章で検討した価値対象は、1つの分析単位を構成する文章中から複数抽出することができた[注2-10)]。本節ではこれらの言語表現に示される街の価値を総体的に捉えるために、価値対象同士の意味的な関連性について検討する。

2．3．1．言語表現にみられる価値対象同士の階層関係

価値対象同士の意味的な関連性について、ここでは特に価値対象同士の階層的な関係に着目し、以下の2つの水準から検討した。

まずひとつは、価値対象の内容それ自体が文脈上階層的な関係を想定できる場合である。例えば、図2-4上段の分析単位No.10-Dに示される「城」及びその内部の「玄関」「大広間」「家老詰所」では、全体とその部分という関係から階層性を想定することができる。また「歴史上の人物」とそれに縁のある「建物」「祭礼」といった事例では、一方の価値対象に対する由縁という従属的な関係から階層性を想定することができる。

もうひとつは、異なる分析単位に同一の価値対象がみられる場合である。反復して出現する価値対象は、単独で現れるものよりも重要度が高いと判断できるからである。例えば、図2-4下段の分析単位No.20-A及びNo.20-Cでは、一方で伝統工芸の「和紙」と街に残る古い「町家」との歴史的な関連性が示され、もう一方で「和紙」とその「職人」が示されており、「和紙」が反復して出現することでその他の価値対象よりも階層的に上位に位置づくと判断できる。

このように、1つの資料から抽出された複数の価値対象は、上記のような階層関係により構造化されるまとまりの集合として捉えることができる。そこで言語表現にみられる階層関係を整理して価値対象のまとまりを抽出し、これらのまとまりを価値グループと定義した[注2-11)]。本節の以降では個々の価値グループの特徴を検討し、言語表現に示される街の価値の階層的性格を捉える。続く4節では価値グループの資料単位での集合を検討する。

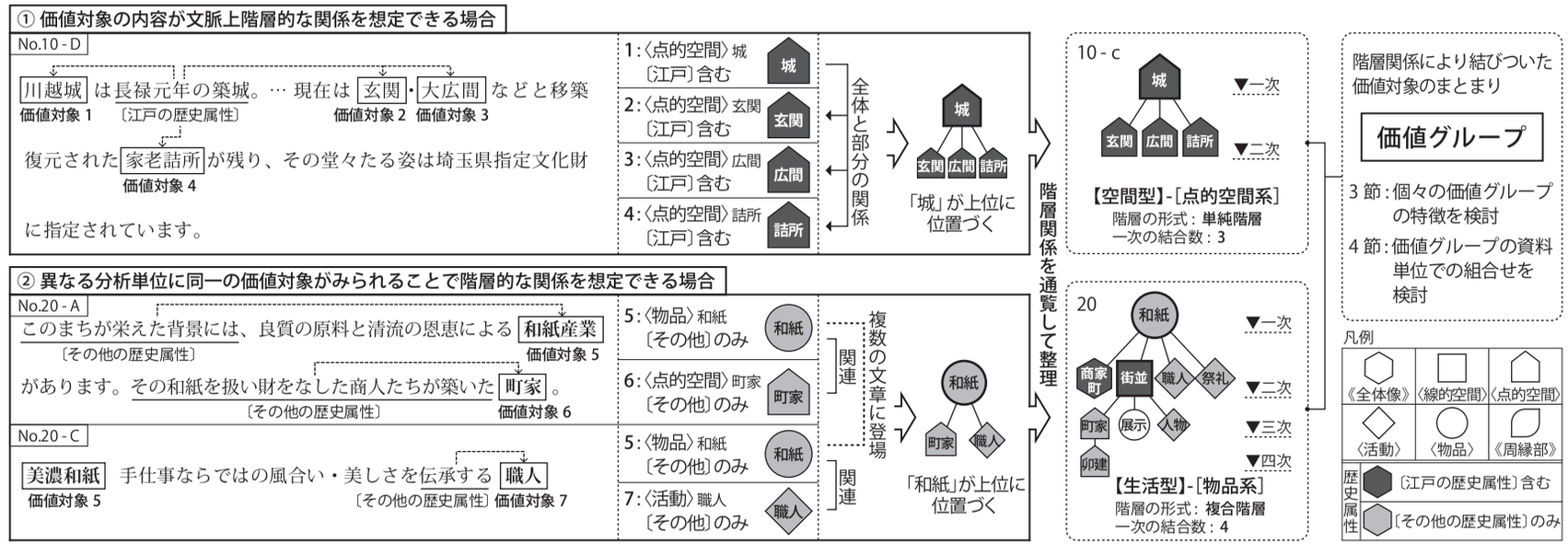


図 2-4 分析例（3 節）

注）上記の 2 つの階層関係が重複してみられる場合は複数の分析単位から見出せる階層関係（下段）を優先した。

文脈から読み取ることのできる価値対象の階層的な関係には以下のような内容がみられた（□内は上位の価値対象、下線部は下位の価値対象を示す）。

・広がりのある空間とそこに所在する事物

「松前の春は江戸にもない」と言われた城下。その街並を再現したのが 松前藩屋敷 です。海の関所「沖の口奉行所」、藩士の暮らした「武家屋敷」のほか、「商家」「回船問屋」「番屋」「髪結」など 14 棟が軒を連ねます。施設内で体験できる甲冑の着付けや松前杉のクラフトづくりも人気。(No.1 松前)

趣ある 散策路 を巡ると 土浦城址 、まちかど蔵 などが点在し 歴史的建造物 に触れられます。(No.7 土浦)

中山道 の旅人になる。南木曽駅 から 妻籠宿 を抜け 馬籠宿 へ。古き時代を、身近に感じるとともに、今も残る江戸のたたずまいは、旅人の心をいやす優しさがあります。(No.18 南木曽)

・中心となる地点とその周辺に位置する事物

気分はすっかり江戸の旅人 鳥居峠 をウォーキング …現代から趣豊かなトレッキングコースとして人気。頂上から西に 御嶽山 、東に 木曽駒ヶ岳 を望むことができ、…(No.15 奈良井)

・空間とそれを構成する部位、部分

蒲原にある 旧東海道 には、江戸時代当時のままの道幅や、「鉤の手」（かぎのて）や「枡形」（ますがた）のつくりも見られます。(No.23 蒲原)

「出桁」（でげた）、「懸魚」（げぎょ）、「海鼠壁」（なまこかべ）といった特徴を残した 民家 がところどころ現存しており、江戸時代の街道の特徴が非常によく残されています。(No.23 蒲原)

・活動とその具体的な内容

豪華な 山車 と勇壮な 曳き廻し 、からくり人形・獅子舞・三番曳奉納 の妙技。三百年受け継がれてきた祭り絵巻です。 はんだ山車まつり (No.27 半田)

いにしえの 舟遊び が、今も残る温泉郷。日田温泉 …その中の 6 軒の温泉宿は、 屋形船 （遊船）での夕食 と 鵜飼い を楽しめるのが特徴。(No.39 日田)

・歴史上の人物とそれに縁のある事物

水戸徳川家 の歴史的文化遺産（偕楽園、千波湖、保和苑、弘道館、水戸城跡など）は「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選定されています。(No.6 水戸)

幕末には 吉田松陰、木戸孝允、高杉晋作、伊藤博文など維新の志士たち を数多く輩出し、生誕の地 や旧宅 などロマンあふれる 史跡 が各所に残っています。 (No.36 萩)

・街の特性を示す履歴とそれに関連する事物

江戸の風情が漂う 家康公ゆかりの 城下町 … 格子状の街並み、呉服町・両替町など今も残る 町の名、徳川家ゆかりの 名所旧跡 など、そこかしこで出会う江戸の香りとともに静岡のまち歩きをお楽しみください。(No.21 静岡)

・工芸品とそれを材料として作られる二次産品

山鹿に 和紙 の製造技術が伝えられたのは江戸時代後期。加藤清正公が伴った朝鮮の技術者、道慶や慶春らの手によるといわれています。…独特の引きを持つ和紙の存在が、山鹿灯籠 や 来民団扇 、山鹿和傘 など、今も山鹿を代表する和紙工芸品を支えてきたといえるのです。(No.38 山鹿)

2．3．2．価値グループの階層構造の複雑性

ここでは価値グループの階層構造の複雑性を捉える。

まず価値グループの階層について上位から一次、二次、と順に次数を設定し、価値グループにおける意味の連鎖の緊密性の指標として、ここでは階層の形式が三次以上からなるものを意味の連鎖の緊密性が強いものと判断し、二次からなるものを単純階層、三次以上からなるものを複合階層として大別した（図 2-5）。

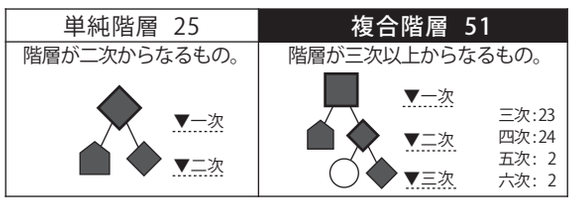


図 2-5 価値グループの階層の形式

次に価値グループに含まれる意味の豊富さを捉えるために、ここでは階層の最上位である一次に位置づく価値対象に対して直接結びつく価値対象の数（以下、一次の結合数）を検討したところ、図 2-6 に示す分布となり、単純階層では一次の結合数が 3 以下に約 8 割が集中したのに対して、複合階層では 4 以上のものが半数以上みられ、階層の形式が複雑化すると一次の結合数も多くなる傾向を読み取れる。

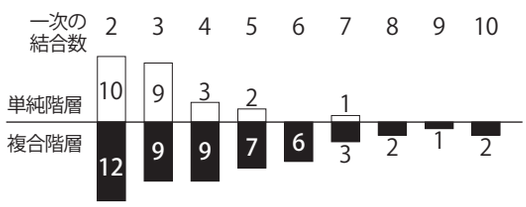


図 2-6 一次の結合数

2．3．3．価値グループにみられる街の価値の階層的性格

ここでは価値グループの意味内容を代表するものとして、階層の最上位に位置づく価値対象（一次の価値対象）の歴史属性と内容を検討する。

まず一次の価値対象と歴史属性の組合せを検討し、図 2-7 に示した。歴史属性を伴うものが大半で、なかでも〔江戸の歴史属性〕を含むものの割合が全体的な傾向（図 2-3）よりも高かった。階層の形式との関係をみると、単純階層に比べて複合階層では〔江戸の歴史属性〕を含むものの割合が高く、階層関係の基点となる価値対象の歴史性により意味の連鎖の緊密性が異なる傾向にあることがわかった。

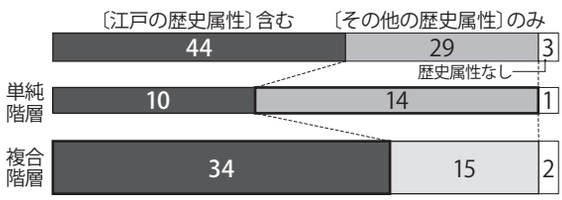


図 2-7 一次の価値対象の歴史属性

次に、一次の価値対象の分類内容（表 2-1）から価値グループを【全体像型】注 2-7)、【空間型】、【生活型】、【周縁部型】として位置づけ、さらに【空間型】、【生活型】は、それぞれ［線的空間系］注 2-7) と［点的空間系］、［活動系］と［物品系］に分類した（図 2-8）。また前節で検討した階層の形式を図 2-8 の縦軸にとり、全ての価値グループを位置づけ、一次の価値対象の内容と歴史属性、二次以下の価値対象の分類内容と歴史属性を併せて示した。

これより最も多くみられたのが【空間型】で、全体の半数近くを占めた。その内訳をみると、［線的空間系］が約 7 割と多く、表 2-1 で示した価値対象全体の《空間》の内訳では〈点的空間〉が〈線的空間〉の 2 倍近くみられたのに対して、意味的な階層構造の上位に位置づく価値対象ではその比率が逆転することがわかった。以上から、街の魅力を構成する価値対象の結びつきは空間的な要素を基点とする傾向にあり、さらにそれらは街に点在する名所を拠点に階層化される意味的なネットワークとしてよりも、線状に連続する空間構造に浸透するようなネットワークとして示される傾向にあるといえる。

さらに［線的空間系］及び［点的空間系］それぞれの階層の形式及び一次の価値対象を検討すると、［線的空間系］は複合階層の割合が約 7 割と高く、なかでも四次以上の階層からなるものが 3 分の 2 を占め、その他の型では複合階層における四次以上の階層からなるものの割合が半数程度であったのに対して高い割合を示した。一次の価値対象の内容では、「道」を一次の価値対象とするものではほぼ全てにおいて二次以下の価値対象に《全体像》がみられたのに対して、「街

並」を一次の価値対象とするものでは二次以下の価値対象に《全体像》がみられたのは 2 事例のみであった。ここから価値対象のネットワークにおいては、街並のように建物が建ち並ぶ現象的な有様として示される空間よりも、道のように街の空間構造の基軸として示される空間の方が、より広域的なスケールの内容を含めて階層化する性格をもつといえる。［点的空間系］の一次の価値対象では、その内容が「城」の場合にのみ〔江戸の歴史属性〕（図 2-8 一次の価値対象の欄が■）がみられた。このことから、「城」以外の街に点在する名所は、江戸の歴史的価値を代表する強い意味が投影されにくいことが確認できる。

【全体像型】は、一次の価値対象の内容が「城下町」「宿場町」などの近世の街の履歴を示すもの（図 2-8 一次の価値対象の欄が■）は全て複合階層に集中し、また二次以下に《全体像》〈線的空間〉を含むものはほとんどが上記の内容を一次の価値対象とするものであった。このことから、江戸に関連する街の履歴を基点とした階層構造においては、広域的なスケールの内容を含めた価値対象が、緊密な意味の連鎖により複合的に階層化される傾向にあるといえる。

【生活型】は、［活動系］が約 9 割を占め、特にこれらは単純階層が約半数と価値グループ全体に比べて高い割合を示し、［線的空間系］と対照的な傾向を示した。一次の価値対象の内容は「歴史上の人物」（図 2-8「人物」）が約 7 割と多く、残りは「祭礼」で、表 1 で示した価値対象全体の〈活動〉の内訳では「歴史上の人物」と「祭礼」が同程度であったのに対して、異なる傾向がみられた。これは、祭礼はその具体的内容を示すものが多く、価値対象の階層関係においては従属的な内容となるのに対して、歴史上の人物は、街全体、建物、土産物など様々な価値対象をその人物にまつわるエピソードにより結びつけることから、これらの階層関係の基点となるものと考えられる。

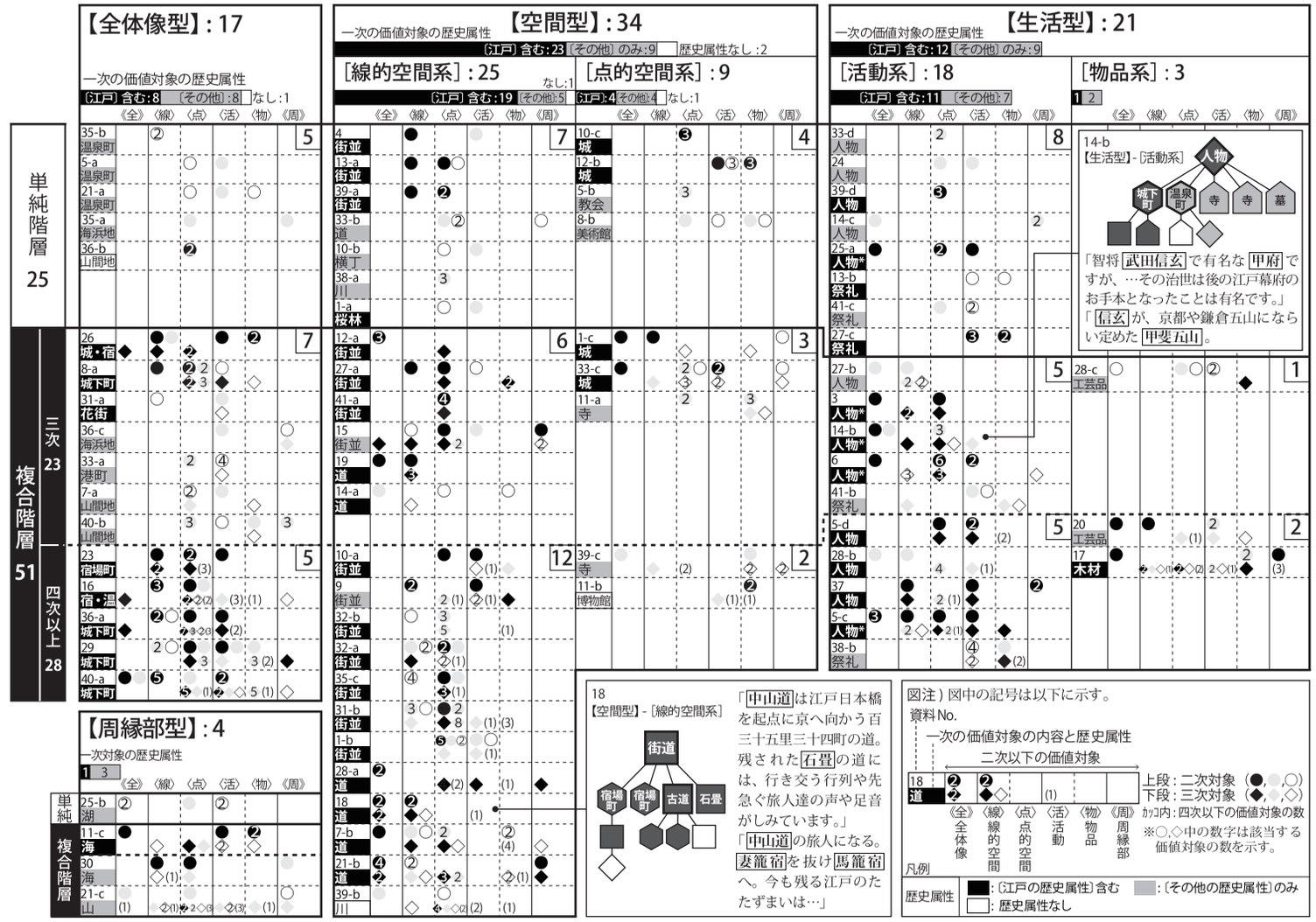


図 2-8 価値グループにみられる江戸を転用する街の価値の階層的性格

２．４．価値グループの集合にみる江戸を転用する街の価値の総体

前節で指摘したように、資料とした観光パンフレットの言語表現に示される街の価値の総体は、価値グループの集合として捉えることができる。そこで本章では価値グループの資料単位での集合を検討する。

各資料の価値グループの集合を、前章で位置づけた階層の形式、一次の価値対象の内容及び歴史属性を含めて表2-3に示した。そして全資料を単数の価値グループからなるもの（｛集約型｝注2-7）と複数の価値グループからなるもの（｛分散型｝）に大別した。

まず｛集約型｝では、図2-8において価値グループの半数近くを占めた【空間型】からなる資料は約３分の１しかみられず（5/16資料）、【全体像型】、【生活型】からなる資料がそれぞれ同程度みられた。一方｛分散型｝では、同種の価値グループからなるものと異種の価値グループからなるものがみられ、いずれもその大半が【空間型】を含むものであった（19/22資料）。このことから、街の空間的な要素を基点とした階層関係は、他の階層関係と併せて示される性格のものであり、街の価値が１つの階層性の中で示される場合は、空間的な要素だけでなく、街全体の特性や生活的な要素を基点とした階層関係も重要な役割を担うことが確認できる。

表2-3では、価値グループの【全体像型】【空間型】【生活型】【周縁部型】の組合せから資料を整理して示している。これより、該当数の多い価値グループの集合を、江戸を転用する街の価値の類型として位置づけた注2-12）。以下、Ⅰ～Ⅵの類型を概説する。

類型Ⅰ～Ⅲは｛集約型｝にみられた類型で、このうち類型Ⅰは【全体像型】からなるものであり、そこに含まれる価値グループは全て複合階層（表2-3★または★’）で一次の価値対象の内容が「城下町」または「宿場町」といった近世の街の履歴を示すものであった。これは江戸に関連する街全体の特性を基点とした階層関係によって街の価値が示されるものであり、例えば岡崎（No.26, 表2-3下に記載）における街を通る東海道や徳川家康との縁故、下諏訪（No.16）における古代からの歴史をもつ諏訪大社や江戸時代から評判のあった温泉など、街の価値を構成する空間的な要素や生活的な要素が、それぞれの街の履歴を基点とした緊密な意味の連鎖によって包括的に階層化されるものである。

類型Ⅱは【空間型】からなるもので、そこに含まれる価値グループは全て［線的空間系］であった。これは道や街並などの線状に広がる空間を基点とした階層

関係によって街の価値が示されるものであり、そのうち特に奈良井（No.15）、南木曽（No.18）、馬籠（No.19, 表 2-3 下に記載）は全て中山道に位置する街で、江戸時代に整備された街道にまつわる歴史性がこれらの街において強い意味を有することを推察できる。

類型Ⅲは【生活型】からなるもので、［活動系］と［物品系］の双方がみられた。［活動系］では一次の価値対象の内容は全て「歴史上の人物」（表 2-3「人物」）であり、［物品系］では「木材」や「和紙」など街の特産品を示す内容であった。これは例えば水戸（No.6, 表 2-3 下に記載）における水戸徳川家や、美濃（No.20）における伝統工芸の和紙のように、街の歴史的骨格の形成に寄与した人物や特産品を基点とした階層関係によって街の価値が示されるものである。

類型Ⅳ～Ⅵは｛分散型｝にみられた類型で、このうち類型Ⅳは同種の価値グループからなるもの、類型Ⅴ, Ⅵは異種の価値グループからなるものである。類型Ⅳは複数の【空間型】からなるもので、特に［線的空間系］と［点的空間系］をあわせもつものが多く（3/4 資料）、その価値グループには一次の価値対象の内容に「街並」及び「城」が共通してみられた。これは例えば表 2-3 下に示した川越（No.10）における江戸の形式を残す蔵の街並と街に残る川越城のように、線状に広がる空間を基点とした階層関係と街に点在する名所を基点とした階層関係によって街の価値が示されるもので、街の価値の中でも空間的な側面に特化し、街の空間構造を広範囲に特徴づける要素とその意味的な中心を形成する要素の双方から示されるものといえる。

類型Ⅴは【全体像型】と【空間型】からなるもので、［線的空間系］を含むものが多かった（3/4 資料）。これは例えば表 2-3 下に示した奈良町（No.31）における江戸時代の雰囲気を残す町家の街並と江戸時代に成立した花街の履歴のように、線状に広がる空間を基点とした階層関係と街全体の特性を基点とした階層関係によって街の価値が異なる領域的な観点から示されるものである。

類型Ⅵは【空間型】と【生活型】からなるもので、全て［線的空間系］と［活動系］を含むものであり、さらに一次の価値対象の内容では「街並」と「祭礼」が多くみられた。これは例えば表 2-3 下に示した佐原（No.13）における江戸との水運によって栄えた商家の街並と江戸時代からの歴史をもつ山車祭のように、線状に広がる空間を基点とした階層関係と人々のアクティビティを基点とした階層関係によって街の価値が示されるものであり、現象的な空間の有様と非日常的なイベントといった街の価値を具体化する内容が異なる側面から提示されるものといえる。

以上の類型について、表 2-3 下に示した代表例の階層構造を比較、検討すると、まず｛集約型｝の類型Ⅰ～Ⅲにおいて、岡崎（No.26）や水戸（No.6）では馬籠（No.19）に比べて一次対象に多くの価値対象が結びつく構造を成しており、街の価値がより包括的に階層化されていることを確認できる。｛分散型｝の類型Ⅳ～Ⅵにおいては、奈良町（No.31）では一方の価値グループが岡崎や水戸にみられるような多数の価値対象による階層構造を成しており、もう一方の価値グループがより付加的な価値として位置づいていることを読み取れるのに対して、川越（No.10）と佐原（No.13）では個々の価値グループが比較的単純な階層構造を成しており、それぞれが独立した同等の価値として位置づいていることを読み取れる。

さらに、ここまで検討した価値の総体を評価するために、2 節で検討した価値対象の分類内容のうち《全体像》において示される街の履歴に着目した。《全体像》は全ての資料にみられた価値対象であり、その内容は街全体の履歴を含めた資料の特性を示していると考えられるからである。そこで《全体像》の街の履歴を示す内容のうち、該当数が多くみられた宿場町（17 資料該当）、城下町（17 資料該当）、商家町（8 資料該当）、温泉町（7 資料該当）、港町（7 資料該当）と各資料との対応を表 2-3 に示した。

その結果、｛集約型｝の類型Ⅰ，Ⅱ，Ⅲではほぼ全ての資料が宿場町または城下町の履歴を示すものであり（14/15 資料）、また｛分散型｝の同種の価値グループからなる類型Ⅳでは全ての資料が城下町または商家町の履歴を示すものであった。それに対して｛分散型｝の異種の価値グループからなる類型Ⅴ，Ⅵでは、宿場町及び城下町の履歴を示さない資料が過半を占めた（6/11 資料）。以上から、宿場町または城下町の履歴を示す街では、街の価値が 1 つの側面に特化して階層化される傾向にあり、一方これらの履歴を示さない街では、街の価値が異なる側面から独立して階層化される傾向にあるといえる。これは、宿場町や城下町という江戸時代における政治や交通のシステムと密接に関わる街の形式を履歴として有する場合は、個々の価値対象に対して〔江戸の歴史属性〕が示されるか否かに関わらず、街の履歴自体が江戸を転用する街としての性格を形成する意味を担いうるものと考えられる。そのため、街の価値を、街全体、或いは城、街道、歴史上の人物といった宿場町や城下町に関わりの深い要素に特化して階層化することで、個々の街により差異化された江戸としてのイメージの枠組みが提示されるものと推察できる。それに対して、これらの履歴を有しない場合は、街に残る古い空間の有様や伝統文化といった多様な側面から街の価値が階層化されることで、より具体的な内容を伴った江戸としてのイメージの枠組みが提示されるものと推察できる。

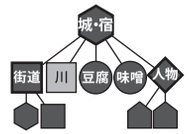
表 2-3 価値グループの集合にみる江戸を転用する街の価値の総体

	資料No.	地域名	価値対象総数	価値グループ総数	価値グループ：全体像型	空間型：線的空間	空間型：点的空間	生活型：活動	生活型：物品	周縁部型	《全体像》の街の履歴：宿場	城下	商家	温泉	港
価値グループなし	2	江差	4	0											○
	22	江尻	3	0							○				
	34	御手洗	3	0											○
価値グループ単数〔集約型〕16	16	下諏訪	20	1	★-宿・温					Ⅰ	○			○	
	23	蒲原	12	1	★′-宿場						○				
	26	岡崎	15	1	★-城・宿						○	○			
	29	亀岡	19	1	★′-城下							○			
	4	大内	7	1		＊-街並				Ⅱ	○				
	9	栃木	21	1		★′-街並					○		○		
	15	奈良井	13	1		★-街並					○				
	18	南木曽	12	1		★′-道					○				
	19	馬籠	11	1		★-道					○				
	24	丸子	6	1				＊-人物		Ⅲ	○				
	3	山形	9	1				★-人物				○			
	6	水戸	19	1				★-人物				○			
	37	卯之町	12	1				★′-人物			○				
	17	上松	28	1					★′-木材		○				
	20	美濃	9	1					★′-工芸				○		
	30	坂越	8	1						★′-海					○

		資料No.	地域名	価値対象総数	価値グループ総数	価値グループ：全体像型	空間型：線的空間	空間型：点的空間	生活型：活動	生活型：物品	周縁部型	《全体像》の街の履歴：宿場	城下	商家	温泉	港
価値グループ複数〔分散型〕22	同種からなる6	36	萩	37	3	★′-城下 ★-海浜 ＊-山間						○	○			
		40	杵築	51	2	★′-城下 ★-山間							○			
		32	今井町	23	2		★′-街並 ★′-街並				Ⅳ			○		
		10	川越	14	3		★′-街並 ＊-横丁	＊-城					○	○		
		1	松前	25	3		★′-街並 ＊-桜林	★-城					○			
		12	大多喜	10	2		★-街並	＊-城					○			
	異種の価値グループからなる16	31	奈良町	27	2	★-花街	★′-街並				Ⅴ			○		
		35	竹原	22	3	＊-温泉 ＊-海浜	★′-街並							○	○	
		7	土浦	30	2	★-山間	★′-道					○	○			
		8	古河	23	2	★-城下		＊-美術館					○			
		13	佐原	12	2		＊-街並		＊-祭礼		Ⅵ			○		
		27	半田	22	3		★-街並		＊-祭礼 ★-人物					○		
		41	美々津	23	3		★-街並		★-祭礼 ＊-祭礼							○
		38	山鹿	20	2		＊-川		★′-祭礼			○				
		14	甲府	31	3		★-道		★-人物 ＊-人物				○		○	
		39	日田	40	4		＊-街並 ★′-川	★′-寺	＊-人物						○	
		28	甲賀	24	3		★′-道		★′-人物	★-陶器		○	○			
		11	木更津	31	3			★-寺 ★-博物館			★′-海					○
		25	浜松	23	2				＊-人物		＊-湖		○		○	
		33	和歌山	38	4	★-港町	＊-道	★-城	＊-人物				○			○
		5	新発田	36	4	＊-温泉		＊-教会	★′-人物 ★′-人物				○		○	
		21	静岡	44	3	＊-温泉	★′-道				★′-山	○	○			○

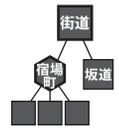
表注）表中の記号は以下に示す。
★′-街並 ― 一次の価値対象の内容
一次の価値対象の歴史属性：■…〔江戸〕含む ■…〔その他〕のみ □…歴史属性なし
階層の形式 ＊…単純階層 ★…複合階層 ★′…階層が四次以上

No.26 岡崎 {集約型} Ⅰ



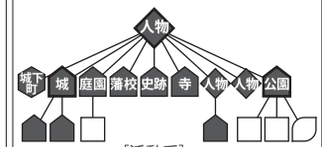
【全体像型】
複合階層

No.19 馬籠 {集約型} Ⅱ



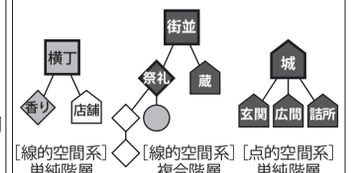
［線的空間系］
複合階層

No.6 水戸 {集約型} Ⅲ



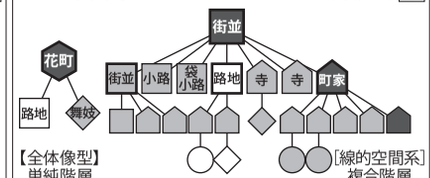
［活動系］
複合階層

No.10 川越 {分散型} Ⅳ



［線的空間系］ ［線的空間系］ ［点的空間系］
単純階層 複合階層 単純階層

No.31 奈良町 {分散型} Ⅴ



【全体像型】 ［線的空間系］
単純階層 複合階層

No.13 佐原 {分散型} Ⅵ

［線的空間系］ ［活動系］
単純階層 単純階層

2.5. 結

本章では、江戸を転用する街の観光パンフレットを資料に、その言語表現に提示される街の価値の意味内容を、街の価値を構成する価値対象とその歴史属性とから捉えた。そして、価値対象同士の意味的な階層関係をモデル化し、それらの資料単位での集合を街の価値の意味内容の総体として捉えた。

まず、価値対象の階層関係のモデルを検討した結果、街の魅力を構成する価値対象の結びつきは空間的な要素を基点とする傾向にあり、さらにそれらは街に点在する名所を拠点として階層化される意味的なネットワークとしてよりも、線状に連続する空間構造に浸透するようなネットワークとして示される傾向にあることを見出した。

次に、価値対象の階層関係のモデルを資料単位で検討した結果、江戸を転用する街の価値の総体は、1 つの価値対象を基点とした階層関係により集約的に示されるものと、複数の価値対象を基点とした階層関係により分散的に示されるものとがみられ、後者では空間的な要素を基点とした階層関係がほぼ全ての資料に共通して示される重要な内容として位置づいているのに対して、前者では街全体の特性や生活的な要素を基点とした階層関係も重要な役割を担うことを明らかにした。

さらに、上記のモデルの資料単位の集合をその内容から整理し、江戸を転用する街の価値の類型として位置づけた上で、それらと街の履歴に関する記述内容との関係を検討した。その結果、宿場町または城下町の履歴を示す街では、街の価値が 1 つの側面に特化して階層化されるもの（類型Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ）に偏る傾向がみられ、一方これらの履歴を示さない街では、街の価値が異なる側面から独立して階層化されるもの（類型Ⅴ, Ⅵ）に偏る傾向がみられた。このことは、江戸を転用する街のイメージ形成の枠組みは、宿場町や城下町という江戸時代特有の街のイメージを基底にそれらを個別化するものと、近世の大都市江戸の都市空間や文化に関するイメージを基底にそれらとの類似性を具体化するものという 2 つの性格を有すると考えられる。

注

注 2-1)　例えば田村明は参考文献 1 において、高度経済成長期を経た 1970 年代のオイルショック以降から 1980 年代にかけての日本人の価値観の転換とともに、全国で「むらおこし」や「まちづくり」などの言葉に代表される行政や住民を主体とした地域振興の取組みが活発になされるようになったと指摘している。

注 2-2)　本論では「小江戸」、「江戸風情漂う」、「黄門さまのふるさと」といった近世都市江戸に関連する呼称を掲げる街を江戸を転用する街と定義した。その根拠として、例えば「小江戸」という呼称は、その意味を明確に定義した文献は少ないものの、大辞泉（参考文献 3）には「古い町並みや武家屋敷など、江戸時代の面影を残す町」とあり、また 1996 年より開催されている「小江戸サミット」（栃木県栃木市、埼玉県川越市、千葉県香取市佐原が毎年合同で開催）の機関誌（参考文献 4）には「江戸との舟運で栄えた歴史、伝統の町並み、山車まつりなどを有する街」とあり、このように「小江戸」という呼称が、辞書では「江戸時代の面影を残す街」として、「小江戸サミット」では「江戸との関連を有する街」として解釈されている。本論では上記のような事実から、江戸という都市に関連する事柄として、近世都市江戸と江戸時代という双方の意味が混在していると考え、これら双方を想起させる呼称を掲げるという言語的な水準から歴史的価値の転用を措定し、資料を選定した。

注 2-3)　ここでは観光パンフレットに提示された街の価値の大枠を把握するために、各ページにおける見出しや説明文のうち、主要な内容として提示されていると捉えられるものを文字のサイズや紙面のレイアウト等から判断し、分析単位として抽出した。

注 2-4)　価値対象は言語表現中に示される名詞のうち、文脈から街の魅力として提示されていると読み取れるものを抽出した。

注 2-5)　歴史属性は必ず価値対象に付随するものとし、複数の価値対象に意味がかかるものはそのつど数を集計した。

注 2-6)　このような定義のもと、本章の資料対象を検討すると、41 の観光パンフレットから全 282 の分析単位を抽出でき、そこから 837 の価値対象と 663 の 歴史属性を抽出することができた。これらを次節以降の分析対象とする。

注 2-7)　本章では下記のように括弧を使い分けている。

《　》：価値対象のカテゴリー。
〈　〉：価値対象の下位カテゴリー。
〔　〕：歴史属性のカテゴリー。
【　】：価値グループの型のカテゴリー。
［　］：価値グループの系のカテゴリー。
｛　｝：価値グループの総数からみた資料のカテゴリー。
（　）：資料番号。

注 2-8)　価値対象の語句そのものに歴史性が含まれる場合とは、例えば「徳川家康」や「東海道」などのような特定の時代との関わりをもつ固有名称を伴う場合、「奉行所」や「花魁」などある時代特有の職業に関わる事物が示される場合などが挙げられる。また特定の時代との関わりはみられないものの、「蔵」や「卯建」のような伝統的な建物や建物部位、「寺」「参道」「座禅体験」「御輿」のような仏教や神道といった日本古来から伝わる文化に関連した事物などについても歴史性が含まれるものとしてその内容を検討した。

注 2-9)　〔その他の歴史属性〕のうち漠然とした古さを示すものについては、1 つの価値対象に対して単独で示される場合に限り数を集計している。

注 2-10)　全 282 中 265 の分析単位において複数の価値対象がみられ、その結果全ての資料で複数の価値対象がみられた（最小 3、最大 51）。

注 2-11)　価値グループの抽出にあたり図 2-4 で示した階層関係の水準が重複してみられる場合は、複数の分析単位から判断できる階層関係を優先した。

注 2-12)　表 2-3 において、資料単位での価値グループの集合を検討した結果、該当する資料数と価値グループの集合との対応は、以下の通りであった。

資料数	1	2	3	4	5	6	7
価値グループの集合の数	4	2	0	3	1	1	1

これより、資料数 3 となる価値グループの集合（該当数 : 0）と、資料数 4 となる価値グループの集合（該当数 : 3）との間に資料分布の偏りが認められることから、4 以上の資料の集中がみられたものを類型としている。その結果、類型Ⅰ～Ⅵには価値グループのみられた 38 資料のうち 30 資料が含まれた。

参考文献

2-1) 田村明：まちづくりの実践 , pp.31-37, 岩波書店 , 1999

2-2) 松崎憲三編：小京都と小江戸 ―「うつし」文化の研究 , 岩田書院 , 2010

2-3) 荒山正彦：小京都から小江戸へ ―都市にそそがれるまなざし , 地理 45-3, pp.66-71, 古今書院 , 2000.3

2-4) 小江戸サミット推進委員会：小江戸サミット 10 周年記念誌 伝承から共創へ くらまち小江戸ねっと , ぷらんず社 , 2006

2-5) 武光誠 , 大石学 , 小林英夫監修：江戸時代の交通と旅 , 地図・年表・図解でみる日本の歴史（下）, pp.28-29, 小学館 , 2012

第３章　京都を転用する街の価値の意味内容

３．１．本章の目的と概要
３．２．価値対象と歴史属性にみる街の価値の意味内容
３．３．価値グループにみる街の価値の階層的性格
３．４．価値グループの集合にみる京都を転用する街の価値の総体
３．５．小結

３．１．本章の目的と概要

本章の目的

場所のイメージに関する人々の思考の形式のひとつに、他の場所からの価値の転用がある。このような思考は、特にわが国においては「あやかり」や「見たて」といった概念に代表されるように、特定の場所に意味が付与される型のひとつとして位置づいているといえ、そこには他の場所からの類推と変容という輻輳化したイメージ形成のメカニズムを見出すことができる。

このような観点から、前章では江戸を転用する街に着目し、それらの街のイメージ形成の枠組みを検討した。つづく本章では、京都を転用する街[注3-1)]に着目する。京都を転用する街は、古都京都の名を「小京都」といった呼称として転用することで街の歴史的価値の向上が試みられており、江戸を転用する街との共通性を指摘できる。京都、江戸それぞれの街では、京都や江戸に関連する歴史性と、京都や江戸とは直接関連のない街固有の歴史性とが魅力として提示されることで、転用元の都市が有する歴史的価値からは変容した独自のイメージを形成していると考えられる。しかしながら、江戸は履歴としては現在の東京に接続しているが、都市の呼称としては特定の時代に限定されるのに対して、京都は平安時代から現代にわたる長大な履歴を有する都市であり、現在でも世界的な歴史都市としてその呼称が広く流布されていることから、江戸を転用する街とは異なる歴史的価値の転用のメカニズムを見出すことができると考えられる。

京都を掲げる街の自治体や観光協会が発行する観光パンフレットには、街の魅力が言語、写真、地図などによって提示されており、街が主体的に発信するイメージ形成の枠組みを読み取ることができる。そこで本章では、京都を転用する街の観光パンフレットを資料に、その言語表現から街の価値として提示された要素とその歴史性に関する記述を抽出し、それら要素間の関連性を検討することで、古都京都からの歴史的価値の転用における街の価値の意味内容を明らかにすることを目的とする。

本章の概要

資料とした京都を転用する街の観光パンフレットでは、街の沿革、見所、名物などが言語表現によって示されており、これらの内容を街の魅力として示される価値と捉えた。言語表現は図 3-1 のように、あるテーマについて紹介する見出しと説明文から構成され、それらをひとまとまりの分析単位として抽出できる[注 3-2)][注 3-3)]。本章では歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みを明らかにするため、これらの分析単位のうち街の歴史性に関する内容を含むものに限定した[注 3-4)]。

以上の方法で抽出した言語表現について、まず 2 節ではそこで提示される街の価値の意味内容を検討する。例えば図 3-2 の分析単位 No.7-A からは、「「北陸の小京都」と呼ばれる」風情をもつ「越前大野城」、そのふもとに広がる「碁盤目状の町割り」、その街に住む「地元の人たち」が、No.13-B からは、「明治期に足立順道が宇治より茶種を導入したことに始まる」という歴史をもつ名物の「抹茶」が街の価値として提示されていると読み取れる。これらのうち「越前大野城」、「碁盤目状の町割り」、「地元の人たち」、「抹茶」などを価値対象として抽出し[注 3-5)]、さらに価値対象を形容する表現の中でも「「北陸の小京都」と呼ばれる」や「明治期に足立順道が宇治より茶種を導入したことに始まる」のように歴史性を示すものを歴史属性として抽出し[注 3-6)]、それらの内容を検討、整理する[注 3-7)]。続く 3 節では、価値対象同士の階層関係に注目することの重要性を指摘し、それを検討することで、言語表現に提示される街の価値の階層的性格を捉える。そして 4 節では、価値対象同士の階層関係を資料単位で比較し、京都を転用する街の価値の内容の総体を考察する。

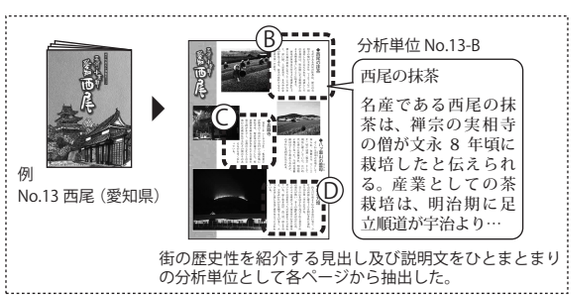


図 3-1 分析単位の抽出例

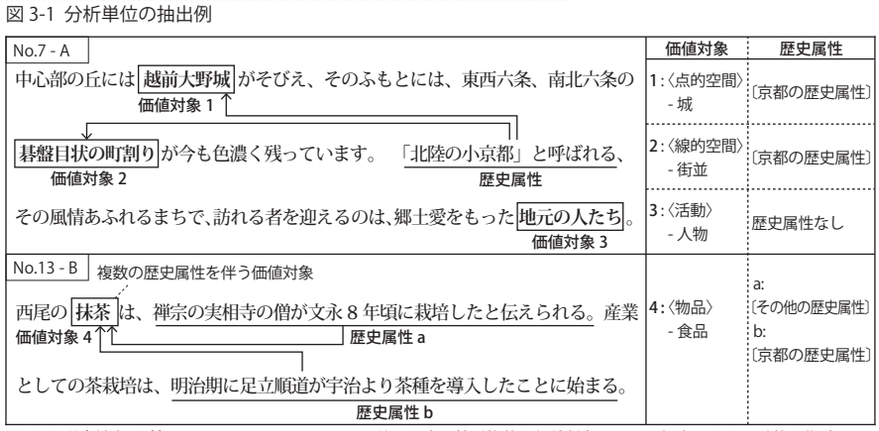


図 3-2 分析例 (2 節)　　注) 歴史属性が複数の価値対象にかかる場合はそのつど数を集計した。

資料リスト

資料No.	地域名	都道府県	観光パンフレット名称	制作主体	発行年	分析対象頁数 / 総頁数	分析単位総数
1	盛岡	岩手県	盛岡&いわて観光ガイド 盛岡いいとこドリ	観	2014	2 / 2	5
2	岩出山	宮城県	伝統と未来を旅するまち 伊達な小京都 岩出山観光ガイドマップ	自	記載なし	6 / 6	7
3	村田	宮城県	村田浪漫 村田町観光案内絵図	自	2014	3 / 3	6
4	角館	秋田県	角館観光プレス 角館まるごと観光ガイド 2014年夏号	連名	2014	9 / 9	7
5	加茂	新潟県	北越の小京都 雪椿のまち 加茂	自	記載なし	3 / 4	5
6	城端	富山県	越中の小京都 自然と人が共生する癒される街 城端で休もう	観	記載なし	5 / 6	7
7	大野	福井県	結の故郷 越前おおの 人を結び、時を結び、地域を結ぶ	連名	2014	5 / 10	8
8	古河	茨城県	古河市観光ガイドブック 歴史浪漫の街古河	自	2013	21 / 23	15
9	栃木	栃木県	栃木市観光ガイド ぶらりのんびり栃木へようこそ	連名	2014	8 / 10	5
10	小川	埼玉県	和紙のふるさと おがわまち ロードマップ＆タウンガイド	自	2010	4 / 4	9
11	飯山	長野県	日本のふるさと 信州いいやま 飯山市公式観光ガイドブック	観	記載なし	10 / 24	8
12	森町	静岡県	遠州の小京都 森町 森町観光案内	自	記載なし	5 / 6	4
13	西尾	愛知県	城下町歴史小径散策マップ 三河の小京都 愛知西尾	観	2012	4 / 4	5
14	伊賀上野	三重県	伊賀観光パンフレット 魅力発見感動旅路 奥義の書	自	記載なし	13 / 17	7
15	出石	兵庫県	出石観光便覧 出石行楽絵図	観	2013	12 / 13	8
16	龍野	兵庫県	播磨の小京都 龍野	自	2012	4 / 4	2
17	津和野	島根県	山陰の小京都 津和野	連名	記載なし	2 / 2	3
18	高梁	岡山県	高梁市ガイドマップ	自	2013	2 / 5	4
19	津山	岡山県	美作の国 歴史と文化の城下町 津山	観	2013	5 / 7	7
20	竹原	広島県	竹原市観光ガイドマップ 歴史情緒と潮風が薫る町 たけはら	連名	2012	7 / 9	5
21	山口	山口県	ぶらり山口 山口市観光ガイドブック	自	2012	11/ 12	10
22	大洲	愛媛県	城下町 大洲 ～ぶらり町並快遊～	観	記載なし	5 / 5	8
23	中村	高知県	夢のながれ 四万十川 観光ガイドブック	観	記載なし	3 / 8	3
24	秋月	福岡県	筑前秋月 国重要伝統的建造物群保存地区 秋月城下町	観	2014	1 / 1	1
25	小城	佐賀県	小城ing 春夏秋冬観光コース ジャンル別観光コース	自	記載なし	7 / 11	7
26	人吉	熊本県	また来ちゃった 人吉日記	連名	記載なし	10 / 12	8
27	杵築	大分県	時と和が紡ぐ物語 杵築城下町	自	2013	30 / 30	9
28	飫肥	宮崎県	飫肥城下町めぐり	自	記載なし	1 / 1	1
29	知覧	鹿児島県	今、ひらく歴史の息吹 ちらん	自	記載なし	3 / 3	2

制作主体の凡例）　自：自治体の商工観光系部局　観：観光協会　連名：自治体 / 観光協会連名
注）資料の総頁数について、テキストを含まない地図や交通情報のみを示す頁は除いた。

3．2．価値対象と歴史属性にみる街の価値の意味内容

本節では京都を転用する街の観光パンフレットの言語表現に提示される街の価値の意味内容を、価値対象およびその歴史属性から検討する。

3．2．1．価値対象の分類

街の価値を構成する価値対象について、表 3-1 のように分類、整理した。それらは街の特性を示す名称で街全体を示すもの（《全体像》[注 3-8)]）、および街の周辺の自然要素（《周縁部》）もみられたが、多くは街を構成する要素として示されるものであり、これらは街の空間を構成する要素（《空間》）と街の生活を構成する要素（《生活》）に大別できた。さらに《空間》は街並や道など線的な要素で構成された連なりのある空間として捉えられる要素（〈線的空間〉[注 3-8)]）と、建物や史跡などの単独の完結した空間として捉えられる要素（〈点的空間〉）に分類でき、《生活》は祭りなどの人々のアクティビティを示すもの（〈活動〉）と、特産品などの実体的な要素（〈物品〉）に分類できた。

次頁ではそれぞれの内容を概説し、具体例を示す。

表 3-1 価値対象の分類

街の全体	《全体像》46		街の履歴を含む 38	城下町 25 商家町 5 宿場町 3 温泉町 2 港町 2 寺町 2 荘園 公方領地 守護領 武家町 忍者集落（重複 6）	
			履歴なし 8	山間地区 6 海浜地区 河川流域	
街を構成する要素	街の空間を構成する要素《空間》338	〈線的空間〉85	街並 26	城下町の街並 6 町家・商家の街並 4 格子状の町割 3 家並 など	
			道 25	通り 7 街道 5 小路 4 坂 4 石畳 2 路地 遊歩道 市場	
			川 24	川 22（賀茂（加茂）川 2）水路 割堀	その他 林 10（桜 3）
		〈点的空間〉253	建物 163	城 41（城 7 城址 7 石垣 4 天守 4）住宅 33（武家屋敷 14 町家・商家 6）寺社仏閣 32（寺院 7 神社 5）資料館 16 蔵 8 飲食店 7 体験施設 6 など	
			建物部位 49	漆喰壁 8 門 7 格子 5 瓦屋根 4 茅葺屋根 3 石垣 2 海鼠壁 土塀 黒板塀 煉瓦壁 格子窓 縁台 欄間 障子 いろり 釜戸 など	
			史跡・公園 23	史跡 15（庭園 2 石仏 2）公園 8	その他 樹木 5 岩石 3 池 3 橋 3 など
	街の生活を構成する要素《生活》227	〈活動〉119	祭礼 45	祭礼 25（行列 3 七夕祭 2 火祭 2）舞踊 4 囃子 3 曳山 2 民謡 童謡 鵜飼い 漁法 かるた 苗木市 大衆演劇	
			体験 31	工芸教室 10 渡し船 2 機関車 2 座禅 川下り 観音巡り 鉄道 など	
			歴史上の人物 26	江戸時代の人物 7 戦国時代の人物 5 鵜匠 職人 武者行列 など	
			その他	伝説・神話 4 サービス 4 地名 方言 汽笛 文様	
		〈物品〉108	食品 33	酒 5 菓子 4 茶 4 蕎麦 3 麺 3 米 2 果物 2 郷土料理 湧水 など	
			所蔵・展示品 29	仏像・仏具 4 書画 4 書物 2 武具 2 彫刻 神祭具 棟札 など	
			工芸品 20	和紙 2 曲物 2 絹 2 仏壇工芸 陶芸 鉄器 人形彫刻 建具	
			祭礼用品 14	山車 5 神木 2 傘鉾 山鉾 行燈 竹飾り など	その他 生物 5 温泉 3 帆
街の周辺	《周縁部》35		山 23 海 4 渓谷 2 森林 2 湖 2 湧水地		

《全体像》

《全体像》には街の履歴に関する特性を含むものと含まないものがあり、特に「城下町」が大半を占めたほか、商家町、宿場町、温泉町といった内容がみられた。

政宗が築いた伊達文化と京文化が融合した**城下町**が**岩出山**です。（No.2 岩出山）

越前おおのは、雄大な自然に囲まれ、四〇〇年をこえる**城下町**の歴史をもつまち。中心部の丘には越前大野城がそびえ、そのふもとには、東西六条、南北六条の碁盤目状の町割りが今も色濃く残っています。（No.7 大野）

蔵の街**とちぎ**は、日光例幣使街道の**宿場町**として、また、江戸との舟運で栄え「小京都」「小江戸」とも呼ばれており独特の風情を感じさせる街です。（No.9 栃木）

ひっそりと佇む寺社群、雁木の町並み、風情ゆかしい**寺町**の散策をお楽しみください。（No.11 飯山）

はるか平安時代、京都下鴨神社の**荘園**として栄えた**竹原**。（No.20 竹原）

五百年も前に相良家の殿様が、**人吉温泉**に入浴したと記録も残っている、歴史ある**温泉**。（No.26 人吉）

《空間》〈線的空間〉

〈線的空間〉は「街並」、「道」、「川」などで大別され、その中には格子状の町割や賀茂川といったように、京都の地理的特徴との関連性を示すものもみられた。

京都に鴨川があるように、加茂にも**加茂川**がある。（No.5 加茂）

越前おおのは、雄大な自然に囲まれ、四〇〇年をこえる城下町の歴史をもつまち。中心部の丘には越前大野城がそびえ、そのふもとには、東西六条、南北六条の**碁盤目状の町割り**が今も色濃く残っています。（No.7 大野）

町割に沿って瓦葺き、平入りの民家が連続して建ち並び、**町並み**との調和を図りながら落ち着いた佇まいを呈しています。（No.15 出石）

寺山に沿って南北に走るメインストリートの**本町通り**のほかはどの通りも道幅が狭く、**大小路**や**中ノ小路**など路によって雰囲気もさまざま。（No.20 竹原）

伊予の小京都・大洲。その中心には愛媛県最大の一級河川「**肘川**」が悠々と流れています。（No.22 大洲）

市内には、小京都と呼ぶにふさわしい趣ある一角があります。代表的なものが「**鍛冶屋通り**」です。（No.26 人吉）

《空間》〈点的空間〉

〈点的空間〉は最も多く（全 646 の価値対象中 253）、「建物」、「建物部位」、「史跡・公園」などで大別された。特に「建物」では城や武家屋敷といった城下町の履歴を想起させる内容が多くみられ、「建物部位」では瓦や白壁といった屋根や壁に関する内容が多くみられた。

江戸時代から続く景観が守られている武家屋敷通り（表町、東勝楽丁）は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。重厚な**黒板塀**が続く通り沿いに 6 軒の**武家屋敷**が公開されており、屋敷内や**庭園**の眺めが楽しめる。(No.4 角館)

古河城は平安時代末期あるいは鎌倉時代初期に、下河辺行平が古河の立崎に築いた城館とされています。(No.8 古河)

今も街道脇に残る**町家**や路地裏の**土蔵**はその時代の名残です。(No.12 森)

津和野は、山あいに**白壁**と**赤瓦**の家並みがつづき、西に**山城の跡**がみえる城下町です。(No.17 津和野)

大洲城　**台所櫓**と**高欄櫓**が L 字型に連結している**天守**は、デザインの美しい**千鳥破風**、**唐破風**が多数使われ、小さいながらも五重天守と印象が変わらない。(No.22 大洲)

青井阿蘇神社は、創建大同元年、人吉球磨地方の総鎮守であり最大の神社で、1200 年の時と歴史を越え、五棟社殿群（**本殿**・**廊**・**弊殿**・**拝殿**・**楼門**）が平成 20 年 6 月に国宝に指定されました。(No.26 人吉)

《生活》〈活動〉

〈活動〉は「祭礼」、「体験」、「歴史上の人物」、およびそれにまつわるイベントといった内容に大別された。「祭礼」では京都の大文字焼に類似したかがり火行事などがみられ、そのほかに舞踊や鵜飼といった伝統的な芸能や活動がみられた。

富山県を代表する民謡として知られる**麦屋節**は、五箇山に住みついた平家の落人が都を偲んで唄い踊ったのが始まりと伝えられています。(No.6 城端)

万灯山で 8 月に行われる「**かぎ万燈**」は、京都の大文字焼と同様に旧盆の行事で、夏の風物詩となっている。(No.13 西尾)

四月の**さくら祭**には**武者行列**の歴史絵巻が繰り広げられます。騎馬武者やかわいい少年、少女武者など総勢三百人が城跡や武家屋敷のある古い街並を行列します。(No.16 龍野)

新山口を出発し、湯田温泉、山口、長門峡、そして、山陰の小京都・津和野まで、62.9km を約 2 時間かけて走る**SL「やまぐち」号**。(No.20 山口)

鵜飼いとは、鵜を巧みに操り、鮎などを捕らえる漁法。大洲は日本三大鵜飼いの 1 つに数えられ、清流肘川を舞台に華麗な水上ショーが開催されている。(No.22 大洲)

《生活》〈物品〉

〈物品〉は街の特産の「食品」、寺社や博物館にある「所蔵・展示品」、陶芸品や和紙などの「工芸品」、山車や神木などの「祭礼用品」などに大別された。

岩出山伊達家三代敏親と四代村屋泰が京都冷泉家から夫人を迎えたこともあり、京都からは様々な形で文化が伝わりました。旧有備館や酒まんぢう、竹細工などに今も受け継がれています。(No.2 岩出山)

御清水　名水百選 ふくいのおいしい水　かつては城主の御用水として使われていたことから「殿様清水」とも呼ばれている湧水地。さっぱりした味が特徴で、住民の社交の場ともなっています。(No.7 大野)

小川町は 1300 年の歴史を誇る小川和紙をはじめ、酒造、建具、裏絹などの伝統産業で古くから栄え、「武蔵の小京都」と呼ばれています。(No.10 小川)

古代より信仰深く天日槍を祀る但馬一宮出石神社。(No.15 龍野)

名産である西尾の抹茶は、禅宗の実相寺の僧が文永 8 年 (1271 年）頃に栽培したと伝えられる。産業としての茶栽培は、明治期に足立順道が宇治より茶種を導入したことに始まる。(No.20 山口)

《周縁部》

《周縁部》としては大半が「山」に関する内容であり、そのほかに「海」、「渓谷」、「森林」、「湖」などがみられた。

遠くに岩手山、近くには北上川と中津川。おだやかな「みちのくの小京都」のタウン散策が、今始まる。(No.1 盛岡)

雪国の小京都と呼ばれる城下も、どこまでも懐深い森や高原も、四季の彩りをたたえて、訪れる人を迎えます。(No.11 飯山)

津和野は、 山あいに白壁と赤瓦の家並みがつづき、西に山城の跡がみえる城下町です。…さくら・つつじ・新緑・もみじ、山は四季おりおりに色を変えます。(No.17 津和野)

豊後水道を望む絶景の堅城　杵築城 (No.27 杵築)

武の国・薩摩を歩くと、整然と並ぶ石垣や厳かな腕木門を配した武家屋敷に出会います。…名園の誉れ高い庭は母ヶ岳 を借景にし、町並み全体が箱庭のような趣があり、薩摩の小京都と呼ばれています。(No.29 知覧)

3．2．2．歴史属性の分類

歴史属性は価値対象に付加的な意味を与える表現であり[注3-9)]、その内容には、京都との関連を見出せるもの（〔京都の歴史属性〕[注3-8)]）と、京都との関連は見出せないが何らかの歴史性を読み取れるもの（〔その他の歴史属性〕）の２種がみられた（表3-2）。京都を転用する街において、京都に関連しないその他の歴史属性が提示されているということは、京都の有する意味が京都との関連性を越えて単なる古さを示すものとしても解釈されていると考えられることから、これらの歴史属性についても分析の対象とした。〔京都の歴史属性〕は直接的に京都を転用する街としての性格を形成するものであるのに対して、〔その他の歴史属性〕は街の古さを示すことで間接的に京都を転用する街としての性格を補完するものであるといえる。

これらの歴史属性は、図3-2下段の分析例中の「抹茶」で鎌倉時代の履歴と明治期の京都に関連する履歴の二つが示されるように、1つの価値対象に対し異なる内容が重ねて示される場合もみられた。

次頁ではそれぞれの内容を概説し、具体例を示す。

表3-2 歴史属性の分類

〔京都の歴史属性〕115	〔その他の歴史属性〕386
京都との地理的関連性 11 地形の共通性（盆地，碁盤目の町割） 京都の地名との共通性（町名，川，橋） 領主が京都を模して町づくりをした史実	**具体性あり 231** 具体的な歴史性を示すもの 特定の時代からの来歴 187 江戸 144 戦国 14 昭和 8 近代 4 大正 4 鎌倉 4 明治 室町 奈良 白鳳 近世 中世 古代
京都との文化的関連性 27 京都の文化との名称や特徴の共通性 京都から伝来したという史実	歴史上または物語上の人物との縁故 43 小村寿太郎 西周 森鴎外 横山大観 葛飾北斎 松尾芭蕉 喜多川歌麿 沢庵 維新の志士 藩主 徳川家康 藤堂高虎 織田信長 森蘭丸 武田信玄 伊賀忍者 里見八犬伝 吾妻鏡
京都に関連する人物との縁故 15 公家 平家の落人 渡辺綱 古河公方 雪舟 京都所司代 狩野派絵師 松花堂 小堀遠州 本阿弥光悦 石川丈山 千家十職 かぐや姫	価値対象自体が示す具体的な歴史性 8 （重複6）
価値対象自体が示す京都との関連性 3	**具体性なし 155** 漠然とした古さを示すもの 伝統の 22 文化財登録 12 歴史ある 11 昔の 8 古い 8 今も残る 7 懐かしい 5 価値対象自体が示す歴史性 61
小京都らしさ 83 （重複69）	

注）1つの価値対象に同じ種類の歴史属性が伴う場合は1つの歴史属性として集計した。
〔その他の歴史属性〕の**具体性なし**は、単独で価値対象に示される場合に限り抽出した。

〔京都の歴史属性〕

〔京都の歴史属性〕は、盆地の地形や格子状の町割といった京都の地理的特徴との関連性（「京都との地理的関連性」）、祭礼や工芸品といった街の文化的特徴における京都との関連性（「京都との文化的関連性」）、公家や京都所司代といった京都に所縁のある人物との関連性（「京都に関連する人物との縁故」）などがみられたが、大半は「小京都と呼ぶにふさわしい趣ある一角」（No.26）注3-8）というように、京都との結びつきが明確には示されず、漠然とした「小京都らしさ」が示されるものであった。以下、具体例を示す（下線部が該当する歴史属性、□は対応する価値対象を示す）。

・京都との地理的関連性

京都に鴨川があるように、加茂にも加茂川がある。（No.5 加茂）

明治九年の大火により町屋の大半を焼失しましたが、町割は当時のままで、**道路は碁盤の目状に形状を整え**、城郭・辰鼓楼・家老屋敷のある内町周辺は、当時の面影を色濃く残しています。（No.15 出石）

京都に擬えて造られた町並みは**碁盤目状に広がり**、**祇園、京町、鴨川、東山などの**地名があり「土佐の小京都」とよばれています。（No.23 中村）

・京都との文化的関連性

岩出山伊達家三代敏親と四代村屋泰が京都冷泉家から夫人を迎えたこともあり、**京都からは様々な形で文化が伝わりました**。旧有備館や酒まんぢう、竹細工**などに今も受け継がれています**。（No.2 岩出山）

万灯山で 8 月に行われる「かぎ万燈」は、**京都の大文字焼と同様に**旧盆の行事で、夏の風物詩となっている。（No.13 西尾）

清流肘川河畔で最も優れた景勝地「臥龍淵」に佇む臥龍山荘は、…明治の貿易商河内寅次郎が、自らの想いを地元大工中野寅雄に託し、**京都から千家十職等を招いて築いた**とされる。（No.22 大洲）

・京都に関連する人物との縁故

富山県を代表する民謡として知られる麦屋節は、**五箇山に住みついた平家の落人が都を偲んで唄い踊ったのが始まりと伝えられています**。（No.6 城端）

岩出山伊達家三代敏親と四代村屋泰が京都冷泉家から夫人を迎えたこともあり、京都からは様々な形で文化が伝わりました。旧有備館や酒まんぢう、竹細工などに今も受け継がれています。（No.2 岩出山）

城下の外では**京都所司代を務めた板倉勝重・重宗などの板倉家の菩提寺**として名高い長圓寺がある。（No.13 西尾）

・小京都らしさ

蔵の街とちぎは、日光例幣使街道の宿場町として、また、江戸との舟運で栄え**「小京都」「小江戸」とも呼ばれており**独特の風情を感じさせる街です。（No.9 栃木）

町割に沿って瓦葺き、平入りの民家が連続して建ち並び、町並みとの調和を図りながら落ち着いた佇まいを呈しています。**これが「但馬の小京都」と呼ばれる由縁です**。（No.15 出石）

市内には、**小京都と呼ぶにふさわしい**趣ある一角があります。代表的なものが「鍛冶屋通り」です。（No.26 人吉）

〔その他の歴史属性〕

〔その他の歴史属性〕においても、〔京都の歴史属性〕と同様に具体的な歴史性を示すものと漠然とした古さのみを示すものがみられた[注3-10)]。前者では古代から近代まで幅広い時代に関連する来歴や歴史上の人物との縁故がみられ、なかでも江戸時代に関する内容が最も多くみられた。以下、具体例を示す（下線部が該当する歴史属性、□は対応する価値対象を示す）。

・具体的な歴史性を示すもの

旧有備館及び庭園　**江戸時代、岩出山伊達家３代敏親が家臣の子弟教育のために開設した**学問所です。（No.2 岩出山）

約 300 年の歴史を誇る城端曳山祭は、城端神明宮祭の曳山行事として、重要無形民俗文化財に指定されています。（No.6 城端）

千年をはるかに超す時をへて守り育てられて来た小川和紙は、温もりとやさしさが伝わり使う人の心を引きつけます。（No.10 小川）

江戸時代前期に活躍し、"俳聖"と呼ばれた松尾芭蕉の生誕地・伊賀。…市内各所にはその証として七十数ヶ所の句碑が建てられ、生家のほかにも**書斎として使っていた**釣月軒など、**芭蕉の足跡を色濃く感じ取る**スポットがたくさん残されています。（No.14 伊賀上野）

旧津山扇形機関車庫　鉄道発展のシンボルが今も変わらず残る　**鉄道近代化遺産**ここにあり（No.19 津山）

山口県の中心部に位置する湯田温泉。豊富な湯量を誇る温泉郷として知られ、古くから親しまれてきました。…また、**幕末に活躍した維新志士も立ち寄り**、**詩人・中原中也を輩出した**ことから、関連史跡も数多く点在しています。（No.21 山口）

平成 21 年 4 月に復活運行し始めたSL58654 号機。**大正 11 年に常陸製作所にて製造され、昭和 50 年に廃車になりましたが、全国で SL が廃車となっていくなか、最後まで走り続けたのがこの列車でした**。（No.26 人吉）

・漠然とした古さを示すもの

かやぶき屋根の民話伝承館と夫婦水車のある景色は、まるで**昔話の里山にタイムスリップしたかのよう**。（No.3 村田）

祈りの風土と、地道な手技が育んだ仏壇工芸。雪にさらして輝く白さを生み出す内山紙の技。雪国の人々の静かな情熱が息づく**伝統文化です**。（No.11 飯山）

懐かしい景色に**タイムスリップ**！小城市の**レトロ**建築を巡る（No.25 小城）

3．2．3．価値対象と歴史属性の関係

ここまでに価値対象と歴史属性の対応を検討した（図 3-3）。まず価値対象が歴史属性を伴うか否かの割合をみると（図 3-3 左側）、全 646 の価値対象のうち 453 が歴史属性を伴うものであり、特に《全体像》〈点的空間〉は歴史属性を伴う割合が高いことがわかる。次に価値対象の分類毎の歴史属性の内容の内訳をみると（図 3-3 右側）、《全体像》および〈線的空間〉では〔京都の歴史属性〕を含むものが過半を占めたのに対し、〈点的空間〉〈活動〉〈物品〉では 2 割以下と著しく少なかった。これより京都を転用する街では、街に点在する空間、人々のアクティビティ、特産品といった要素は、その多くが街の古さを補完するものとして提示されることがわかった。

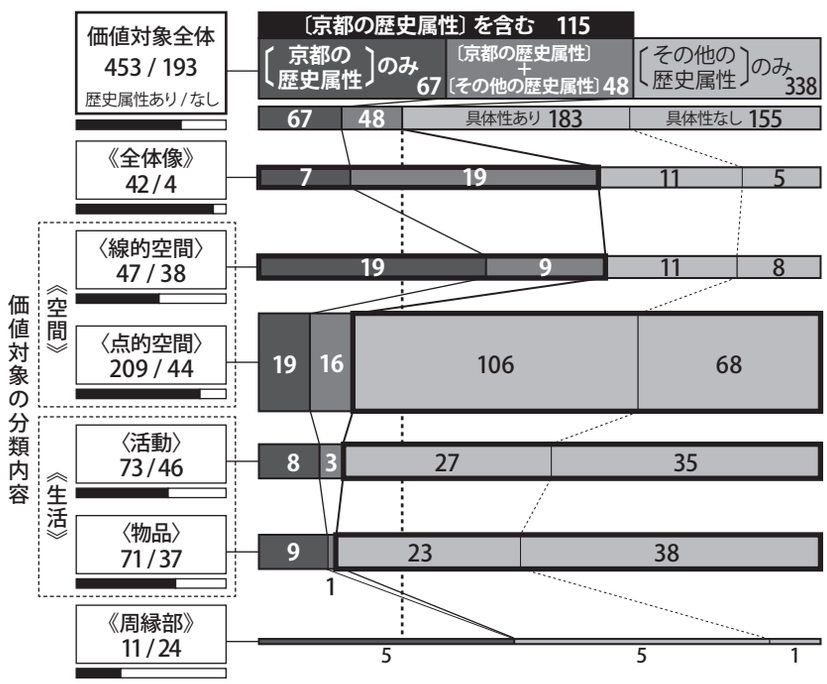


図 3-3 価値対象と歴史属性との関係

3．3．価値グループにみる街の価値の階層的性格

1 節でみたように、資料の観光パンフレットから抽出した言語表現は原則複数の分析単位から構成されており、前節で検討した価値対象は、1 つの分析単位を構成する文章中から複数抽出することができた[注3-11)]。本節ではこれらの言語表現に示される街の価値を総体的に捉えるために、価値対象同士の意味的な関連性について検討する。

3．3．1．言語表現にみられる価値対象同士の階層関係

価値対象同士の意味的な関連性について、ここでは特に価値対象同士の階層的な関係に着目し、以下の 2 つの水準から検討した。

まずひとつは、価値対象の内容それ自体が文脈上階層的な関係を想定できる場合である。例えば、図 3-4 上段の分析単位 No.11-D に示される「寺の町いいやま」およびその内部に存在する「寺社群」「雁木の町並み」では、全体とその部分という関係から階層性を想定することができる。また「歴史上の人物」とそれに縁のある「建物」「祭礼」といった事例では、一方の価値対象に対する由縁という従属的な関係から階層性を想定することができる。

もうひとつは、異なる分析単位に同一の価値対象がみられる場合である。反復して出現する価値対象は、単独で現れるものよりも重要度が高いと判断できるからである。例えば、図 3-4 下段の分析単位 No.22-F および No.22-C では、一方で「大洲」の街全体とその中心を流れる「肘川」が示され、もう一方で「肱川」と観光名所の「臥龍山荘」との位置関係が示され、「肱川」が反復して出現することでその他の価値対象よりも階層的に上位に位置づくと判断できる。

このように、1 つの資料から抽出された複数の価値対象は、上記のような階層関係により構造化されるまとまりの集合として捉えることができる。そこで言語表現にみられる階層関係を整理して価値対象のまとまりを抽出し、これらのまとまりを価値グループと定義した[注3-12)]。以降、本節では個々の価値グループの特徴を検討し、言語表現に示される街の価値の階層的性格を捉える。続く 4 節では価値グループの資料単位での集合を検討し、街の価値の総体を捉える。

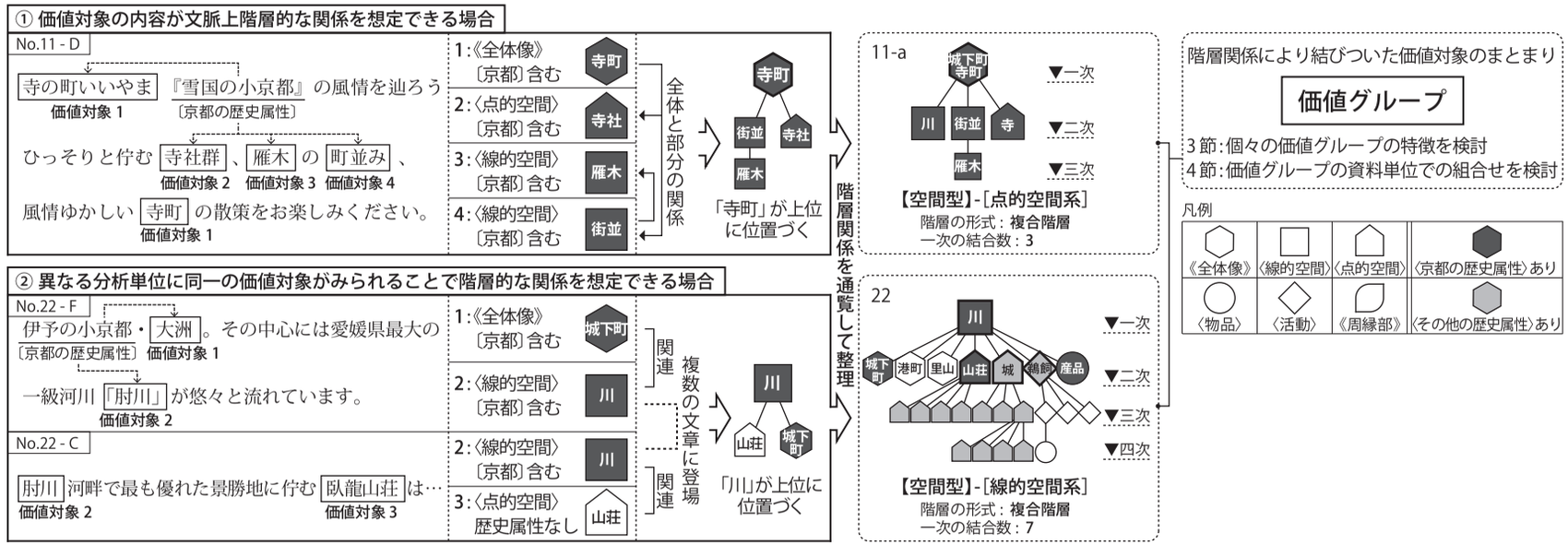


図 3-4 分析例（3節）

注）2つの階層関係が重複してみられる場合は複数の分析単位から見出せる階層関係（下段）を優先した。

文脈から読み取ることのできる価値対象の階層的な関係には以下のような内容がみられた（□内は上位の価値対象、下線部は下位の価値対象を示す）。

・広がりのある空間とそこに所在する事物

庭園は仙台藩茶道頭、石洲流３代清水道竿の作庭で **岩出山城本丸跡の断崖** を借景として **池** 中に **島** を配した回遊式池泉庭園です。(No.2 岩出山)

城端別院善徳寺 …広大な境内には **本堂**、**山門**、**鐘楼**、**勅使門**、**経堂**、**太鼓楼** などがあり、それぞれの随所に見られる各時代の建築様式が歴史の重さを物語っています。(No.6 城端)

寺の町いいやま …ひっそりと佇む **寺社群** 、**雁木** の **町並み** 、風情ゆかしい寺町の散策をお楽しみください。(No.11 飯山)

・中心となる地点とその周辺に位置する事物

津和野城址 …城跡にたつと、正面に **青野山** 、眼下に **赤瓦** の **町並み** が見えます。(No.17 津和野)

・空間とそれを構成する部位、部分

格子 や **塀** など、全てがベンガラ色の古い家が軒を連ねる町の真ん中にたたずむだけで、古き時代へとタイムスリップさせてくれます。(No.18 高梁)

大洲城 **台所櫓** と **高欄櫓** がＬ字型に連結している **天守** は、デザインの美しい **千鳥破風** 、**唐破風** が多数使われ、小さいながらも五重天守と印象が変わらない。(No.22 大洲)

・活動とその具体的な内容

舞 に酔い、勇壮さに沸く角館祭りのやま行事 … **山車** は神の依代（よりしろ）である黒木綿で覆われた「**モッコ**」、そして合戦絵巻や歌舞伎の場面を題材として勇壮な **人形** などで飾り付けられます。山車の中には「**おやまばやし**」を演奏する **囃子方** が乗り込み、山車の運行中、絶えず演奏しつづけます。要所では山車の上に乗った **踊り子** が優雅に舞い踊ります。(No.4 角館)

相良三十三観音めぐり 人吉球磨地方には、一番札所から三十三番札所まで、全三十五の **観音様** があちらこちらに祀られています。…またこの期間中、各札所には巡礼者へ **地域の人たち** による心づくしの **お茶** や **漬け物** などがふるまわれます。(No.26 人吉)

・歴史上の人物とそれに縁のある事物

江戸時代前期に活躍し、" 俳聖 " と呼ばれた松尾芭蕉の生誕地・**伊賀**。…市内各所にはその証として七十数ヶ所の **句碑** が建てられ、**生家** のほかにも書斎として使っていた **釣月軒** など、芭蕉の足跡を色濃く感じ取る **スポット** がたくさん残されています。(No.14 伊賀上野)

・工芸品とその具体的な製品

400 年もの歴史を持つ南部鉄器。重厚な **茶釜** や、代々受け継がれる **鉄瓶** のほか、近年は現在の生活様式に合わせた **製品** も多数。(No.1 盛岡)

3．3．2．価値グループの階層構造の複雑性

ここでは価値グループの階層構造の複雑性を捉える。

まず価値グループの階層について上位から一次、二次、と順に次数を設定し、価値グループにおける意味の連鎖の緊密性の指標として、ここでは階層の形式が三次以上からなるものを意味の連鎖の緊密性が強いものと判断し、二次からなるものを単純階層、三次以上からなるものを複合階層として大別した（図 3-5）。

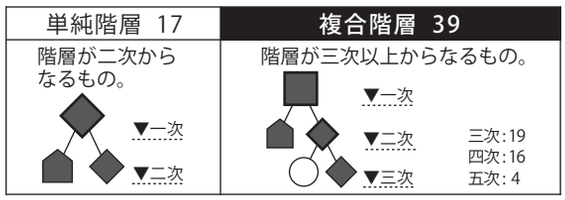


図 3-5 価値グループの階層の形式

次に価値グループに含まれる意味の豊富さを捉えるために、ここでは階層の最上位である一次に位置づく価値対象に対して直接結びつく価値対象の数（以下、一次の結合数）を検討したところ、図 3-6 に示す分布となり、単純階層では一次の結合数が 3 以下に約 8 割が集中したが、一方で結合数が 10 と豊富な意味の結びつきを示すものもみられた。複合階層では 4 が最も多く、単純階層に対して一次の結合数が大きい傾向にあり、階層の形式が複雑化すると一次の結合数も多くなる傾向が読み取れる。

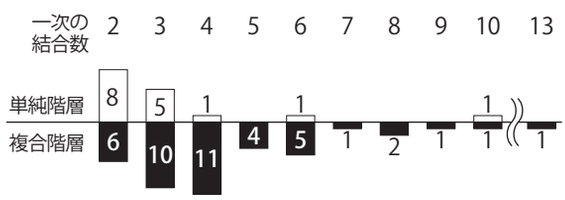


図 3-6 一次の結合数

3．3．3．価値グループにみられる街の価値の階層的性格

ここでは価値グループの意味内容を代表するものとして、階層の最上位に位置づく価値対象（一次の価値対象）の歴史属性と内容を検討する。

まず一次の価値対象と歴史属性の組合せを検討し、図 3-7 に示した。歴史属性を伴うものが大半で、単純階層では〔その他の歴史属性〕を含むものの割合が高く、それに比べて複合階層では〔京都の歴史属性〕を含むものも半数近くを占め、異なる比率がみられた。

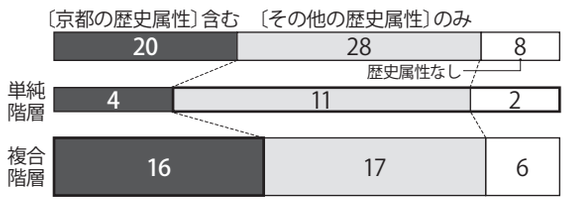


図 3-7 一次の価値対象の歴史属性

次に、価値グループの意味内容を代表するものとして、階層の最上位に位置づく価値対象（一次の価値対象）の内容と歴史属性を検討した。一次の価値対象の分類内容（表 1）から価値グループを【全体像型】注 3-8)、【空間型】、【生活型】、【周縁部型】として位置づけ、さらに【空間型】、【生活型】は、それぞれ［線的空間系］注 3-8) と［点的空間系］、［活動系］と［物品系］に分類した（図 3-8）。また図 3-8 では、階層の形式を縦軸とし、全ての価値グループを位置づけ、一次および二次以下に位置づく価値対象の内容と歴史属性を併せて示した。

これより多くみられたのが【全体像型】および【空間型】で、それぞれ全体の 4 割弱を占めた。【空間型】の内訳をみると、［線的空間系］が約 7 割と多く、表 3-1 で示した価値対象全体の《空間》の内訳では〈点的空間〉が〈線的空間〉の 3 倍近くみられたのに対して、意味的な階層構造の上位に位置づく価値対象ではその比率が逆転することがわかった。また、一次の価値対象に〔京都の歴史属性〕を含むもの（図 3-8 中、一次の価値対象の欄が■）はほぼ全てが【全体像型】または［線的空間系］であった。以上から、京都を転用する街では、価値対象の結びつきは街全体や線状に広がる空間といった街を広範囲に印象づけるようなネットワークとして示される傾向にあり、さらにそれらに街の京都としての歴史的価値が直接的に投影される傾向にあるといえる。

さらに【全体像型】について、階層の形式を検討すると、複合階層ではその約 3 分の 2 が四次以上の階層からなるものであり、他の型の価値グループに比べて高い割合を占めた。また一次の価値対象の内容は半数が「城下町」としての履歴を示すものであり、そのほとんどが〔京都の歴史属性〕を含むものであった。城下町と京都は一見相反する性格と思われるが、城下町には領主が京都を模して整

備した履歴を有するものもあることなどから、城下町としての履歴が京都を間接的に想起させる特性として位置づいていると推察される。

【空間型】については、［線的空間系］は一次の価値対象の内容の 6 割が「街並」で、「道」「川」は少数しかみられず、表 3-1 で示した価値対象全体の〈線的空間〉の内訳では「街並」「道」「川」が同程度であったのに対して異なる傾向がみられた。ここから京都を転用する街では、道や川のように街の空間構造の基軸として示される要素よりも、街並のように建物が建ち並ぶ現象的な有様として示される要素が価値対象のネットワークの基点となる傾向を確認できる。［点的空間系］は、［線的空間系］に比べて二次以下の価値対象に《全体像》〈線的空間〉はほとんどみられず、これより京都を転用する街では、街に点在する空間を基点としたネットワークには広域的なスケールの内容は結びつかず、建物の部位、そこで行われる体験、展示品といったその空間の中で完結する内容に限定される傾向を確認できる。

【生活型】は、価値グループ全体の 2 割弱しかみられず、表 3-1 で示した価値対象全体では《生活》が《全体像》および〈線的空間〉よりも多かったのに対して、異なる割合を示した。これより京都を転用する街では、街の生活を構成する要素は、価値対象の階層関係においては従属的な内容となる傾向にあることがわかった。

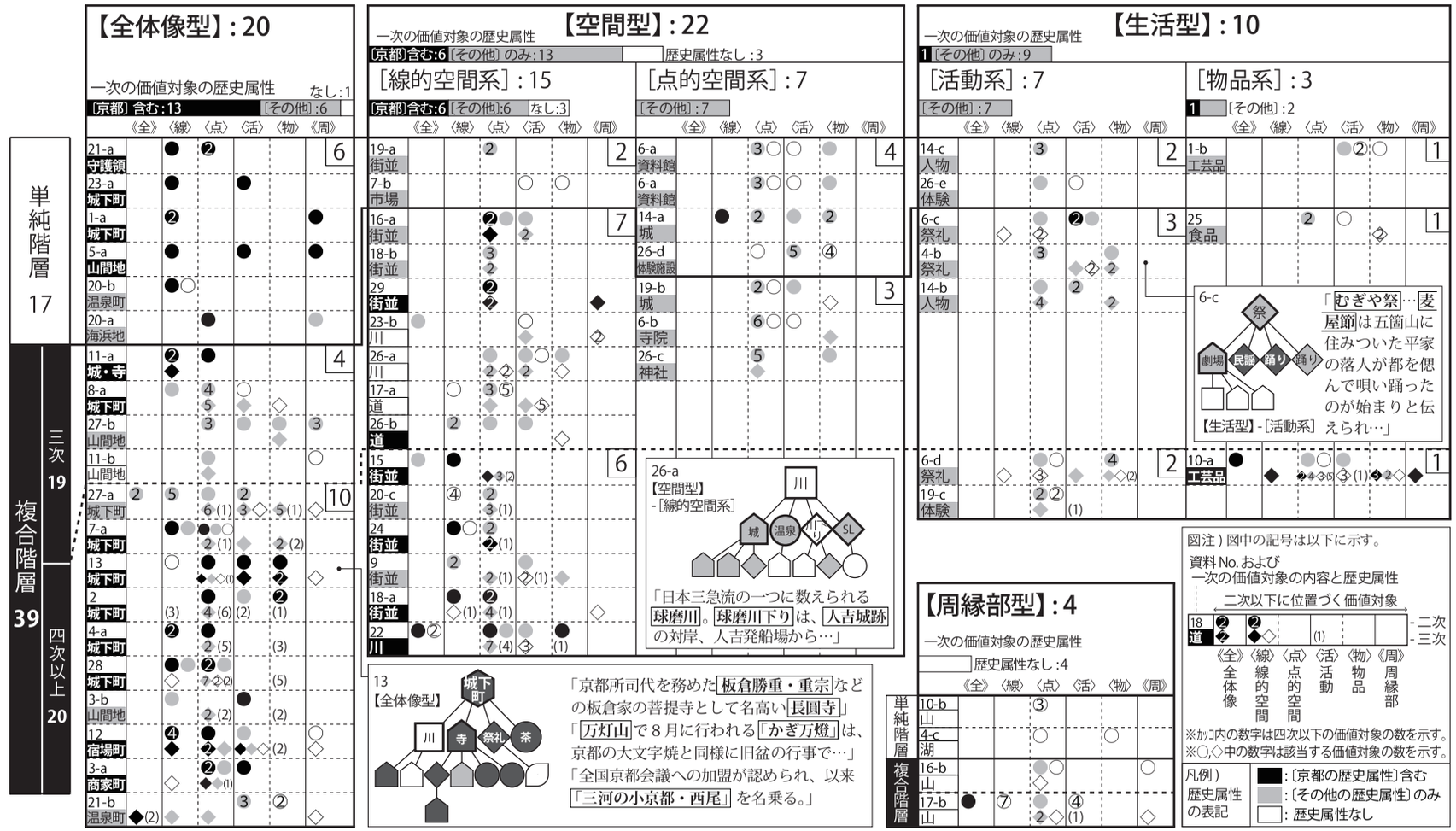


図 3-8 価値グループにみられる京都を転用する街の価値の階層的性格

３．４．価値グループの集合にみる京都を転用する街の価値の総体

前節で指摘したように、資料とした観光パンフレットの言語表現に示される街の価値の総体は、価値グループの集合として捉えられる。そこで本節では価値グループの資料単位での集合を検討する。

各資料の価値グループの集合を、前節で位置づけた階層の形式、一次の価値対象の内容および歴史属性を含めて示したものが表 3-3 である。価値グループの数から、全資料を単数の価値グループからなるもの（｛集約型｝[注 3-8)]）と複数の価値グループからなるもの（｛分散型｝）に大別した。さらに、各資料における価値グループの内容の組合せを【全体像型】【空間型】【生活型】【周縁部型】から整理し、該当する資料数の多い価値グループの集合を、京都を転用する街の価値の類型として位置づけた[注 3-14)]。以下、ア～オの類型を概説する。

類型ア、イは｛集約型｝の類型で、このうち類型アは【全体像型】によるものであり、そこに含まれる価値グループは全て一次の価値対象の歴史属性に〔京都の歴史属性〕を含むもの（表 3-3 中、価値グループの枠内が■）であった。これは例えば、京都の公家と所縁のある城下町の履歴が示された上で、その履歴に由来する建物や工芸品が示される岩出山（No.2, 表 3-3 下に記載）のように、京都に関連する街の特性を基点とした緊密な意味の連鎖によって街の空間的な要素や生活的な要素が包括的に階層化されるものである。

類型イは【空間型】によるもので、そこに含まれる価値グループには［点的空間系］はみられなかった。これは例えば、武家屋敷の街並が詳細に示される知覧（No.29, 表 3-3 下に記載）のように、街の広域的な空間の有様を示すネットワークにより街の価値が階層化されるものである。

類型ウ～オは｛分散型｝の類型で、このうち類型ウは同種の価値グループの組合せ、類型エ、オは異種の価値グループの組合せによるものである。類型ウは【全体像型】の組合せによるもので、一次の価値対象の内容には「城下町」や「山間部」といった特性が多くみられた。これは例えば、飯山（No.11, 表 3-3 下に記載）で「雪国の小京都」と呼ばれる城下町と、霊場としての歴史をもつ山間部が同時に示されるように、街の価値が異なる特性を基点とした階層関係により構成されるものであり、京都の歴史的な特徴と地理的な特徴の双方との関連性が推察される。

類型エは【全体像型】と【空間型】の組合せによるもので、これは例えば、中村（No.23, 表 3-3 下に記載）で京都から下向した公家が整備した履歴を有する城下町と、街を流れる四万十川周辺の歴史的景観が同時に示されるように、街全体

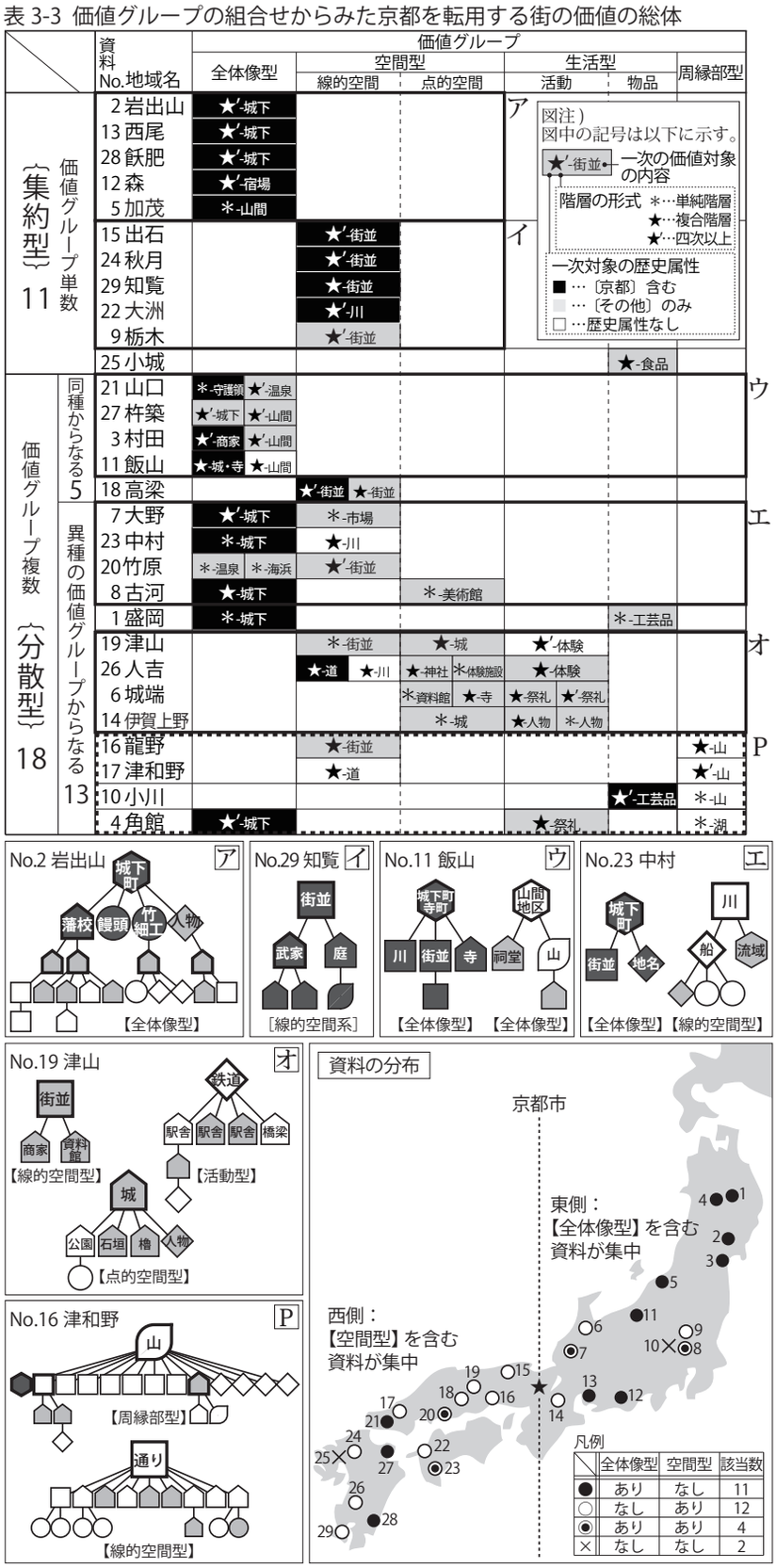
の特性と街の空間的な要素という異なる領域的な観点から街の価値が階層化されるものである。

類型オは【空間型】と【生活型】の組合せによるもので、【空間型】の内訳をみると［点的空間系］が［線的空間系］よりも多くみられ、価値グループ全体の傾向（図 3-8）と異なる比率を示した。これは例えば、津山（No.19, 表 3-3 下に記載）で商家の街並、街に残る城址、近代の古い駅舎が点在する鉄道路線が同時に示されるように、街の空間や生活文化を構成する様々な水準の要素を基点として街の価値が階層化されるものである。

また、以上の類型のいずれにも含まれなかった【周縁部型】を含む資料群（P）は、その他の価値グループとの組合せにおいて資料の集中がみられなかったものの、【周縁部型】の一次の価値対象の内容に「山」が多い傾向がみられ、一次の価値対象の内容に「山間部」が多くみられた類型ウとの共通性を指摘できる。これらの資料は、例えば街の周縁を囲む山を基点として古い山城や情緒ある自然の風景が示される津和野（No.16）のように、山に囲まれた京都の地理的特徴とその歴史的景観が矮小化されたものとしての京都の転用のイメージを示すものと捉えることができ、アからオの類型に準ずるものとして位置づけた。

以上の価値グループの集合について、価値グループ全体の約 8 割を占めた【全体像型】【空間型】の有無と資料の地理的分布との対応をみると（表 3-3 右下）、【全体像型】を含むものは 15 資料中 10 資料が京都市の東側の地域に集中しており、一方【空間型】を含むものは 16 資料中 11 資料が京都市の西側の地域に集中していた。【全体像型】の多くが一次の価値対象に〔京都の歴史属性〕を含むものであったことを鑑みると、わが国の東側と西側の地域における京都のもつ意味の違いを推察することができる[注3-15)]。つまり、東側の地域においては、鎌倉幕府や江戸幕府による武家を中心とした政治体制による歴史的な影響が強いと考えられ、京都との関連や京都に似た雰囲気が稀少価値をもつために、京都あるいは「小京都」という街全体の特性によって街の価値を統合する傾向にあり、一方西側の地域においては、朝廷を中心とした政治体制による歴史的な影響が強いと考えられ、東側の地域に比べて京都との馴染みが深く、空間という街の視覚的な側面を形成する要素に街の価値を統合し、京都としてのより具体的な視覚イメージを形成しようとする傾向にあると考えられる。

表 3-3 価値グループの組合せからみた京都を転用する街の価値の総体



3．5．小結

本章では、京都を転用する街の価値の意味内容について、観光パンフレットの言語表現において提示される街の価値の内容を、街の価値を構成する価値対象とその歴史属性とから捉えた。そして、価値対象同士の意味的な階層関係をモデル化し、それらの資料単位での集合を街の価値の意味内容の総体として捉えた。

まず、価値対象の階層関係のモデルを検討した結果、街の魅力を構成する価値対象の結びつきは、街を広範囲に印象づけるようなネットワークとして提示される傾向にあり、なかでも街全体の特性を基点として価値対象を階層化する場合は、城下町の履歴に対して街の京都としての歴史的価値が直接的に投影される傾向にあることを見出した。

次に、上記のモデルの資料単位の集合をその内容から整理し、京都を転用する街の価値の類型として位置づけた。さらに価値対象の階層関係のモデル全体の約8割を占めた【全体像型】【空間型】の有無と資料の地理的分布との対応を検討した結果、京都より東側に位置する資料は、京都と直接的に関連する街全体の特性によって街の価値が統合される傾向にあるのに対して、京都より西側に位置する資料は、空間という街の視覚的な側面を形成する要素に街の価値が統合される傾向にあることを見出した。

以上より、京都を転用する街のイメージ形成の枠組みは、京都との歴史的な関連性や京都に似た雰囲気を基底として街全体のイメージを展開するものと、歴史的景観を示すことで古都京都を想起させる空間イメージを展開するものの大きく二つの性格を有するものと捉えられ、前者を京都との関連性という前提が先行するもの、後者を具体的な空間の提示により京都の雰囲気を導くものと考えれば、演繹的と帰納的という２つの対比的なイメージの思考の形式が京都の転用において存在するものと考えられる。

注

注 3-1)　京都を転用する街は、その大半が「小京都」という呼称を掲げて広報を行う街であり、そのほかに「西の京」という表現もみられた。「小京都」という呼称の意味については、例えば広辞苑（参考文献 3-1）には、「古い町並みが残り、京都のような趣きをもつ、小都市」とあり、また 1985 年に京都市及び京都との所縁を掲げる全国の街で結成された「全国京都会議」では、その加盟基準として「京都に似た自然景観、町並み、たたずまいがあること」「京都と歴史的な繋がりがあること」「伝統的な産業、芸能があること」の 3 つの項目が提示されている（参考文献 3-2）。本論では京都を転用する街が有する意味の構造を問題とするため、上記の定義に挙げられるような実体的な水準に関わらず、古都京都に関連する呼称を掲げるという言語的な水準から歴史的価値の転用を措定し、資料を選定した。

注 3-2)　第 5 章において資料から得られる街の価値の意味内容について、江戸を転用する街と京都を転用する街とで比較を行うため、本章における京都の観光パンフレットの言語表現の分析方法は第 2 章の分析方法に基づいたものとした。

注 3-3)　ここでは観光パンフレットに提示された街の価値の大枠を把握するために、各ページにおける見出しや説明文のうち、主要な内容として提示されていると捉えられるものを文字のサイズや紙面のレイアウト等から判断し、分析単位として抽出した。

注 3-4)　言語表現には、地名や地形といった京都との地理的な空間特性との関連を示す内容もみられた。本論文では言語により成立する場所のイメージ形成を問題とするため、京都の世界的な歴史都市としての性格を鑑み、京都との関連を示す内容は具体的な履歴の有無を問わず、街の歴史性を示す内容として分析対象に含めた。

注 3-5)　価値対象は言語表現中に示される名詞のうち、文脈から街の魅力として提示されていると読み取れるものを抽出した。

注 3-6)　歴史属性は必ず価値対象に付随するものとし、複数の価値対象に意味がかかるものはそのつど数を集計した。

注 3-7)　このような定義のもと、本研究の資料対象を検討すると、29 の観光パンフレットから全 176 の分析単位を抽出でき、そこから 646 の価値対象と 501 の 歴史属性を抽出することができた。これらを次章以降の分析対象とする。

注 3-8)　本章では下記のように括弧を使い分けている。
《　》：価値対象のカテゴリー。
〈　〉：価値対象の下位カテゴリー。
〔　〕：歴史属性のカテゴリー。
【　】：価値グループの型のカテゴリー。
［　］：価値グループの系のカテゴリー。
｛　｝：価値グループの総数からみた資料のカテゴリー。
（　）：資料番号。

注 3-9)　歴史属性は、価値対象を形容する記述として示される場合と、価値対象の語句そのものに歴史性が含まれる場合がある。後者は、例えば「祇園祭り」や「加茂川」、「伊達政宗」や「奥の細道」などのような京都や特定の時代との関わりをもつ固有名称を伴う場合、「京都所司代」や「武家屋敷」などある時代特有の事物が示される場合などが挙げられる。また特定の時代との関わりはみられないものの、「城」や「海鼠壁」のような伝統的な建物や建物部位、「寺」「街道」「忍者体験」「御輿」のような日本古来から伝わる文化に関連した事物などについても歴史性が含まれるものとしてその内容を検討し、歴史属性として集計した。

注 3-10)　〔その他の歴史属性〕のうち漠然とした古さを示すものについては、単独で価値対象に示される場合に限り数を集計している。

注 3-11)　全 29 資料中 27 資料の言語表現において複数の分析単位が抽出された。全 176 中 153 の分析単位において複数の価値対象がみられ、その結果全ての資料で複数の価値対象がみられた（最小 8、最大 51）。

注 3-12)　価値グループの抽出にあたり図 3-4 で示した階層関係の水準が重複してみられる場合は、複数の分析単位から判断できる階層関係を優先した。

注 3-13)　表 3-3 において、資料単位での価値グループの集合を検討した結果、該当する資料数と価値グループの集合との対応は、以下の通りであった。

資料数	1	2	3	4	5
価値グループの集合の数	5	1	0	3	2

これより、資料数 3 となる価値グループの集合（該当数 : 0）と、資料数 4 となる価値グループの集合（該当数 : 3）との間に資料分布の偏りが認められることから、4 以上の資料の集

中がみられたものを類型としている。その結果、類型ア～オには全 29 資料のうち 22 資料が含まれた。

注 3-15) 歴史学者の網野善彦は参考文献 3-3 において、わが国を東西二つの地域として捉える試論を行い、双方の地域の慣習、民俗文化、履歴の相違を指摘し、特に中世から近世にかけて幕府を中心とした東国と、朝廷を中心とした西国という二つの文化圏が顕在化したと述べている。

参考文献

3-1) 新村出編：" 小京都 ", 広辞苑 , 第六版 , p.1371, 岩波書店 , 2008

3-2) 松崎憲三編：小京都と小江戸 ―「うつし」文化の研究 , p.15, 岩田書院 , 2010

3-3) 網野善彦：東と西の語る日本の歴史 , そしえて , 1982

第４章　歴史的価値を転用する街の価値の階層構造

４．１．本章の目的と概要
４．２．価値グループの階層構造
４．３．価値グループにおける歴史属性の分布
４．４．価値グループの集合にみる街の価値の階層構造
４．５．小結

４．１．本章の目的と概要

本章の目的

第２章および第３章では、江戸を転用する街と京都を転用する街の観光パンフレットの言語表現から、街の価値を構成する要素（価値対象）とその歴史性に関する表現（歴史属性）を抽出し、さらに言語表現の文脈から、複数抽出される価値対象の意味的な階層関係を示すモデル（価値グループ）を作成し、階層の最上位に位置づく価値対象の内容と、それらの集合を検討することで、街の価値の意味内容の総体を考察した。

このように、第２章、第３章では価値グループの意味内容に主眼をおいて検討を行ったが、一方で価値グループには多様な階層構造がみられる。それらは例えば少数の価値対象からなる比較的単純なものや、階層の上位から下位までそれぞれの階層に多くの価値対象を含む複雑なもの、階層の下位に多くの価値対象が集中するものなどがあり、このような階層構造からは、街の価値のネットワークにおける意味の濃淡の形式を捉えることができる。本章では、江戸および京都を転用する街の言語表現から得られた価値グループについて、階層構造とその資料単位での集合を検討することで、歴史的価値を転用する街の価値の階層構造を明らかにすることを目的とする。

本章の概要

図 4-1 左のように、第２章および第３章では、価値対象とその歴史属性を示す記号により価値グループのモデル図を作成したが、本章では価値グループの階層構造に着目するため、図 4-1 右のようにモデル図を簡略化して示す。

まず２節では、個々の価値グループの階層構造について、その細分化の度合いを検討する。価値グループの各階層に位置づく価値対象の数に着目すると、価値対象が多く位置づく階層が上方のもの、下方のものといったように、階層構造の細分化の深度の度合いに違いがみられる。これを、階層の大小関係として検討する。また、上位の価値対象に対する下位の価値対象の結びつき方に着目すると、上位の階層を構成する価値対象のうち一つに集中して下位の価値対象が結びつくものや、上位の階層を構成する全ての価値対象に分散して結びつくものといったように、階層構造の細分化の集中の度合いに違いがみられる。これを、階層における結合の密度として検討する。

次に３節では、価値グループにおける江戸 / 京都に直接関連する歴史属性の分布を検討することで、歴史属性からみた街の価値の階層的性格を考察する。そして４節では以上で検討した階層構造を資料単位で検討し、街の価値の階層構造の総体を捉える。

なお以降、本章では江戸を転用する街および京都を転用する街を、それぞれ『江戸 注 4-1)』『京都』と略記し、資料を区別するために資料番号の前にそれぞれ e、k を付記する。

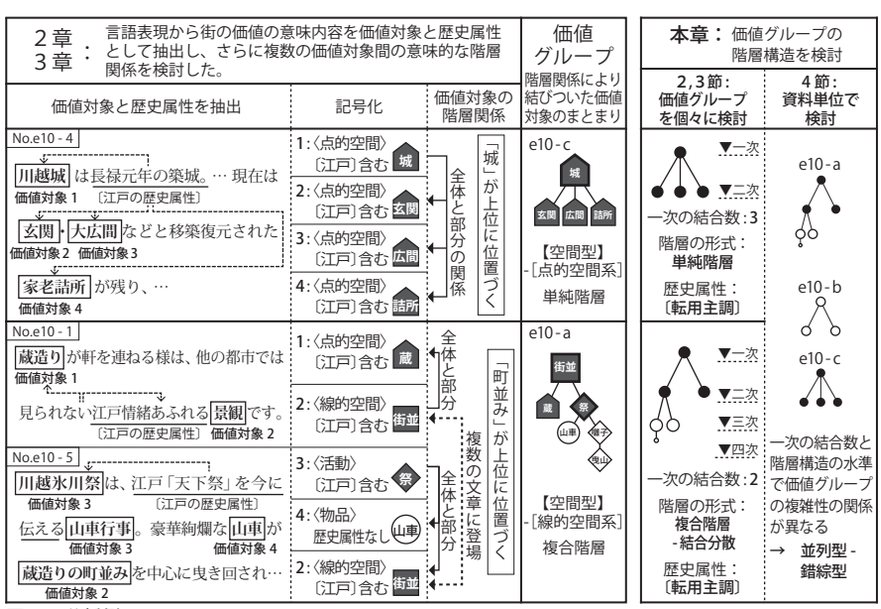


図 4-1 分析例

4．2．価値グループの階層構造

本節では個々の価値グループの階層構造を検討する。

第２章および第３章で、価値グループの階層を上位から一次、二次、と順に次数を設定し、価値グループにおける意味の連鎖の緊密性の指標として、階層が二次からなるものと、三次以上からなるものとを階層の形式として大別し、前者を単純階層、後者を複合階層と位置づけた（図 4-2 左）。

また、ここでは１つの価値対象の下位に直接結びつく価値対象の数を結合数と定義し、価値グループに含まれる意味の豊富さを捉えるために、階層の最上位に位置づく価値対象に対する結合数（一次の結合数）を検討した（図 4-2 右）。その結果、単純階層では結合数３以下に全体の約７割が、複合階層では結合数４以下に全体の約６割が集中した。

以上の検討により、価値グループの一次から二次までの階層構造を位置づけた。以降本節では複合階層の価値グループの階層構造を検討する。複合階層の価値グループについて、階層構造の細分化に着目し、階層の大小関係から細分化の深度を、階層における結合の密度から細分化の集中の度合いを検討する。

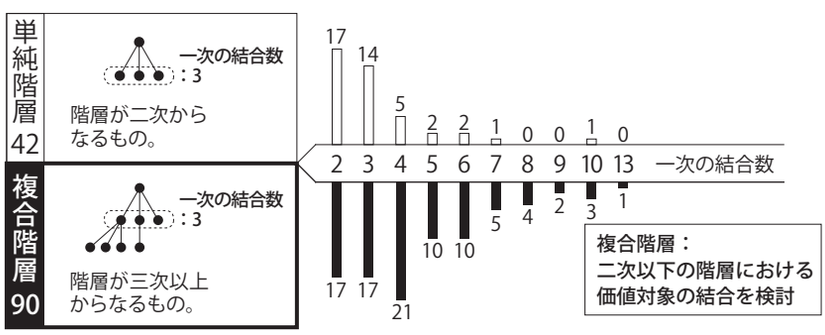


図 4-2 階層の形式と一次の結合数との関係

4．2．1．複合階層における階層の大小関係

まず、複合階層における階層の大小関係として、各階層の結合数を比較する。ここでは結合数 1 となるものは価値対象の意味の結びつきが弱いものと捉え[注 4-2)]、二次の結合数の最大値が 1 となる価値グループは単純階層により近いものと位置づけた（図 4-3 左）。

そして、結合数が 2 以上となる価値グループについて、一次の結合数に対する下位の階層ごとの結合数の合計の大小関係を検討した[注 4-3)]。一次の結合数に対して下位の階層の結合数が大きいものほど、階層の末部において多くの価値対象が結びつくものであり、階層構造の細分化の深度が大きいものと捉えられる（図 4-3 右）。

4．2．2．複合階層における結合の密度

次に、複合階層における結合の密度として、ここでは二次の価値対象に対する結合の密度が階層構造の性格を決定づけるものと位置づけ、二次の価値対象のうち結合数が 2 以上となるものの割合を検討した。数値が小さいものほど結合の集中が強いものとして捉えられる（図 4-4）。

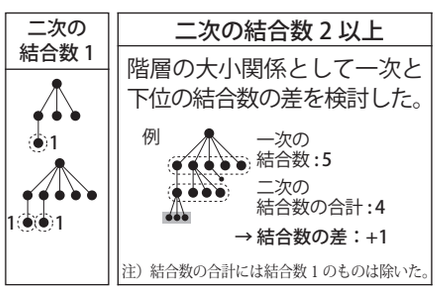


図 4-3 複合階層における階層の大小関係

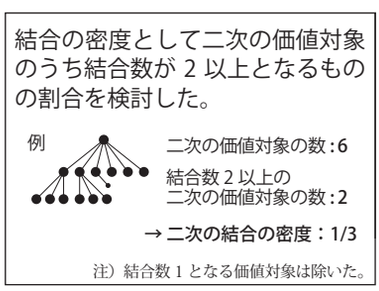


図 4-4 複合階層における結合の密度

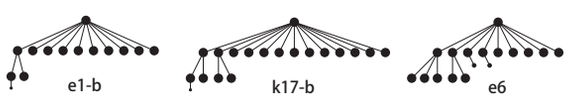
4．2．3．複合階層における結合の形式

ここまでに検討した階層の大小関係を縦軸に、結合の密度を横軸にとり、全ての複合階層の価値グループを位置づけたのが図 4-5 である。図の左上から右下にかけて価値グループが分布することから、結合の密度が集中するものほど階層の下位における細分化が小さく、結合の密度が分散するものほど階層の下位における細分化が大きくなる傾向にあるといえる。

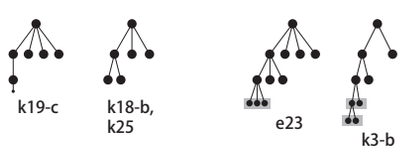
ここで、結合の密度について、値が 1/2 未満となるものは細分化の集中の度合いが大きいもの、値が 1 に近いものは細分化の集中の度合いが小さいものと捉え、さらに階層の大小関係を合わせて検討し、価値グループを大きく 3 つのまとまりとして捉えた。これらを複合階層における結合の形式として、結合の密度の値が 1/2 未満となるものを結合集中、値が 1 に近いものを結合分散として大別し[注 4-4)]、さらに結合集中については階層の大小関係から、階層の下位における価値対象の結合が小さいものと大きいものとで分類し、前者を結合集中・小、後者を結合集中・大とした。以下、これらの結合の形式について概説する。

結合集中・小

結合集中・小は一次の結合数が 5 以上となるものが約半数を占め（17/36）、図 4-2 の複合階層全体と異なる割合を示した。これらは e1-b、k17-b、e6 などのように、階層の上位において細分化が生じるものであり、一次の価値対象が特に意味の強いものとして位置づけられていることを読み取れる。

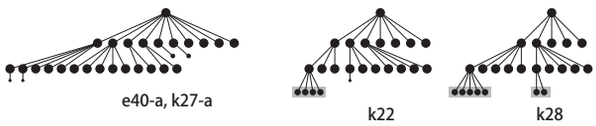


一次の結合数が 4 以下となるものでは、k19-c、k18-b/k25 などのように比較的単純な階層構造をなすものと、e23、k3-b などのように三次以下にも価値対象が結びつくことでより強い細分化の集中がみられるものがあった。

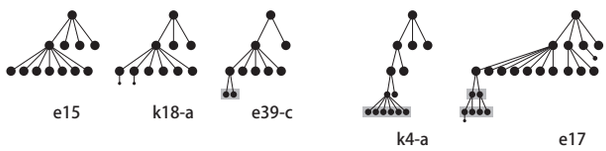


結合集中・大

結合集中・大は結合集中・小と同様に一次の結合数が 5 以上となるものが過半を占めた（6/11）。これらは階層の上位と下位のそれぞれに多くの価値対象が結びつくものであり、細分化が多段階的に生じているものといえる。なかでも e40-a/k27-a [注 4-5)] は各階層における細分化が特に大きいものであり、k22、k28 は細分化の集中が二次だけでなく三次以下の階層でも生じているものである。

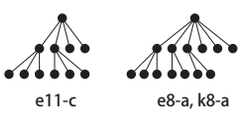


一次の結合数が 4 以下となるものでは、e15、k18-a、e39-c は比較的単純で互いに類似した階層構造をなすものであり、ここでは二次の価値対象が一次の価値対象と同程度の意味の強さをもつものとして位置づけられていると捉えられる。また k4-a のように階層の末端に最も多くの価値対象が結びつき細分化の深度が大きいものや、e17 のように細分化の集中が二次だけでなく三次以下の階層でも生じるものもみられた。

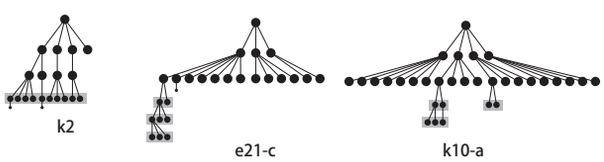


結合分散

結合分散には各階層の結合数が同程度で比較的単純な階層構造となるものと、二次以下の結合数が大きく複雑な階層構造となるものがみられた。前者の例としては e8-a/k8-a、e11-c のように、ピラミッド状に近い比較的整形な階層構造を成すものである。



後者の例としては k2 、e21-c、k10-a などがあり、特に k2 は細分化の深度が大きいもので、これは階層の大小関係の水準では結合集中・大で示した k4-a に近いものといえる。また、e21-c、k10-a は二次に対する価値対象の結びつきが大きく、さらにその下の階層に結合の集中がみられるもので、階層の大小関係の水準では結合集中・大で示した e17 に近い階層構造といえる。



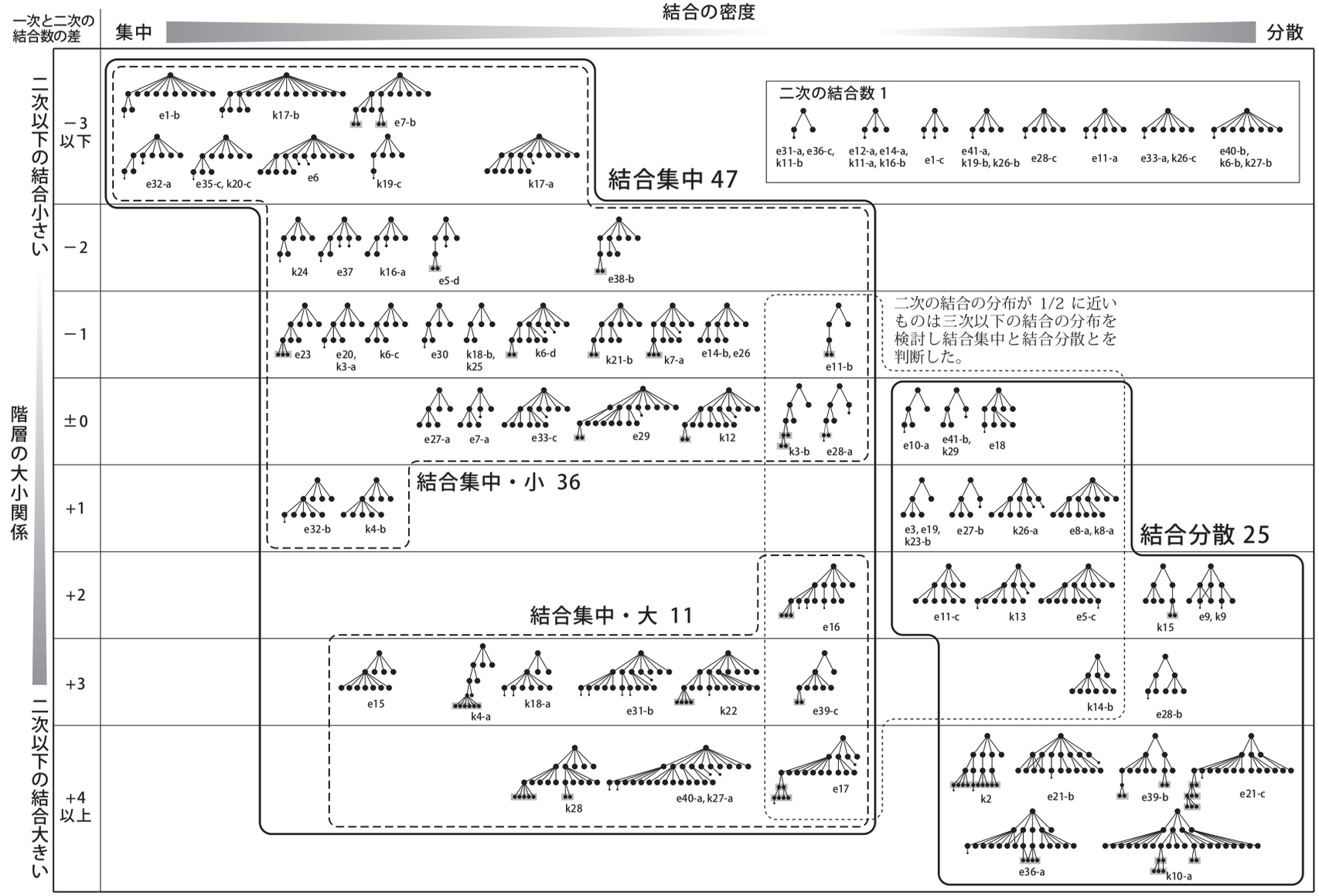


図 4-5 複合階層における結合の形式

注）各階層の結合数の合計には結合数 1 となるものは除いた。

4．3．価値グループにおける歴史属性の分布

本節では価値グループにおける歴史属性の分布を検討することで、歴史属性からみた街の価値の階層的性格を考察する。

第２章および第３章では、歴史属性は図 4-6 上段に示すように、江戸 / 京都に直接関連する歴史性を示すもの（〔江戸の歴史属性[注 4-1)]〕/〔京都の歴史属性〕）と、江戸 / 京都とは直接関連のない歴史性や漠然とした古さを示すもの（〔その他の歴史属性〕）とに大別して捉えた。価値対象と歴史属性の組合せは図 4-6 中段に示すように〔江戸 / 京都の歴史属性〕を含むものと含まないものとがあり、これらの価値グループにおける分布を検討することで、街の価値の階層構造における江戸 / 京都から転用された歴史的価値の位置づけを捉えることができると考える。

そこでまず全ての価値対象を〔江戸の歴史属性〕/〔京都の歴史属性〕を含むか否かで大別し、前者を転用歴史対象、後者を一般歴史対象と位置づけた（図 4-6 下段）。

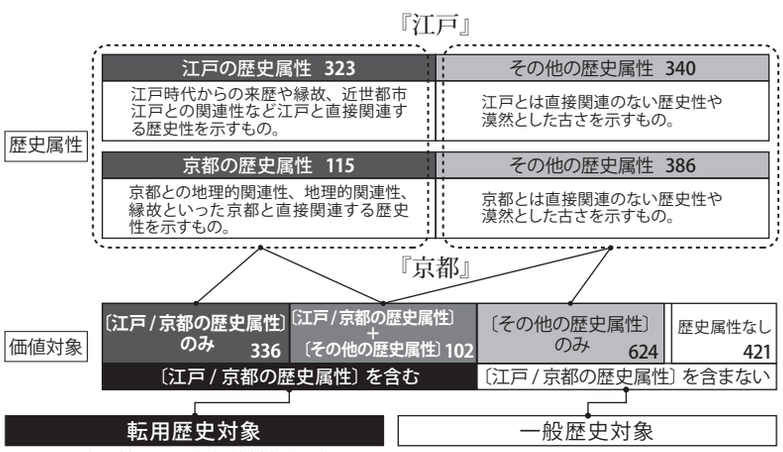


図 4-6 歴史属性からみた価値対象の分類

4．3．1．歴史属性の分布

以上で整理した転用歴史対象と一般歴史対象の価値グループにおける分布を検討した。全ての価値グループについて、一次の価値対象の歴史属性から２つに大別した上で、二次以下の階層における歴史属性の分布を検討し、図 4-7 に示した。

その結果、一次における転用歴史対象と一般歴史対象の割合は同程度であり（64：68）、二次以下をみると、前者では全て転用歴史対象のものが３割程度（17/64）であったのに対して、後者では全て一般歴史対象のものが大半を占めた（50/68）。また二次以下に転用歴史対象と一般歴史対象の双方がみられる場合は、一次の歴史属性によらず、一般歴史対象が二次以下の過半を占める傾向がみられた。これより、江戸 / 京都から転用された歴史的価値は、街の価値を細分化する内容としては示されにくいといえる。

一次に転用歴史対象が位置づくものでは、e27-a のように階層の末端の１つのみが一般歴史対象となるもの（A）、e11-c のように一次と二次が全て転用歴史対象のもの（B）、一次以外の全ての階層に一般歴史対象が位置づくもの（C）などがみられた。ここで価値グループにおける歴史属性の分布として、全て転用歴史対象からなるもの、および A と B を〔転用主調〕とし、その他のものを〔転用 - 一般〕と位置づけた。

一次に一般歴史対象が位置づくものでは、全て一般歴史対象からなるものを〔一般主調〕、二次以下に転用歴史対象を含むものを〔一般 - 転用〕とした[注 4-6]。〔一般 - 転用〕には、k21-b のように階層の末端の１つのみが転用歴史対象となるもの（E）や、k38-b のように一次と二次が全て一般歴史対象となるもの（D）などがみられた。D および E は、歴史属性の分布に関して A および B と反転した関係にあるものと捉えられるが、C の反転である、一次以外の階層が全て転用歴史対象となるものはみられなかった。

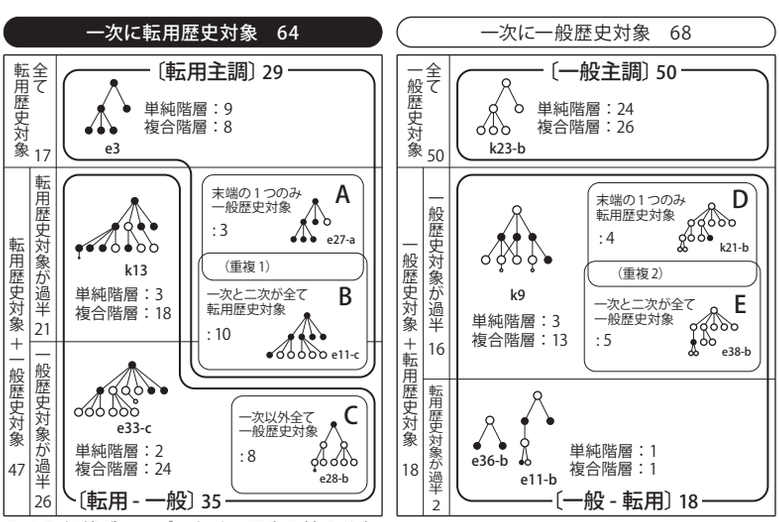


図 4-7 価値グループにおける歴史属性の分布

４．３．２.価値グループにおける歴史属性と階層構造の関係

ここまでに検討した価値グループの歴史属性の分布を横軸に、前節で検討した価値グループの階層の形式と複合階層の結合の形式を縦軸にとり、全ての価値グループを位置づけたのが表 4-1 である。

その結果、単純階層および複合階層の二次の結合数が 1 となるものは、歴史属性の〔一般主調〕が過半を占めた。これより、江戸 / 京都に直接関連しない歴史的価値は、単純な意味のネットワークにより示される傾向にあるといえる。

複合階層の二次の結合数が 2 以上となるものでは歴史属性に大きな偏りはみられなかった。そこでこれらの価値グループについて、『江戸』の価値グループ（表 4-1 中、資料番号に e を付記）と、『京都』の価値グループ（表 4-1 中、資料番号に k を付記）の比率を検討した。その結果、一次に転用歴史対象が位置づくものでは、『江戸』は〔転用主調〕と〔転用 - 一般〕が同程度であったのに対して、『京都』は〔転用主調〕は少数で、大半が〔転用 - 一般〕であった。また一次に一般歴史対象が位置づくものでは、『江戸』は約 6 割が〔一般 - 転用〕であり、それに対して『京都』は約 7 割が〔一般主調〕であった。以上より、『江戸』では江戸から転用された歴史的価値は、街の価値を細分化する内容としても示されるのに対して、『京都』では京都から転用された歴史的価値は、街の価値のネットワークの起点としてのみ示される傾向にあるといえる。

また〔転用 - 一般〕について、複合階層における結合の形式との対応をみると、『江戸』では大半が結合集中であったのに対して、『京都』では結合集中と結合分散が同程度みられた。さらにこれらの価値グループの一次の結合数に着目すると、『江戸』ではそのほとんどが結合数 5 以上となり、一次に対する価値対象の結びつきが大きいのに対して、『京都』では大半が結合数 4 以下であった。これより、江戸 / 京都から転用された歴史的価値を街の価値のネットワークの基点とする場合、『江戸』では e32-a (表 4-1 中に示す）のように、ネットワークにおける価値の細分化が限定的で、特に基点となる価値対象に対して強い意味が投影される傾向にあり、それに対して『京都』では k2(表 4-1 中に示す）のように、ネットワークの価値の細分化が分散して生じ、基点となる価値対象のほかにも強い意味が投影される傾向にあることを指摘でき、街の価値の階層構造における江戸 / 京都から転用された歴史的価値の意味の強さが『江戸』『京都』でそれぞれ異なることを確認した。

表 4-1 価値グループにおける歴史属性と階層構造の関係

		一次に転用歴史対象 64				一次に一般歴史対象 68			
		転用主調 29		転用 - 一般 35		一般 - 転用 18		一般主調 50	
単純階層 42		e10-c 2 e39-a 3 e39-d 3 e25-a 4 e27-c 5 k23-a 2 k1-a 3 k5 3 k21-a 3 9		e1-a 2 e4 2 e13-b 2 e13-a 3 e12-b 7 5		e36-b 2 k20-a 2 k20-b 2 k14-a 6 4		e5-a 2 e10-b 2 e24 2 e33-d 2 e35-a 2 e35-b 2 e5-b 3 e14-c 3 e21-a 3 e38-a 3 e41-c 3 e8-b 4 e33-b 4 e25-b 5 24	k4-c 2 k7-b 2 k19-a 2 k26-e 2 k10-b 3 k14-c 3 k8-b 4 k1-b 4 k6-a 6 k26-d 10
複合階層 90	二次の結合数1 18	e12-a 3 e41-a 4 k11-a 3 3		e31-a 2 e1-c 3 e14-a 3 k26-b 4 4		e28-c 5 1		e36-c 2 e11-a 5 e33-a 6 e40-b 8	k11-b 2 k16-b 3 k19-b 4 k26-c 6 k6-b 8 k27-b 8 10
	二次の結合数が2以上 72 結合集中・小 36	e28-a 2 e5-d 3 e27-a 3 e37 4 e23 4 e26 5 e6 9 7		e32-b 4 e14-b 5 e32-a 6 e33-c 6 e35-c 6 e7-b 7 e29 8 e1-b 10 12	k24 4 k3-a 4 k7-a 5 k12 7	e11-b 2 e30 3 e20 4 e38-b 5 k3-b 2 k16-a 4 k6-c 4 k21-b 5 k17-b 13 9		e7-a 3 k18-b 3 k25 3 k4-b 4 k19-c 4 k6-d 6 k20-c 6 k17-a 9 8	
	結合集中・大 11	k18-a 3 k4-a 3 2		e17 4 e16 5 e31-b 7 e40-a 10 6	k28 5 k22 7	e15 4 1		e39-c 2 k27-a 10 2	
	結合分散 25	e10-a 2 e3 2 e19 2 e18 4 e11-c 4 e36-a 5 e5-c 6 k29 2 8		e28-b 2 e8-a 6 e21-b 7 8	k15 2 k13 4 k2 4 k10-a 4 k8-a 6 8	e39-b 2 e21-c 3 e9 3 3		e41-b 2 e27-b 2 k23-b 2 k14-b 3 k26-a 4 k9 3 6	

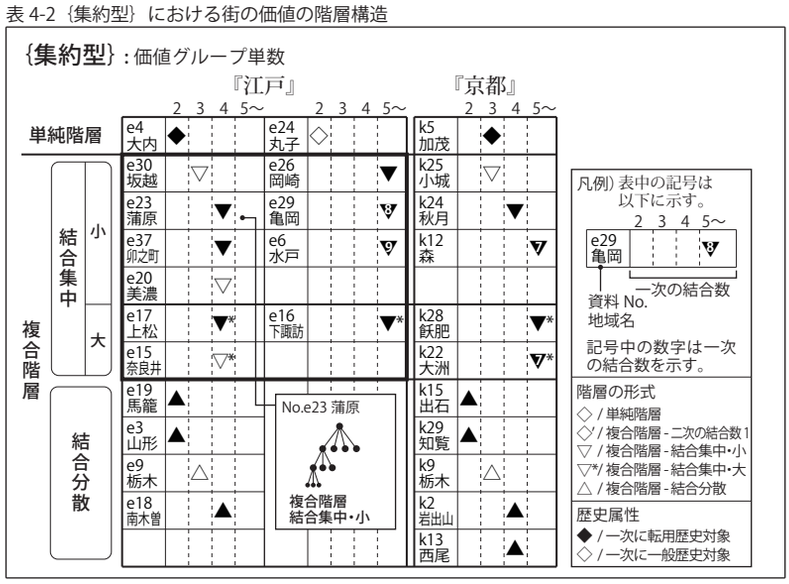
４．４．価値グループの集合にみる街の価値の階層構造

価値グループは、１つの資料に単一となる場合と、複数となる場合がある。そこで本章では価値グループの資料単位での集合を検討し、価値の階層構造の総体を考察する。

価値グループの集合を、単数の価値グループからなるもの（{集約型[注4-1)]}）と複数の価値グループからなるもの（{分散型}）とに大別した。『江戸』全41資料、『京都』全29資料のうち、{集約型} は27資料、{分散型} は40資料であり、また３資料では価値グループがみられなかった。

まず、{集約型} の階層構造を検討する（表4-2）。２節で検討した階層の形式および複合階層の結合の形式を記号化し、一次の結合数と併せて示した。単純階層からなるものは３資料と少なく、それ以外はすべて複合階層からなるものであり、その結合の形式をみると、『江戸』では結合集中が約３分の２を占めたのに対して（10/14資料）、『京都』は結合の形式に偏りはみられなかった。これより、価値を集約的に階層化する場合、『江戸』ではe23（表4-2中に示す）のように、細分化が限定的な階層構造となる傾向にあることがわかった。

表4-2 {集約型} における街の価値の階層構造



次に、{分散型} の階層構造について、個々の価値グループの階層構造の複雑性の度合いを、一次の結合数と階層の形式から比較した（図 4-8）。一次の結合数については数の大きいもの、階層の形式については複合階層の二次の結合数 2 以上となるものを、それぞれ複雑性の強いものと捉え、価値グループ相互の複雑性の強弱の関係を資料単位で検討した。

これより図 4-8 上段の No.e36 萩では、価値グループ e36-a が一次の結合数と階層の形式の双方の水準で、他の 2 つの価値グループよりも複雑な階層構造と捉えられ、これらの価値グループの間に主従的な関係を見出すことができる。一方図 4-8 中段の No.k13 飯山では、2 つの価値グループの間で一次の結合数の差はみられるものの、階層の形式は同等であり、これより双方の階層構造の複雑性は同程度で並列的な関係性をもつものと捉えることができる。このような観点から、{分散型} の階層構造を、価値グループの間に意味の密度の主従的な関係を見出せるもの（主従型）と、並列的な関係を見出せるもの（並列型）とに大別して捉えた[注 4-7)]。さらに、並列型には図 4-8 下段の No.e28 甲賀のように、価値グループの複雑性の強弱関係が、一次の結合数と階層の形式の水準で錯綜するものがみられた。これは複数の価値グループに異なる水準での意味の密度を担保するものであり、錯綜型として特化して捉えた。以上の観点から {分散型} の全資料を分類し、階層構造の内訳をあわせて表 4-3 に示した。

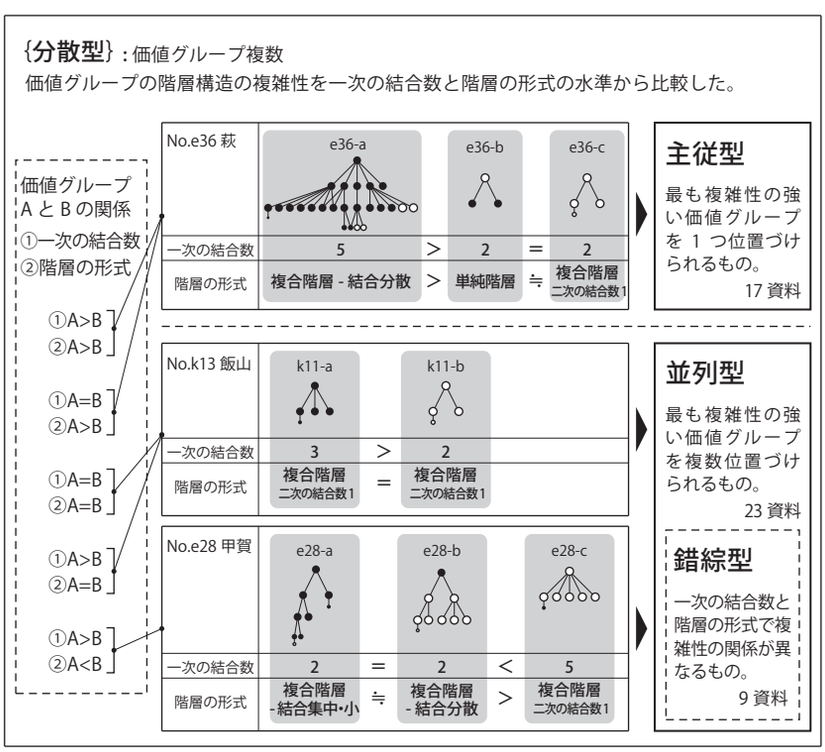


図 4-8 {分散型} における街の価値の階層構造の分類

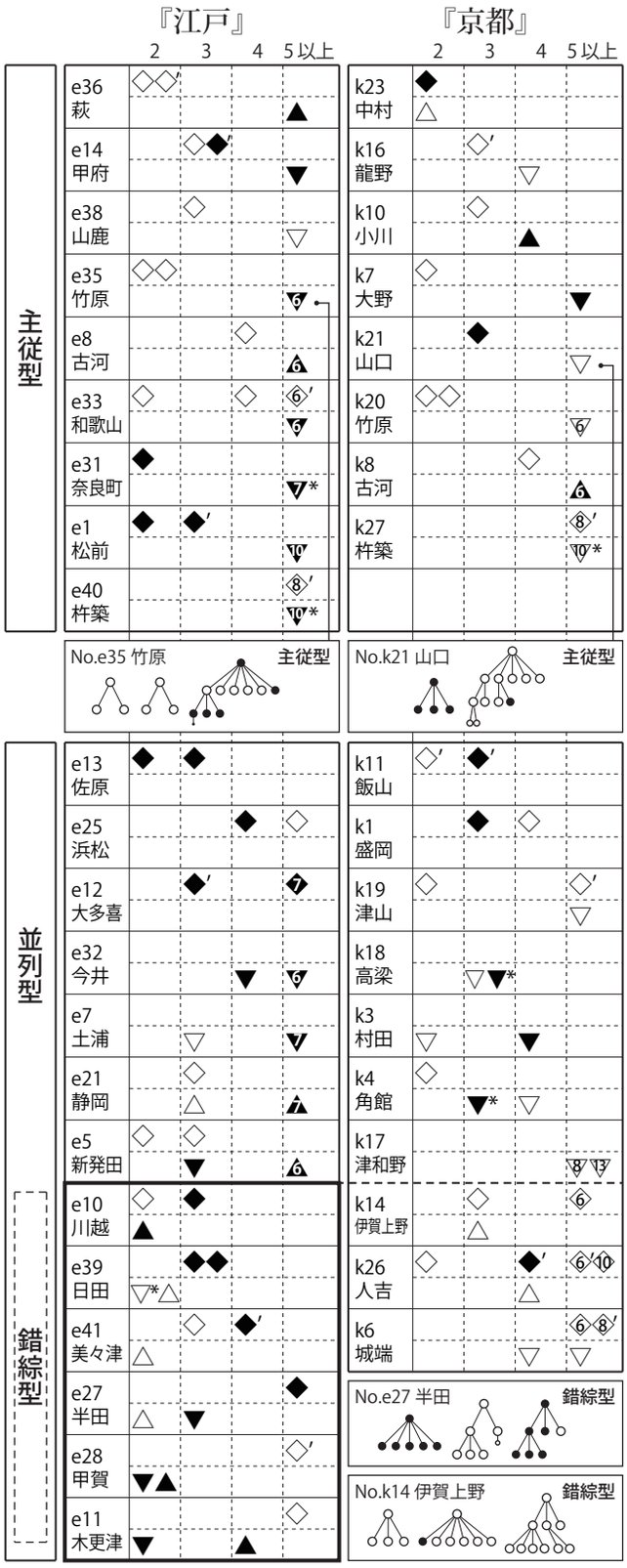
主従型および並列型の資料について、『江戸』と『京都』に分けて検討すると、まず主従型では、『江戸』と『京都』の資料が同程度みられた。価値グループの階層構造と一次の歴史属性に着目すると、『江戸』では No.e35 竹原のように、最も複雑性の強い価値グループ（表 4-3 中、各資料の欄の右下に位置づく価値グループ）の一次に直接価値対象、それ以外の価値グループの一次に間接価値対象が位置づくものが 9 資料中 6 資料を占めたのに対して、『京都』では同様の組合せは 8 資料中 3 資料であり、No.k16 龍野のように一次に一般歴史対象が位置づく価値グループのみで構成されるものが同数みられた。これより、街の価値が主調となるネットワークと付加的なネットワークとして階層化される場合、『江戸』では江戸から転用される歴史的価値を基点としたネットワークが主調として位置づけられるのに対して、『京都』では京都から転用される歴史的価値を基点としたネットワークが必ずしも主調として位置づけられず、江戸および京都から転用される歴史的価値の位置づけに違いがみられることがわかった。

次に並列型では、『江戸』では並列型のうち錯綜型が 6 資料と約半数を占めたのに対して、『京都』では 3 資料しかみられなかった。これより、意味の豊富さと意味の連鎖の緊密性という異なる水準の複雑性を有する意味のネットワークにより街の価値が階層化されるものが『江戸』に特徴的な価値の階層構造であるといえる。また一次の歴史属性に着目すると、『江戸』では一次に直接価値対象が位置づく価値グループを複数含む資料が多く（9/13 資料）、一方『京都』ではそうした資料はみられず、一次に直接価値対象が位置づく価値グループを 1 つ含む、あるいは含まないものであった。これより主従型と同様に、『江戸』と『京都』で江戸および京都から転用される歴史的価値の位置づけが異なることを指摘できる。

さらに、以上の階層構造について、資料の対象地の規模および観光資源との関係を検討した。ここでは対象地の規模の指標として、行政区画の種別[注 4-8)] を、対象地における江戸および京都に関連する観光資源の位置づけに関する指標として、観光パンフレットにおける分析対象とした街の歴史性に関する内容を示す頁の割合を図 4-9 に示した[注 4-9)]。

その結果、｛集約型｝では町や行政区画の中で地名として限定される地区といった比較的小規模の対象地が半数以上をみられ、一方｛分散型｝では市の規模の対象地が約 3 分の 2 を占めた。これは、市の対象地のなかには市町村合併などにより異なる歴史的特徴をもつ地域が複数併存するものがあり、そうした対象地では街の価値が一つの階層性によってまとめられにくいものと考えられる。また観光パンフレットの内容の比率では、｛集約型｝では全ての頁で歴史性に関する内容を示すものが過半を占め、一方｛分散型｝では歴史性を示す頁が 7 割以下と比較的少ないものが約 3 分の 1 を占めた。これより、江戸および京都に関連する資源が街の主要な観光資源として位置づけられる場合は、観光パンフレットにおける意味のネットワークが 1 つの統合されたものとして提示される傾向を見出した。

表 4-3 {分散型} における街の価値の階層構造



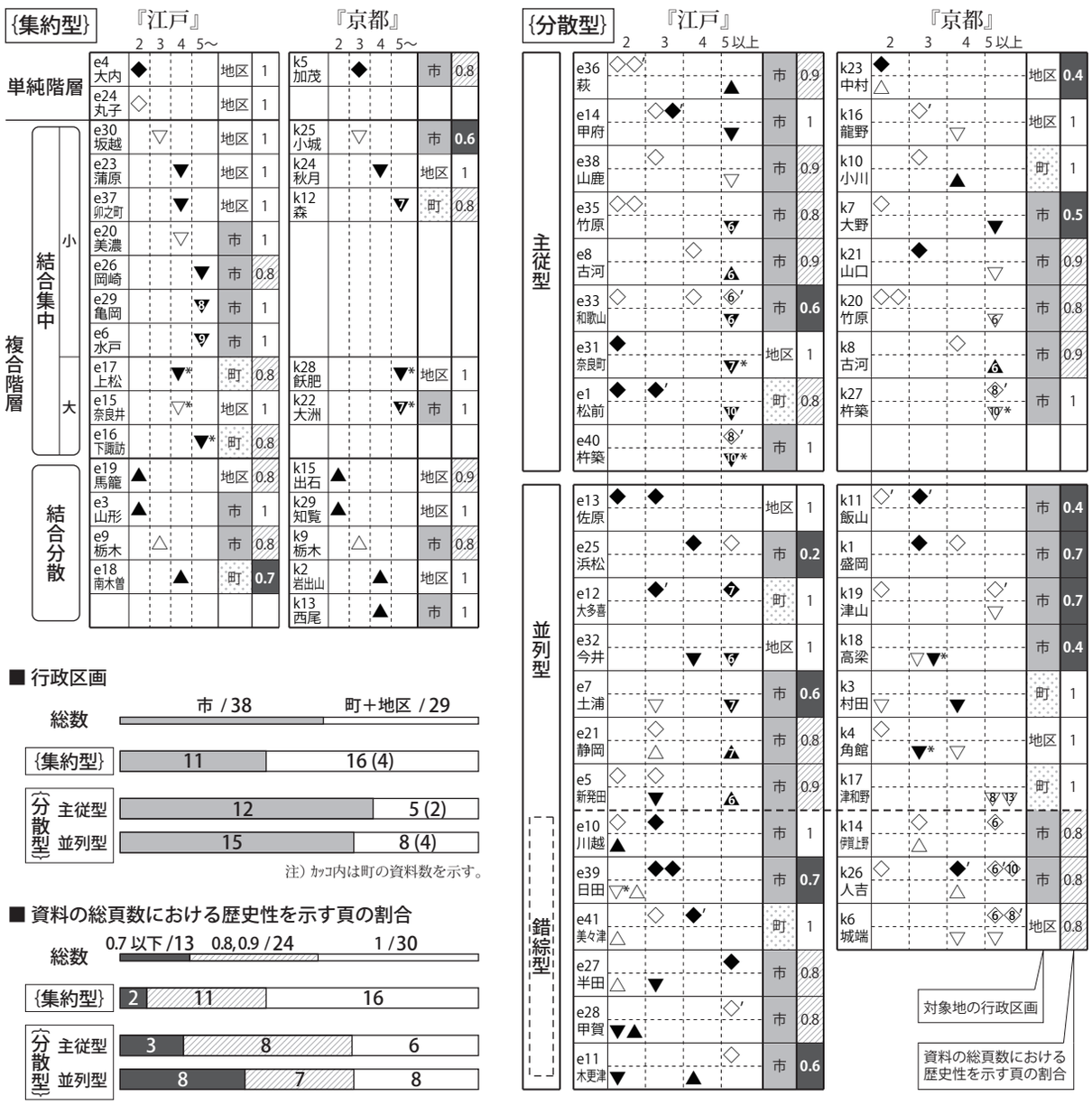


図 4-9　階層構造と街の特性との関係

4.5.小結

以上、本章では歴史的価値を転用する街の価値の階層構造について、第２章および第３章で得られた価値グループを、その階層の次数から単純階層と複合階層に分けた上で、複合階層の価値グループの階層構造を、その細分化に関する深度と集中の度合いから位置づけた。これらの階層構造における歴史属性の分布を検討した結果、江戸や京都から転用された歴史的価値は街の価値を細分化する内容としては示されにくく、特に京都を転用する街においてその傾向が強いことを明らかにした。

さらに、これらの価値グループの階層構造を資料単位で検討した結果、歴史的価値を転用する街の価値の階層構造は、単一の場合と複数の場合の双方がみられ、複数の階層構造ではそれらに主従と並列の２つの関係を見出した。そして、江戸を転用する街では京都を転用する街に比べて、単一の階層構造の場合は意味の細分化が集中する階層構造となる傾向が強いこと、また複数の階層構造の場合は並列的な関係図式を示す階層構造となる傾向が強いことを明らかにした。また以上の価値の階層構造と、資料の対象地の特性との関係を検討した結果、規模の大きな対象地では階層構造が分散化する傾向を、また江戸や京都に関連する資源が街の主要な観光資源として位置づけられる対象地では単一の階層構造となる傾向を見出した。

注

注 4-1)　本章では下記のように括弧を使い分けている。
『　』：資料の名称を略記する際に『江戸』、『京都』と記す。
〔　〕：歴史属性のカテゴリー。
｛　｝：価値グループの総数からみた資料のカテゴリー。
（　）：資料番号。

注 4-2)　二次の結合数が 1 となるものでそれ以下の階層にも価値対象が結びつく場合は、結合数 2 以上となるものと同様の意味の結びつきの強さを有するものと捉え、以降の分析の対象に含めた。

注 4-3)　結合数 2 以上となる複合階層の価値グループのうち、二次以下の各階層の結合数の合計を検討すると、三次以下の結合数の合計が最大となるものは 2 つのみで（三次の結合数が最大：1、四次の結合数が最大：1）、それ以外は全て二次の結合数が最大となるものであった。

注 4-4)　結合の密度について、二次の価値対象のうち結合数 2 以上となるものの数が半数（二次の価値対象の総数が奇数の場合は、その半数を繰り上げた数）となる場合は、三次以下の階層における結合の密度を検討し、結合数 2 以上の価値対象がその階層の 1/2 未満か否かにより前者を結合集中、後者を結合分散とに分類した。

注 4-5)　第 2 章と第 3 章の資料のうち古河（No.e8/k8）、栃木（No.e9/k9）、竹原（No.e35/k20）、杵築（No.e40/k27）は重複するものである。

注 4-6)　ここでは二次以下の階層に分布する転用歴史対象が一般歴史対象よりも少ないことを考慮し、歴史属性の分布を分類した。

注 4-7)　価値グループの複雑性の強弱関係は、階層の形式を優先して主従型と並列型を判断した。また 3 つ以上価値グループを有する資料は、階層の形式の水準で最も複雑性の強い価値グループが 1 つ位置づくものを主従型、複数位置づくものを並列型とした。

注 4-8)　ここでは市町村の行政区画が人口や産業構成の比率などを基準に制定されるものであることから、対象地の規模を示す一つの指標として検討した。対象地には市および町の行政区画のほかに、行政区画の中で地名として限定される地区も含まれ、その内訳を図 4-9 に示した。

注 4-9)　本論では観光パンフレットに示される言語表現のうち、街の歴史性に関する内容を含むものに限定して分析を行っている。これより観光パンフレットの総頁数に占める分析対象の頁数の割合が、街の観光資源における江戸および京都に関連する観光資源の位置づけを示す指標として捉えられることから、図 4-9 の検討に用いた。

第５章　歴史的価値を転用する街の価値の特性

５．１．本章の目的と概要
５．２．街の価値の意味内容の比較
５．３．街の価値の階層的性格の比較
５．４．街の価値の総体の比較
５．５．街の価値の総体と階層構造の関係
５．６．小結

５．１．本章の目的と概要

本章の目的

本章では、第２章から第４章にかけて検討した街の価値の意味内容と階層構造について相互に比較を行い、江戸を転用する街と京都を転用する街で共通する内容とそれぞれの街で独自にみられる内容を検討することで、歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みの特性を考察する。なお以降、本章では江戸を転用する街および京都を転用する街を、それぞれ『江戸[注5-1)]』『京都』と略記し、資料を区別するために資料番号の前にそれぞれｅ、ｋを付記する。

本章の概要

第２章および第３章では、資料とした観光パンフレットの言語表現から街の価値を構成する要素（価値対象）と、価値対象の歴史性を形容する表現（歴史属性）を抽出し、さらに複数抽出される価値対象の意味的な階層関係を示すモデル（価値グループ）から街の価値の意味内容の総体を検討した。そして第４章では、価値グループの階層構造を検討し、街の価値の階層構造について考察を行った。本章では以上の第２章から第４章で検討した価値対象、歴史属性、価値グループの水準について、『江戸』と『京都』の比較を行う。分析にあたって、価値対象の内容の分類は『江戸』と『京都』で共通するものであり、価値グループの分類もそれに準ずるものであることから、これら２つの水準における分類内容は本章でも引き続き用いる。歴史属性の分類は、江戸および京都に直接的に関連するか否かという観点から、〔江戸の歴史属性[注5-1)]〕および〔京都の歴史属性〕を共通した内容と捉え、以降の分析を行う。

まず２節では価値対象および歴史属性の比較を行い、『江戸』と『京都』それぞれの価値の意味内容の特徴を検討する。次に３節では価値グループの内容を比較し、『江戸』と『京都』における価値の階層的性格の特徴を検討する。そして４節では価値グループの資料単位での集合から得られた街の価値の類型について比較を行い、さらに５節において第４章で検討した価値グループの階層構造をあわせて検討することで、『江戸』と『京都』それぞれの価値の意味内容の総体および階層構造の特徴を考察する。

5．2．街の価値の意味内容の比較

本節では『江戸』と『京都』の価値の意味内容について比較を行う。

まず価値対象について内容の割合を比較すると（図 5-1）、『京都』は《空間[注5-1)]》および《生活》の割合が『江戸』よりも幾分高く、また〈線的空間[注5-1)]〉と〈点的空間〉、〈活動〉と〈物品〉の比率において違いがみられたが、その他は数の割合に大きな違いはみられなかった。

次に歴史属性については（図 5-2）、『江戸』では〔江戸の歴史属性〕と〔その他の歴史属性〕が同程度であったのに対して、『京都』では〔その他の歴史属性〕が全体の約 4 分の 3 を占め、異なる割合を示した。さらに、〔江戸の歴史属性〕と〔京都の歴史属性〕の内容をみると、前者は大半が江戸との関連を具体的な内容を伴って示すものであるのに対して、後者は大半が漠然とした「小京都らしさ」を示すものであった。江戸は現代では存在しない歴史上の都市であるため、『江戸』において江戸との関連性は想像を含んだ比較的自由な解釈により示される傾向にあり、それに対して京都は現在まで存続する都市であることから、その特徴が人々の間で共有されているため、『京都』においては京都との関連を明確に示すことが難しいものと考えられる。

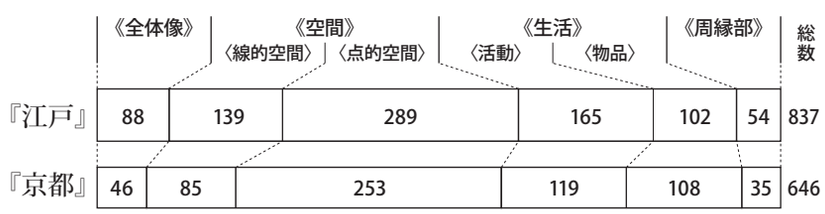


図 5-1『江戸』『京都』の価値対象の比較

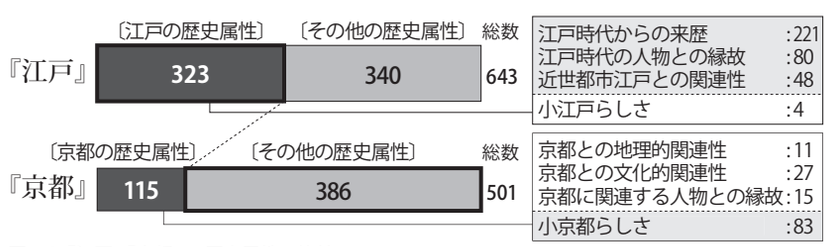


図 5-2『江戸』『京都』の歴史属性の比較

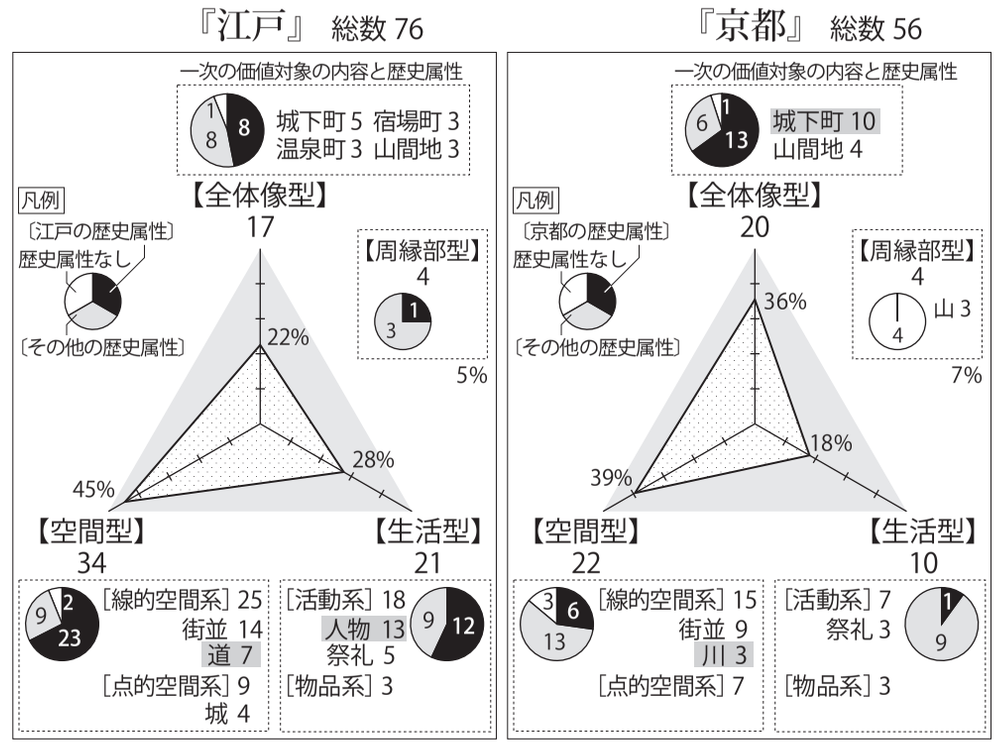
5．3．街の価値の階層的性格の比較

本節では価値グループにみられる街の価値の階層的性格を比較する（図 5-3）。

まず価値グループの内容の割合をみると、『江戸』『京都』ともに【空間型[注 5-1)]】が高い割合でみられた。これより歴史的価値を転用する街において、空間を基点とした価値対象のネットワークが、江戸、京都に関わらず最も基本的な価値として位置づけられているといえる。【空間型】に次いで多くみられたものは、『江戸』では【生活型】、『京都』では【全体像型】であった。さらにそれぞれの一次の価値対象の内容をみると（図 5-3 の点線枠内に記載）、『江戸』の【生活型】では［活動系[注 5-1)]］の「人物」が、『京都』の【全体像型】では「城下町」が多いことがわかる。これより、『江戸』では街の生活を構成する要素を基点とした価値対象のネットワークが、『京都』では街全体の特性を基点とした価値対象のネットワークがそれぞれ特徴的であり、特に前者では徳川家の人物や幕末の志士といった江戸時代に活躍した著名な人物、後者では城下町という街の形式が、街の歴史的価値を代表するものとして位置づけられていることがわかる。

また『江戸』『京都』共に多くみられた【空間型】の［線的空間系］は、「街並」が共通して 6 割程度と高い割合でみられ、次いで『江戸』では「道」、『京都』では「川」を認めることができる。第 2 章でも指摘したように、五街道をはじめ多くの街道は江戸時代に整備されたものであることから、『江戸』において「道」が江戸を表すものとしての性格を有するのに対し、『京都』では格子状の町割、街の中央を流れる河川といった京都の地理的特徴を想起させる内容として「街並」や「川」が位置づくものと推察される。

さらに、図 5-3 の円グラフで示した一次の価値対象の歴史属性について、〔京都の歴史属性〕および〔江戸の歴史属性〕（ともに図 5-3 円グラフ■）の分布をみると、『江戸』では全ての型において一定数みられたのに対し、『京都』では【全体像型】に集中した。ここから、『京都』において京都との結びつきは、街の空間や生活を構成する個々の価値対象に対する形容として明示せずとも、価値対象そのものの内容や、複数の価値対象の組合せによって暗に示される性格のものであると推察される。



注）一次の価値対象の内容は該当数が 3 以上みられたものを示している。

図 5-3『江戸』『京都』の価値グループの比較

５．４．街の価値の総体の比較

第２章４節および第３章４節では、『江戸』および『京都』の価値の総体について、資料単位での価値グループの集合を検討し、Ⅰ～Ⅵおよびア～オの類型を位置づけた。本節ではこれらの類型を、それぞれの類型を構成する価値グループの意味内容から比較する（図 5-5）。

まず｛集約型[注5-1)]｝では、【全体像型】による類型Ⅰおよび類型ア、【空間型】による類型Ⅱおよび類型イは、『江戸』『京都』に共通してみられた。これより、下諏訪（No.e16）における宿場町の履歴や、岩出山（No.k2）における城下町の履歴といった街全体の特性を基点としたネットワーク、および南木曽（No.e18）における中山道や、知覧（No.k29）における武家屋敷の街並といった空間を基点としたネットワークにより街の価値を集約的に階層化するのが『江戸』『京都』を問わず歴史的価値を転用する街において普遍的であることを確認できる。

一方で、【生活型】による類型Ⅲは『江戸』独自のものであった。これより、水戸（No.e3）における水戸徳川家や、上松（No.e17）における尾張藩の保護のもと育てられた歴史をもつ名産の檜材といった、江戸や江戸時代を想起させる人物や特産品を基点としたネットワークにより街の価値を集約的に階層化するのが『江戸』に特有であることを確認できる。

次に｛分散型｝では、【全体像型】と【空間型】の組合せによる類型Ⅴおよび類型エ、【空間型】と【生活型】の組合せによる類型Ⅵおよび類型オは『江戸』『京都』に共通してみられた。これより、奈良町（No.e31）における花街の履歴と町家の街並、中村（No.k23）における城下町の履歴と四万十川流域の景観といった、街全体の特性と街の空間という異なる領域的な観点から価値が階層化されるもの、および佐原（No.e13）における商家の街並と山車祭り、津山（No.k19）における赤瓦の街並、城址、鉄道路線での周遊といった、街の空間や生活文化という様々な水準から価値が階層化されるものが、歴史的価値を転用する街において普遍的であることを確認できる。

一方、【空間型】の組合せによる類型Ⅳが『江戸』独自のものとして、【全体像型】の組合せによる類型ウおよび【周縁部型】を含む類型Ｐが『京都』独自のものとしてみられた。これより、『江戸』では、川越（No.e10）における江戸の形式を残す蔵が建ち並ぶ景観と江戸時代に建てられた城といった、街の空間的特徴に特化した価値対象がネットワークの基点となって街の価値を階層化するものが特有であり、『京都』では、山口（No.k21）における室町時代に京都を模して築かれた守護領としての履歴と歴史ある温泉町としての履歴とが同時に示される例のように、街全体の特性に特化した価値対象のネットワークにより街の価値を階層化するもの、および津和野（No.k17）のような街の周縁を囲む自然環境を基点とした価値対象のネットワークにより街の価値を階層化するものが特有であることを確認できる。

以上の『江戸』『京都』で独自にみられた内容より、『江戸』においては街の空間や生活に特化した街の中に入り込むような視点から、『京都』においては街全体の特性や周縁の自然環境といった街を俯瞰的に捉えるような視点から、街の歴史的価値を提示することが、『江戸』、『京都』双方における街のイメージ形成の枠組みの特性であると指摘できる。これらの特徴から、前者は江戸の断片的な記憶としての歴史的価値を転用するもの、後者は京都に対して漠然と想起されるイメージとしての歴史的価値を転用するものと捉えることができ、ここで特に江戸を転用する街における部分（断片的な歴史的価値）と全体（江戸）という関係を、隣接的な関係のひとつと捉えると、双方の街における歴史的価値の転用について、江戸の転用は隣接性に基づくもの、京都の転用は類似性に基づくものと捉えることができる。これらを修辞学における比喩の形式に当てはめれば、いずれの街も江戸および京都の隠喩としての性格を有するものではあるが、江戸を転用する街は江戸の断片的な記憶を示す要素が抽出、展開された、江戸の換喩としての性格が強いものと位置づけられ、一方京都を転用する街は京都全体が矮小化された、京都の隠喩としての性格をより強く有するものと位置づけられる。

また、【空間型】と【生活型】の組合せによる類型Ⅵと類型オは『江戸』『京都』に共通してみられたものであるが、その内訳を検討すると、『江戸』の類型Ⅵでは【空間型】のうち［線的空間系］に、『京都』の類型オでは［点的空間系］に、それぞれ偏るという違いがみられた。これは、前節でも指摘したように、街道や水運等の交通システムの多くが江戸時代に整備されたものであることから、『江戸』において「道」や「運河」「水路」といった線状に広がる空間が江戸を表すものとしての性格を有するのに対し、京都には人々によく知られた寺社や史跡などの歴史的なスポットが多くあり、そうした街の断片的な印象を形成する個々の空間が『京都』においても重要性を有するものと考えられ、『江戸』と『京都』との空間的なイメージの違いを示唆するものと捉えることができる。

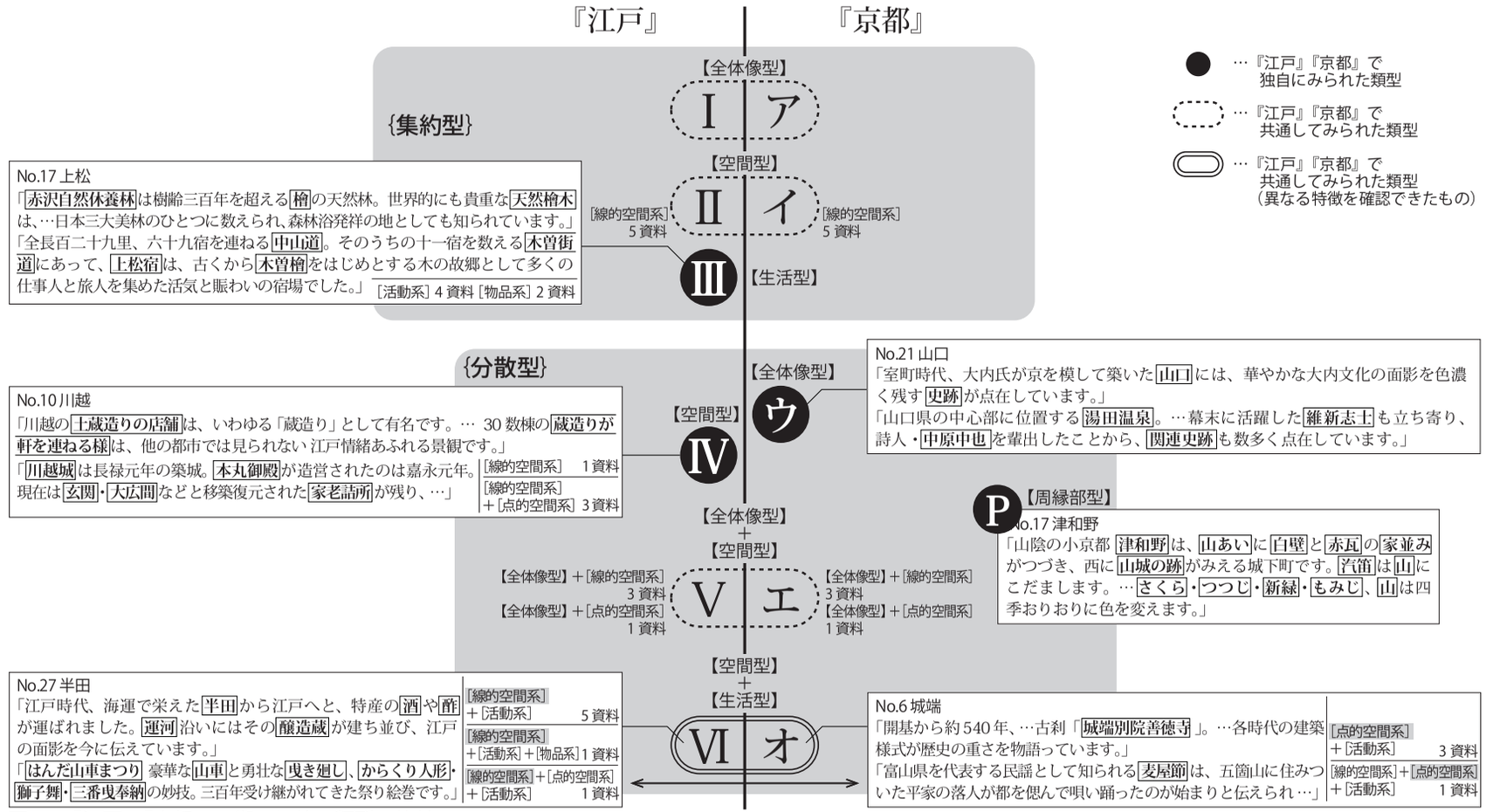


図 5-4『江戸』『京都』の街の価値の類型の比較

注）類型Ⅴおよび類型エは２資料が『江戸』と『京都』で重複するものである。

5．5．街の価値の総体と階層構造の関係

本節では、前節で検討した『江戸』と『京都』の価値の類型について、前章で検討した価値グループの階層構造の対応を検討する（図 5-5）。

その結果、まず｛集約型｝では、『江戸』独自のものとしてみられた【生活型】による類型Ⅲでは、複合階層の結合集中が３分の２を占めた。これより、例えば上松（No.e17）における名産の檜に関連する価値が示されるなかで、その集積地として繁栄した宿場町としての履歴に関連する価値がさらに示されるといったように、特産品や歴史上の人物といった街の生活文化を基点とした階層関係のなかで、街道沿いの街並みや近世に関連する街の履歴を示す要素に集中して価値が細分化されるものが、『江戸』の価値の階層構造の特徴の一つであると指摘できる。

『江戸』『京都』に共通してみられた類型について階層構造を検討すると、【空間型】による類型Ⅱ、イでは階層構造に数的傾向はみられなかったが、【全体像型】による類型Ⅰ、アにおいて『江戸』のみで数的傾向がみられ、これらは全て複合階層の結合集中であった。これより、岡崎（No.e26）における城下町および宿場町としての街の履歴に関連する価値が示されるなかで、岡崎を生誕地とする徳川家康に関連する価値がさらに示されるといったように、城下町や宿場町といった街の履歴を基点とした階層関係のなかで、著名な歴史上の人物や街に残る城址といった要素に集中して価値が細分化されるものが、『江戸』の価値の階層構造の特徴の一つであると指摘できる。

次に｛分散型｝では、『京都』独自のものとしてみられた【全体像型】の組合せによる類型ウおよび【周縁部型】を含む類型Ｐでは階層構造に数的傾向はみられなかったが、『江戸』独自のものとしてみられた【空間型】の組合せによる類型Ⅳでは並列型が過半を占めた。さらにその内訳をみると（図 5-4 左に示す）、一次を転用歴史対象とする価値グループが多いことがわかった。これより、江戸と直接的に関連する複数の空間的特徴によって価値が並列的に階層化されるものが『江戸』の価値の階層構造の特徴の一つとして指摘できる。

『江戸』『京都』に共通してみられた類型について階層構造を検討すると[注5-2)]、【空間型】と【生活型】の組合せによる類型Ⅵ、オでは並列型が大半を占め、なかでも錯綜型の占める割合が高いという傾向が『江戸』『京都』共にみられた。これより、街の空間や生活文化を構成する様々な水準の要素を基点とした価値のネットワークが、意味の結びつきの豊富さと意味の結びつきの連鎖という異なる水準から並列的に階層化されるものが、歴史的価値の転用における普遍的な価値の階層構造として指摘できる。さらにこれらの資料について、価値グループの内容と階層構

造との対応をみると（図 5-4 両脇に示す）、階層の形式が単純階層で一次の結合数が大きい価値グループ（各資料の枠内の右上に位置づくもの）について、『江戸』では【生活型】と【空間型】が同程度みられたのに対して、『京都』では全ての資料において【空間型】がみられ、前節で指摘した『江戸』と『京都』の空間的なイメージの違いが価値の階層構造にも現れることを確認できる。

以上の価値の類型と階層構造との関係より、『江戸』では類型の大半で階層構造に数的傾向がみられるのに対して、『京都』では階層構造に傾向をもつ類型は少ないことがわかる。これより『江戸』においては街の価値の基点となる内容と、それをいかに示すかという階層構造が複数の街で共通し、内容と階層構造が対応した定型をなしており、一方『京都』においては街の価値の基点となる内容は定型をなすものの、それをいかに示すかという水準では街によって異なることがわかる。前節において指摘した『江戸』および『京都』のイメージ形成の枠組みの特徴について、『江戸』は江戸の断片的な記憶としての歴史的価値を転用するもの、『京都』は京都に対して漠然と想起されるイメージとしての歴史的価値を転用するものであったことを鑑みると、『江戸』では街道沿いの街並や、江戸時代の藩主に由来する事物など、江戸の断片的な記憶を示す具体的な歴史的価値の内容と構造がいくつかのモデルとして定型化し、それぞれの街ではこれらのモデルのいずれかに即して街の価値が示される傾向にあり、一方『京都』においては京都に対して想起される歴史都市のイメージの中で、城下町としての履歴や、山に囲まれた風情ある景色といった根拠の示されない漠とした歴史的価値の内容が定型化し、これらの内容がそれぞれの街において自由な構造を伴って示される傾向にあるといえる（図 5-6）。

これより、歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みには、江戸や京都という人々に共有された歴史都市のイメージに近づこうとするイメージの帰属化の水準と、街同士の差異を示そうとするイメージの個別化の水準において、対照的なあり方が成立していると考えられる。

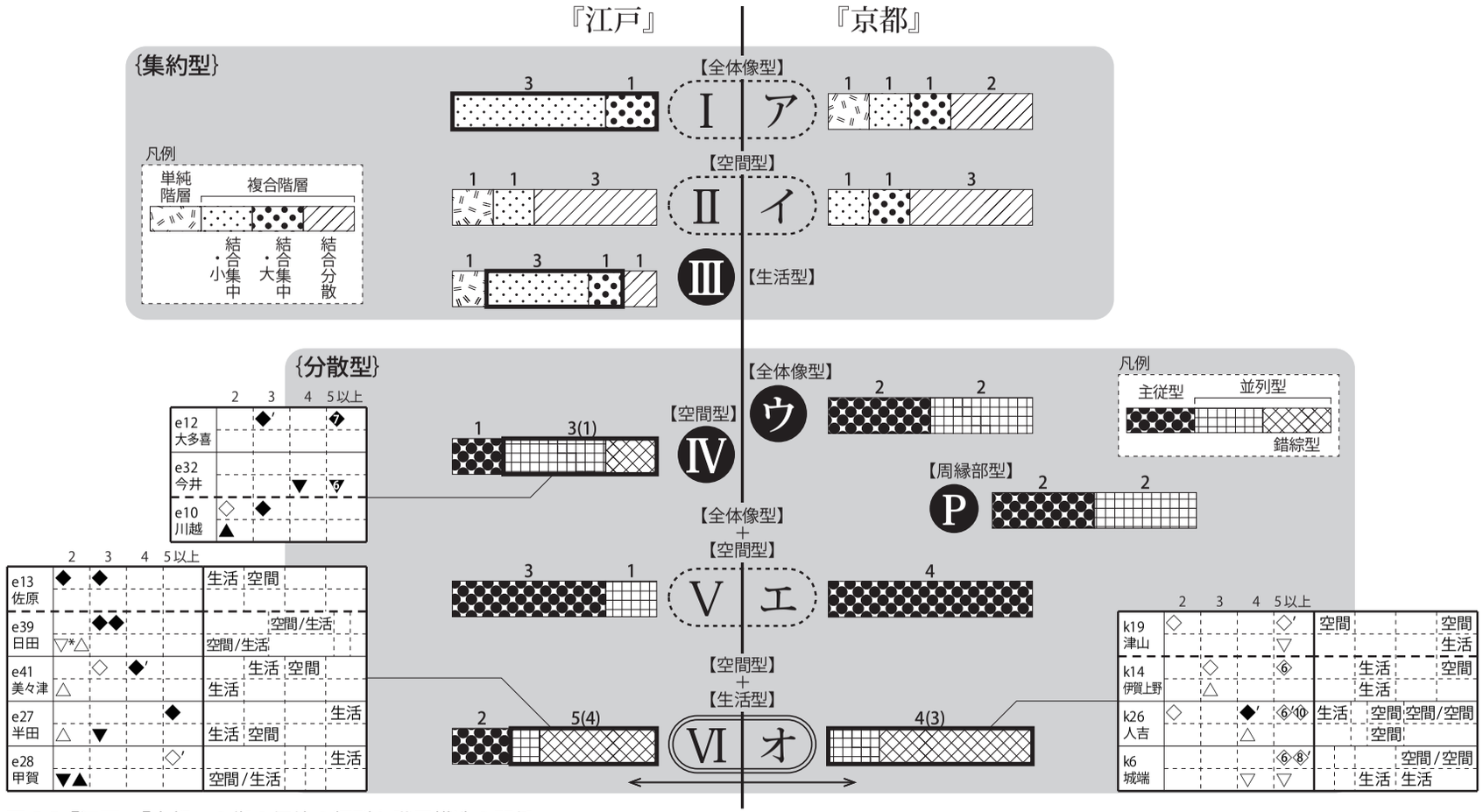
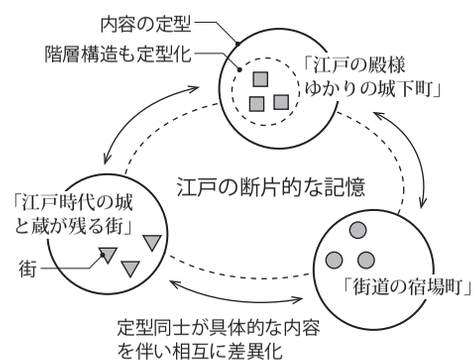


図 5-5『江戸』『京都』の街の価値の類型と階層構造の関係

注）類型Ⅴおよび類型エは 2 資料が『江戸』と『京都』で重複するものである。

	江戸を転用する街	京都を転用する街
5.4. 価値の意味内容	江戸の断片的な記憶としての歴史的価値を 街に潜在する視点から提示	漠然としたイメージとしての歴史的価値を 街を俯瞰する視点から提示
5.5. 価値の階層構造	内容と階層構造が 対応して定型化	内容は定型を成すが 階層構造はそれぞれ異なる



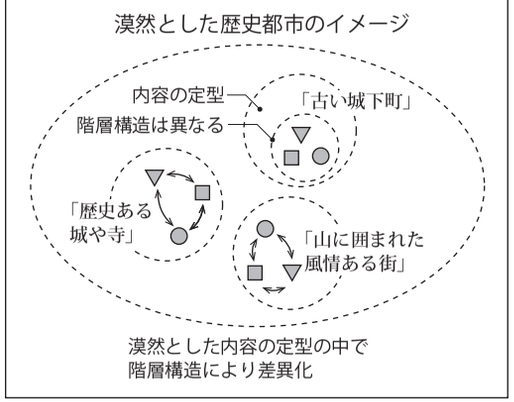


図 5-6 歴史的価値を転用する街の価値の特性

5．6．小結

本章では、第２章から第４章で得られた結果について、江戸を転用する街と京都を転用する街で相互に比較、検討した。

まず、街の価値を構成する価値対象とその歴史属性について比較したところ、価値対象はその内容の内訳に双方の街で違いはみられず、歴史属性は江戸を転用する街においては想像を含んだ比較的自由な解釈により江戸との関連性が示される傾向にあり、それに対して京都を転用する街においては京都との関連は明確に示されない傾向を見出した。

次に価値対象の意味的な階層関係を示すモデル（価値グループ）の内容について検討した結果、街の価値を構成する価値対象の意味的な結びつきにおいては、江戸を転用する街では徳川家の人物や幕末の志士といった江戸時代に活躍した著名な人物にまつわるエピソードを介して結びつく価値対象のネットワークが、京都を転用する街では城下町という街全体の特性を基点とした価値対象のネットワークが、それぞれ特徴的であることを確認した。

そして資料単位での価値グループの集合から位置づけた価値の類型を比較した結果、双方の街の独自性を示す価値の内容は、江戸を転用する街は街の空間や生活を基点とした階層関係により構造化されるもの、京都を転用する街では街全体の特性や周縁の自然環境を基点とした階層関係により構造化されるものであった。これより双方の都市の転用におけるイメージ形成の枠組みの特徴として、江戸を転用する街では江戸の断片的な記憶を想起させる価値が街の中の具体的な要素と関連付けて示されるのに対し、京都を転用する街では根拠が特定されない漠然とした歴史性を伴うイメージによって街を俯瞰的に捉える視点から価値が示されるという対比的な傾向を明らかにした。

さらにこれらの類型について、前章で検討した街の価値の階層構造との関係を検討した結果、江戸を転用する街では空間や生活文化といった江戸のイメージを示す価値の内容と階層構造が対応したいくつかの定型をなす傾向にあり、一方京都を転用する街では京都の漠然としたイメージを示す価値は階層構造の水準においては定型を成さない傾向にあることを明らかにした。以上から、江戸を転用する街のイメージ形成の枠組みの特性は、街道の街並や江戸時代の藩主に由来する事物など江戸の断片的な記憶を示す内容が意味の構造と共に定型化するものであり、京都を転用する街のイメージの枠組みの特性は、漠然とした歴史都市としてのイメージを想起させる内容が定型化し、そうした大枠の内容を意味の構造の水準において個別化するものであると考察される。

注

注 5-1)　本章では下記のように括弧を使い分けている。
『　』：資料の名称を略記する際に『江戸』、『京都』と記す。
《　》：価値対象のカテゴリー。
〈　〉：価値対象の下位カテゴリー。
〔　〕：歴史属性のカテゴリー。
【　】：価値グループの型のカテゴリー。
［　］：価値グループの系のカテゴリー。
｛　｝：価値グループの総数からみた資料のカテゴリー。
（　）：資料番号。

注 5-2)　類型Ｖ、エは該当資料の半数にあたる 2 資料が『江戸』『京都』で共通するものであったことから、本節における考察は割愛した。

第６章　結論

結論

本論文では、第２章から第５章までを通して、観光パンフレットの言語表現にみられる歴史的価値を転用する街のイメージ形成の枠組みを論じてきた。本章では、以上の各章で得られた結果を総括し、本論文の結論とする。

第２章「江戸を転用する街の価値の意味内容」では、江戸という都市に関連する事柄を転用する街の観光パンフレットを資料に、その言語表現から、街の価値を構成する要素である価値対象と、価値対象の歴史性を形容する歴史属性を抽出した。そして、資料から複数抽出される価値対象の意味的な階層関係をモデル化し、それらの資料単位での集合をその内容から整理し江戸を転用する街の価値の類型として位置づけた上で、言語表現に示される街全体の履歴との関係を検討した。その結果、江戸を転用する街の価値の意味内容は、１つの価値対象を基点とした階層関係により集約的に構造化されるものと、複数の価値対象を基点とした階層関係により分散的に構造化されるものとで大きく位置づけられ、特に価値の意味内容が集約的に構造化される資料において宿場町や城下町といった近世との関連性の強い履歴が示される傾向にあることを明らかにした。

第３章「京都を転用する街の価値の意味内容」では、京都という都市に関連する事柄を転用する街の観光パンフレットを資料に、その言語表現から、街の価値を構成する要素である価値対象と、価値対象の歴史性を形容する歴史属性を抽出した。そして、資料から複数抽出される価値対象の意味的な階層関係をモデル化し、それらの資料単位での集合をその内容から整理し京都を転用する街の価値の類型として位置づけた上で、対象地の地理的な分布との関係を検討した。その結果、京都を転用する街の価値の意味内容は、街全体の特性を示す要素を基点とした階層関係により構造化されるものと、街の空間を構成する要素を基点とした階層関係により構造化されるものとで大きく位置づけられ、京都より東側に位置する場合は街全体の特性を示す要素が、京都より西側に位置する場合は空間を構成する要素が、それぞれ階層関係の基点となる傾向を明らかにした。

第４章「歴史的価値を転用する街の価値の階層構造」では、第２章および第３章で得られた価値対象の意味的な階層関係を示すモデルについて、その階層構造を細分化の深度と集中の度合いを価値対象の結合の形式から位置づけた上で、それらの資料単位での集合を検討した。その結果、歴史的価値を転用する街の価値の階層構造は、単一の場合と複数の場合の双方がみられ、さらに複数の場合は主従と並列の２種の関係図式で捉えられることを示した。そして江戸を転用する街では京都を転用する街に比べて、単一の階層構造では細分化の集中が、複数の階層構造では並列の関係図式がそれぞれ多い傾向にあることを明らかにした。

第５章「歴史的価値を転用する街の価値の特性」では、第２章から第４章までに得られた結果を比較することで、江戸を転用する街と京都を転用する街で相互に共通する内容および独自にみられる内容を検討した。その結果、双方の街で独自にみられる価値の内容は、江戸を転用する街では街の空間や生活を基点とした階層関係により構造化されるもの、京都を転用する街では街全体の特性や周縁の自然環境を基点とした階層関係により構造化されるものであることを明らかにした。これより双方の都市の転用におけるイメージ形成の枠組みとして、江戸を転用する街では江戸の断片的な記憶を想起させる価値が街の中の具体的な要素と関連付けて示されるのに対し、京都を転用する街では根拠が特定されない漠然とした歴史都市のイメージによって街を俯瞰的に捉える視点から価値が示されるという対比的な特徴を明らかにした。さらに、江戸を転用する街では江戸のを想起させる具体的な価値の内容と階層構造が対応して定型化するのに対して、京都を転用する街では漠然とした歴史都市のイメージを示す価値の内容は定型化しながらも、その階層構造は個別化するという傾向を明らかにした。

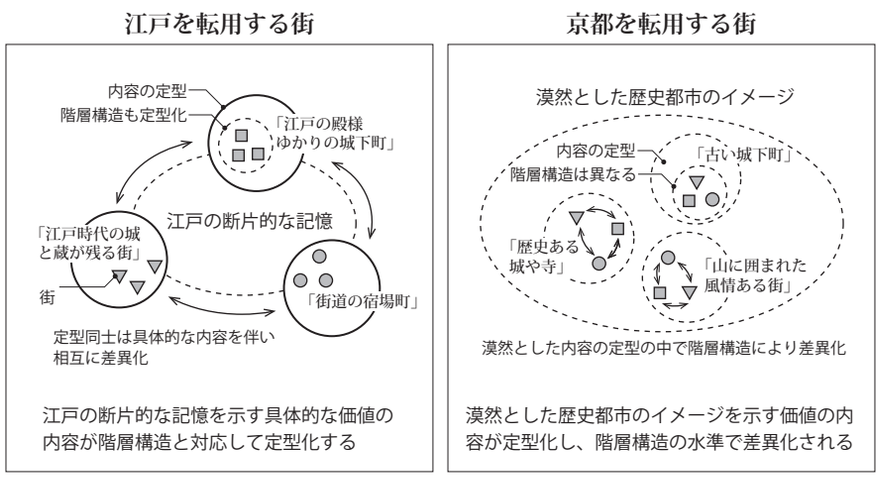


図 歴史的価値を転用する街のイメージ形成の枠組みの特性

以上のような歴史的価値の転用におけるイメージ形成の枠組みの異なる特徴は、江戸、京都の歴史的価値に対する街の価値の帰属化と個別化に関する対照的なあり方を示すものと考えられ、さらに江戸、京都そのものに対する人々に共有されたイメージの性質の違いを示唆するものと考えられる。本研究で得られた知見は、メディアによる情報化の波及が今後予想される都市認識論を記号学的に構築する上での新たな視点を示すものであり、また様々な観光的事象がグローバルやローカルといった領域を横断して交わりあう現代の状況に対する批評的視点を携えた建築設計の方法論の構築に寄与するものと考える。以上をもって本論文の結論とする。

資料編

江戸を転用する街

No.1　松前（北海道 松前郡 松前町）

旅はさくら色　松前　/　松前町商工観光課　/　2014

分析単位

A　心おどらせ松前めぐり　1 万本の桜が満開の笑顔で迎えます　花びらのじゅうたんが道案内
城下通りに藩屋敷、気分華やぐ 江戸時代　北と南が交わる海で、松前マグロもおもてなし
寄り道しながらいきましょう　笑って、想って、味わって

B　あるいて、さわって、つくって　松前の魅力、思うぞんぶん
江戸時代の名残を伝えるお城に町並み、とびきりの海産物、春に見せる満開のさくら色。
松前のもつ魅力は多彩です。
どこから見ようか迷っているなら、まずは体験してみませんか。

C　江戸時代の姿を残す一角　寺町で時代劇気分
北海道遺産でもある、松前城とその北側に広がる寺町。
そこを歩けば、まるで江戸時代に迷い込んだような気分に。
歴史ファンでなくとも一度は歩いてみたいエリアです。

D　松前藩屋敷　江戸の町並みを再現したテーマパーク
「松前の春は江戸にもない」と言われた城下。その街並を再現したのが松前藩屋敷です。
海の関所「沖の口奉行所」、藩士の暮らした「武家屋敷」のほか、「商家」「回船問屋」「番屋」「髪結」など 14 棟が軒を連ねます。
施設内で体験できる甲冑の着付けや松前杉のクラフトづくりも人気。
藩屋敷のとなりにはカントリーパーク「日本庭園」があります。

E　街がさくら色に染まる春　250 種 1 万本がおもてなし
最北の春を彩る桜。松前には、桜の花を愛し、大切に守り育ててきた "" 花守 "" がいました。
代々つないできた愛情が今、250 種、1 万本以上の桜を松前公園に咲かせています。
250 種、1 万本以上の桜が咲く「さくらの里」松前。
松前に桜が咲きはじめたのは松前藩の時代。
本州から渡ってきた人々が、遠く離れた江戸や都をなつかしんだりして木を植えたことがきっかけだったと言われています。
その美しい風景を愛した人々の手によって、松前の桜は守り育てられてきました。
品種には「早咲き」「中咲き」「遅咲き」があり、1 ヶ月以上にわたって咲き続けます。
"" 花守 "" の手による松前生まれの桜はおよそ 100 種、ここでしか見ることができない品種も。

F　「北鴎碑林　金子鴎亭の足あとをたどる野外ミュージアム」
松前町出身の金子鴎亭は、近代詩文書の父と呼ばれた書の大家。その生誕 100 年を記念して、松前藩屋敷の北側につくられた北鴎碑林。
鴎亭とその門人の作品を彫り込んだ石碑 84 基が道沿いに並び、
書の世界へ連れて行ってくれるでしょう。石碑の拓本づくり (30 分) を体験することもできます。

G　一度来ただけでは味わい尽くせない　松前まつりカレンダー
松前藩の時代から育まれてきた　文化、歴史、味覚、そして桜。
それぞれの季節で旬の "" 花 "" がまちを飾り、城下町は今日も大にぎわいです。

H　買う、食べる。　古くて新しい城下通りウォーク
松前城の海側にある商店街、城下通り。
かつての城下町の雰囲気を再現し、侍や町人が歩いていたころの空気がゆっくりと流れます。
それぞれに味のある店構えと、城下通りのおすすめを紹介します。

No.1　松前（北海道 松前郡 松前町）

旅はさくら色　松前　/　松前町商工観光課　/　2014

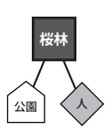
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	桜	【線的空間】	松前藩の時代から育まれて来た	〔江戸の歴史属性〕
2	松前	【全体像】	「松前の春は江戸にもない」と言われた城下	〔江戸の歴史属性〕
3	城下通り	【線的空間】	気分華やぐ江戸時代、かつての城下町の雰囲気を再現し	〔江戸の歴史属性〕
4	松前藩屋敷	【線的空間】	気分華やぐ江戸時代、江戸の町並みを再現、「松前の春は江戸にもない」といわれた	〔江戸の歴史属性〕
5	海	【周縁部】		
6	松前マグロ	【モノ】		
7	お城 (松前城)	【点的空間】	江戸時代の名残を伝える、江戸時代に迷い込んだような気分	〔江戸の歴史属性〕
8	寺町	【全体像】	江戸時代の名残を伝える、江戸時代の姿を残す、江戸時代に迷い込んだような気分	〔江戸の歴史属性〕
9	海産物	【モノ】		
10	奉行所	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
11	武家屋敷	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
12	商家	【点的空間】		
13	廻船問屋	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
14	番屋	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
15	髪結	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
16	甲冑の着付け	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	松前杉のクラフトづくり	【活動】		
18	カントリーパーク「日本庭園」	【点的空間】		
19	花守	【活動】	桜の花を愛し大切に守り育ててきた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
20	北鴎碑林	【点的空間】	金子鴎亭を記念してつくられた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
21	金子鴎亭	【活動】	近代詩文書の父と呼ばれた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
22	石碑	【点的空間】	鴎亭とその門人の作品を彫り込んだ	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
23	石碑の拓本づくり	【活動】		
24	味覚	【モノ】	松前藩の時代から育まれて来た	〔江戸の歴史属性〕
25	店構え	【点的空間】		

価値グループ

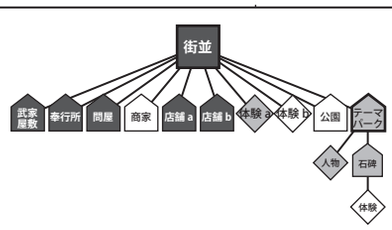
{分散型}

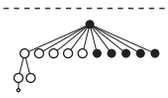
1-a



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	転用 - 一般

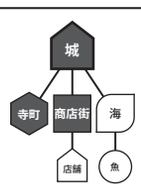
1-b





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：10 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

1-c



一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	転用 - 一般

No.2　江差（北海道 檜山郡 江差町）

江差之旅かわら版・総合案内版　/　江差町追分商工観光課　/　2013

分析単位

A　江差　北海道の里　追分流れるロマンの町

B　江差町の歴史

江差町に、和人が住み着くようになったのは、歴史上では、一一八九年源義経が衣川で自刃した後、藤原泰衡の一族がこの地に上陸（渡党）したといわれており、北海道文化の発祥の地と呼ばれております。

江戸時代には、日本海航路の北前船によるヒノキアスナロ、ニシンの交易により、人口も三万人をこえ、いわゆる「江差の五月は江戸にもない」とうたわれ、商業の町、文化の町として発展、繁栄を極め、民謡の王様といわれる「江差追分」をはじめとする伝統芸能や生活文化など有形、無形の遺産が数多く伝承、保存されております。

また、江差沖で座礁沈没した、江戸幕府の軍艦「開陽丸」が復元され、幕末のロマンを漂わせております。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	江差町	【全体像】	「江差の五月は江戸にもない」とうたわれた	〔江戸の歴史属性〕
2	江差追分	【活動】	伝統芸能	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
3	伝統芸能	【活動】	伝統	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
4	開陽丸	【モノ】	江戸幕府の軍艦、幕末のロマンを漂わせる	〔江戸の歴史属性〕

価値グループ　なし

No.3　山形（山形県 山形市）

やまがた時代絵巻　建物編　/　一般社団法人山形市観光協会　/　2013

分析単位

A　57 万石の大大名、出羽の虎将 山形城 11 代城主　最上義光公

最上義光公（1546 ～ 1614）は、清和源氏直系の足利家と同族で、奥州探題・斯波家兼公の次男として生まれた最上家始祖・斯波兼頼公（1315 ～ 1379）から 11 代目にあたる戦国時代の武将です。

慶長 5 年（1600）、出羽の関ヶ原「長谷堂合戦」で、徳川方として豊臣方・上杉景勝の重臣・直江兼続と戦い、それを退けた功績により、57 万石（実高最上 100 万石とも呼ばれる）の全国第 5 位の大大名、初代山形藩主となりました。

義光公は、山形城の大改修をはじめ城下町の造成、商工業、交易、文化などの発展、交通網の整備、庄内平野の開発にも努め、現在の山形の礎を築きました。

また、文人としての才も備え、連歌では戦国大名中随一といわれています。

B　見えない大城郭　山形城

70 万坪にもおよぶ同心円状に三重の堀を廻らす輪郭式城郭で、江戸城、姫路城にも匹敵する全国でも有数の広さをもつ平城でした。

長谷堂合戦で、敵陣から霞で城郭が見えなかったことから、別名「霞ヶ城」とも呼ばれました。

延文元年（1356）、最上家始祖・斯波兼頼公が、羽州探題で山形に入部した翌年に礎になる城を築き、最上義光公によって大城郭が完成しました。

その後、寛永元年（1624）頃、最上家の後山形藩主になった鳥居忠正公によって馬見ヶ崎川と共に二ノ丸堀が改修され、現在の形になりました。残念ながら本丸と三ノ丸は、現在一部を残して消失しています。

城郭外に平城の弱点を補うため、城下町には丁字やかぎ形、食い違いの街路、70 以上の寺社仏閣が配置され、周辺には「最上四十八館」という防衛陣を構えるなど、巧みな防衛網も施されていました。

その後山形城は、最上家改易後、頻繁に藩主が代わりながら明治維新を迎えました。

C　扇状地に築かれた 400 年前の名残を留める　城下町

標高約 120 ～ 180m の傾斜 60m の高低差にある山形城と城下町は、等高線に合わせて北東に傾いて築かれています。そして、通常城下町は城の下方にありますが、山形は上方にあります。

それは最上義光公が、町人の生活を重んじたとも、取水目的の地下水脈（伏流水）に合わせたとも、城西側に扇状地の扇端部（湿地帯）を城郭防御のため配したともいわれています。

また、城下町には農業用水をはじめ、町人の水場、三ノ丸堀水として使われた馬見ヶ崎川から堰（山形五堰）が張り巡らされるなど、地理的条件が巧みに活かされています。

最上家時代の絵図と見比べても、山形城、城下町、山形五堰、街路等、その面影が現在にも色濃く残されています。

D　商人町山形、地方都市に息づく交易がもたらした　京、江戸文化

最上義光公は、出羽街道沿いの市日町、職人町などをつくり、近江商人をはじめとする外来商人の自由貿易を積極的に進め、当時の人口約 30,000 人を超える東北最大の都市になりました。

その後も紅花交易の発展、頻繁な山形城主の変更もあり、商人が力をつけていきました。

商人町繁栄の遺産のひとつが、今でも現存する蔵文化で、その多くは蔵座敷、仏蔵、店蔵、荷蔵です。

蔵座敷、仏蔵は京都に多くみられ、最上川から伝わった京文化が根付いたと思われます。

京都、大阪ではあまり観ることのできない店蔵は、奥州・羽州街道の発達から江戸文化が流入したと思われます。蔵をはじめ、多くの文化が交易によって入り込み、独自の地方文化が育まれていきました。

E　江戸、明治、大正…　時代が交差する歴史的建造物

明治維新後、初代山形県令三島通庸氏によって、現在の文翔館周辺に当時の先端を行く洋風建築物や新道等がつくられ、山形市は県都として近代化が急激に進みました。

その後も様々な建築物がつくられ、現在も国指定重要文化財も含む歴史的建造物が多数残され、しかも異なる年代のものが混合しています。

それは明治初期の戊辰戦争、昭和時代の第二次世界大戦空襲などの大きな戦災や天災が少なく、昔からの景観が保たれたことと、

明治 27 年（1894）と 44 年（1911）の大火等の一部消失によるものです。

そして、何よりもこの貴重な郷土文化遺産を誇りに思う山形市民が大切に守っているからです。

No.3　山形（山形県 山形市）

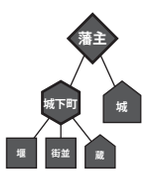
やまがた時代絵巻　建物編　/　一般社団法人山形市観光協会　/　2013

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	最上義光	【活動】	初代山形藩主 / 戦国時代の武将 , 足利家と同族	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	山形城	【点的空間】	江戸城にも匹敵する平城 ,1624 年に現在の形が完成 / 最上義光によって完成	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	城下町	【全体像】	400 年前の名残を留める / 最上義光によって造成された	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	山形五堰	【線的空間】	最上家時代の面影が現在も残る	〔江戸の歴史属性〕
5	街路	【線的空間】	最上家時代の面影が現在も残る	〔江戸の歴史属性〕
6	蔵文化	【点的空間】	江戸文化が流入した / 京文化が根付いた	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	建造物	【点的空間】	江戸・明治・大正…時代が交差する	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	洋風建築	【点的空間】	明治維新後	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	新道	【線的空間】	明治維新後	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

価値グループ

{集約型}



一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用主調

No.4　大内（福島県 南会津郡 下郷町）

宿場 大内宿　/　大内宿観光協会　/　-

分析単位

A　遥かなる時を超えて　宿場大内宿

山間にひっそりたたずむ村「大内宿」、ここは、江戸時代の宿場を今に残す、全国でも数少ない集落です。

村を通る街道は、下野街道または会津西街道あるいは南山通りと呼ばれ、参勤交代の大名行列もこの街道を通る、会津と今市を結ぶ重要な街道でした。

明治 17 年、国道 121 号線が開通すると大内宿からその道筋から遠く離れてしまいました。

B　今なお語り継がれる高倉以仁王伝説

平清盛の全盛期に反平氏の挙兵をした高倉以仁王《後白河天皇第二皇子》が、戦いに敗れこの村に潜行したと伝えられます。

毎年 7 月 2 日に行われる祭りは、この高倉宮を祀ったものです。

C　国指定重要伝統的建造物群保存地区　宿場大内宿

はいっと（入る戸）

つい最近まで私たちの生活では、玄関に常時施錠することはありませんでした。くつ（はきもの）をぬぐまでは公共性があり、ここまでの挨拶が「はいっと」です。

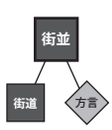
はきものを脱ぐまでに庭（土間）空間があり、今では懐かしい言葉になりました。親しみを持ち合う簡単なかけ声です。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	大内宿	【全体像】	江戸時代の宿場	〔江戸の歴史属性〕
2	大内宿 (町並み)	【線的空間】	江戸時代の宿場を今に残す	〔江戸の歴史属性〕
3	下野街道	【線的空間】	参勤交代の大名行列も通った	〔江戸の歴史属性〕
4	高倉以仁王伝説	【活動】	平清盛全盛期に反平氏の挙兵をした	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	7 月 2 日に行われる祭り	【活動】	高倉宮を祀ったもの	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	はいっと	【活動】	懐かしい言葉	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	土間空間	【点的空間】		

価値グループ

{集約型}



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	転用 - 一般

No.5　新発田（新潟県 新発田市）

新発田市観光ガイド さんさくシバタ・ビ
/　新発田市産業振興部観光振興課・一般社団法人新発田市観光協会　/　-

分析単位

A　城下町、新発田。いまも、安土桃山・江戸時代の記憶を刻む武家カルチャーの磁場。
オラがお殿様といえば、上杉謙信に仕え、景勝との関わりのなかで果てた新発田重家侯。
江戸城にもひけをとらぬほど見事な新発田城を築城した、名君の誉れ高い初代藩主、溝口秀勝侯。
凛とした武士道の美意識は、いまも、新発田城をランドマークとして、往時の道筋や建物に連綿と守り継がれています。街まるごと歴史文化の磁場。旅心も、きっと、引き寄せられる新発田です。

B　新発田は秀勝候の都市計画から始まった。
慶長 3 年 (1598) に加賀大聖寺から入封した初代藩主溝口秀勝は、まず五十公野に居をかまえ、領内の統治と築城の構想を練ったと伝えられます。
天正 15 年 (1587) に果てた新発田重家の城跡を取り入れて新たな城を構築。
3 代藩主・宣直の代に完成した城は、周辺の地勢、湿田湿地をいかした自然の砦。
秀勝候はすぐれた都市計画プランナーでもあったわけです。
新発田城はその後の大火で櫓などを消失するも、そのつど修復されながら現在の姿に至っています。
平成 18 年「日本百名城」に認定。

C　鳥居の向こうに、いにしえの新発田を見つけた。
溝口秀勝、新発田重家の時代よりも、遥か昔。五十公野は神々や仏が降り立つ場所と考えられていました。
けもの道、草いきれの参道、多くの寺社仏閣、祈り。新発田の始まりがここにあります。

D　カラコロと湯上がり散策が似合う越後の奥座敷
美人になれるとウワサの、美肌成分日本一の湯　その湯七変化、月岡温泉
のどかな田園風景にある「月岡温泉」は、大正 6 年 (1917)、石油採掘中の井戸から湯が湧出、そこに建てられた湯小屋 (共同浴場) が始まり。
それ以前、さぎが湯につがりケガを治した "" さぎの湯伝説 "" も残っています。
日によってエメラルドグリーンや乳白色などに変化する湯は、豊富な硫黄成分で肌をツルツルにしてくれます。気軽に楽しめる足湯「湯足美」も。

E　体感して、高揚して、共有したくなる熱気
280 余年の歴史、城下町ならではの神事祭礼　城下町新発田まつり
鎌倉時代にこの地を領した佐々木氏は、諏訪神社を深く崇敬したと伝えられます。
豊臣秀吉の命により、慶長 3 年 (1598) に加賀大聖寺から入封した初代藩主・溝口秀勝は諏訪神社の崇敬が厚く、3 代宣直、4 代重雄の時代に社殿の修繕普請がおこなわれます。
享保 11 年 (1726)、6 代直治が「諏訪神社の神事祭礼の祭、にぎわいとして飾り人形の屋台を出すように」とおふれを出したことから、城下あげての盛大な藩祭りの儀、現在のような「新発田まつり」になったといわれています。

F　大正・昭和の浪漫モダニズム　蕗谷虹児
戦前の少女ロマン雑誌の挿絵などで有名な蕗谷虹児は、新発田が生んだ多才なアーティスト。
画のほかにも図案デザインや作詞などを手がけました。
詩画の代表作「花嫁人形」は、若くして亡くなった美しい母がモデルといわれます。
ロシア正教会風の外観は、周囲の空間とマッチして街中に美しい景観をつくりだしています。

G　地元の素材を大工の技でしつらえるという精神
アントニン & ノエミ・レーモンド設計　カトリック新発田教会
昭和 41 年 (1966) に完成した教会はとくに聖堂が特徴的。
この地域にまったく例のない形は、祭壇を囲んだ全員参加の新しいミサ方式に従っているためです。
また、聖堂の大空間を支える丸太と煉瓦が大変よく調和し、建築後 40 数年を経た現在も、構造や仕上げにまったく問題のない堅牢さが、すぐれた建築作品と評価されるゆえんです。
アメリカ人の聖堂設計者は、日本の大工の高度な技量や煉瓦積みの技術に驚愕し、それを取り入れています。

No.5　新発田（新潟県 新発田市）

新発田市観光ガイド さんさくシバタ・ビ
/　新発田市産業振興部観光振興課・一般社団法人新発田市観光協会　/　-

H　城主が眠る　藩主が眠る　新発田寺町

新発田藩主溝口家の菩提寺　廣澤山寶光寺

新発田藩の初代藩主、溝口秀勝 (1548-1610) は、尾張国溝口村の地侍の出身。

1598 年に豊臣秀吉の命令により、越前蒲原郡に 6 万石を与えられ、加賀大聖寺から家臣領民とともに入封。新発田城、城下町の建設、治水新田開発の基礎を築きました。

曹洞宗「寶光寺」歴代藩主夫妻の墓に眠っています。

境内の推定樹齢 380 年の枝垂れ桜は、徳川家光から寄進されたものと伝えられます。

I　新発田藩の出城に熟成された元禄文化

隠れたる東日本一の名園　国指定名勝　清水園

新発田藩 6 万石 (のちに 10 万石) 溝口家 12 代、274 年間にわたり統治されてきた新発田。

新発田城を居城に、周囲他藩の力をおそれて主要街道筋に置かれた出城が、現在の「清水園」の場所でした。

4 代重雄の元禄 6 年 (1693) に、遠州流の茶人であり幕府茶道方でもあった縣宗知が江戸から招かれ、造園されたのが「清水谷御殿」(のちに清水園) です。

越後から東北にかけて類をみない、また京都や金沢の名園にもひけをとらないしつらいは、江戸元禄文化の舞台として、藩主や家臣らを、茶の湯や能楽の世界へいざないました。

J　庭を流れる新発田川

明治からの姿をそのまま残す　登録有形文化財・登録記念物　石泉荘

「石泉荘（石崎家住宅）」は、新発田川の右岸にもと料亭の離れ座敷、左岸にはもと藩医の隠居所と伝えられる茶室が建っています。

いずれも明治時代の建造で国の登録有形文化財に指定。

意匠を凝らした石畳の道の奥、静かな佇まいの「石泉荘」では、国の登録記念物の庭を眺めながら、抹茶やお弁当をいただくこともできます。

K　職人の技と心の継承

それは文化を守る誇りと先人から渡された時代への責任　新発田「職人協力」宣言

城下町として 400 年余の歴史の中で新発田は、鍛冶屋・染物屋・桶屋・漆屋・指物屋・麩屋など、多くの職人を育んできました。

茶道を重んじた溝口藩の影響もあり、和菓子も盛んな街でもあります。

昔から新発田人は、上質で美しいものを好み、物に対し妥協しないところがありました。

そんな気風の中、職人同士が切磋琢磨し、技術はさらに洗練されたのです。

その長木にわたり受け継がれて来た新発田の職人文化が、今、危機に直面していると感じた皆さんが、今こそ再び、職人同士が協力し合い立ち上がる時だと考え、新発田職人文化交流会を立上げ、次の世代に受け渡すことを目指しています。

L　遠き年月を経て今なお語り継がれる元禄に散った魂の拍動。

新発田が生んだ赤穂浪士、堀部安兵衛を偲んで　義士祭

赤穂浪士のなかでもひときわ名声を誇る堀部安兵衛は、ここ新発田の地で生まれ、そのロマンに満ちた壮大な生涯の礎を築きました。

堀部安兵衛武庸を追想し顕彰する市民の会として、武庸会（たけつねかい）があります。

安兵衛の眠る長徳寺では、毎年 12 月 15 日、武庸会が主催して義士祭が行われ、討ち入り装束をまとった少年少女が市中を練り歩きます。

山門脇に建つ義士堂もこの日のみ一般公開。

ずらりと並んだ四十七士の木像とみごとな天井画が、幻想的に揺らぐろうそくの灯りに照らされ、300 年余りの時を越えて義士たちの熱い想いを今に伝えてくれます。

No.5　新発田（新潟県 新発田市）

新発田市観光ガイド さんさくシバタ・ビ
/　新発田市産業振興部観光振興課・一般社団法人新発田市観光協会　/　-

価値対象と歴史属性

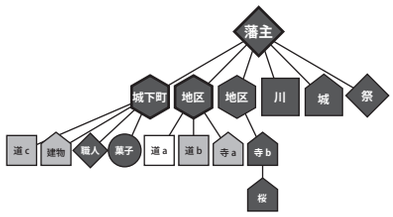
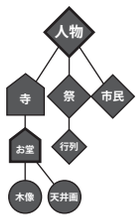
No.	価値対象		歴史属性	
1	新発田	【全体像】	安土桃山・江戸時代の記憶を刻む	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	新発田重家	【活動】	上杉謙信・景勝に仕えた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	溝口秀勝	【活動】	初代藩主	〔江戸の歴史属性〕
4	新発田城	【点的空間】	江戸城にもひけをとらぬほど見事な、江戸時代に完成した	〔江戸の歴史属性〕
5	道筋	【線的空間】	武士道の美意識は連綿と守り継がれている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	建物	【点的空間】	武士道の美意識は連綿と守り継がれている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	五十公野	【全体像】	溝口秀勝が居をかまえた / 溝口秀勝や新発田重家よりも遥か昔	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	けもの道	【線的空間】		
9	参道	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	寺社仏閣	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	月岡温泉	【全体像】	大正 6 年はじまり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	さぎの湯伝説	【活動】	大正以前	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	足湯	【点的空間】		
14	城下町新発田まつり	【活動】	280 年の歴史	〔江戸の歴史属性〕
15	蕗谷虹児	【活動】	大正・昭和の浪漫モダニズム	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	ロシア正教会風の外観	【点的空間】		
17	カトリック新発田教会	【点的空間】	昭和 41 年完成	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	聖堂	【点的空間】	昭和 41 年完成	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	赤レンガ	【点的空間】	昭和 41 年完成	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	丸太	【点的空間】	昭和 41 年完成	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
21	新発田寺町	【全体像】	城主・藩主が眠る	〔江戸の歴史属性〕
22	廣澤山寶光寺	【点的空間】	藩主溝口家の菩提寺	〔江戸の歴史属性〕
23	枝垂れ桜	【点的空間】	樹齢 380 年、徳川家光から寄進された	〔江戸の歴史属性〕
24	清水園	【点的空間】	元禄 6 年に造園された、江戸元禄文化の舞台	〔江戸の歴史属性〕
25	石泉荘	【点的空間】		
26	新発田川	【線的空間】	江戸時代の当時のままの川筋、江戸時代に溝口秀勝が開削した、江戸から明治・大正時代にかけて	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
27	職人	【活動】	城下町の 400 年の歴史の中で	〔江戸の歴史属性〕
28	和菓子	【モノ】	溝口藩の影響もあり	〔江戸の歴史属性〕
29	堀部安兵衛	【活動】	赤穂浪士	〔江戸の歴史属性〕
30	義士祭	【活動】	堀部安兵衛を偲んで	〔江戸の歴史属性〕
31	武庸会	【活動】	堀部安兵衛を顕彰する市民の会	〔江戸の歴史属性〕
32	長徳寺	【点的空間】	安兵衛の眠る	〔江戸の歴史属性〕
33	少年少女	【活動】	討ち入り装束をまとった	〔江戸の歴史属性〕
34	義士堂	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
35	四十七士の木像	【モノ】	義士たちの熱い想いを伝える	〔江戸の歴史属性〕
36	天井画	【モノ】	義士たちの熱い想いを伝える	〔江戸の歴史属性〕

No.5　新発田（新潟県 新発田市）

新発田市観光ガイド さんさくシバタ・ビ
/　新発田市産業振興部観光振興課・一般社団法人新発田市観光協会　/　-

価値グループ

{分散型}

5-a		一次の価値対象	全体像型
		階層構造	一次の結合数：2 単純階層
		歴史属性	一般主調
5-b		一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
		階層構造	一次の結合数：3 単純階層
		歴史属性	一般主調
5-c 		一次の価値対象	生活型 - 活動系
		階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 結合分散
		歴史属性	転用主調
5-d 		一次の価値対象	生活型 - 活動系
		階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合集中・小
		歴史属性	転用主調

No.6　水戸（茨城県 水戸市）

水戸市観光マップ 黄門さまのふるさと水戸　/　水戸市観光課　/　2012

分析単位

A　「黄門さまのふるさと水戸」は、徳川御三家の一つ水戸藩の城下町として栄えました。
市内には初代藩主頼房公（威公）、水戸黄門として有名な２代藩主光圀公（義公）、最後の将軍慶喜公ゆかりの史跡が数多くあります。
水戸徳川家の歴史的文化遺産（偕楽園、千波湖、保和苑、弘道館、水戸城跡など）は「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選定されています。

B　偕楽園・千波湖周辺
３千本の梅の香りがかぐわしい偕楽園。桜が咲き誇り、豊かな木々の緑が美しい千波湖・桜川・桜山。
柔らかい日差しに誘われて散策を楽しみたい。

C　弘道館、水戸駅周辺
水戸学学風を象徴するかのごとく清香漂う弘道館。ありし日の水戸城を偲ばせるお堀や土塁。
城下町水戸の歴史の道を歩きたい。

D　保和苑周辺（ロマンチックゾーン）
太古の昔から近代までの歴史遺産が、時の流れを忘れていたかのように姿を止める。
のんびりと巡り、古き時代に思いを馳せたい。

E　水戸市東部
伝説の巨人・ダイダラボウに誘われ、備前堀や、黄門さま（光圀公）ゆかりの寺々をのんびりと巡りたい。

F　水戸の歴史遺産を世界遺産に！
水戸市では、弘道館・偕楽園をはじめ、近世の「学びの文化」を代表する学問教育遺産について、足利学校（栃木県足利市）、咸宜園（大分県日田市）との広域連携により、世界遺産登録を目指しています。

価値対象と歴史属性

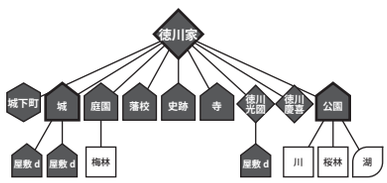
No.	価値対象		歴史属性	
1	水戸	【全体像】	黄門さまのふるさと、水戸藩の城下町として栄えた	〔江戸の歴史属性〕
2	水戸徳川家	【活動】	徳川御三家の一つ	〔江戸の歴史属性〕
3	黄門さま、光圀公	【活動】	2 代藩主	〔江戸の歴史属性〕
4	慶喜公	【活動】	最後の将軍	〔江戸の歴史属性〕
5	史跡	【点的空間】	頼房公・光圀公・慶喜公ゆかりの	〔江戸の歴史属性〕
6	偕楽園	【点的空間】	水戸徳川家の歴史的文化遺産、近世の学びの文化を代表する	〔江戸の歴史属性〕
7	千波湖	【点的空間】	水戸徳川家の歴史的文化遺産	〔江戸の歴史属性〕
8	保和苑	【点的空間】	水戸徳川家の歴史的文化遺産	〔江戸の歴史属性〕
9	弘道館	【点的空間】	水戸徳川家の歴史的文化遺産、近世の学びの文化を代表する	〔江戸の歴史属性〕
10	水戸城跡	【点的空間】	水戸徳川家の歴史的文化遺産	〔江戸の歴史属性〕
11	梅	【線的空間】		
12	桜	【線的空間】		
13	桜川	【線的空間】		
14	桜山	【点的空間】		
15	お堀	【点的空間】	ありし日の水戸城を偲ばせる	〔江戸の歴史属性〕
16	土塁	【点的空間】	ありし日の水戸城を偲ばせる	〔江戸の歴史属性〕
17	ダイダラボウ	【活動】	伝説の巨人	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
18	備前堀	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	寺々	【点的空間】	黄門さまゆかりの	〔江戸の歴史属性〕

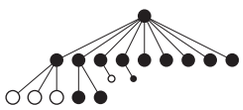
No.6　水戸（茨城県 水戸市）

水戸市観光マップ 黄門さまのふるさと水戸　/　水戸市観光課　/　2012

価値グループ

{集約型}





一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：9 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用主調

No.7　土浦（茨城県 土浦市）

遊覧都市つちうら 水辺と歴史の街さんぽ　/　土浦市産業部商工観光課　/　2014

分析単位

A　土浦市はこんなところです

土浦市は、日本で２番目の広さを誇る湖「霞ヶ浦」の西岸と関東の名峰「筑波山」の南麓に位置する、水郷筑波国定公園の玄関口として、霞ヶ浦の雄大な眺めと筑波山麓の豊かな自然に恵まれた緑あふれるまちです。

市の基盤は江戸時代初期に城下町として整備され、今も土浦城址周辺など市内各所には城下町の雰囲気が残されています。

江戸と水戸を結ぶ旧水戸街道と霞ヶ浦の水運の交わる水陸交通の要衝に位置し、商都としても栄えた歴史と文化の香り漂うまちです。

B　江戸情緒が息づくまちをぶらり　歴史の小径さんぽ

石畳で整備された趣ある散策路を巡ると土浦城址、まちかど蔵などが点在し歴史的建造物に触れられます。

さんぽ途中には、季節の花を眺めたり名物・土浦ツェッペリンカレーを味わったりと楽しい発見もたくさんあります。

C　城下町の風情を今に残す　歴史の小径

土浦城址周辺、まちかど蔵周辺に点在する歴史的建造物などをめぐる散策道。

中城通りの各店舗には行灯や暖簾が店先を飾り、情趣あふれる街並みをめぐることができます。

D　人情豊かな風土が育んだ土浦の伝統行事　歴史情緒を感じる祭り

土浦の古くからの風習を感じられる雛まつりや伝統を受け継いだ風格ある祭りが盛りだくさんです。

歴史ある土浦の色を体験できる店も数多くあります。

風土が生んだ伝統に浸ってみてはいかがでしょうか。

E　つちうらカレー物語

土浦海軍航空隊とツェッペリン伯号ゆかりの土浦カレー

F　自然豊かな里山の見どころ　里山に点在する歴史香る見どころ

豊かな自然環境に恵まれた里山には、先人の足跡が数多く残されています。

文化財や歴史を偲ばせる伝説の地などひっそりと息づく史跡の数々を訪ねてみるのもおすすめです。

G　伝説の地を訪ねる　小町の里

平安時代の歌人、絶世の美女とうたわれた小野小町伝説が残る里。

直径 7m の水車が里のシンボル。

小町に関する資料などを展示する小町の館や農産物直売所、そば処があります。

ここでは、常陸秋そばもぜひ味わいたいところ。

周辺には「小町の墓」や「小町の腰掛石」なども残っているので、里山の雰囲気と一緒に散策するのもおすすめです。

H　土浦のお土産　わがまちの自慢の一品！

湖畔の町・土浦は、ワカサギやウナギなど水産物や水産加工品の宝庫！

また、「カレーのまち土浦」を目指し、特産品のレンコンを使ったカレーが評判です。

歴史ある城下町としての顔も持つ土浦には、伝統ある菓子類もたくさんあります。

No.7　土浦（茨城県 土浦市）

遊覧都市つちうら 水辺と歴史の街さんぽ　/　土浦市産業部商工観光課　/　2014

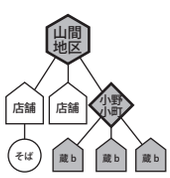
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	土浦市	【全体像】	江戸時代初期に城下町として整備され	〔江戸の歴史属性〕
2	霞ヶ浦	【周縁部】		
3	筑波山	【周縁部】		
4	土浦城址	【点的空間】	城下町の雰囲気が残る	〔江戸の歴史属性〕
5	旧水戸街道	【線的空間】	江戸と水戸を結ぶ	〔江戸の歴史属性〕
6	歴史の小径	【線的空間】	江戸情緒が息づく、城下町の風情を今に残す	〔江戸の歴史属性〕
7	石畳	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	まちかど蔵	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	歴史的建造物	【点的空間】	歴史的	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	花	【点的空間】		
11	土浦ツェッペリンカレー	【モノ】	土浦海軍航空隊とツェッペリン伯号ゆかり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	中城通り	【線的空間】		
13	各店舗	【点的空間】		
14	行燈	【モノ】		
15	暖簾	【モノ】		
16	雛まつり	【活動】	土浦の古くからの風習を感じられる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	祭り	【活動】	伝統を受け継いだ	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
18	里山、小町の里	【全体像】	小野小町伝説が残る	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	史跡	【点的空間】	歴史を偲ばせる、文化財	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
20	小野小町伝説	【活動】	平安時代の歌人	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
21	水車	【点的空間】		
22	小町の館	【点的空間】	小野小町の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
23	農産物直売所	【点的空間】		
24	そば処	【点的空間】		
25	常陸秋そば	【モノ】		
26	小町の墓	【点的空間】	小野小町の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
27	小町の腰掛け石	【点的空間】	小野小町の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
28	ワカサギ	【モノ】		
29	ウナギ	【モノ】		
30	菓子類	【モノ】	伝統ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

価値グループ

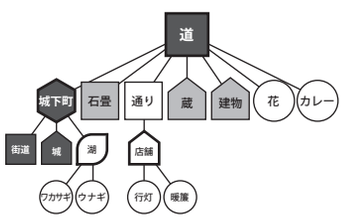
{分散型}

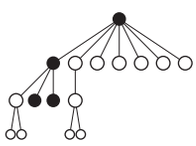
7-a



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合階層・小
歴史属性	一般主調

7-b





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：7 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用主調

No.8　古河（茨城県 古河市）

茨城県古河市観光ガイドブック 歴史浪漫の街古河　/　古河市役所観光振興課　/　2013

分析単位

A　ようこそ。関東ド・マンナカ宣言のまち古河市へ。
関東平野のほぼ中央、関東の小京都として知られる古河市。
茨城県の最西端に位置し、利根川、渡良瀬川がつくりだす美しい自然景観に恵まれた水と緑豊かな町です。
万葉集や吾妻鏡に名前が登場するなど、その歴史は古く、中世には、古河公方の拠点として、近世には有力譜代大名の城下町として発展してきました。
風格ある歴史・文化、先人たちの偉大な足跡が織りなす風景に触れ、ひととき、「古河」の魅力を存分にお楽しみください。

B　古河駅西口エリア
古河駅西口エリアは、城下町の風情が色濃く残り、街歩きの楽しさを存分に実感できます。
古河駅西口地区は、市域の西側の旧古河城下、古河宿の一帯を示しています。

C　ガイドと歩く古河　街歩きで再発見。
歴史と伝統の息づくまち、古河を訪れるお客様に喜んで頂けるように、「ふるさと案内人」がご案内いたします。団体、個人を問わず、ご希望のコースを設定しますのでお気軽にご利用ください。

D　ゆっくりと流れた歴史を知る。
万葉集、古河公方、古河城、鷹見泉石、雪華図説…。
古河の歴史が息づくシーンの中で先人たちへの想いをめぐらせてみませんか。

E　古河の歴史を創った偉人
古河城主　江戸幕府初期の大老　土井利勝（1573 ～ 1644）
「雪華図説」の著者　江戸後期の幕府老中　土井利位（1789 ～ 1848）
土井利位の家老　情報収集に長けた参謀　鷹見泉石（1785 ～ 1858）

F　江戸の時代に「雪華」というニューモードの誕生。
天保３年、日本で初めて雪の自然科学書が刊行されました。「雪華図説」と名付けられその本の著者は、古河藩主土井利位。
雪の効能 14 カ条と、雪の結晶 86 種の観察図鑑として誕生したものです。
97 種の雪華図を掲載し、のちに刊行される続編とともに、蘭鏡 (顕微鏡) を用いたこの観察記録は、江戸時代、日本人の科学成果のひとつとして高く評価されます。
…やがて、文様としての華やかさから、さまざまな文様へ取り入れられ、大いにもてはやされ、江戸庶民のあいだに流行するまでになりました。
彼の官途名にちなんで「大炊模様」と名付けられた利位の「雪華」は、江戸庶民に受け入れられ、しゃれたニューモードとして人気の的になります。
科学する殿さま利位の美への欲求なくして、この傑作が生まれることはなかったでしょう。

G　日本唯一の専門美術館　篆刻美術館
平成３年に日本で初めての篆刻専門の美術館として会館しました。
大正９年に建築された３階建ての石蔵を、当時の雰囲気を残して展示室に改修したものです。
平成 10 年には、国の登録有形文化財に登録されました。
篆刻は、印章から発展したもので、14 世紀頃中国におこりました。
四書五経や漢詩などから語句を選び、篆書という二千数百年前の古文字を柔らかい石や木に刻み、朱色の印泥をつけて上に押したものを鑑賞するものです。
館内には、古河出身の故生井子華（いくい・しか）の遺作をはじめ、日本の歴史的作家の作品を常時展示しています。また学習室では、篆刻体験やビデオ鑑賞や篆刻関連図書の閲覧もできます。

H　古河を舞台とした文学にふれる。歴史と文学
あたしとむじなたち　永井路子　　冬の標　乙川優三郎　　南総里見八犬伝　曲亭馬琴
万葉集に詠まれた古河

No.8　古河（茨城県 古河市）

茨城県古河市観光ガイドブック 歴史浪漫の街古河　/　古河市役所観光振興課　/　2013

I　蔵のある風景　そぞろ歩くほどに、古河の道筋に新しい出会いがー。
古河駅西口地区には、古河城を中心とする城下町として、また古河藩時代に日光街道の宿場町として栄えたことから、多くの蔵が建てられ、現在でも多くの蔵が残っています。

J　お休み処　坂長
国の登録有形文化財の商家を喫茶・お食事処として活用しています。
当時を偲ばせる数々の蔵でのひと時をお過ごしください。

K　古河城、歴史散歩。　江戸の文化にふれる。
古河城は平安時代末期あるいは鎌倉時代初期に、下河辺行平が古河の立崎に築いた城館とされています。
古河公方足利成氏が古河へ入った康生元年（1455）当時、「御陣」と呼ばれる程度のものでした。
…江戸時代には、譜代大名の多くが城主を入れ替わりで務めていき、近代城郭として、また行政機能を担うとともに、日光社参時に将軍の宿として機能した城となりました。
しかし明治時代初期になると廃城令とともに古河城も廃城となりその姿を消していきます。
明治末期には渡良瀬川の治水問題のために行われた河川改修工事の際に残された城跡も大半が消滅し、下流の関宿城と同様に城跡が徹底的に破壊されました。
現在ではその面影もあまりなく、土塁や曲輪などの一部が残っているだけです。
そんな遠い昔を思いながら現在の情景と見比べ街中散策し、江戸の文化に触れてみてはいかがでしょうか。

L　ミュージアムタウンで新たなデイを。　ミュージアムめぐり
多くの文化人を輩出した風土を背景に古河駅西口地区には、個性豊かな博物館や美術館があります。
収蔵品はもちろん、建物もアートの一部。歴史、文化、芸術との出会いをお楽しみください。

M　古刹・名刹・宮めぐり　古河公方ゆかりの寺社や江戸時代の貴重な文化財をご案内します。
室町時代から 130 年余にわたる古河公方時代を経て、江戸時代には徳川譜代大名の城下町であった古河。
日光奥州街道の要地として、老中格の大名が城主となり栄え、今もなお、公方ゆかりの寺社や江戸時代からの貴重な文化財などが市内のあちこちにあり、当時を偲ばせます。

N　古河七福神めぐり
古河駅西口周辺に祭られている七福神それぞれの社を 7000 歩で巡るコースをつくり、多くの観光客に巡っていただこうというものです。

O　カレーと麺の街おこし　古河の七幅カレーめん
古河七福神めぐり」と「古河のカレーめん」を合わせて「古河の七幅カレーめん」として提供しています。七福神にちなみ、各店のメニューは七種類の具材を加えることを共通のルールとしています。

No.8　古河（茨城県 古河市）

茨城県古河市観光ガイドブック 歴史浪漫の街古河　/　古河市役所観光振興課　/　2013

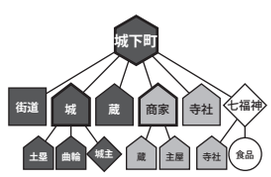
価値対象と歴史属性

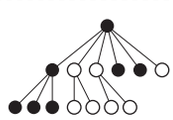
No.	価値対象		歴史属性	
1	古河市	【全体像】	有力譜代大名の城下町 / 万葉集や吾妻鏡に名前が登場する , 中世には古河公方の拠点 , 関東の小京都として知られる , あたしとむじなたちおよび冬の標に描かれた	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	利根川	【線的空間】		
3	渡良瀬川	【線的空間】		
4	古河駅西口地区	【全体像】	城下町の風情が色濃く残り、旧古河城下、古河宿の一帯	〔江戸の歴史属性〕
5	ふるさと案内人	【活動】		
6	土井利勝	【活動】	古河城主、江戸幕府初期の大名	〔江戸の歴史属性〕
7	土井利位	【活動】	江戸後期の幕府老中	〔江戸の歴史属性〕
8	鷹見泉石	【活動】	土井利位の家老	〔江戸の歴史属性〕
9	雪華図説	【モノ】	江戸庶民に流行した、天保 3 年に刊行、江戸時代の日本人の科学成果のひとつ	〔江戸の歴史属性〕
10	篆刻美術館	【点的空間】	大正 9 年に建築された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	作品	【モノ】	日本の歴史的作家の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	篆刻体験	【活動】		
13	ビデオや篆刻関連図書	【モノ】		
14	蔵	【点的空間】	現在でも多く残っている	江戸の歴史属性〕
15	道筋 (日光街道)	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
16	お休み処坂長	【点的空間】	国の登録有形文化財の商家	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	古河城	【点的空間】	江戸の文化にふれる , 譜代大名が城主となった , 将軍の宿としても使われた / 平安末期〜鎌倉初期に築いた城館	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	土塁	【点的空間】	江戸の文化にふれる	〔江戸の歴史属性〕
19	曲輪	【点的空間】	江戸の文化にふれる	〔江戸の歴史属性〕
20	博物館や美術館	【点的空間】		
21	寺社	【点的空間】	古河公方ゆかりの	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
22	古河七福神めぐり	【活動】		
23	古河のカレーめん	【モノ】		

価値グループ

{分散型}

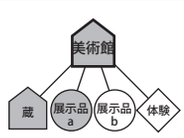
8-a





一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用 - 一般

8-b



一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：4 単純階層
歴史属性	一般主調

No.9　栃木（栃木県 栃木市）

栃木市観光ガイド ぶらりのんびり栃木へようこそ
/　栃木市役所 商工観光課・一般社団法人栃木市観光協会　/　2014

分析単位

A　粋と雅のであう街

蔵の街とちぎは、日光例幣使街道の宿場町として、また、江戸との舟運で栄え「小京都」「小江戸」とも呼ばれており独特の風情を感じさせる街です。

B　蔵の街並み

巴波川沿いや日光例幣使街道沿いには、黒塗りの見事な見世蔵や、白壁の土蔵群が残り、多くの建物は国の登録有形文化財になっています。
今なお現役で活かされている蔵の街並みを、ゆったり、のんびりお楽しみください。

C　蔵の街遊覧船

20 分ほど流れに乗って、船頭が巴波川を案内いたします。
舟の上から蔵の風情をゆっくりとお楽しみください。

D　豪華絢爛な人形山車がとちぎ秋まつりで集う

江戸との舟運で栄えた商都「小江戸とちぎ」には、今でも商人の心意気が残っています。
豪華絢爛な山車が蔵の街を巡行する「とちぎ秋まつり」は､栄華を極めた往時の栃木を彷彿とさせます。
江戸末期から明治にかけての美術工芸の粋を集めた人形山車、そして山車同士がお囃子を競い合う「ぶっつけ」は、祭り一番の見どころです。

E　栃木市ってこんなところです！

栃木市は平成 26 年 4 月の岩舟町との合併により、県南の 1 市 5 町が 1 つになりました。
「三毳山」「岩船山」「大平山」「渡良瀬湧水地」など県南のシンボル的な自然景観と「渡良瀬川」「思川」「巴波川」「永野川」などの豊かな河川を有しています。
古くは律令時代に下野国庁が置かれ、江戸時代には、日光例幣使街道の宿場町として栄え、市内を流れる巴波川の舟運を活用した商人町として発展を遂げました。
喜多川歌麿ゆかりの地でもあり、現在も蔵造りの建物を中心とする歴史的な街並みが残っており、多くの観光客の関心を集めています。
また、米、イチゴ、ぶどうをはじめとする多彩な農産物を生産する県内有数の農業地帯でもあり、今日では、食の地域ブランドとしても認知され、賑わいを呼んでいます。

No.9　栃木（栃木県 栃木市）

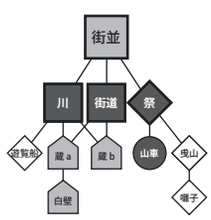
栃木市観光ガイド ぶらりのんびり栃木へようこそ
/　栃木市役所 商工観光課・一般社団法人栃木市観光協会　/　2014

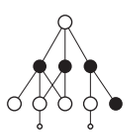
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	蔵の街(蔵の街並み)	【線的空間】	今なお現役で活かされている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
2	とちぎ	【全体像】	宿場町及び江戸との舟運で栄えた、「小江戸」と称される、喜多川歌麿ゆかり / 律令時代に下野国庁がおかれた、「小京都」と称される	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	日光例幣使街道	【線的空間】	江戸時代には	〔江戸の歴史属性〕
4	巴波川	【線的空間】	江戸時代には	〔江戸の歴史属性〕
5	見世蔵	【点的空間】	国の登録有形文化財、今なお現役で活かされている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	白壁	【点的空間】	国の登録有形文化財、今なお現役で活かされている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	土蔵	【点的空間】	国の登録有形文化財、今なお現役で活かされている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	蔵の街遊覧船	【活動】		
9	人形山車	【モノ】	江戸末期から明治にかけての美術工芸の粋を集めた	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	とちぎ秋まつり	【活動】	栄華を極めた往時の栃木を彷彿とさせる	〔江戸の歴史属性〕
11	ぶっつけ	【活動】		
12	三毳山	【周縁部】		
13	岩船山	【周縁部】		
14	大平山	【周縁部】		
15	渡良瀬湧水地	【周縁部】		
16	渡良瀬川	【線的空間】		
17	思川	【線的空間】		
18	永野川	【線的空間】		
19	米	【モノ】		
20	イチゴ	【モノ】		
21	ぶどう	【モノ】		

価値グループ

{集約型}





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合分散
歴史属性	一般 - 転用

No.10　川越（埼玉県 川越市）

小江戸川越たっぷり満喫散策マップ　/　小江戸川越観光協会　/　2014

分析単位

A　蔵造りの町並み　一番街

川越の土蔵造りの店舗は、いわゆる「蔵造り」として有名です。
蔵造りは類焼を防ぐための耐火建築として町家にも用いられてきました。
30 数棟の蔵造りが軒を連ねる様は、他の都市では見られない 江戸情緒あふれる景観です。
蔵造りの町並みは平成 11 年 12 月には国の重要伝統的建造物群保存地区に、平成 19 年 1 月には、「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選定されました。

B　菓子屋横丁（かおり風景百選）

昭和初期には 70 軒とはいかないまでも、今でも 20 数軒の店舗が連なり合う菓子屋横丁。
下町風の懐かしい香りが漂うことから、平成 13 年度には環境省主催の「かおり風景百選」に選ばれています。

C　時の鐘（残したい日本の音風景百選）

寛永の創建からおよそ 390 年間にわたって美しい音色で「時」を告げてきた川越のシンボルです。
現在のものは 4 代目といわれ、1 日に 4 回（6 時・正午・15 時・18 時）鐘の音を響かせています。

D　川越城本丸御殿

川越城は長禄元年 (1457) の築城。本丸御殿が造営されたのは嘉永元年 (1848)。
現在は玄関・大広間などと移築復元された家老詰所が残り、その堂々たる姿は埼玉県指定文化財に指定されています。

E　国指定重要無形民族文化財　川越まつり　絢爛豪華な祭礼絵巻

慶安元年 (1648) から始まった川越氷川祭は江戸「天下祭」を今に伝える山車行事。豪華絢爛な山車が蔵造りの町並みを中心にを曳き回され、見物客を圧倒します。
出会った山車同士が互いに囃子を披露し合う「曳っかわせ」が最大の見どころです。10 月第 3 土・日に開催されます。

価値対象と歴史属性

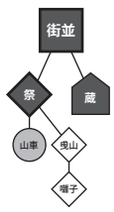
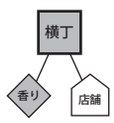
No.	価値対象		歴史属性	
1	川越	【全体像】	小江戸川越	〔江戸の歴史属性〕
2	蔵造りの町並み	【線的空間】	江戸情緒あふれる	〔江戸の歴史属性〕
3	土蔵造りの店舗	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
4	菓子屋横丁	【線的空間】	昭和初期	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	店舗	【点的空間】		
6	香り	【活動】	下町風の懐かしい	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	時の鐘	【点的空間】	寛永から 390 年間にわたって	〔江戸の歴史属性〕
8	川越城本丸御殿	【点的空間】	本丸御殿が造営されたのは嘉永元年 / 長禄元年の築城	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	玄関	【点的空間】	本丸御殿が造営されたのは嘉永元年	〔江戸の歴史属性〕
10	大広間	【点的空間】	本丸御殿が造営されたのは嘉永元年	〔江戸の歴史属性〕
11	家老詰所	【点的空間】	本丸御殿が造営されたのは嘉永元年	〔江戸の歴史属性〕
12	川越まつり	【活動】	慶安元年から始まった、江戸「天下祭」を今に伝える	〔江戸の歴史属性〕
13	山車	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	曳っかわせ	【活動】		

No.10　川越（埼玉県 川越市）

小江戸川越たっぷり満喫散策マップ　/　小江戸川越観光協会　/　2014

価値グループ

{分散型}

10-a			一次の価値対象：空間型 - 線的空間系 階層構造：一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散 歴史属性：転用主調
10-b			一次の価値対象：空間型 - 線的空間系 階層構造：一次の結合数：2 単純階層 歴史属性：一般主調
10-c			一次の価値対象：空間型 - 点的空間系 階層構造：一次の結合数：3 単純階層 歴史属性：転用主調

No.11　木更津（千葉県 木更津市）

千葉県木更津市観光ガイドまるごと KISARAZU　/　木更津市経済部商工観光課　/　2010

分析単位

A　豊かな自然、歴史、ロマンあふれる伝説の地　木更津

東京湾アクラインやかずさアカデミアパークをはじめ、四季を通じて楽しめるリゾートタウンとして着実な歩みを進めています。

B　江戸前通り

江戸の前面に広がる海が「江戸前」。そこで採れる新鮮な海の幸が江戸前の味。
そして、この言葉は「粋でいなせ」の代名詞でもあります。
木更津もまた、お江戸と繁栄をともにしてきた 江戸前のまち。
そんな気風にはぐくまれてきた木更津情緒を訪ねてみませんか。

C　歴史通り

木更津という地名の起りといえば、必ず語られるのが日本武尊と弟橘媛の悲恋の伝説。
伝説によれば、みことが姫を偲んで、暫しこの地を去らなかったので、この地方を「君さらず」と呼ぶようになったのだとか。
そんな古事記の時代から今に続く木更津の歴史を、数々の史料をたどりながら体験すれば、古代のロマンが鮮やかに蘇ります。

D　KISARAZU　今昔物語　PART1　歴史・文化財

地理的条件から栄えてきた木更津は、歴史と伝統に彩られ、市内に点在する古墳や名刹から昔を偲ぶことができます。なかでも鎌倉から江戸時代にかけての近世の 貴重な文化財が数多く残されています。
開基を室町時代とする長楽寺は木造薬師如来座像を本尊とし、金銅孔雀文磬（南北朝時代の仏具）、金銅五鈷鈴（鎌倉時代の仏具）等、まさに文化財の宝庫です。
その近辺には「峯の薬師さま」の名で親しまれている代表的鎌倉仏・木造薬師如来立像を本尊とする東光院、日本で唯一の貴重な出土例である金の鈴を出土した金鈴塚古墳などが見られます。
また江戸時代の名残として、太田山公園に移築復元された江戸時代中期に建てられた旧安西家住宅、上総博物館蔵の葛飾北斎の絵馬「富士の巻狩りの図」など、公に開かれた公共施設で様々な文化財に出会うことができます。

E　KISARAZU　今昔物語　PART2　祭・年中行事

昔ながらの木更津のお祭りといえば、八劔八幡神社の夏祭りと、正月 7 日に行われる中島（金田地区）の「ぼん天立て」が有名です。
夏まつりの呼び物は、なんといっても重さ 1.5 トンの「大御輿」。
作られたのは嘉永 3 年 (1850) と歴史も古く、関東三大御輿の一つです。
7 月の第二土曜及び翌日曜行われる大祭では、昔は力自慢の若い衆が年ごとにそろいの浴衣と白足袋を新調し「通りが三筋に分かれてござる」とうたわれた賑やかな各町内を、横棒も通さず練り歩いたと言います。
いまでも各受持ちの町内では、他の町に負けぬようこの日ばかりは精一杯のがんばりで祭を盛り上げます。
この大御輿は、平成元年 30 年ぶりの大改修で豪華な姿を蘇らせました。
4 年秋には中国の北京に渡り、大デモンストレーションが行われました。
祭ばやしもたいへん伝統のあるすばらしいもので、「木更津ばやし」として県の無形文化財に指定されています。
北片町区には徳川家康より拝領したという獅子頭が伝えられており、いまでは市指定文化財として上総博物館に展示されています。
中島の「ぼん天立て」は、元禄時代から 300 年続く伝統行事で、国の無形民俗文化財です。
1 月 7 日、七草の日の夜明けを告げるほら貝の音とともに、中島六宿の若者たちが先端に「御幣」をつけた竹の梵天を担ぎ出し、海中に押し立てていきます。
白鉢巻、赤や紫のたすきがけ、真新しいさらしの褌姿で「やあ、やあ」のかけ声とともに寒中の海に飛び込む有様は、勇壮そのものです。
この行事は、出羽三山信仰に始まったといわれ、これに参加して初めて若者達は成人として認められたということです。

No.11　木更津（千葉県 木更津市）

千葉県木更津市観光ガイドまるごと KISARAZU　/　木更津市経済部商工観光課　/　2010

F　あさり料理　江戸前の味と言えばなんと言っても「あさり」！

G　明るく楽しい店　港町の情緒を楽しむ

かつて海上交通の拠点であった木更津は、訪れた人が旅の疲れを癒す娯楽の場として、夜なお賑やかな町でした。

現在でも市内には、伝統を持つ旅館や江戸前の味を伝える料理店が数多く軒を並べており、そのしっとりとしたたたずまいに路地から流れる三味線の粋な調べは、旅人の旅情をかきたてることでしょう。

家族向き・グループ向きの旅館やビジネスホテル、海の幸を堪能できるレストランや気軽に飲んで歌って踊れるナイトスポットなど、ニーズにあわせて楽しく安心して利用できるのが「明るく楽しい店」の看板の店。房総の旅の一夜を、思い出深く演出します。

詳しくは木更津市観光協会へお問合せを。

H　海と緑に囲まれた豊かな自然　人々の交流のなかで培われた文化

そして、いくども輝いた時代をもつ古い歴史

新しい東京湾時代を迎え大きく飛翔しようとしているまち

それが KISARAZU です。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	海	【周縁部】	江戸の前面に広がる	〔江戸の歴史属性〕
2	海の幸	【モノ】	江戸前の味	〔江戸の歴史属性〕
3	木更津	【全体像】	お江戸と繁栄をともにしてきた江戸前のまち	〔江戸の歴史属性〕
			古事記の時代から今に続く	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	日本武尊と弟橘媛の伝説	【活動】	古事記の時代	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	長楽寺	【点的空間】	開基を室町時代とする	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	木造薬師如来座像	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	金銅孔雀文磐	【モノ】	南北朝時代の仏具	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	金銅五鈷鈴	【モノ】	鎌倉時代の仏具	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	木造薬師如来座像 (2)	【モノ】	鎌倉仏	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	東光院	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	金の鈴	【モノ】		
12	金鈴塚古墳	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	大田山公園	【点的空間】		
14	旧安西家住宅	【点的空間】	江戸時代の名残、江戸時代中期に建てられた	〔江戸の歴史属性〕
15	上総博物館	【点的空間】		
16	富士の巻狩りの図	【モノ】		
17	八剱八幡神社の夏祭り	【活動】	江戸時代の名残、葛飾北斎の絵馬	〔江戸の歴史属性〕
			昔ながらの木更津のお祭り	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
18	大御輿	【モノ】	創られたのは嘉永 3 年	〔江戸の歴史属性〕
19	若い衆	【活動】		
20	各町内	【全体像】	「通りが三筋に分かれてござる」とうたわれた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	祭ばやし	【活動】	伝統のある、県の無形文化財に指定	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
22	獅子頭	【モノ】	徳川家康より拝領した	〔江戸の歴史属性〕
23	ぼん天立て	【活動】	元禄時代から 300 年続く伝統行事	〔江戸の歴史属性〕
24	ほら貝の音	【活動】		
25	若者	【活動】		
26	梵天	【モノ】		
27	あさり	【モノ】	江戸前の味	〔江戸の歴史属性〕
28	旅館	【点的空間】	伝統を持つ	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
29	料理店	【点的空間】	江戸前の味を伝える	〔江戸の歴史属性〕
30	路地	【線的空間】		
31	三味線の調べ	【活動】		

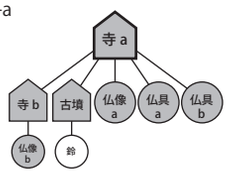
No.11　木更津（千葉県 木更津市）

千葉県木更津市観光ガイドまるごと KISARAZU　/　木更津市経済部商工観光課　/　2010

価値グループ

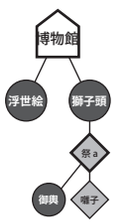
{分散型}

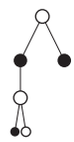
11-a



一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般主調

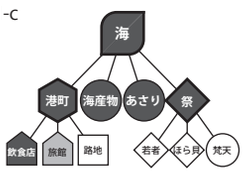
11-b

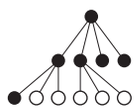




一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般 - 転用

11-c





一次の価値対象	周縁部型
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用主調

No.12　大多喜（千葉県 夷隅郡 大多喜町）

城と渓谷の町 大多喜情報マップ　/　大多喜町観光協会　/　2013

分析単位

A　歴史　大多喜城

徳川四天王のひとり、本多忠勝を初代城主とする近世大多喜城の本丸跡に城郭様式で建設した博物館です。〔房総の城と城下町〕をテーマに刀や鎧、衣装等を展示し、毎年秋には、県内外の多彩の資料を集めた企画展を開催しています。

また、定期的に歴史教室や講座を開催するほか、歴史資料の調査・研究・保管・展示を行い、県民が身近に地域の歴史に触れ、生涯学習に寄与することを目指しています。

B　本多忠勝

13 歳で初陣を飾り、関ヶ原の合戦など生涯 57 回の戦において、かすり傷 1 つ負わなかったといわれる天下無双の武将で、忠勝の常識を超えた強さは、天下取りを目指した家康にとって絶対の切り札であり、家康の側には常に忠勝の存在がありました。

忠勝は安房の里見氏の勢力を抑えるため大多喜の地に移封され、当時房総一の十万石を治め、現在まで続く城下町を造りました。

C　お城まつり

明治 4 年 (1871 年)7 月、廃藩置県とともに大多喜城は廃城となり、城内の建造物はすべて破却されました。

明治 41 年、県史跡「上総大多喜城本丸跡」として指定され、昭和 50 年に大多喜城（現・県立中央博物館大多喜城分館）が建設されたのを記念し、当時を偲んで毎年 9 月下旬にお城まつりが開催されています。

本多忠勝侯一行に扮した武者行列やみこしの渡御が城下町に繰り出します。

D　町並　房総の小江戸、町並み（千葉県建築文化奨励賞受賞）

特に城下町の面影を残す久保、桜台、新丁地区には、江戸時代から変わらぬたたずまいを残す建物が点在し、昔を偲ばせています。

E　渡辺家住宅

嘉永 2 年（1849 年）4 月に建てられた商家造りの家で、大多喜藩御用金御用達を任されていた住宅です。

F　城下町散策

大多喜城城下案内人の会（ボランティアガイド）による、城下散策が堪能できます（およそ 20 人に 1 人案内人が付きます）。2 週間前までに申し込んでください。

城下町「大多喜」で、歴史探訪してみてください。

G　人力車、レンタサイクル

大多喜駅前の大多喜町観光本陣で、人力車の体験ができます。（1 回 3000 円要予約）。

コースは駅前から出発し、城下町通りなど房総の小江戸と呼ばれる町並みを約 1 時間で巡ります。

また、レンタサイクル（1 回 300 円。いすみ鉄道フリー切符を提示すると 200 円）も大人用、子供用と揃えてあります。

H　手作り甲冑教室

大多喜お城まつりの開催に合わせ、手作り甲冑教室を開催しています。

段ボール紙や紐などを使用して約半年かけて作製し、9 月のお城まつりでは一般武者と同じ町中でのパレードに参加することもできます。

No.12　大多喜（千葉県 夷隅郡 大多喜町）

城と渓谷の町 大多喜情報マップ　/　大多喜町観光協会　/　2013

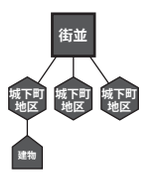
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	大多喜城	【点的空間】	近世大多喜城の本丸跡に建設した	〔江戸の歴史属性〕
2	本多忠勝	【活動】	徳川四天王のひとり	〔江戸の歴史属性〕
3	刀	【モノ】	房総の城と城下町をテーマに	〔江戸の歴史属性〕
4	鎧	【モノ】	房総の城と城下町をテーマに	〔江戸の歴史属性〕
5	衣装	【モノ】	房総の城と城下町をテーマに	〔江戸の歴史属性〕
6	町並み	【線的空間】	房総の小江戸と呼ばれる	〔江戸の歴史属性〕
7	久保	【全体像】	城下町の面影を残す	〔江戸の歴史属性〕
8	桜台	【全体像】	城下町の面影を残す	〔江戸の歴史属性〕
9	新丁地区	【全体像】	城下町の面影を残す	〔江戸の歴史属性〕
10	建物	【点的空間】	江戸時代から変わらぬたたずまいを残す	〔江戸の歴史属性〕

価値グループ

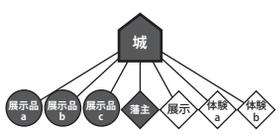
{分散型}

12-a



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 二次の結合数 1
歷史属性	転用主調

12-b



一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：7 単純階層
歷史属性	転用 - 一般

No.13　佐原（千葉県 香取市 佐原）

小江戸めぐり佐原　/　佐原観光プロモーション推進協議会　/　2012

分析単位

A　舟運で栄えた昔のにぎわい、雑踏…
かつて佐原の華やかさは、「江戸まさり」とまでうたわれるほどだったという。
その歴史遺産が今、多くの人を引きつけている。
とりわけ小野川河岸とその周辺の重伝建地区では、数多くの映画やドラマの撮影が行われています。
この町並みを歩くと、見たことのある景色や建物に出会うことができます。
ぜひあなたも歩いてみてはいかがでしょうか。

B　国選定重要伝統的建造物群保存地区
江戸時代、小野川両岸とその周辺には、河岸問屋や醸造等の商工業者が軒を連ねていました。
現在も、隆盛を極めた当時を彷彿とさせる古い 商家が建ち並び、商都としての歴史的景観をよく残しています。
この町並みを活かしたまちづくりへの取り組みもあって、平成 8 年に関東地方で初めて「伝統的建造物群保存地区」に選定されました。
この一帯は、昔からの家業を引き継ぎ、今も営業を続けている商家が多いことから、「生きている町並み」と評されています。

C　国指定重要無形民俗文化財　江戸まさり　佐原の大祭
7 月と 10 月の年 2 回、市内が熱気であふれる佐原の大祭は、約 300 年の伝統を引き継ぎ、国の「重要無形民族文化財」に指定されています。
夏は 10 台、秋は 14 台の勇壮豪華な山車は、哀調漂う佐原ばやしの音と共に、時に優雅に、時に豪快に町の中を曳き廻されます。

D　国指定重要文化財　伊能忠敬
日本で初めて 実測による全国地図を造った伊能忠敬は、延享二年に上総国山辺郡小関村で生まれました。
その後下総国香取郡佐原村の伊能家へ婿に入りますが、そのとき忠敬は十七歳、妻のミチは二十二歳でした。…
測量の成果は大日本沿海輿地全図として結実しますが、それは七十三歳で忠敬が亡くなった三年後のことで、弟子達の努力によるものでした。

E　国指定重要文化財　香取神宮　平成 26 年午年式年大祭・神幸祭
御祭神　経津主大神（又の御名伊波比主大神）
国家鎮護の神、皇謨守護の神として、古来皇室の御崇敬厚く奉幣使の御参向もしばしば行われた。
上古より「神宮」と称せられ、古い社格では名神大社、下野国一之宮で、明治以後の神社制度に於ては官弊大社に列し、更に毎年陛下の御幣帛の供進があり、6 年毎に勅使御参向の勅祭社に指定されて今日に至っている。
又、平成 26 年には 12 年に 1 度、午年毎の式年大祭が行われる。長い歴史と伝統ある式年神幸祭では約 3000 人のお供による、時代絵巻さながらの豪華絢爛な行列が執り行われる。

No.13　佐原（千葉県 香取市 佐原）

小江戸めぐり佐原　/　佐原観光プロモーション推進協議会　/　2012

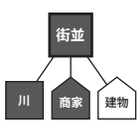
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	佐原	【全体像】	「江戸まさり」とまでうたわれた	〔江戸の歴史属性〕
2	小野川河岸	【線的空間】	「江戸まさり」とまでうたわれた、江戸時代栄えた	〔江戸の歴史属性〕
3	重要伝統的建造物群保存地区	【線的空間】	「江戸まさり」とまでうたわれた	〔江戸の歴史属性〕
4	商家	【点的空間】	隆盛を極めた江戸時代を彷彿とさせる、今も営業を続けている	〔江戸の歴史属性〕
5	佐原の大祭	【活動】	江戸まさり、300 年の伝統を引き継ぎ	〔江戸の歴史属性〕
6	山車	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	佐原ばやし	【活動】		
8	伊能忠敬	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
9	香取神宮	【点的空間】	上古より「神宮」と称せられ	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	式年大祭	【活動】	長い歴史と伝統ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	神幸祭	【活動】	長い歴史と伝統ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	行列	【活動】	時代絵巻さながら	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

価値グループ

{分散型}

13-a



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	転用 - 一般

13-b

一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	転用 - 一般

No.14　甲府（山梨県 甲府市）

歴史物語都市こうふ 歴史散策ガイドブック　/　甲府市観光課　/　2013

分析単位

A　歴史物語都市　こうふ

歴史はひとつだけの出来事の集積ではなく、多面的で複雑に絡み合い今に至るまで続いています。
甲府に多くの古墳が残るのはなぜか、ヤマトタケルノミコトが東征帰路の足を止めたのはなぜか？
武田一族がやって来たのはなぜか、武田家家臣群が江戸幕府の重職にあったのはなぜか？
その場所に立ち、その理由を知ると個別に見えていた点と点を繋ぐ糸が見え始めます。
名山に囲まれた美しい自然と、昔の人々の息づかいを感じながら思わず手にとって歴史散策をしたくなる…時を超え思いを馳せ、ワクワクしながらご覧いただける…そんな楽しいガイドブックです。

B　武田城下町タイムスリップコース　甲斐府中の古道を歩く【戦国時代】

智将武田信玄で有名な甲府ですが、その父信虎の甲斐統一、信玄の子勝頼の終焉までわずか六十数年しかありません。
しかし、その治世は戦のみならず、「法」「土木」「通貨」に至るまで優れ後の江戸幕府のお手本となったことは有名です。

C　武田城下町タイムスリップコース　武田三代の盛衰体感　オプショナルスポット紹介

信虎・信玄・勝頼と甲斐の国を統一後の栄枯盛衰を感じながら甲府市北部を巡る三つのオプションをご紹介します。

D　武田家墓所巡り

それぞれに由緒ある墓所めぐりは、信玄の周りにいた人々にもスポットがあたり、武田家のイメージがさらに膨らみます。

E　信玄の生涯ゆかり巡り

武田信玄の生い立ちから最期までを五つのスポットで一気に把握。
エピソードを知れば彼の人間性がより身近に感じられます。

F　甲府五山と甲斐善光寺

臨済宗に帰依した信玄が、京都や鎌倉五山にならい定めた甲斐五山。

G　甲府城下町タイムスリップコース　二の堀跡を歩く【近世城下町】

甲府城を中心に周囲には、勤番（幕府直参）屋敷などがありました。
現在そのほとんどが埋め立てられてしまいましたが、二の堀跡周辺に意外な発見もありそうです。

H　甲府城下町タイムスリップコース　その華やかな町人文化【近世城下町】

名君であった信玄の治世を経て、幕府直轄領でもあった甲府（駅南部）には、安心感からか職人や商人の暮らす下町にも小江戸気分が漂いました。

I　甲州道中＋α（酒折～中心街）

ヤマトタケルノミコトと連歌の里「酒折」から、歴史風土に触れながら甲府中心街へ散策するルートです。
ブドウ園の中の田舎道を歩いたり、お土産を買ったりもできる楽しい道。
車と歩きのミックスでも OK。四季折々の風情がステキです。

J　弘法大師伝説＋α（湯村温泉郷）

弘法大師が開湯したと伝わる湯村温泉郷は、信玄の隠し湯としても知られ、旅館やホテルも多く、多彩な文化人にも愛されてきました。観光巡りの拠点に最適です。

K　太宰治が愛したまち＋α（朝日通り周辺）

富士山、御坂峠、甲府は太宰治が、多彩な心情の変化や市井に関わる人々の様子を描いてその文豪たる素地を築いた縁の深いところです。
人生の岐路であった「結婚」の地、朝日町界隈を歩いてみてはいかがですか。

No.14　甲府（山梨県 甲府市）

歴史物語都市こうふ 歴史散策ガイドブック　/　甲府市観光課　/　2013

L　中道古墳群＋α（曽根丘陵公園）
甲府南インターチェンジ近くには、古墳群が分布しています。気持ちのいい芝生広場に歩道やベンチもあり、周囲の山の展望や季節の花も楽しめます。

M　山崎方代（漂白歌人と中道往還）
山頭火や尾崎放也につながる「漂白の歌人」山崎方代の生誕地をたずね、彼の思想を形づくった原風景へ想いを馳せます。

N　長田円右衛門（御岳昇仙峡開発）
昇仙峡を拓いた男・長田円右衛門の功績をしのびつつ、景勝地として名高いスポットをじっくり散策するのもおすすめです。

価値対象と歴史属性

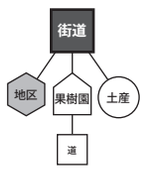
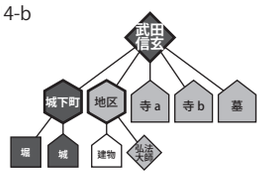
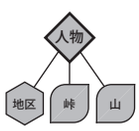
No.	価値対象		歴史属性	
1	武田信玄	【活動】	江戸幕府のお手本となった / 戦国時代	〔江戸の歴史属性〕〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	武田三代	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	墓所	【点的空間】	武田家の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	甲斐善光寺	【点的空間】	信玄が定めた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	甲斐五山	【点的空間】	信玄が定めた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	甲府城	【点的空間】	近世城下町	〔江戸の歴史属性〕
7	二の堀跡	【点的空間】	近世城下町	〔江戸の歴史属性〕
8	甲府 (城下町)	【全体像】	小江戸気分が漂った / 信玄の治世を経て、太宰治と縁の深い	〔江戸の歴史属性〕〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	甲州道中	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
10	酒折	【全体像】	ヤマトタケル	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	ブドウ園	【点的空間】		
12	田舎道	【線的空間】		
13	お土産	【モノ】		
14	弘法大師伝説	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	湯村温泉郷	【全体像】	弘法大師が開湯した、信玄の隠し湯	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	旅館やホテル	【点的空間】		
17	太宰治	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	富士山	【周縁部】	太宰治と縁の深い	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	御坂峠	【周縁部】	太宰治と縁の深い	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	朝日町界隈	【全体像】	太宰治と縁の深い	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
21	曽根丘陵公園	【点的空間】		
22	古墳群	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
23	芝生広場	【点的空間】		
24	歩道	【線的空間】		
25	ベンチ	【モノ】		
26	山	【周縁部】		
27	花	【点的空間】		
28	中道往還	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
29	山崎方代	【活動】	山頭火や尾崎放也につながる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
30	昇仙峡	【周縁部】		
31	長田円右衛門	【活動】	昇仙峡を拓いた男	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

No.14　甲府（山梨県 甲府市）

歴史物語都市こうふ 歴史散策ガイドブック　/　甲府市観光課　/　2013

価値グループ

{分散型}

14-a 		一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
		階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 二次の結合数 1
		歴史属性	転用 - 一般
14-b 		一次の価値対象	生活型 - 活動系
		階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 結合集中・小
		歴史属性	転用 - 一般
14-c 		一次の価値対象	生活型 - 活動系
		階層構造	一次の結合数：3 単純階層
		歴史属性	一般主調

No.15　奈良井（長野県 塩尻市 奈良井）

中山道 奈良井宿 観光ガイドブック　/　塩尻市観光協会奈良井宿観光案内所　/　2013

分析単位

A　奈良井宿保存のあゆみ

中山道の奈良井宿は、鳥居峠上り口にある鎮神社を京都側の端に、奈良井川沿いを緩やかに下りつつ約 1km にわたって町並みを形成する、日本最長の宿場です。

奈良井宿保存の経過としては、近世の民家として高い評価を受けた中村邸の宿場外移設問題を契機に、身近な歴史的資産の再確認と継承・維持を目的にした官民学連携による町並み保存運動が、他に先駆けて始まったのが昭和 43 年のこと。

その後、国の伝統的建造物群保存地区制度を受けて刊行された「町並み保存対策調査報告書」に基づいて保存条例（保存計画）が施行され、昭和 53 年に国から重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。この栄誉は、多くの人たちの奈良井の地域づくりにかけるなみなみならぬ熱意の記念碑ともいえるものです。

選定後も、平成元年に国土交通大臣表彰の「手作り郷土賞」、平成 17 年に「手作り郷土大賞」、平成 19 年に「美しい日本の歴史的風土百選」、平成 21 年に社団法人日本観光協会「花の観光地づくり大賞」受賞など景観を生かした地域づくりに懸ける思いを継続しています。

B　重要伝統的建造物群保存地区とは

文化財保護法の中に定められる、「伝統的建造物群保存地区制度」によって町並みが保存されている地区です。

町並みとして保存していくため、保存地区内では、新築、増改築、修繕、色彩変更等、外観に影響する現状変更に関しては許可が必要です。

また、伝統的な建築物はその特性を維持するため変更に際しての規制があり、新築に際しても周囲の町並みと調和するよう様々な基準が設けられています。

C　土産　郷土の先人たちから受け継いだ技で生み出される名品

D　気分はすっかり江戸の旅人　鳥居峠をウォーキング

木曽街道の藪原宿と奈良井宿を結ぶ約 6km の山道。江戸の旅人にとって、わらじ履きの足を泣かせる中山道屈指の難所として有名でした。

現代から趣豊かなトレッキングコースとして人気。

頂上から西に御嶽山、東に木曽駒ヶ岳を望むことができ、古道の途中には松尾芭蕉をはじめ俳人・歌人の句碑や石仏が数多く立っています。

戦国の世は木曽氏・武田氏の戦場となり、江戸末期には皇女和宮が降嫁の旅で通過した歴史の峠です。

価値対象と歴史属性

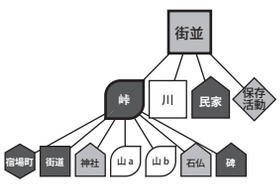
No.	価値対象		歴史属性	
1	中山道	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
2	奈良井宿	【全体像】	中山道のの宿場町	〔江戸の歴史属性〕
3	奈良井宿 (町並み)	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
4	鳥居峠	【周縁部】	気分は江戸の旅人、江戸の旅人にとって中山道屈指の難所、皇女和宮が通過した / 戦国時代には木曽氏・武田氏の戦場となった	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	鎮神社	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	奈良井川	【線的空間】		
7	中村邸	【点的空間】	近世の民家として高い評価を受けた	〔江戸の歴史属性〕
8	町並み保存運動	【活動】		
9	藪原宿	【全体像】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	御嶽山	【周縁部】		
11	木曽駒ヶ岳	【周縁部】		
12	句碑	【点的空間】	松尾芭蕉など俳人・歌人の歌碑	〔江戸の歴史属性〕
13	石仏	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

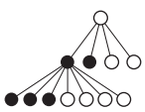
No.15　奈良井（長野県 塩尻市 奈良井）

中山道 奈良井宿 観光ガイドブック　/　塩尻市観光協会奈良井宿観光案内所　/　2013

価値グループ

{集約型}





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	一般 - 転用

No.16　下諏訪（長野県 諏訪郡 下諏訪町）

下諏訪町総合観光ガイド　/　下諏訪観光協会　/　2014

分析単位

A　中山道と甲州街道が出会う大社といで湯の宿場まち　信州 下諏訪

B　古事記や日本書紀にも登場する諏訪大社が鎮座し諏訪湖が豊かな水をたたえる湖と神話のふる里・下諏訪。
中山道宿場で唯一の「いで湯」名湯・下諏訪温泉はいにしえより幾多の旅人を温かく迎え入れてきました。
今なお、この地には四季折々の美しい自然とともに往時の面影を残す宿場風情や太古からの歴史の記憶がそこかしこに色濃く残り旅人を魅了し続けています。

C　悠久の歴史に思いを馳せて。
歴史をさかのぼれば、はるか太古へと続く諏訪大社。森や自然を神として恐れ崇めた、いにしえの人の思い。
厳かな神域、壮麗な社殿は、神の里と呼ぶにふさわしい風情を今に伝えています。

D　全国有数の御分社を持つ信濃國一之宮　諏訪大社
諏訪大社はお諏訪様・諏訪大明神として全国津々浦々の人々から親しまれ、尊敬されています。
また、諏訪湖の南に上社（前宮と本宮）、北に下社（春宮と秋宮）とに分かれ、この四社を合わせて諏訪大社と総称します。
古代は狩猟農耕の神として、武士の時代には軍神として、現在では産業や交通安全、縁結びの神として崇められています。
諏訪大社には本殿と呼ばれる建物が無く、その代りに秋宮は一位の木を、春宮は杉の木を御神木として拝しています。

E　一度ごらんよ御柱祭を　諏訪の若衆の気の勇み
最古の記録では平安時代、桓武天皇の御代に盛大に行われたとされる「諏訪のおんばしら」。
太古から連綿と続く自然信仰の姿を今日に留める、貴重な祭りです。

F　諏訪大社　御柱祭　（式年造営御柱大祭）
七年に一度、申年と寅年に行われる天下の大祭。宝殿と四つのお社に建つ各四本の御柱を建て替えます。
御柱は直径約一メートル、長さ十七メートル、重さ十トン以上にもなるモミの巨木を山から曳き出し、人力のみで各神社までの道中を曳行し、最後に各神社の社殿を囲むように四隅に建てます。
柱を山から里へと曳き出す「山出し」が四月に、神社までの道中を曳き、御柱を各神社の社殿の四隅に建てる「里曳き」が五月に行われます。
勇壮な祭りの代表的な場面として、「山出し」では「木落し」、「里曳き」では「建御柱」が有名です。
諏訪大社の御柱祭が終わると、続いて諏訪地方全域の神社で小宮の御柱祭が行われます。
御柱年の諏訪地方は一年を通じて御柱一色となります。

G　いにしえの浪漫漂う中山道屈指の宿場町。
江戸から京へと続く六十九次の中山道。
江戸から甲斐路を抜けて下諏訪に至る甲州街道（甲州道中）。
主要な二つの道筋が合流する下諏訪宿は、道中でも屈指の規模を持つ宿場町として栄えました。

H　神話と伝説の湯、名湯・下諏訪温泉。
錦の湯、児湯、旦過の湯…。
中山道で唯一の温泉宿場として幾多の旅人や文人墨客を迎えてきた歴史のある名湯・下諏訪温泉。
人々を温かくお迎えしたおもてなしとゆったりとした湯治場の風情が残る「いで湯」の里です。

I　懐かしい路地と宿場の風情が残るまち。
江戸の香りを残す宿場風の建物と海鼠塀や板塀の小さな路地。
さらには太古の昔から昭和まで様々な時代の記憶が今なお残りどこか懐かしいまち。
日常の暮らしの中に豊かな歴史が同居している下諏訪宿界隈の散策はいつも小さな発見があります。

No.16　下諏訪（長野県 諏訪郡 下諏訪町）

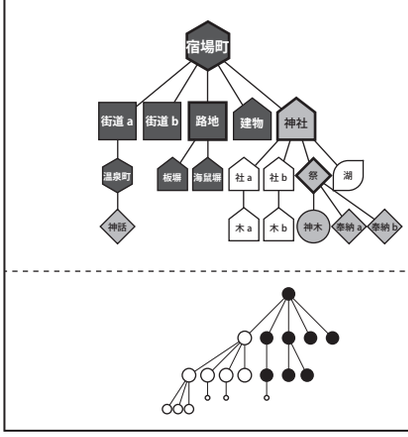
下諏訪町総合観光ガイド　/　下諏訪観光協会　/　2014

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	中山道	【線的空間】	江戸から京へと続く	〔江戸の歴史属性〕
2	甲州街道	【線的空間】	江戸から下諏訪に至る	〔江戸の歴史属性〕
3	下諏訪温泉	【全体像】	中山道宿場で唯一の	〔江戸の歴史属性〕
4	諏訪大社	【点的空間】	古事記や日本書紀にも登場する	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	諏訪湖	【周縁部】		
6	一位の木	【点的空間】		
7	杉の木	【点的空間】		
8	御柱祭	【活動】	平安時代から、太古からの連綿と続く	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	若衆	【活動】		
10	御柱	【モノ】		
11	山出し	【活動】		
12	里曳き	【活動】		
13	木落し	【活動】	平安時代から、太古からの連綿と続く	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	建御柱	【活動】	平安時代から、太古からの連綿と続く	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	下諏訪宿	【全体像】	中山道の宿場町として栄えた / 太古の昔から	〔江戸の歴史属性〕
			昭和まで様々な時代の記憶が残る	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	神話と伝説	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	宿場風の建物	【点的空間】	江戸の香りを残す	〔江戸の歴史属性〕
18	海鼠塀	【点的空間】	江戸の香りを残す	〔江戸の歴史属性〕
19	板塀	【点的空間】	江戸の香りを残す	〔江戸の歴史属性〕
20	路地	【線的空間】	江戸の香りを残す	〔江戸の歴史属性〕

価値グループ

{集約型}



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	転用 - 一般

No.17　上松（長野県 木曽郡 上松町）

信州木曽 あげまつ　/　上松町観光協会　/　2015

分析単位

A　木の国、美林の国。旅心に微笑むふるさとの路。
幾つもの山ひだに囲まれ、深い緑をたくわえた木の国、上松町。
木曽川沿いに開かれたこの美しいふるさとは、古くは中山道、木曽十一宿の旅籠として栄え、そして尾張藩の厳格な森林保護のもと、木曽木材の中心地として名を馳せ、今日まで多くの物語を紡いできました。
木の香漂う道をたどれば、そこは絶え間なく変りつづけながら、幾百年の懐かしさを宿す日本の原風景。水うるわしい豊穣の美林が安らぎを奏でています。
繊細な表情を見せる小さな時間のなかへ。上松町は美しい安らぎをあなたに贈ります。

B　森林浴発祥の地、赤沢美林
日本三大美林のひとつに数えられる赤沢自然休養林、樹齢三〇〇年、雄大な木曽檜の世界。
清冽な大地を歩き、生命の息吹に触れる感動。

C　森林鉄道
かつて木曽谷の山林で活躍した鉄道。車窓を駆けてゆく森と渓流の情景、清々しい風。

D　赤沢自然休養林散策
赤沢自然休養林は樹齢三百年を超える檜の天然林。
世界的にも貴重な天然檜木は、青森ヒバ、秋田スギとともに日本三大美林のひとつに数えられ、森林浴発祥の地としても知られています。
林内には８つの遊歩道や森林資料館など気軽に散策・観察が楽しめる施設が整えられ、「二十一世紀に残したい日本の自然百選」、「森林浴の森日本百選」、「かおり風景一〇〇選」などに選定され、「森林セラピー基地」にも認定されました。

E　伊勢神宮御用材　御神木　御杣始祭
古くから伊勢神宮の御用材として管理された赤沢美林。20 年に一度の遷宮行事・御杣始祭にあわせ、選び抜かれた御神木を斧を使い三ッ紐伐りの技法で伐採される。

F　深い谷に隠れた息をのむ景勝。寝覚の床
白々とした大岩・奇岩が並びたち、その底に翠緑の水をたたえる木曽の名勝。
かつて木曽川を流れる満々の水、渦を巻く激流、はじき飛ぶ礫が、歴史を刻むように磨いた木曽川の造形は、今も昔も、しばし旅人の感嘆と安堵を呼び起こします。
寝覚の床、この不思議な名は、晩年をこの地で過ごした浦島太郎の伝説に由来するもの。
現世に戻り、諸国をさまよった浦島太郎は、上松の里が気に入って住みつき、毎日、寝覚の床で好きな釣りを楽しみました。
床岩の上に祀られた「浦島堂」は玉手箱を開いて煙を浴び、たちまち三百歳になってしまったその不思議な翁の姿を語り継いでいます。

G　懐かしい風景が、あちらこちらに隠れている上松町周辺。
過ぎた日々との出会いを求めて、ぶらり散策。　中山道上松宿
山里らしい町並みに安らぎを覚えます。時の流れと暮らしのなかで深い郷愁を覚える路地に、言いようもない温もりを感じます。
中山道宿場町の歴史から、木の国、木曽五木の集散拠点として賑わう今日まで、幾つもの歳月を重ねる風景。そぞろ歩くほどに、くつろぎが訪れる上松町です。

H　京へ六十五里、江戸から七十一里。中山道上松宿を歩く
全長百二十九里、六十九宿を連ねる中山道。
そのうちの十一宿を数える木曽街道にあって、上松宿は、古くから木曽檜をはじめとする木の故郷として多くの仕事人と旅人を集めた活気と賑わいの宿場でした。
町を巡れば昔日を偲ばせる神社仏閣、由緒ある句碑や史跡名勝。
江戸が今も蘇る見どころが満載です。

No.17　上松（長野県 木曽郡 上松町）

信州木曽 あげまつ　/　上松町観光協会　/　2015

I　のんびり歩く　木曽古道

中山道が開かれるその昔から、木曽谷を貫いていた中世の道が「木曽古道」。
流れに惑わされる木曽川沿道を避け、なだらかな麓をなぞるように里から里へつづく道は、山々の眺めを楽しみ、季節の声に耳を澄ますどこか長閑な余韻がありました。
今、その細道は御嶽山、乗鞍岳を仰いで歩く散策路。トレッキングが楽しみな道程です。

J　祭　晴れと心の伝承。

神秘に息をのみ、熱気に目を奪われる感動。一瞬の光景は、永遠の記憶になって語り継がれていきます。
舞や踊り、ひとつの仕草に込められた歴史の奥義。一挙手一投足に秘められた古式の祈り。
天下泰平、豊年満作、感謝の気持ち、大事な節目を厳かに美しく飾るさまざまな祭事が、感動を呼び覚ます。

K　伝承の手技

清らかな第一印象、温かい手触り。伝統の技、木の生命は、使い込むほどに愛おしく。
豊かな森、良質な木材は山に生きる人々の知恵をくすぐり、卓越の技を引き出しました。
木工に代表される伝統工芸の逸品、匠の作は、お土産に、調度品にぜひ選びたい上松町の宝ものです。

L　古里の味わい

この味が堪らない、この食材でした生まれない。丹精込めて作られる木曽の旨さは、知恵と工夫、伝統と精進のたまもの。
一度食べたら忘れられない、不思議な魅力の世界です。
里山は美味しさを季節毎に育みます。日々の暮らしは、かけがえのない旨さを生み出しました。
祖母から母へ、母から子に。親方から弟子へ、親父から跡取りへ。
大切に受け継がれた郷土の味は、今もしっかり健在です。

価値対象と歴史属性

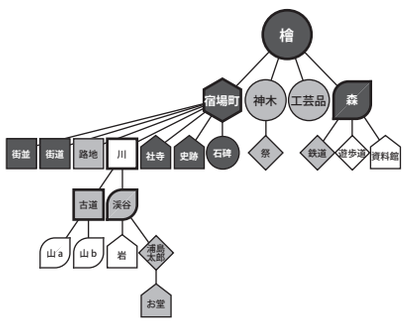
No.	価値対象		歴史属性	
1	上松宿	【全体像】	中山道宿場町の歴史、江戸から七十一里、江戸が今もよみがえる、中山道木曽十一宿の旅籠として栄え、木曽木材の中心地として名を馳せた	〔江戸の歴史属性〕
2	木曽川	【線的空間】		
3	木曽木材、天然檜木	【モノ】	尾張藩の時代から	〔江戸の歴史属性〕
4	赤沢自然休養林	【周縁部】	樹齢三百年、尾張藩の保護のもと守られた	〔江戸の歴史属性〕
5	森林鉄道	【活動】	かつて木曽谷の山林で活躍した	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	渓流	【周縁部】		
7	遊歩道	【活動】		
8	資料館	【点的空間】		
9	御神木	【モノ】	古くから伊勢神宮の御用材として管理された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	御杣始祭	【活動】	20 年に一度の遷宮行事	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	寝覚の床	【周縁部】	浦島太郎の伝説に由来する	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	大岩・奇岩	【点的空間】		
13	浦島太郎	【活動】	上松の里に住みついた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	浦島堂	【点的空間】	浦島太郎の伝説に由来する	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	中山道	【線的空間】	江戸から七十一里	〔江戸の歴史属性〕
16	町並み	【線的空間】	中山道宿場町の歴史から	〔江戸の歴史属性〕
17	路地	【線的空間】	時の流れと暮らしの中で郷愁を覚える	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
18	木曽街道	【線的空間】	中山道のうち	〔江戸の歴史属性〕
19	神社仏閣	【点的空間】	江戸が今もよみがえる	〔江戸の歴史属性〕
20	句碑	【点的空間】	江戸が今もよみがえる	〔江戸の歴史属性〕
21	史跡名勝	【点的空間】	江戸が今もよみがえる	〔江戸の歴史属性〕
22	木曽古道	【線的空間】	中世の道	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
23	御嶽山	【周縁部】		
24	乗鞍岳	【周縁部】		
25	祭り	【活動】	伝承	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
26	舞や踊り	【活動】	歴史の奥義	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
27	木工	【モノ】	伝承の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
28	味	【モノ】	大切に受け継がれた郷土の味	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

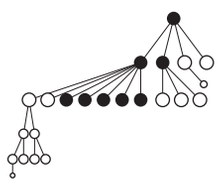
No.17　上松（長野県 木曽郡 上松町）

信州木曽 あげまつ　/　上松町観光協会　/　2015

価値グループ

{集約型}





一次の価値対象	生活型 - 物品系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	転用 - 一般

No.18　南木曽（長野県 木曽郡 南木曽町）

ぶらり信州南木曽　/　南木曽町経済観光課・南木曽町観光協会　/　2013

分析単位

A　ぶらり旅に出よう。　いつまでも変わらない歴史の古道へ、清流の渓谷へ。
懐かしさと温もりが待っている、信州・南木曽へ。

B　歴史街道　中山道
中山道は江戸日本橋を起点に京へ向かう百三十五里三十四町の道。
残された石畳の道には、行き交う行列や先急ぐ旅人達の声や、足音がしみています。
江戸風情の漂うこの街道はなぜか懐かしく、つい、ぶらり歩きたくなります。
それは江戸と現代とを結んでいるかのように。

C　中山道の旅人になる。
南木曽駅から妻籠宿を抜け馬籠宿へ。
古き時代を、身近に感じるとともに、今も残る江戸のたたずまいは、旅人の心をいやす優しさがあります。
与川～妻籠の中山道は国の史跡にも指定されています。

D　そして三留野宿と野尻宿を結ぶ　与川道
階段状の水田の間を、つづら折の道が続きます。
その昔、水害で通行できない中山道の迂回路でもありました。

E　歴史街道　妻籠宿
江戸から数えると中山道四十二番目の宿場で、木曽の宿場の中でも最も保存が良く、家並みが残されています。ぶらりと立ち寄った店の人に温かさを感じます。

F　まぎれ込む時空間。
中山道を行けば必ず立ち寄りたい。家々の細部にまで町並みを守る思いが熱く伝わってくる。
まるで時の空間に入ったような錯覚が心地よくも感じる。

G　歴史古道　川西古道　明治・大正の面影に。
木曽川の西に沿って続く川西古道。
橋のない頃の生活道でもあり、また、そこにはもう一つの時代の歴史と文化がありました。

H　匠　技と木の温もりを今に伝えて。

I　祭・イベント
歴史を物語る、おごそかな祭やイベント。南木曽が一つになる日です。

価値対象と歴史属性

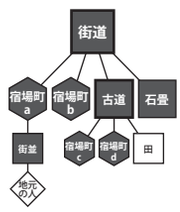
No.	価値対象		歴史属性	
1	中山道	【線的空間】	江戸日本橋を起点に今日へ向う、江戸風情の漂う	〔江戸の歴史属性〕
2	石畳	【線的空間】	江戸風情の漂う	〔江戸の歴史属性〕
3	妻籠宿（町並み）	【線的空間】	今も残る江戸のたたずまい、江戸から数えて四十二番目、江戸時代の面影がよみがえった	〔江戸の歴史属性〕
4	馬籠宿	【全体像】	今も残る江戸のたたずまい	〔江戸の歴史属性〕
5	三留野宿	【全体像】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	野尻宿	【全体像】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	与川道	【線的空間】	中山道の迂回路でもあった	〔江戸の歴史属性〕
8	水田	【線的空間】		
9	川西古道	【線的空間】	明治・大正の面影	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	木曽川	【線的空間】		
11	匠 (工芸)	【モノ】	今に伝えて	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	祭・イベント	【活動】	歴史を物語る	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

No.18　南木曽（長野県 木曽郡 南木曽町）

ぶらり信州南木曽　/　南木曽町経済観光課・南木曽町観光協会　/　2013

価値グループ

{集約型}



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用主調

No.19　馬籠（岐阜県 中津川市 馬籠）

中山道馬籠宿　/　中津川市　/　2012

分析単位

A　中山道馬籠宿
江戸時代の宿場の風情を今に伝える。石畳と坂の宿場、馬籠を歩く。

B　石畳の坂道に肩を寄せ合うように並ぶ家並み。

C　中山道
江戸時代、五街道のひとつで京と江戸を結んだ中山道は木曽を通るので「木曽路」とも呼ばれ、参勤交代や大名や皇族のお輿入れにも盛んに利用されました。
全行程が約 540km の街道に 69 ヶ所の宿場が置かれ、そのうち 11 宿が木曽にあります。

D　坂道の宿場
江戸日本橋を起点に四十三番目の宿場 馬籠。木曽十一宿の最南端、美濃側の入口として栄え、狭い中山道の両側に軒を連ねる集落は、江戸時代の面影を今に残します。
馬籠は急峻な坂の宿場です。大雨から守る為に敷かれた石畳や、宿場に敵の侵入を防ぐため街道を鉤の手に曲げた「枡形」などが、当時の雰囲気を漂わせています。

E　文豪を育んだ里　画家の心のふるさと。

F　島崎藤村
木曽路はすべて山の中である。で始まる「夜明け前」の作者・島崎藤村は、1872 年（明治 5 年）、馬籠宿で本陣、庄屋、問屋を兼ねていた島崎家に生まれました。…
馬籠の藤村記念館には大磯の書斎が復元されています。

G　東山魁夷
日本画壇の巨匠・東山魁夷画伯は、画学生だった 1926 年（大正 15 年）の夏に、友人三人と御嶽山登山をするため木曽路を訪れています。
賤母の山林で夕立に遭い、一夜の宿を求めた農家で、思いがけないほどの温かいもてなしを受けました。
…山口賤母の風景は、画伯の美しい風景画の心のふるさとなのです。

価値対象と歴史属性

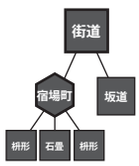
No.	価値対象		歴史属性	
1	石畳	【線的空間】	江戸時代の宿場の風情を今に伝える	〔江戸の歴史属性〕
2	坂	【線的空間】	江戸時代の宿場の風情を今に伝える	〔江戸の歴史属性〕
3	馬籠	【全体像】	江戸時代の宿場の風情を今に伝える、江戸日本橋を基点に四十三番目の宿場	〔江戸の歴史属性〕
4	馬籠 (町並み)	【線的空間】	江戸時代の宿場の風情を今に伝える、江戸日本橋を基点に四十三番目の宿場	〔江戸の歴史属性〕
5	家並み	【線的空間】	江戸時代の面影を残す	〔江戸の歴史属性〕
6	中山道	【線的空間】	京と江戸を結んだ、参勤交代や大名や皇族に利用された	〔江戸の歴史属性〕
7	枡形	【線的空間】	江戸時代の雰囲気を漂わせている	〔江戸の歴史属性〕
8	島崎藤村	【活動】	「夜明け前」の作者、明治 5 年に馬籠宿に生まれた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	藤村記念館	【点的空間】	藤村記念館	その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	大磯の書斎	【点的空間】	(島崎藤村のものが) 復元されている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	東山魁夷	【活動】	大正 15 年に馬籠を訪れている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

No.19　馬籠（岐阜県 中津川市 馬籠）

中山道馬籠宿　/　中津川市　/　2012

価値グループ

{集約型}



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用主調

No.20　美濃（岐阜県 美濃市）

美濃市観光ガイド 和紙とうだつのまち　/　美濃市産業振興部観光課・美濃市観光協会　/　-

分析単位

A　古のまち今も、和紙とともに。

B　古い時と、新しい時がとけあう瞬間　和紙のまちの新魅力が見えてきます。
かつて、このまちが栄えた背景には、良質の原料と清流の恩恵により根付いた和紙産業があります。
その和紙を扱い、財をなした商人たちが築いた町家。
一帯には、屋根に「うだつ」が上がる町家が続き威風堂々、独特の雰囲気を漂わせています。
さあ、ここは時のプラットホーム。
今日は、はるかな時の籠に乗り美濃のまちをゆっくりめぐってみませんか。

C　さあ目を閉じて…　江戸の昔の物語をどうぞ。
ここは江戸時代の商人のまち。並んでいるのは美濃和紙の問屋や宿屋、造り酒屋など。
…それは江戸時代のお話ですが、美濃に来ると目の前に昔と変わらぬ町並みが広がります。

D　伝統技術と新スタイルを未来へ。
伝統あるうだつの町並みと、スタイリッシュなあかりアートが幻想的に融けあう「美濃和紙あかりアート展」。
あかりのともる町並みに、一度足をはこんでみませんか？

E　うだつ　本来は防火壁。やがて豪商たちが富の象徴として粋を競った芸術品。

F　美濃に来たら屋根の両端に注目
美濃の町並みでは、家々の屋根の両端、妻に立ち上がっている ” うだつ ” が見ものです。
デザインが 1 軒 1 軒異なるのは、時代性や当時の財力の違いによるものです。

G　歴史的価値を守りながら暮らす町の人たちとふれあって
うだつの残る家は全部で 19 棟。これだけの数を残すのは全国的にも珍しいことです。
歴史的な価値をもつ町並みや家にも、人々のごく普通の生活があります。歴史と現代生活の融合も、美濃の魅力の一つです。

H　美濃和紙　清流と良質の原料に恵まれ今日まで。
手仕事ならではの風合い・美しさを伝承する職人
正倉院所蔵の戸籍に始まる美濃和紙の歴史。
連綿と続けられて来た紙漉きの歴史は約 1300 年を数えます。
手仕事ならではの風合い、秀逸性は今も変わることはありません。
今では職人の数は減りましたが、「美濃和紙でなければ」の需要がある限り、紙漉きの技術を守っていこうと伝承活動を続けています。

I　熱気と活気にまちが動く。ハレの日の輝き、ここだけの感動。
和紙産業の底辺にあった町民文化により、美濃には独創的なお祭り・芸能が長く受け継がれてきました。
時を隔てた今日、町の人たちは、そのどれもを変わらず愛し、披露の日のために、稽古し、準備し、汗を流します。

No.20　美濃（岐阜県 美濃市）

美濃市観光ガイド 和紙とうだつのまち　/　美濃市産業振興部観光課・美濃市観光協会　/　-

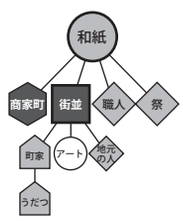
価値対象と歴史属性

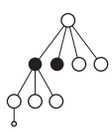
No.	価値対象		歴史属性	
1	和紙	【モノ】	約 1300 年を数える、連綿と続けられて来た	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	町家	【点的空間】	財をなした商人たちが築いた、人々のごく普通の生活がある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
3	うだつ	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
4	美濃	【全体像】	江戸時代の商人のまち	〔江戸の歴史属性〕
5	町並み	【線的空間】	江戸時代と変わらぬ	〔江戸の歴史属性〕
6	あかりアート	【モノ】		
7	街の人たち	【活動】	歴史的価値を守りながら暮らす	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	職人	【活動】	伝承活動を続けている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	お祭り・芸能	【活動】	長く受け継がれて来た	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

価値グループ

{集約型}

20





一次の価値対象	生活型 - 物品系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般 - 転用

No.21　静岡（静岡県 静岡市）

静岡市観光ガイド ぷちりょこ静岡　/　静岡観光コンベンション協会　/　2014

分析単位

A　海・山・温泉・歴史・美味！ワイドに広がる静岡市の賢い歩き方をご紹介します。
見てよし！食べてよし！ひたってよし！
駿河湾から南アルプスまで南北に広がる静岡市には、旅に欠かせない三つの魅力がすべて揃っています。
静岡市観光ガイド「ぷちりょこ静岡」では、エリア毎に見どころ・味どころ・温泉地などをご紹介。
まち歩きのポイント満載のイラストマップを参考に静岡発のぷち旅行をお楽しみください。

B　日本平　日本平山頂　富士山・駿河湾・お茶畑　日本一の醍醐味を心行くまで国宝の丘で
緑鮮やかな茶畑のさきに佇む霊峰富士。春には、山頂へと誘うドライブロードが桜並木となり、ロープウェイで訪れる国宝の社には、家康公の御霊が鎮座。
この丘に流れるゆったりとした時間の中で、スケールの大きな感動を、旅の思い出に。

C　日本平　日本平周辺　芸術・古刹・スポーツなど時を忘れて五感で楽しむ見どころの宝庫
山裾に佇む名園の古刹、教科書でみた遺跡、伝統とモダンが交錯する人間国宝の作品、緑豊かな丘で出会うロダン彫刻の数々、オレンジ色に染まるスタジアム。
思い思いのスタイルで心ふるえる旅のひとときを。

D　清水市街地・清水港周辺　清水市街地周辺
港まち・市場まち・宿場まち　さまざまな顔をもつ海辺の町で清水っ子の人情にふれる
貿易港の風情を楽しむ埠頭から湾岸をたどれば、活気あふれる魚市場エリアへ。
海辺を離れると、風格ある名刹が佇み東海道江尻の宿場の名残があちらこちらに、ホッと和むひとときき、そこにあるのは今も昔も変わらない清水の心意気です。

E　清水市街地・清水港周辺　日の出ウォーターフロント
長崎・神戸と肩を並べる ” 日本三大美港 ” で異国情緒あふれる海辺を歩く
明治 32 年 (1899) 外国貿易の開港場に指定された清水港。
西洋の趣漂うベイサイドエリアには 110 余年の港の歴史と意匠があふれています。
正面に霊峰富士を望む埠頭に立ち遠い異国に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

F　三保　天女・松原・大海原　伝説の半島はどこまでも美しく
天女が舞い降りた半島で織りなす伝統の祭り、海の輝き、人々の笑顔。
それはそれは美しい富士山の女神、木花咲邪姫もうっとりと見惚れていることでしょう。

静岡市街地　駿府浪漫バスエリア
G　文化・町名・ものづくり　江戸の風情が漂う 家康公ゆかりの城下町
徳川家康公により築城された駿府城の城下は、南に町人町と寺町、東西北は武家屋敷で囲まれていました。
格子状の街並み、呉服町・両替町など今も残る町の名、徳川家ゆかりの名所旧跡など、そこかしこで出会う江戸の香りとともに静岡のまち歩きをお楽しみください。

丸子 & 宇津ノ谷　丸子路
H　あのみち・このみち　時空を超えて、思いをのせて　小径あるきを楽しむエリア
弥次喜多も訪れた 江戸時代の宿場の風情を楽しむ東海道
戦国時代創建の古刹と匠の技に出会う丸子路
往時のままに古い民家が軒を連ねる宇津ノ谷の道
平安の古道・蔦の細道、江戸時代の東海道など、さて、どの小径、どの時代へくり出しましょうか。

I　丸子 & 宇津ノ谷　宇津ノ谷　峠を越えた人々の物語に思いを寄せる。
丸子宿と岡部宿を結ぶ宇津ノ谷峠は、東海道屈指の難所。
「伊勢物語」をはじめ、「十六夜日記」や「東海道中膝栗毛」、歌川広重の浮世絵など数々の文学・芸術作品に描かれてきました。そんな物語のある風景をご覧になってみませんか。

No.21　静岡（静岡県 静岡市）

静岡市観光ガイド ぷちりょこ静岡　/　静岡観光コンベンション協会　/　2014

J　興津・由比・蒲原　興津〜由比

雪舟や西園寺公望など歴史を彩る人々に愛された街道の名所をめぐる

江戸から数えて 17 番目の宿場まち「興津」から「由比」までの街道沿いには東海道を行き交う人々を魅了した名所・古刹があります。

往時と同じ薩埵峠の景色、朝鮮通信使や弥次・喜多が旅した道を歩いてみませんか。

K　興津・由比・蒲原　由比〜蒲原

広重・正雪ゆかりの地、歴史と潮風香る東海道の宿場を散策

江戸より数えて 15 番目の宿場町「蒲原」から 16 番目の宿場町「由比」へ。

蒲原の街道筋にはレトロモダンな洋館も点在し、由比では、宿場の趣きの中で桜えびを堪能できます。

江戸から明治、大正・昭和、そして平成へと時代旅行を楽しみませんか。

L　オクシズ　温泉

秘境・隠し湯・仙人伝説　いざ神秘と癒しの温泉郷へ

武田信玄にも愛された安倍奥の秘境　山登りの疲れを癒す絶景風呂など、” 奥静岡 ” は野趣あふれる温泉の宝庫。

日帰りもよし、泊まるもよし、思い思いのスタイルでお楽しみください。

No.21　静岡（静岡県 静岡市）

静岡市観光ガイド ぷちりょこ静岡　/　静岡観光コンベンション協会　/　2014

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	日本平	【点的空間】	国宝の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
2	富士山	【周縁部】		
3	駿河湾	【周縁部】		
4	お茶畑	【線的空間】		
5	桜並木	【線的空間】		
6	ロープウェイ	【活動】		
7	社	【点的空間】	家康公の御霊が鎮座	〔江戸の歴史属性〕
8	古刹	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	遺跡	【点的空間】	教科書でみた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	作品	【モノ】	伝統とモダン、人間国宝の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	ロダン彫刻	【モノ】	ロダン彫刻	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	スタジアム	【点的空間】		
13	清水市街地	【全体像】	東海道江尻宿場の名残があちらこちらに、110 余年の港の歴史と意匠があふれています	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	清水港	【線的空間】	明治に開港、110 余年の歴史	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	魚市場	【点的空間】		
16	名刹	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	江尻宿	【全体像】	東海道	〔江戸の歴史属性〕
18	三保	【周縁部】	天女が舞い降りた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	祭り	【活動】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
20	町名	【活動】	江戸の風情が漂う	〔江戸の歴史属性〕
21	ものづくり	【モノ】	江戸の風情が漂う	〔江戸の歴史属性〕
22	城下町	【全体像】	江戸の風情が漂う、家康公ゆかりの	〔江戸の歴史属性〕
23	駿府城	【点的空間】	徳川家康公により築城された	〔江戸の歴史属性〕
24	格子状の町並み	【線的空間】	江戸の香り	〔江戸の歴史属性〕
25	名所旧跡	【点的空間】	徳川家ゆかり、江戸の香り	〔江戸の歴史属性〕
26	東海道	【線的空間】	弥次喜多も訪れた、江戸時代の宿場の風情を	〔江戸の歴史属性〕
27	古刹	【点的空間】	楽しむ	
28	匠の技	【モノ】	戦国時代創建	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
29	民家	【点的空間】	往時のままに古い	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
30	宇津ノ谷峠	【周縁部】	東海道屈指の難所 , 東海道中膝栗毛に描かれた , 歌川広重に描かれた / 伊勢物語 , 十六夜日記に描かれた	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
31	蔦の細道	【線的空間】	平安の古道	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
32	丸子宿	【全体像】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
33	岡部宿	【全体像】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
34	興津	【全体像】	江戸から数えて 17 番目の宿場町 , 弥次喜多が旅した / 雪舟 , 西園寺公望に愛された	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
35	由比	【全体像】	弥次喜多が旅した , 広重 , 正雪ゆかりの地 , 江戸より数えて 16 番目 , 江戸へと時代旅行 / 雪舟 , 西園寺公望に愛された , 明治・大正・昭和へ時代旅行	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
36	名所・古刹	【点的空間】	東海道を行き交う人々を魅了した	〔江戸の歴史属性〕
37	薩埵峠	【周縁部】	弥次喜多 , 朝鮮通信使が旅した	〔江戸の歴史属性〕
38	蒲原	【全体像】	広重 , 正雪ゆかりの地 , 江戸より数えて 16 番目 / 江戸・明治・大正・昭和へと時代旅行	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
39	洋館	【点的空間】	レトロモダンな	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
40	桜エビ	【モノ】		
41	温泉	【モノ】		
42	仙人伝説	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
43	絶景風呂	【点的空間】		
44	奥静岡	【全体像】	仙人伝説、武田信玄にも愛された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

No.21　静岡（静岡県 静岡市）

静岡市観光ガイド ぷちりょこ静岡　/　静岡観光コンベンション協会　/　2014

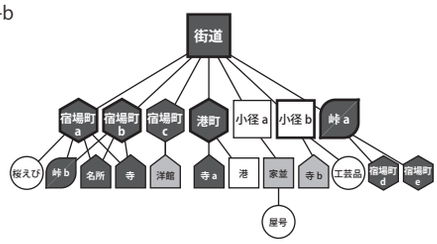
価値グループ

{分散型}

21-a

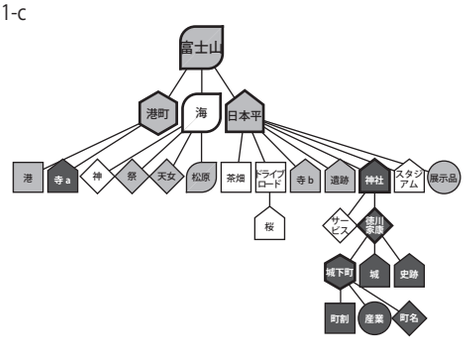
一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	一般主調

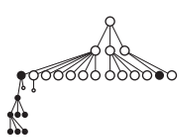
21-b



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：7 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用 - 一般

21-c





一次の価値対象	周縁部型
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合分散
歴史属性	一般 - 転用

No.22　江尻（静岡県 静岡市 清水区 江尻）

江尻宿 解説マップ　/　静岡二峠六宿街道観光協議会　/　2011

分析単位

A　江尻宿・宿場コース　家康公の想いにふれるコース
「江尻」とは巴川の尻（下流）のことであり、巴川が作る砂州上にできた宿場です。
武田氏が江尻城、城下町も築き、江戸時代から物流などで繁栄していました。
当時のものは残念ながら大火や戦災で残っていませんが、所々に在りし日の姿がうかがえます。

B　江尻宿・清水湊コース　町や港を支えた江尻の人々
江戸時代には駿府町奉行支配のお蔵が 18 棟もあり、江戸へ物資を運ぶ重要な港として活気に満ちていた清水港。現在も静岡県の重要港湾として活躍しています。
その港や江尻の町を支えた色々な人々に会えるコースです。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	江尻宿	【全体像】	家康公の想いにふれる、江戸時代に繁栄 / 武田氏が城下町を築き	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	巴川	【線的空間】		
3	清水港	【線的空間】	江戸時代には栄えていた、江戸へ物資を運ぶ港だった	〔江戸の歴史属性〕

価値グループ　なし

No.23　蒲原（静岡県 静岡市 清水区 蒲原）

東海道十五番目の宿場町 蒲原　/　静岡市清水区地域総務課　/　-

分析単位

A　歴史が薫る趣のまち　蒲原…

「蒲原町史」によれば天正十年（一五八二）、甲斐武田氏を滅ぼした織田信長を接待するため徳川家康の命によって蒲原御殿が建てられたとあります。

天正十八年（一五九〇）の豊臣秀吉による小田原征伐の時も秀吉が立ち寄り、慶長・元和年間にも、二代将軍秀忠、三代将軍家光が使用しました。

しかし、寛永十一年（一六三四）の家光上洛を最後に蒲原御殿は使用されなくなり廃絶しました。

元禄十二年（一六九九）、蒲原宿が大津波の被害を受けました。

そこで翌年、蒲原宿を山側の蒲原御殿のあった方へと移動しました。今では「御殿山」「御殿道」といった名称が残されています。

蒲原にある旧東海道には、江戸時代当時のままの道幅や、「鉤の手」（かぎのて）や「枡形」（ますがた）のつくりも見られます。

そして「出桁」（でげた）、「懸魚」（げぎょ）、「海鼠壁」（なまこかべ）といった特徴を残した民家がところどころ現存しており、江戸時代の街道の特徴が非常によく残されています。

蒲原のまちを散策し、古き良き建物を巡って、街道の歴史の面影を探し、歴史の息吹を感じてみませんか。

B　東海道　蒲原宿

承平年間（十世紀前半）に編纂された「和名類聚抄（わみょうるいじゅしょう）」に蒲原郷という地名が初見され、庵原郡六郷（安倍有度から富士川までの、西奈、大井、河奈、庵原、興津、蒲原）の宿駅として開かれたと記されています。

蒲が一面に繁茂していたため、その名が生まれたともいわれています。

当時、現在の富士川を挟んで広く蒲原郷といわれましたが、鎌倉期に入り、富士川右岸一帯を蒲原宿というようになりました。

鎌倉幕府創設により東西交通の要地となり、戦国時代には今川、武田、北条氏の軍略的、地理的に重要な接点としていくたびか戦火を浴びました。

その後江戸時代に入り東海道の宿駅として繁栄してきました。

蒲原宿は東海道を江戸から西へ、日本橋から十五番目の宿場町です。

元禄十二年（一六九九）以前は、現在より二〇〇メートルほど南側の「古屋敷」とよばれているあたりに宿を形成していました。

しかし、元禄十二年八月の大津波の被害により宿の大半を流出したため、宿場を移して現在に至るまちなみが形成されました。

江戸時代の宿場は、見附や木戸を設け入口としていました。蒲原宿には「東の木戸」と「西の木戸」の位置が残っています。木戸内は約一・二キロあります。

蒲原宿には、本陣二軒（東本陣、西本陣）、脇本陣、問屋場、高札場や旅籠屋、商家が置かれ、宿場が営まれていました。

東本陣は江戸中期頃に絶えたとのことで、本陣跡とは西本陣のことです。

明治二十二年（一八八九）、町村制の施行により蒲原宿、小金、中村、堰沢村、神沢村が合併し、蒲原町となりました。

そして、平成十八年（二〇〇六）三月三十一日には蒲原町は静岡市と合併して清水区蒲原となりました。

No.23　蒲原（静岡県 静岡市 清水区 蒲原）

東海道十五番目の宿場町 蒲原　/　静岡市清水区地域総務課　/　-

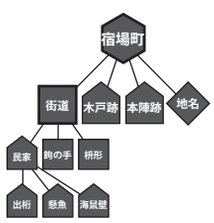
価値対象と歴史属性

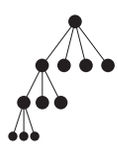
No.	価値対象		歴史属性	
1	地名	【活動】	江戸時代の地名が残る	〔江戸の歴史属性〕
2	旧東海道	【線的空間】	江戸時代当時のままの道幅	〔江戸の歴史属性〕
3	鉤の手	【線的空間】	江戸時代の街道の特徴がよく残されている	〔江戸の歴史属性〕
4	枡形	【線的空間】	江戸時代の街道の特徴がよく残されている	〔江戸の歴史属性〕
5	出桁	【点的空間】	江戸時代の街道の特徴がよく残されている	〔江戸の歴史属性〕
6	懸魚	【点的空間】	江戸時代の街道の特徴がよく残されている	〔江戸の歴史属性〕
7	海鼠壁	【点的空間】	江戸時代の街道の特徴がよく残されている	〔江戸の歴史属性〕
8	民家	【点的空間】	江戸時代の街道の特徴がよく残されている	〔江戸の歴史属性〕
9	建物	【点的空間】	古き良き	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	蒲原宿	【全体像】	江戸から十五番目の宿場町、江戸時代に繁栄した	〔江戸の歴史属性〕
11	木戸の位置	【点的空間】	江戸時代の位置が残る	〔江戸の歴史属性〕
12	本陣跡	【点的空間】	江戸時代に営まれていた	〔江戸の歴史属性〕

価値グループ

{集約型}

23





一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用主調

No.24　丸子（静岡県 静岡市 駿河区 丸子）

丸子宿 解説マップ　/　静岡二峠六宿街道観光協議会　/　2011

分析単位

A　戦国から江戸時代の面影を歩く

旧東海道の面影が残る街道を歩き、東海道を通過した大名や幕府役人、文人らが訪れた泉ヶ谷を歩くコースです。

宿場には本陣・問屋場などは残っていませんが、古の旅人が眺めた自然の風景や旅の雰囲気を感じて歩いてください。

B　連歌師・宗長

島田の有名な刀鍛冶の子として生まれ、連歌師宗祇に支持し、一休禅師で禅の修行をしました。

今川家の家督騒動のなか幼少の７代目当主の氏親公を支え、戦国武将からの情報を提供し、軍事顧問のような役割を担っていたようです。

また、紫屋寺の借景庭園は狼煙を確認するのに最適であり、さらに「赤目ヶ谷」「大鑪」「細工所」などの地名は今川家の「赤鉄鋼」を原料に「製鉄所のふいご」で鉄を精製し「兵器工場」で武器を製造したとも置き換えられ謎が深まります。

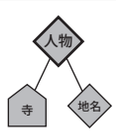
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	丸子宿	【全体像】	戦国から江戸時代の面影 , 宿場町	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	街道 (東海道)	【線的空間】	旧東海道の面影が残る	〔江戸の歴史属性〕
3	泉ヶ谷	【全体像】	東海道を通過した大名や幕府役人 , 文人らが訪れた	〔江戸の歴史属性〕
4	連歌師・宗長	【活動】	戦国時代に活躍した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	紫屋寺	【点的空間】	宗長ゆかり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	地名	【活動】	宗長の時代から残る	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

価値グループ　なし

{集約型}

24



一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般主調

No.25　浜松（静岡県 浜松市）

Welcome to HAMAMATSU 浜松・浜名湖
/　浜松市観光交流課・浜松観光コンベンションビューロー　/　2013

分析単位

A　ようこそ、浜松へ。
全国で二番目の市域面積となる浜松市は、四方を海、川、山そして湖に囲まれ、豊かな自然と都市環境のバランスのなかで、多彩な魅力を持ち合わせております。
気候は温暖で過ごしやすく、年間快晴日数は全国一の多さを誇ります。
このような本市には、温泉をはじめ潮干狩りやサイクリングをお楽しみいただける風光明媚な浜名湖はもとより、徳川家康公が 17 年間を過ごしたことに由来する数々の史跡、素朴な味わいの北遠の山々や渓流など、数多くの観光スポットが点在しております。
また、全国有数の「ものづくりのまち」ならではの産業観光のメニューの豊富さは全国トップクラスで、このような取組みが「産業観光まちづくり大賞」金賞にも輝きました。
さらに、旅の醍醐味の「食」は、うなぎ、ふぐ、みかん、餃子などに富み、訪れたみなさまの味覚を満たすことでしょう。
このように自然、体験、歴史、産業、味覚など、魅力多彩な本市に、ぜひともお出かけください。
みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

B　浜名湖には、五感に響く風景がある。「景色」という名のドラマと出会う旅。
浜名湖は、その昔、「近淡海（ちかつおうみ）」と呼ばれた琵琶湖に対し、都から遠い湖という意味で「遠淡海（とおつおうみ）」と呼ばれ、奈良や京都の都人にも、美しい湖として知られていました。
飛鳥時代の歌人で歌聖と呼ばれ称えられている柿本人麻呂も浜名湖の情景を歌に詠んでいます。
そして浜名湖は、いまでも四季折々に表情を変える詩趣にとんだ美しい湖として、多くの人に愛されています。
また、季節の変化だけでなく、舘山寺温泉や弁天島温泉のある表浜名湖エリア、湖北五山をはじめとする数々の古刹が点在する奥浜名湖エリアなど、場所によってもその趣を異にしています。
さらに、全国有数の流域を持つ雄大な天竜川を中心に、その周辺一帯に美しい森林が続く北遠地域や、広大な砂丘や壮大な太平洋を望む南の海岸地域でも、大自然が織りなす四季のドラマを見ることができます。
ここ浜松では、多彩な顔を持つ浜名湖をはじめ、全国で二番目という広大な市域面積がもたらす明媚な風景を、一年を通して楽しめます。

C　戦国から江戸へ。浜松には日本の歴史の表舞台がある。
しばし、歴史浪漫に想いを馳せる。
江戸幕府を開いた徳川家康公は、元亀元年（1570 年）、29 歳のときから 17 年間、浜松を居城としていました。
戦国の世、遠州は上洛の足がかりとなる要地で、家康公は、今川、武田、織田など、周辺諸国の強大な戦国大名に囲まれ、数々の戦いを生き延びて、ついに天下取りの夢をつかんだのです。
家康公が天下統一を果たした後、浜松城は主に徳川譜代の大名が城主となり、幕府老中 5 人をはじめ多くの要職者を輩出しました。
このようなことから、後に「出世城」と呼ばれるようになりました。
浜松には、古戦場をはじめ、数多くの史跡があるほか、家康公生涯最大の敗戦といわれる三方ヶ原の合戦に由来するいくつもの伝説が残っており、天下人家康公のルーツをたどることができます。

No.25　浜松（静岡県 浜松市）

Welcome to HAMAMATSU 浜松・浜名湖
/　浜松市観光交流課・浜松観光コンベンションビューロー　/　2013

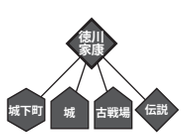
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	浜松市	【全体像】	徳川家康公が 17 年間を過ごした / 戦国から	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	潮干狩り	【活動】		
3	サイクリング	【活動】		
4	浜名湖	【周縁部】	飛鳥時代の柿本人麻呂も歌に詠んでいる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	史跡	【点的空間】	徳川家康公が 17 年間を過ごしたことに由来する	〔江戸の歴史属性〕
6	山々	【周縁部】		
7	渓流	【周縁部】		
8	産業観光	【活動】		
9	うなぎ	【モノ】		
10	ふぐ	【モノ】		
11	みかん	【モノ】		
12	餃子	【モノ】		
13	舘山寺温泉	【全体像】		
14	弁天島温泉	【全体像】		
15	湖北五山	【点的空間】	古刹	
16	天竜川	【線的空間】		〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	森林	【周縁部】		
18	砂丘	【周縁部】		
19	太平洋	【周縁部】		
20	徳川家康	【活動】	江戸幕府を開いた	〔江戸の歴史属性〕
21	浜松城	【点的空間】	徳川家康が居城とした、江戸時代には「出世城」と呼ばれた	〔江戸の歴史属性〕
22	古戦場	【点的空間】	家康敗戦の三方ヶ原の合戦に由来する、家康のルーツをたどることができる	〔江戸の歴史属性〕
23	伝説	【活動】	家康のルーツをたどることができる	〔江戸の歴史属性〕

価値グループ

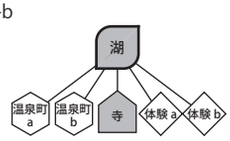
{分散型}

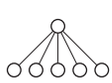
25-a



一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：4 単純階層
歴史属性	転用主調

25-b





一次の価値対象	周縁部型
階層構造	一次の結合数：5 単純階層
歴史属性	一般主調

No.26　岡崎（愛知県 岡崎市）

GUIDE TO OKAZAKI　/　岡崎市観光課・岡崎市観光協会　/　2012

分析単位

A　時の大河を渡れば、そこは悠久の浪漫薫る街。
その昔、歓びや華やぎを求めてくり広げられた幾多のドラマがあった。
戦国・江戸と時代を経て、独自の文化を育んできた岡崎。
中でも、徳川家康公と三河武士のふるさとでも知られるこの地には日本の歩みを伝えるさまざまな逸話が残されています。
時のうつろいの中で旅人を見守りつづける矢作川。その流れを渡れば、そこは今も変わらぬ城下の町。
歴史と人情にあふれた浪漫街道、岡崎の時代旅行をお楽しみください。

B　岡崎城を舞台に、時を超え受け継がれた熱き思い
数々の戦と城主の変遷を経て家康公ゆかりの聖地へと発展。
岡崎城は、康生元年西郷継頼により明大寺の地に築城。
その後、享禄 4 年松平清康（徳川家康の祖父）の本拠地として現在の場所に移されました。
家康の父・広忠の時代には、東の今川氏、西の織田氏に挟まれ苦闘。
やがて広忠が亡くなると城は今川氏の勢力下におかれ、永禄 3 年桶狭間で今川義元が戦死するまで、今川氏の武将が城代として駐在していました。
そして、桶狭間の合戦の後故郷に帰った家康が、城郭を整備して三河を平定。以後、天正 18 年まで徳川氏の支城でした。
家康の関東移封後は豊臣秀吉の家臣・田中吉政が入城。家康が江戸に幕府を移してからは、譜代大名の本多氏 44 年間、水野氏 117 年間、松平氏 8 年間、本多氏が 102 年間城主をつとめました。
泰平の与の岡崎城は石高こそ五万石前後と少なかったものの、家康公出生の城として神聖視され、大名は皆城主となることに誇りをもっていたと伝えられます。

C　堅固な城郭、街道有数の宿場町として栄えた岡崎。
初代城主・西郷継頼が築いた城は砦のようなものでしたが、田中吉政により東・北・西に延びる 4.7km の総掘や城下町が整備され、そこに東海道が引き入れられて近世岡崎城下町の原型ができあがりました。
当時の道路にはたくさんの曲がり角が設けられ「攻め難く守りやすい」という防衛上の機能と、曲がることで距離が長くなった町並みに多くの店を出すことで経済効果を高めていました。
また、吉政の次に城主となった本多康重の時代には、東海道が城内にまで延び「二十七曲り」という岡崎ならではの町のかたちが完成。
さらに元和 3 年、本多康紀が 3 層 3 階地下 1 階、井戸櫓と附櫓をもつ天守閣を建て、ここに、西と南は低地や川を利用し、東と北は塁濠を重ね、隅に櫓を構えた堅固な平山城を擁する街道屈指の宿場町「岡崎」が完成しました。
町には旅籠、荒物屋、餅菓子屋、たばこ屋、土産物屋などが建ち並び、八丁味噌やあわ雪豆腐などの名物も誕生。岡崎はかつてない賑わいを見せました。

D　乱世と繁栄を見守りつづけた城浪漫
代々の城主の思惑と人間模様、三河栄華の足跡をたどる。

E　英傑誕生の軌跡をたどる泰平浪漫
家康ゆかりの名所をめぐり、誕生から出世の道のりを探る。

F　好奇心と旅情をかきたてる街道浪漫　往時のにぎわいと三河人情をしのばせる宿場町を歩く。
江戸から数えて 37 番目の宿場町「藤川」は全長約 1km。
そこに、民家 302、問屋場 1、本陣・脇本陣各 1、旅籠 36 戸がひしめき宿場の活気を支えていました。
一方、城下町でもある「岡崎宿」は、曲り角を多くすることで城防衛機能を、街道と川で物流の機能を兼ね備えた「二十七曲り」と呼ばれる道を完備。多くのモノと人のにぎわいを呼んでいました。
藤川宿では旧街道の風情を、岡崎宿ではくねくね曲がる「二十七曲り」をお楽しみいただけます。

G　心静かに旧跡を巡る　歴史浪漫
郊外に足をのばし、先人ゆかりの地にお参りをする。

No.26　岡崎（愛知県 岡崎市）

GUIDE TO OKAZAKI　/　岡崎市観光課・岡崎市観光協会　/　2012

H　古の習俗と粋を語らう　伝承浪漫
人から人へ伝えられてきた岡崎の心意気に酔いしれる。

I　旨みと伝統仕込みの　味浪漫
職人のこだわりが産み出す ふるさとの味を堪能する。

J　精緻な技と美を伝える　匠浪漫
町の歴史とともに歩んできた 匠の手仕事を鑑賞する。

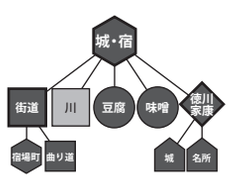
価値対象と歴史属性

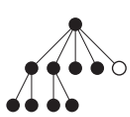
No.	価値対象		歴史属性	
1	岡崎	【全体像】	戦国・江戸と時代を経て , 徳川家康と三河武士の ふるさと , 街道有数の宿場町として栄えた	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	徳川家康	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
3	逸話	【活動】	徳川家康の	〔江戸の歴史属性〕
4	矢作川	【線的空間】	旅人を見守り続ける	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	岡崎城	【点的空間】	家康公ゆかりの聖地、家康公出生の城	〔江戸の歴史属性〕
6	二十七曲り	【線的空間】	本田康重の時代に	〔江戸の歴史属性〕
7	八丁味噌	【モノ】	宿場町の時代に誕生	〔江戸の歴史属性〕
8	あわ雪豆腐	【モノ】	宿場町の時代に誕生	〔江戸の歴史属性〕
9	名所	【点的空間】	家康ゆかり	〔江戸の歴史属性〕
10	街道 (東海道)	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
11	藤川宿	【全体像】	江戸から数えて 37 番目	〔江戸の歴史属性〕
12	旧跡	【点的空間】	先人ゆかりの地	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
13	伝承	【活動】	古の習俗と粋	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	味	【モノ】	伝統仕込み	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
15	匠の手仕事	【モノ】	町の歴史とともに歩んで来た	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

価値グループ

{集約型}

26





一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用主調

No.27　半田（愛知県 半田市）

歴史と文化のまち　半田観光ガイド　/　半田市観光協会・半田市　/　2014

分析単位

A　山車

豪華な山車と勇壮な曳き廻し、からくり人形・獅子舞・三番曳奉納の妙技。
三百年受け継がれてきた祭り絵巻です。

B　はんだ山車まつり

5 年に 1 度開催される勇壮な祭りイベント。
半田が誇る 31 輛の山車が勢ぞろいし、大競演を繰り広げます。
第 8 回「はんだ山車まつり」は平成 29 年 10 月 7・8 日に半田市役所周辺を中心に開催されます。

C　蔵

黒板囲いの醸造蔵が建ち並ぶ半田運河沿いは江戸の面影を残す散策スポットです。
潮風とともに四季の移ろいが感じられます。

D　蔵のある風景

江戸時代、海運で栄えた半田から江戸へと、特産の酒や酢が運ばれました。
運河沿いにはその醸造蔵が建ち並び、江戸の面影を今に伝えています。
蔵の景観は環境省の「かおり風景 100 選」に選ばれました。

E　南吉

童話作家・新美南吉のふるさと、半田。
南吉が生まれ育った岩滑の「南吉の里」では､南吉童話の原風景と南吉の愛した花々がお出迎えします。

F　矢勝川堤の彼岸花

南吉がよく散策した矢勝川の堤。
秋になると、東西約 1.5km にわたって 200 万本を超す彼岸花が咲き誇ります。
周辺にも菜の花やコスモスが咲き、四季を通じて童話の里を美しく彩ります。

G　新美南吉 (1913 ～ 1943)

童話「ごんぎつね」や「手袋を買いに」「でんでんむしのかなしみ」の作者として知られる児童文学者。
大正 2 年 7 月 30 日、愛知県知多郡半田町（現・半田市）に生まれる。
幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。
その後、教員をしながら執筆を続け、昭和 18 年 3 月 22 日、結核のため、29 歳で世を去る。

H　赤レンガ

明治時代のビール工場。
知多半島の先人たちが英知を絞り、この場所から新たな産業が創出しました。

I　半田赤レンガ建物

半田赤レンガ建物（旧カブトビール工場 / 国登録有形文化財・近代化産業遺産）
明治 31 年（1898 年）、明治建築界の巨匠、妻木頼黄の設計により、カブトビールの製造工場として建造されました。レンガ建物としては全国屈指の規模を誇ります。
この建物の存在が明治期のビール産業黎明期に 4 大ビールメーカーに立ち向かった起業家精神を現代に伝えています。
また、建物北壁には第二次世界大戦中に受けた機銃掃射跡が残り、戦争の記憶も伝えています。
半田市の主要な観光スポットをつなぐ「まちの回遊拠点」、そして将来的には知多半島全体の観光拠点となることを目指し、平成 26 年度に改修工事を行い、平成 27 年度にリニューアルオープンする予定です。

No.27　半田（愛知県 半田市）

歴史と文化のまち　半田観光ガイド　/　半田市観光協会・半田市　/　2014

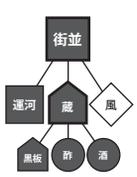
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	山車	【モノ】	三百年受け継がれて来た	〔江戸の歴史属性〕
2	曳き廻し	【活動】	三百年受け継がれて来た	〔江戸の歴史属性〕
3	からくり人形	【モノ】	三百年受け継がれて来た	〔江戸の歴史属性〕
4	獅子舞	【活動】	三百年受け継がれて来た	〔江戸の歴史属性〕
5	三番曳奉納	【活動】	三百年受け継がれて来た	〔江戸の歴史属性〕
6	はんだ山車まつり	【活動】	三百年受け継がれて来た	〔江戸の歴史属性〕
7	半田	【全体像】	江戸時代開運で栄えた / 新美南吉のふるさと	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	黒板囲い	【点的空間】	江戸の面影を残す	〔江戸の歴史属性〕
9	醸造蔵	【点的空間】	江戸の面影を残す	〔江戸の歴史属性〕
10	半田運河	【線的空間】	江戸の面影を残す , 半田から江戸へと酒や酢を運んだ	〔江戸の歴史属性〕
11	潮風	【活動】		
12	酒	【モノ】	江戸時代に運ばれた、江戸へと運ばれた	〔江戸の歴史属性〕
13	酢	【モノ】	江戸時代に運ばれた、江戸へと運ばれた	〔江戸の歴史属性〕
14	蔵の景観	【線的空間】	江戸の面影を今に伝える	〔江戸の歴史属性〕
15	新美南吉	【活動】	ごんぎつねや手袋を買いにの作者として知られる児童文学者	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	南吉の里	【全体像】	新美南吉が生まれ育った	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	矢勝川堤	【線的空間】	新美南吉が散策した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	彼岸花	【線的空間】	新見南吉の愛した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	休耕田	【線的空間】	南吉童話の原風景	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	菜の花やコスモス	【線的空間】	新見南吉の愛した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
21	赤レンガ	【点的空間】	明治時代の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
22	ビール工場	【点的空間】	明治時代の、第二次世界大戦の記憶も伝える	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

価値グループ

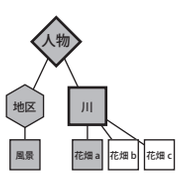
{分散型}

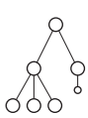
27-a



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用主調

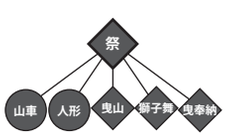
27-b





一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散
歴史属性	一般主調

27-c



一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：5 単純階層
歴史属性	転用主調

No.28　甲賀（滋賀県 甲賀市）

甲賀市観光ガイド　/　甲賀市商工観光課・甲賀市観光協会　/　2010

分析単位

A　ようこそ甲賀市へ。　さあ、あなたもタイムトリップへ。
時代をさかのぼること、約 1300 年…。
天平時代、聖武天皇が紫香楽宮を造営。鎌倉時代中頃、信楽焼が興る。
戦国時代、信長、秀吉、家康の天下取りに甲賀忍者が活躍。
やがて、家康が江戸幕府を開き、東海道が整備される。水口城が築かれ、水口宿と土山宿がにぎわう。
ーそして、現代。長い時代の中で、幾度のドラマを重ねてきた「甲賀」。
多くの歴史遺産が訪れる人を古代へ、中世へ連れて行く…。

B　信楽焼・アート散策　古代
狸の置物で知られる信楽焼。
陶器の里ー甲賀市信楽町では、街じゅうで愛らしい狸が出迎えてくれます。
軒を連ねるショップ、作陶体験、窯元めぐりなどアートな一日が待っています。

C　長い歴史と文化に支えられて
信楽焼の歴史をさかのぼると天平時代に聖武天皇が紫香楽宮を造るにあたって瓦などを焼いたのが始まりといわれています。
以来、良質の土が出たことからその長い歴史と文化に支えられて、日本六古窯のひとつに数えられています。…
そもそも狸の置物は江戸時代に造られていたという記録が残っていますが、昭和 26 年に旗を持たせた狸の置物をずらりと並べて天皇をお迎えしたところ、天皇が歌を詠まれたことから全国的に知られるようになりました。以来、福を呼ぶ縁起物として信楽焼 = 狸の置物が定着したようです。
現在では暮らしの器、置物、花器などさまざまな作品が創られている中で、若手作家による感性が加わり、新しい作風が生まれつつあります。

D　土の持ち味を生かした作風
信楽焼の特徴はあたたかみのある赤茶色と肌触り。
焼成すると土の中の鉄分が赤く発色するので表面は赤茶色のような色になります。
釉薬をかけずに焼きますが、灰が溶けて自然に釉薬をかけたようになります。
そして薪の灰に埋まる部分が黒褐色になる「焦げ」も特徴です。
信楽特有の土の持ち味を生かした、素朴であたたかい、存在感のあるアートな作品。
これが甲賀市の代表する伝統技術です。

E　戦国の世を駆け抜けた、甲賀忍者。　中世
甲賀市は甲賀忍者のかくれ里。伝説の猿飛佐助は甲賀忍者だったという。
武将たちの天下取りの裏舞台で生きた忍者の世界へ。

F　甲賀忍者（甲賀武士）発祥の地
中世の時代、地域の支配権力を強めようとしていた甲賀の土豪たち。
長享元年 (1487) に…各家の名字の多くは現在の甲賀地域各地の地名になっています。
一歩入ればそこは忍びの世界。
甲賀の里「忍術村」には広大な山林に甲賀武士の住居を移築した忍術屋敷、忍術博物館、手裏剣道場などが点在し、当時の隠れ里が再現されています。
忍術屋敷の外観は一般的な日本家屋ですが、内部には吊り天井や抜け穴など様々な細工が施されています。
また、甲賀五十三家の有力者望月家の住居が「甲賀流忍術屋敷」として公開されており、こちらでも忍者体験を楽しむことがきます。

G　東海道宿場町、人と文化が行き交った。　近世
参勤交代の大名や武士、伊勢参りの旅人、そして芭蕉などの俳人が通った東海道。
当時のたたずまいを残す道筋は今も優しく旅人を迎えてくれます。

No.28　甲賀（滋賀県 甲賀市）

甲賀市観光ガイド　/　甲賀市商工観光課・甲賀市観光協会　/　2010

H　江戸時代の旅人気分で…

慶長 5 年 (1600)、天下分け目の戦い「関ヶ原の合戦」で勝利した徳川家康は翌年、江戸と京都を結ぶ重要な街道として東海道に五十三の宿場を設け「東海道五十三次」を開設しました。

土山宿は街道の難所と言われた鈴鹿峠を行き来する旅人の休憩場所となりました。

水口宿は徳川三代将軍家光の宿館として築城された水口城の城下町としても整備され、「街道一の人留め場」といわれるほどの賑わいを魅せました。

享保 20 年 (1735)、町民がまちの発展を願って曳山を建造し、水口神社に奉納しました。

これが「水口曳山祭」の始まりだと伝えられています。

旧東海道を歩けばこの曳山を収納している「山蔵」をみることができます。

天保 3 年 (1832) に浮世絵師の第一人者、安藤広重は各宿場町の風景を描きました。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	信楽焼	【モノ】	1300 年前聖武天皇ゆかり、鎌倉時代中頃に興った	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	紫香楽宮	【点的空間】	1300 年前聖武天皇ゆかり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	甲賀忍者	【活動】	戦国時代に信長・秀吉・家康の天下取りに活躍 / 猿飛佐助は甲賀忍者	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	東海道	【線的空間】	徳川家康により整備された、江戸と京都を結ぶ、参勤交代の大名や武士、伊勢参りの旅人、芭蕉らが通った	〔江戸の歴史属性〕
5	水口城	【点的空間】	徳川三代将軍家光の宿館として築城された	〔江戸の歴史属性〕
6	水口宿	【全体像】	徳川三代将軍家光の宿館として築城された水口城の城下町としても整備された、安藤広重が描いた	〔江戸の歴史属性〕
7	土山宿	【全体像】	江戸時代に開設された、安藤広重が描いた	〔江戸の歴史属性〕
8	狸の置物	【モノ】		
9	信楽町 (陶器の里)	【全体像】	江戸時代につくられていた / 昭和 26 年に天皇が歌を詠まれた	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	ショップ	【点的空間】		
11	作陶体験	【活動】		
12	窯元	【活動】		
13	甲賀	【全体像】	甲賀忍者の隠れ里	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	地名	【活動】	甲賀の家の名字の多くが地名になっている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	甲賀の里「忍術村」	【線的空間】	甲賀忍者の隠れ里が再現されている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	忍術屋敷	【点的空間】	甲賀武士の住居を移築した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	忍術博物館	【点的空間】	甲賀忍者の隠れ里が再現されている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	手裏剣道場	【点的空間】	甲賀忍者の隠れ里が再現されている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	甲賀流忍術屋敷	【点的空間】	甲賀五十三家の有力者の家	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	忍術体験	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	鈴鹿峠	【周縁部】	街道の難所といわれた	〔江戸の歴史属性〕
22	曳山	【モノ】	享保 20 年に町民が奉納した	〔江戸の歴史属性〕
23	水口曳山祭	【活動】	享保 20 年に始まったと伝えられる	〔江戸の歴史属性〕
24	山蔵	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

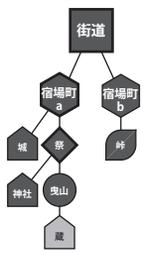
No.28　甲賀（滋賀県 甲賀市）

甲賀市観光ガイド　/　甲賀市商工観光課・甲賀市観光協会　/　2010

価値グループ

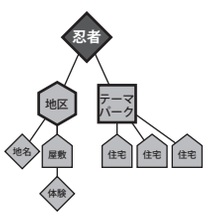
{分散型}

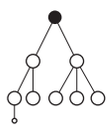
28-a



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用主調

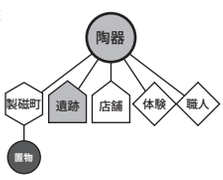
28-b

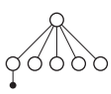




一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用 - 一般

28-c





一次の価値対象	生活型 - 物品系
階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般 - 転用

No.29　亀岡（京都府 亀岡市）

京都・亀岡城下町散策 MAP　/　亀岡市観光協会・亀岡市産業観光部観光戦略課　/　2012

分析単位

A　江戸時代の丹波亀山城下を歩く　城下町散策イラストマップ

明智光秀の築城以来、戦国・江戸時代を通して山陰と京を結ぶ重要拠点として発展した城下町・亀岡の歴史をたどりましょう。

B　時は戦国。光秀、丹波亀山城より本能寺へ出陣

京から西に 15 キロ。北の保津川、東の年谷川、西の曽我谷川、雑水川を天然の防御ラインとし、小高い丘の上に造られた亀山城。

京と丹後方面を結ぶ街道上に位置した、交通や戦略上の重要地でした。

天正 10 年(1582)、6 月 1 日夜。日本史上最大の下剋上「本能寺の変」が、ここ亀山城から動き出します。

主君・織田信長を討つー！

明智光秀は、天下統一を目指す信長の命により、丹波攻略の軍事拠点としていたこの城から、1 万 3000 もの兵を率いて出陣。

表向きは中国地方で毛利氏と戦う羽柴秀吉の救援を装い、京へ向い本能寺の信長を討ちました。

光秀亡き後は、豊臣秀吉の支配を経て、天下を統一した徳川家譜代の大名の城に。

家康の支配下で、豊臣系の大名の財力を使わせるための「天下普請」により大改修を敢行。

その際に城下町も整備され、光秀が基礎を築いた名城は、近世城郭として完成されました。

その後、政治的にも重要な拠点であるこの城には徳川家譜代の大名が藩主として入れ替わり、松平（形原）家が藩主のときに幕末を迎えます。

そして明治維新後には廃城となり、その輝かしい歴史に幕を下ろしました。

今、小高い丘の上には、城跡の名残を残す天守の石垣がひっそり残ります。

歴史を眺めつづけたであろう、松林の森に守られながら。

C　お堀沿いにお寺と神社が多いワケ

亀山城と城下町は、内堀・外堀・惣堀と呼ばれる 3 重のお堀で周囲をぐるりと囲まれています。

また、お堀に沿って沢山の寺社が軒を連ねていますが、これは、攻めてくる敵に対して、寺や神社の建物や敷地に陣を張れるようにしたためです。

城下町を守ると同時に、町の人々を癒してきた古き社寺。ご利益を訪ねながら、亀岡ならではの町並みを歩いてみましょう。

D　城下町の町家は、あしらい・スタイルいろいろ

京都と丹後地方を結ぶ旧山陰街道が通る亀岡は、古くから都と地方の文化が交流する地でした。

それは「平入町家」と、「妻入町家」が混在する独特の町の風情にも現れています。

また亀岡は古くより豊富な地下水に恵まれた水の町・湧き水を生かした酒、醤油などを造る商家をめぐるのも、楽しみの一つです。

E　城下町を見下ろした大天守

城下町の北端にある小高い丘に、天守台の石垣や堀跡を残す亀山城。

周囲を厳重に堀で囲まれ、外からの視線をさえぎるような松林に覆われた城の中心には、かつて五重の大天守がありました。

鳥のさえずり響く緑豊かな城跡を歩けば、往時の面影を伝える石垣や堀跡、松林を見ることができます。

F　町そのものが、お城を守る砦でした。

亀山城の南側一帯に広がる城下町を、ぐるりと囲む惣堀。その内側には寺や神社、外側には下級武士の長屋が配置され、侵入者が用意に本丸に近づけないように工夫されていました。

蛇行した路は迷路のように複雑です。

また、住居エリアは武家地と町人地に分けられ、三の丸の跡地である内丸町や、呉服町・塩屋町といったふうに、その名残を町名から辿ることができます。

G　古より暮らしのなかで育まれてきた、美しき住まいのカタチ

No.29　亀岡（京都府 亀岡市）

京都・亀岡城下町散策 MAP　/　亀岡市観光協会・亀岡市産業観光部観光戦略課　/　2012

H　11 基の山鉾が巡行する亀岡の祭り

亀岡祭は和銅 2 年 (709) に創建された鍬山神社の祭礼で、大堰川の氾濫による水害や干ばつなどの厄災除けと豊かな実りに感謝して行われました。

戦国時代に一時途絶えましたが、その後歴代城主の庇護のもと神社が復興され、祭も町衆により延宝 8 年 (1680) に再興。

中国や朝鮮、北欧などからもたらされた渡来染織品や京都西陣の綴錦など豪華な懸装品をまとった山や鉾が城下町を巡行するさまは、町衆の心意気を感じさせます。

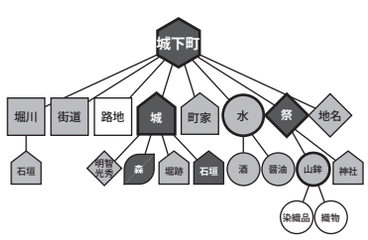
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	亀岡城下町	【全体像】	戦国・江戸時代を通して重要拠点として発展した / 明智光秀が築城した	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	丹波亀山城	【点的空間】	徳川家譜代大名が藩主として住んだ / 明智光秀が築城・本能寺へ出陣	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	天守の石垣	【点的空間】	城跡の名残を残す	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	松林の森	【周縁部】	歴史を眺めつづけたであろう , 往時の面影を伝える	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	3 重のお堀	【点的空間】	往時の面影を伝える	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	寺社	【点的空間】	町の人々を癒してきた古き	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	町家	【点的空間】	古くからの都と地方の文化が交流した	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	旧山陰街道	【線的空間】	旧	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	地下水	【モノ】	古くより	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	酒	【モノ】	古くより	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	醤油	【モノ】	古くより	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	商家	【点的空間】	古くより	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
13	路	【線的空間】		
14	町名	【活動】	名残を辿ることができる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
15	山鉾	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
16	亀岡祭	【活動】	1680 に再興 /709 年に創建された	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	鍬山神社	【点的空間】	709 年に創建された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	渡来染織品	【モノ】		
19	綴錦	【モノ】		

価値グループ

{集約型}

29



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：8 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

No.30　坂越（兵庫県 赤穂市 坂越）

旧坂越浦会所　/　赤穂市　/　-

分析単位

A　江戸時代の風情を残す坂越のまち並みをぶらりと訪ね歩くたのしみ

B　坂越の歴史

「坂越」という地名は、すでに延暦 12 年（793）の古文書に記されており、また『和名類聚抄』にも、播磨の行政単位の一つとして「坂越郷」が見えるなど、長い歴史を持っています。

弧を描く特徴的な地形の坂越湾と、その湾に浮かぶ生島は、坂越を風や波から守り、この地を天然の良港にしました。坂越は瀬戸内の代表的な港として古来より栄え、15 世紀には、胡麻、鰯、なまこ等を輸送していた記録も残っています。

江戸時代には西廻り航路の港として多くの廻船を擁したほか、イナ漁の産地としても栄えました。

C　坂越のまち並み

坂越は、瀬戸内海流通と千種川の高瀬舟流通とをつなぐ拠点として栄えたため、まち並みは、沿岸だけでなく千種川と坂越浦とをつなぐ「大道」沿いにも発展しました。

現在、坂越のまち並みは、江戸期にさかのぼるものはさほど多くないものの、伝統的な和風建築物を全体としてよく残し、大道にある曲りくねった坂道と合わせて、変化とともに風情のある景観を見せています。

坂越のまち並みは、平成 4 年（1992）、市の市街地景観形成地区に指定され、現在も住民の努力によって歴史的景観が守られています。

D　旧坂越浦会所

この建物は、行政や商業などの事務を執るための浦会所として、天保 3 年（1832）に完成しました。以後、坂越浦の会所として使用されますが、同時に赤穂藩の茶屋としての役割を持っており、2 階には藩主専用の部屋「観海楼」が設けられていました。

また 2 階の「落之間」は一段低くされた小部屋で、低い窓越しに、眼下まで迫っていた坂越湾を眺めることができました。

この建物に関する史料として、坂越浦文書が残されており、そのうち会所日記の『天明六年諸事覚日記』には、赤穂藩主らが休憩、宿泊して祭礼見物や釣りなどをした記録もあります。

昭和 5 年（1930）になると会所は役目を終えて「坂越公会堂」として大きく改造され、広く活用されていました。

本建造物は、藩の茶屋機能をもった大規模な会所建築であり、建築年代が判明していること、会所日記が防府に残っていて当時の様子が詳しくわかること、また史料によって原形を復元可能なことなどから、平成 4 年（1992）4 月 30 日に「旧坂越浦会所」として赤穂市有形文化財（建造物）に指定されました。

その後、詳細な建築調査を踏まえた解体復原工事を実施し、平成 6 年（1994）8 月 1 日に復原竣工、現在一般公開しています。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	坂越	【全体像】	江戸時代に栄えた /793 年の古文書に記されている	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	坂越のまち並み	【線的空間】	江戸時代の風情を残す /793 年の古文書に記されている	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	坂越湾	【周縁部】	古来から坂越を天然の良港にした	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
4	生島	【周縁部】	古来から坂越を天然の良港にした	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	千種川	【線的空間】		
6	大道 (坂道)	【線的空間】		
7	和風建築物	【点的空間】	伝統的な	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	旧坂越浦会所	【点的空間】	天保 3 年に完成、解体復元工事	〔江戸の歴史属性〕

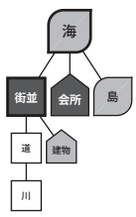
No.30　坂越（兵庫県 赤穂市 坂越）

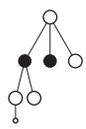
旧坂越浦会所　/　赤穂市　/　-

価値グループ

{分散型}

30





一次の価値対象	周縁部型
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般 - 転用

No.31　奈良町（奈良県 奈良市）

ならまちめぐり　/　奈良市観光協会・ならまち振興財団　/　2011

分析単位

A　ならまちめぐり
江戸時代の末から明治の面影を今に伝える「ならまち」。
迷路のような小路を行くと、歴史の横顔が見えてくる。

B　ようこそならまちへ
710 年に平城京へ都が遷されたとき、飛鳥の法興寺 (飛鳥寺) が元興寺として平城京に移され、この地は「平城 (奈良) の飛鳥」と呼ばれていました。
現在､「飛鳥」という町名は残されていませんが､「飛鳥小学校」などの呼称のその名を留めています。
この元興寺の旧境内を中心とした地域を「ならまち」と呼んでいます。
平城京の「外京」にあたり、当時の道筋をもとに発展した長い歴史を持つ町です。
平城京への遷都以来まちづくりがはじまり、南都と呼ばれる社寺のまちから商業のまちへ、商業のまちから観光のまちへと様々な時代背景の中で盛衰をくり返してきた町でもあります。
江戸時代の末期から明治時代にかけての町家の面影を今に伝える「ならまち」は、訪れる人々にやすらぎとうるおいを与え、時には懐かしささえ感じさせてくれる古い町並みです。

C　町並みの魅力を探る①　中新屋町・陰陽町・鳴川町周辺
太い木材をふんだんにつかった格子のある建物。間口が狭く、奥行きの深い中二階の町家、辻子 (づし) と呼ばれる袋小路など、今も当時の名残をとどめています。

D　町並みの魅力を探る②　高畑・元林院・椿井周辺
旧柳生街道「滝坂の道」に続く道に面する高畑界隈は、古くから続く春日大社の社家町。
重厚な土塀が巡らされた落ち着いた町並みは、多くの文化人を魅了してきました。

E　ならまちの文化財
世界遺産のひとつ元興寺をはじめ、奈良時代創建の社寺が町のあちこちに点在するのも「ならまち」の特徴のひとつです。

F　夕暮れの元林院界隈で　舞妓さんに出逢う
約百四十年の歴史を誇る花街・元林院町　戦前は二百人以上の芸舞妓がいた町。
夕暮れ時、運が良ければこっぽり下駄の鈴の音が路地から聞こえてくるかも…。

G　ならまちの町家造り
間口が狭く、奥行きが深いという特徴を持つならまちの町家。
これは、かつて税金が間口の広さによってかけられた事と、表通りに面したいという知恵でもあると言われています。
町家の正面は、日差しや風量の調節に役立つ格子戸があり、その横には「あげ床几」と呼ばれる商品の陳列台があります。
格子戸を入ると置くまで土間の「通り庭」が続き、中ほどには「かまど」が配されています。
これは、薪を燃やした煙が吹抜けを通り、屋根の「煙抜き」に抜けると同時に、煙によって家を支える柱や梁を虫から守る役目も果たしていました。
また、座敷にある箱階段や「坪庭」と呼ばれる小さくても美しく灯篭などを配した中庭など、長い歴史の中で、限られた土地や空間を十分に生かすように工夫された造りになっています。

H　「ならまち」に新しい鼓動が聞こえる。
どこか懐かしい風情漂う「ならまち」。そこは奈良時代に創建された社寺や、江戸時代に建てられた格子戸の美しい町家や商家が点在し、長い時間を連綿と今に受け継いでいます。
現在は、伝統ある古いお店に「ならまち」に魅了された若者などが加わり、新しい感性を取り込みながらまちづくりに取組んでいます。
細い路地を曲がると築 100 年の町家を利用したカフェや、創業当時から変わらず伝統を守りつづけている商家があったり、昭和の雰囲気が漂う民家の軒下に若いアーティストの作品が飾られていたりと、訪れる度に新しい発見があります。

No.31　奈良町（奈良県 奈良市）

ならまちめぐり　/　奈良市観光協会・ならまち振興財団　/　2011

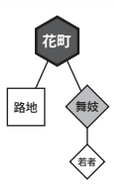
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	ならまち	【全体像】	江戸時代の末の面影を今に伝える / 明治の面影を今に伝える , 平城京への遷都以来まちづくりがはじまり	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	ならまち (町並み)	【線的空間】	江戸時代の末の面影を今に伝える / 明治の面影を今に伝える , 平城京への遷都以来まちづくりがはじまり	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	町名	【活動】	平城京への遷都当時の町名	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	元興寺	【点的空間】	710 年に移され	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	道筋	【線的空間】	奈良時代当時の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	町家、商家	【点的空間】	江戸時代の末期から明治時代にかけての面影を伝える、江戸時代に建てられた、創業当時から変わらず伝統を守り続ける	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	格子	【点的空間】	江戸時代に建てられた	〔江戸の歴史属性〕
8	辻子 (袋小路)	【線的空間】	当時の名残を留める	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	旧柳生街道	【線的空間】	旧	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	高畑界隈 (町並み)	【線的空間】	春日大社の社家町	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	土塀	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	春日大社	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	社寺	【点的空間】	奈良時代創建の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	元林院町	【全体像】	約百四十年の歴史を誇る花町	〔江戸の歴史属性〕
15	芸舞妓	【活動】	戦前は	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	こっぽり下駄 (の鈴の音)	【活動】		
17	路地	【線的空間】	長い歴史の中で工夫された	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
18	あげ床几	【点的空間】	長い歴史の中で工夫された	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	通り庭	【点的空間】	長い歴史の中で工夫された	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
20	かまど	【モノ】	長い歴史の中で工夫された	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	箱階段	【点的空間】	長い歴史の中で工夫された	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
22	坪庭	【点的空間】	長い歴史の中で工夫された	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
23	灯籠	【モノ】		
24	若者	【活動】		
25	町家 (カフェ)	【点的空間】	築 100 年の町家を利用した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
26	民家	【点的空間】	昭和の雰囲気が漂う	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
27	アーティストの作品	【モノ】		

価値グループ

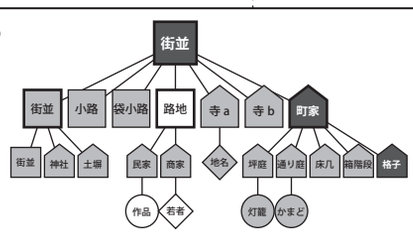
{分散型}

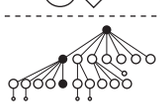
31-a



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	転用 - 一般

31-b





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：7 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	転用 - 一般

No.32　今井町（奈良県 橿原市 今井町）

ならかしはら 今井町　/　橿原市観光課・橿原市観光協会　/　2014

分析単位

A　重要伝統的建造物群保存地区　なら かしはら　今井町

かつて「大和の金は今井に七分」といわれるほど繁栄した町

現在も、五〇〇軒もの町家が連なり、町全体が江戸時代の姿を残しています。

伝統的建造物群保存地区とは

昭和 50 年の文化財保護法の改正によって、伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存しようとする制度です。

今井町は、寺内町として、平成 5 年 12 月 8 日に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

B　今井町の歴史

今井の地名は至徳三年 (1386) の興福寺一乗院の文書に見えますが、今井町の成立は戦国の世、天文年間 (1532 ～ 1555) この地に一向宗本願寺坊主の今井兵部卿豊寿によって寺内町が建設されたことに発します。

一向宗の門徒が、都市計画に基づき今井に御坊 (称念寺) を開き、自衛上武力を養い、濠をめぐらしました。

永禄十一年 (1568) 織田信長が、足利義昭を擁して上洛以来、本願寺は反信長の旗を立て、今井もそれに呼応し、寺を中心とした城塞都市の形態を整え、抵抗しましたが、天正三年 (1575) 明智光秀を通じて信長に降伏し、事なきを得ました。

かくして、大阪や堺などとも交流が盛んになり、江戸時代には南大和最大の在郷町となって、大いに栄えました。また、堺と並び自治的特権が認められ、惣年寄、町年寄がおかれて町政を担いました。

C　今井町の町並み　称念寺を中心とした寺内町

今井は、江戸時代初期の概略では、東西 600m、南北 310m、周囲には環濠土居を築いた戸数 1100 軒、人口約 4,000 数百人を擁する財力豊かな町でした。

町割は西、南、東、北、新、今の六町に分かれ、9 つの門からは木橋を通って濠を渡り、外部の道路と連絡しています。内部の道路で見通しのきくものはなく、ほとんどが一度屈折させてあります。

これは、敵の侵入に備えて、その遠見、見通し、弓矢・鉄砲の射通しを不可能にするためでした。

これらは当初、軍事目的のためにつくられたものですが、江戸時代中頃は裕福な商人の生命、財産等を外部から守るというものに変貌しました。

現在も、今井町の大半の民家が江戸時代以来の伝統様式を保っており、慶安 3 年 (1650) の今西家をはじめとして、美しい民家が数多く建ち並び、今なお、街全体が戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしりと感じさせています。

D　今井町　伝統的建造物群保存地区

飛鳥川の流れに掛かった蘇武橋を渡ると、そこは江戸時代だった…

E　江戸時代の風情を今に伝える一奇跡の町 今井町

全国最大規模の重要伝統的建造物群保存地区「今井町」は、その町並みを構成するすべてが見どころです。

「日本に今井町が残っていて良かった。」今井町を訪れたあなたはきっとそう思うことでしょう。

今井町の魅力を心ゆくまで感じてください。

F　なら かしはら　八木町

かつての賑わいの象徴「八木町」　郷愁にも似た、安らぎに包まれる街を歩く

G　八木町の歴史

古代、政治の中心地であった奈良盆地には、早くから多くの幹線道路が整備されていました。

都から大陸への玄関港である難波の津を結んでいた横大路、大和から今の和歌山市に至る紀路などです。

藤原京から北に向っては、中ツ道、下ツ道と呼ばれる道路が存在しており、八木の町はその横大路と下ツ道の交差点を中心に生まれ、中世には既に町を形成していたといわれています。

江戸時代になると、横大路を含む河内から伊勢に通じる道は「伊勢街道」や「初瀬街道」と呼ばれ、また、下ツ道は「中街道」と称されるようになり、北は奈良を越えて山城に達し、南は吉野・紀伊方面に通じており、この２つの街道交差点である「八木札の辻」は、お伊勢参りや大峯山の参詣巡礼などで大いに賑わいました。

当時の姿は江戸時代に出版された「西国名所図会」にもいきいきと写し出されています。

また、松尾芭蕉や本居宣長、吉田松陰といった歴史上の著名な人物もこの地に足跡を残しています。

No.32　今井町（奈良県 橿原市 今井町）

ならかしはら 今井町　/　橿原市観光課・橿原市観光協会　/　2014

H　八木町の町並み

八木町には、文化的に貴重な建物をはじめ伝統的な町家が約 300 軒も残っています。
その一方で近代的な歴史的建造物も数多く存在し、中でも畝傍高校校舎や旧六十八銀行は登録有形文化財に登録されています。
町を巡れば、通りの表・路地裏のいたるところで、古びた商家の看板、人々が集った井戸、昔ながらの銭湯、懐かしい小鳥屋・茶葉屋といったノスタルジックなシーンに出会うことができます。
有名な施設や名所があるわけではありませんが、タイムスリップしたかのような不思議な既視感、郷愁にも似たある種の落ち着いた気分に包まれる、そんなひとときを過ごせる空間が広がっています。

I　八木町 長い時を越えて今も残るかつての風情

小さなエリアの中に風情あふれる風景がぎっしり詰まった町並みを楽しむ。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	今井町	【全体像】	江戸時代の姿を残している , 江戸時代に栄えた / 戦国時代にできた寺内町	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	今井町 (町並み)	【線的空間】	江戸時代の姿を残している , 江戸時代に栄えた / 戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしりと感じさせる	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	町家	【点的空間】	江戸時代の姿を残している	〔江戸の歴史属性〕
4	称念寺	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	町割り	【線的空間】		
6	木橋	【点的空間】		
7	濠	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	曲り道	【線的空間】	江戸時代に商人の財産や生命を外部から守る役割	〔江戸の歴史属性〕
9	今西家	【点的空間】	1650 年の	〔江戸の歴史属性〕
10	飛鳥川	【線的空間】		
11	蘇武橋	【点的空間】		
12	八木町	【全体像】	江戸時代の「西国名所図会」にも描写 , 松尾芭蕉 , 本居宣長 , 吉田松陰も訪れた / 中世には町を形成していた	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	町家	【点的空間】	伝統的な	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	歴史的建造物	【点的空間】	近代的な	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	畝傍高校校舎	【点的空間】	近代的な	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	旧六十八銀行	【点的空間】	近代的な	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	通り	【線的空間】		
18	路地裏	【線的空間】		
19	商家の看板	【モノ】	ノスタルジックな、古びた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
20	井戸	【点的空間】	ノスタルジックな	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	銭湯	【点的空間】	ノスタルジックな、昔ながらの	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
22	小鳥屋	【点的空間】	ノスタルジックな、懐かしい	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
23	茶葉屋	【点的空間】	ノスタルジックな、懐かしい	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

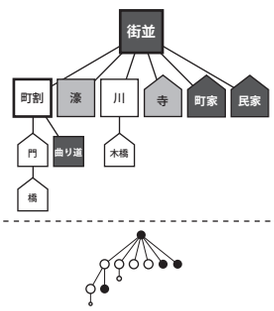
No.32　今井町（奈良県 橿原市 今井町）

ならかしはら 今井町　/　橿原市観光課・橿原市観光協会　/　2014

価値グループ

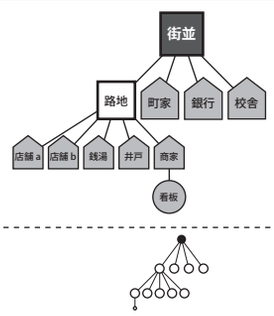
{分散型}

32-a



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

32-b



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

No.33　和歌山（和歌山県 和歌山市）

わかやま市　観光虎の巻　/　和歌山市観光協会　/　2013

分析単位

A　歴史と万葉ロマンあふれる 紀州五十五万五千石の城下町
魅惑の紀州路探訪　水と緑と歴史のまちで見て食べて遊ぶを満喫！
和歌山市は近畿地方の南西部に位置する、山と海と川に囲まれた温暖な都市です。
日本書紀や古事記にも名を記す悠久の歴史、万葉の詩情を感じさせる名勝や旧跡、和歌山城を中心に栄えた徳川御三家の城下町の面影を訪ねることができ、また、新鮮な海産物や和歌山ラーメンなどのグルメや、和歌山マリーナシティや温泉施設などのレジャー施設を楽しむことができます。
和歌山市のキャッチフレーズは「水と緑と歴史のまち　気くばり・元気　わかやま市」です。
見て、食べて、遊ぶ魅惑の紀州路探訪を心ゆくまでお楽しみください。

B　時代が層をなす迷宮　和歌山城　今昔物語
虎伏山にそびえる白亜の天守閣　豊臣から徳川、そして今日へ
わかやま市のシンボル「和歌山城」
江戸時代後期と第２次世界大戦による戦災の二度にわたる焼失から蘇ったその雄姿は、「日本名城100 選」にも選定されています。
桜・ツツジ・牡丹・紅葉と移ろう季節に彩られる庭園
小ネタパラダイス！和歌山城　周遊コースで歴史探索
徳川御三家を象徴する豪華なあしらい。城内に動物園としては珍しく、子どもも集う人気スポット

C　和歌山城 探訪 コース
八代将軍吉宗のふるさと　徳川御三家・紀州五十五万五千石の居城
「日本 100 名城」の一つ。街の中心部に佇み､和歌山市を象徴するランドマークとして在り続ける存在。
天下に名を馳せた徳川御三家に相応しい威厳に満ちた風格です。

D　和歌山城周辺まちなか 散策 コース
のんびりと歩くまちなか散策コース　和歌山城のお膝元で街の風情と歴史を満喫
城下町として栄えた中心地で、街中には今もその面影が点在。
のんびり歴史散策もよし、昭和の風情が残る街並み散策もグッド。
グルメやショッピングとあわせてお気に入りの風景を見つけては。

E　紀三井寺・和歌浦 タイムトラベル コース
紀三井寺から歴史を感じる散策コース
「持ち帰りたい風景」と歌に詠まれた「和歌の浦」を歩く
昔から多くの歌人に愛され、その景色が歌に詠まれる風光明媚なエリア。
変わらぬ風景が、遥か万葉の時代へとタイムスリップしたような気持ちになります。

F　雑賀崎・和歌浦 絶景 てくてくコース
爽やかな潮風に吹かれて和みのひととき
海のない平城京（現在の奈良県）に住む万葉貴族にとって、温暖で雄大な和歌の浦の風景は心浮き立つ憧れだったのです。和歌山屈指の絶景の数々を、ゆっくりと巡ってください。

G　加太・友ヶ島 ノスタルジック コース
ひな流しで知られる淡嶋神社は女性のための神様。友ヶ島へちょこっと冒険。
紀淡海峡に面した港町。神社・砲台跡をめぐり、ハイキング・キャンプ、磯釣りや海水浴など、海辺のレクリエーションが楽しめる近畿を代表するリゾートエリアです。

H　熊野古道・旧中藤家住宅 郷愁
導き石を辿って田園風景の中を歩く
熊野古道「紀伊路」は和泉山脈を越えて和歌山市を南下します。
おすすめはのんびりと田園風景の中を歩く伊太祁曽神社までのコース。
生活道として今も利用される約 15km のルートを道標や導き石がご案内します。

No.33　和歌山（和歌山県 和歌山市）

わかやま市　観光虎の巻　/　和歌山市観光協会　/　2013

I　古戦場跡・雑賀孫一 雑賀衆ゆかりの地

戦国時代に鉄砲と奇抜な作戦で、織田信長ら時の権力者と戦った気骨の集団「雑賀衆」

戦国時代、紀州は天下人を脅かす一大勢力を誇っていました。

織田信長や豊臣秀吉は、天下統一をはかるために紀州を猛攻撃。

天正 5 年（1577）信長による雑賀攻め、同 13 年（1585）秀吉による紀伊攻略が行われます。

今も残る戦場のつめ跡。雑賀衆ゆかりの地や太田城水攻めの古戦場など、紀州攻めの名残を訪ねます。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	城下町 (中心地)	【全体像】	紀州五十五万石の城下町 , 徳川御三家の城下町 , 今もその面影が点在 / 日本書紀や古事記にも名を記す , 万葉ロマンあふれる	〔江戸の歴史属性〕〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	和歌山城	【点的空間】	江戸時代後期の焼失から蘇った , 徳川御三家を象徴する , 八代将軍吉宗のふるさと / 豊臣から , 戦災の焼失からよみがえった	〔江戸の歴史属性〕〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	海産物	【モノ】		
4	和歌山ラーメン	【モノ】		
5	和歌山マリーナシティ	【全体像】		
6	温泉施設	【点的空間】		
7	虎伏山	【点的空間】		
8	天守閣	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	桜	【点的空間】		
10	つつじ	【点的空間】		
11	牡丹	【点的空間】		
12	紅葉	【点的空間】		
13	庭園	【点的空間】		
14	動物園	【点的空間】		
15	町並み	【線的空間】	昭和の風情が残る	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	ショッピング	【活動】		
17	紀三井寺	【点的空間】	歴史を感じる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
18	雑賀崎	【周縁部】		
19	和歌浦	【周縁部】	万葉の時代	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	潮風	【活動】		
21	加太	【全体像】	ノスタルジック	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
22	友ヶ島	【周縁部】	ノスタルジック	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
23	ひな流し	【活動】		
24	淡島神社	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
25	砲台跡	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
26	ハイキング	【活動】		
27	磯釣り	【活動】		
28	海水浴	【活動】		
29	熊野古道「紀伊路」	【線的空間】	生活路として今も利用される	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
30	旧中藤家住宅	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
31	導き石	【点的空間】		
32	田園風景	【線的空間】		
33	和泉山脈	【周縁部】		
34	伊太祁曽神社	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
35	道標	【点的空間】		
36	雑賀衆	【活動】	戦国時代に織田信長や豊臣秀吉と戦った	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
37	雑賀衆ゆかりの地	【点的空間】	紀州攻めの名残	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
38	太田城水攻めの古戦場	【点的空間】	紀州攻めの名残	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

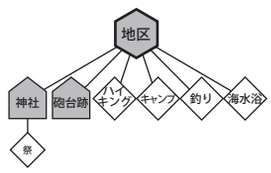
No.33　和歌山（和歌山県 和歌山市）

わかやま市　観光虎の巻　/　和歌山市観光協会　/　2013

価値グループ

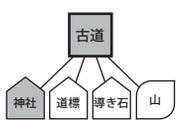
{分散型}

33-a



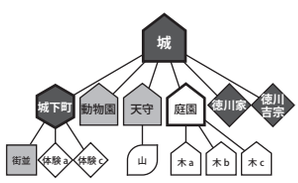
一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般主調

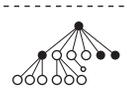
33-b



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：4 単純階層
歴史属性	一般主調

33-c





一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

33-d

一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般主調

No.34　御手洗（広島県 呉市 豊町 御手洗）

見たらいい町、御手洗マップ　/　呉市豊町観光協会　/　-

分析単位

A　江戸時代の港町　国指定重要伝統的建造物群保存地区　見たらいい町、御手洗マップ
風まち、潮まち、港町、そして江戸の竜宮城、御手洗。
瀬戸内海のほぼへりにある、江戸時代の中継貿易港には、人が集い、物が集まり、文化が育った。
その栄華の残像が、平成の今、日本文化を伝えてくれる。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	御手洗 (町並み)	【全体像】	江戸時代の港町、江戸の町並み	〔江戸の歴史属性〕
2	御手洗 (町並み)	【線的空間】	江戸時代の港町、江戸の町並み	〔江戸の歴史属性〕
3	瀬戸内海	【周縁部】		

価値グループ　なし

No.35　竹原（広島県 竹原市）

竹原市観光ガイドマップ 歴史情緒と潮風が薫る町 たけはら
/　竹原市産業振興課観光交流室・社団法人竹原市観光協会　/　2012

分析単位

A　ようこそ、安芸の小京都へ。ここは、江戸時代の歴史情緒が薫る町。
はるか平安時代、京都下鴨神社の荘園として栄えた竹原。
今も貴重な文化遺産が生き続ける情緒あふれる町です。
特に上市・下市には、江戸時代後期に製塩や製造業で栄えたお屋敷や由緒あるお寺のある町並みが往時の姿をそのままに伝えています。
寺山に沿って南北に走るメインストリートの本町通りのほかはどの通りも道幅が狭く、大小路や板屋小路、中ノ小路など路によって雰囲気もさまざま。
また、高い壁や長屋門の格子、覆いの漆喰壁などが江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え、町の至る所に当時の暮らしぶりを見ることができます。
今を生きる私たちに歴史を語り継いでくれるこの小さな町を、大切に守り続けたい。そんなかけがえのない町並みです。

B　町並み保存地区
歴史の息吹を感じつつ、ゆっくりと歩いてみる。
耳をすませば、往時の町のざわめきが聞こえる気がした。
ノスタルジックな風にふかれていつしか気分はタイムトリップ。

C　竹原格子　意匠を凝らした美しい格子を、一軒一軒楽しむ
竹原の町家には「竹原格子」と呼ばれる独特の格子が見られます。
一階部分には出格子があり、中二階には虫籠窓や武者窓と呼ばれる塗格子などがあります。
古い格子は太く、江戸後期になると隙間が狭く繊細になり、縦格子に横格子を加えた変化のあるデザインとなりました。
切り絵のような羽目板や、模様付の横格子など、そのデザインは一軒一軒あるいは一軒の家の中でもさまざまで、芸術鑑賞をするように美しい格子を見て歩くのも竹原散策の楽しみの一つです。

D　忠海エリア　潮風を浴びて、海岸線を走ろう。
町並み保存地区から車で約 15 分、さわやかな潮風を浴びて海岸線を走ると、小説の舞台となった海辺やかぐや姫美術館などの見どころが集まる忠海町に到着です。

E　湯坂温泉郷　伝説の湯に、心も体も癒される。
負傷した鶴が良質な湯を飲んで傷を癒したことから「鶴の井」と呼ばれ、親しまれてきました。
緑に囲まれ、賀茂川のせせらぎを聞きながら、ゆったりと心も体もほどけるようなひとときを。

No.35　竹原（広島県 竹原市）

竹原市観光ガイドマップ 歴史情緒と潮風が薫る町 たけはら
/　竹原市産業振興課観光交流室・社団法人竹原市観光協会　/　2012

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	竹原	【全体像】	江戸時代の歴史情緒が薫る / 平安時代に栄えた	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	上市・下市（街並）	【線的空間】	江戸時代の歴史情緒が薫る / 往時の姿を伝える	〔江戸の歴史属性〕
3	お屋敷	【点的空間】	江戸時代に製塩や製造業で栄えた	〔江戸の歴史属性〕
4	お寺	【点的空間】	由緒ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	寺山	【周縁部】		
6	本町通	【線的空間】		
7	大小路	【線的空間】		
8	板屋小路	【線的空間】		
9	中ノ小路	【線的空間】		
10	壁	【点的空間】	江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え	〔江戸の歴史属性〕
11	長屋門	【点的空間】	江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え	〔江戸の歴史属性〕
12	格子	【点的空間】	江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え	〔江戸の歴史属性〕
13	漆喰壁	【点的空間】	江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え	〔江戸の歴史属性〕
14	町家	【点的空間】		
15	竹原格子	【点的空間】	江戸後期になると	〔江戸の歴史属性〕
16	忠海エリア	【全体像】		
17	潮風	【活動】		
18	海辺	【周縁部】	小説の舞台となった	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	かぐや姫美術館	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	湯坂温泉郷	【全体像】	伝説の湯	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	緑	【点的空間】		
22	賀茂川のせせらぎ	【線的空間】		

価値グループ

{分散型}

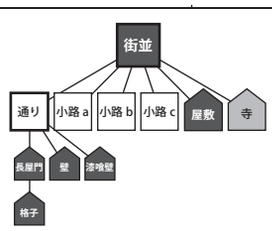
35-a

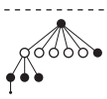
一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般主調

35-b

一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般主調

35-c





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

No.36　萩（山口県 萩市）

萩観光ガイド　/　萩市観光課　/　2014

分析単位

A　萩

萩のまちは屋根のない広い博物館＝「萩まちじゅう博物館」。
歴史と伝統を感じながらゆったりとした空間を歩いてみてください。

B　歴史の浪漫をたどる　萩城跡エリア　自分で見て、歩いて、発見の旅

四季折々の顔を持つ憩いのスペース　萩城跡
萩城は、慶長 9 年に毛利輝元が指月山麓に築城したことから、別名指月城とも呼ばれた平山城で、本丸、二の丸、三の丸、詰丸からなっていました。
明治 7 年、天守閣、櫓などの建物は全て解体され、現在は石垣と堀の一部が昔の姿をとどめ、ここ一帯は国の史跡に指定されています。
旧本丸跡に歴代藩主を祭る指月山神社が創建された際、総面積約 20 万平米の境内が指月公園として整備されました。
また県の天然記念物に指定され 萩市のみに知られるミドリヨシノをはじめ、600 本余のソメイヨシノが春に咲き誇ります。

C　江戸時代の地図がそのまま使える町　萩城城下町エリア

当時のにぎわい、足音が聞こえてきそうな史跡、文化財の数々…歩きたくなる歴史のまち
萩の歴史と名所を巡る　萩城城下町
萩城城下町は国の史跡に指定されており、町筋は碁盤目状に画され、武家屋敷や町家が軒を連ねていました。今も町筋がそのまま残り、よく往時の面影をとどめています。
菊屋横町、伊勢屋横町、江戸屋横町と呼ばれている小路があり、萩藩御用達の豪商菊屋家、また高杉晋作生誕地、木戸孝允旧宅、青木周弼旧宅やなまこ壁の土蔵、門、土塀などが並んでいます。

D　維新のふるさと・萩のルーツを知ろう！　松陰神社エリア

無類の行動家だった吉田松陰に倣って維新のふるさとを歩いて巡る

E　九州・山口の近代化産業遺跡群　世界遺産候補　萩ヘリテージ

工業国家・日本の近代化の始まりを今に伝えている萩の遺跡群

F　澄んだ空気と山水に恵まれた郷　自然と歴史がふれあう　旭地域

山口県の中央に位置し、山口県のへそと言われる静かな農業村落。
古くから参勤交代の宿場町として発展したため、萩往還や吉田松陰東送の碑など、多くの歴史的遺跡が残されています。
また、この地は民間信仰や伝説・民話の宝庫。訪れる人々を昔懐かしい世界へと誘います。

G　とっておきの風景　福栄地域

山間地特有の起伏に富んだ景観が美しい閑静な地域です。
萩地域の東側に隣接し、毛利藩ゆかりの史跡や隠れキリシタンの墓標などが数多く点在します。

H　大自然の造形美と出会う　須佐地域

八岐大蛇退治で知られる須佐之男命にまつわる神話が残る土地で、名前もそれに由来しています。
七つの入り江を構成する須佐湾の海岸線は総延長 16km に及び、ホルンフェルスなどの自然が織り成す造形美を堪能できます。

I　萩

慶長 9 年に毛利輝元が萩城を築き、城下町ができてから 400 年余たった萩は、毛利藩政期 260 年間に形成された城下町の佇まいが、今日まで継承されており、今も「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」となっています。
幕末には吉田松陰、木戸孝允、高杉晋作、伊藤博文など維新の志士たちを数多く輩出し、生誕の地や旧宅などロマンあふれる史跡が各所に残っています。
また土の味わいが素朴で優れた茶器として知られる萩焼の里でも、窯元が約 100 も点在します。
城下町から少し足をのばせば、四季折々に変化美しい渓谷「長門峡」、殿様の御成道として開かれ山陰と三陽を結ぶ街道「萩往還」、約 1400 万年前にできたとされる黒と淡灰色の鮮やかな縞模様の断崖「ホルンフェルス」。萩は歴史・文化・自然と見所がいっぱいです。

No.36　萩（山口県 萩市）

萩観光ガイド　/　萩市観光課　/　2014

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	萩城跡	【点的空間】	慶長 9 年に毛利輝元が築城	〔江戸の歴史属性〕
2	石垣	【点的空間】	昔の姿をとどめ	〔江戸の歴史属性〕
3	堀	【点的空間】	昔の姿をとどめ	〔江戸の歴史属性〕
4	指月山神社	【点的空間】	歴代藩主を祭る	〔江戸の歴史属性〕
5	指月公園	【点的空間】		
6	ミドリヨシノ	【線的空間】	県の天然記念物	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	ソメイヨシノ	【線的空間】		
8	萩城城下町	【全体像】	江戸時代の地図がそのまま使える町、毛利輝元ゆかり、維新の志士たちを輩出	〔江戸の歴史属性〕
9	町筋	【線的空間】	江戸時代の町筋がそのまま残る	〔江戸の歴史属性〕
10	小路	【線的空間】		
11	菊屋家	【点的空間】	萩藩御用達の豪商	〔江戸の歴史属性〕
12	高杉晋作生誕地	【点的空間】	高杉晋作	〔江戸の歴史属性〕
13	木戸孝允旧宅	【点的空間】	木戸孝允	〔江戸の歴史属性〕
14	青木周弼旧宅	【点的空間】	青木周弼	〔江戸の歴史属性〕
15	なまこ壁	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
16	土蔵	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	門	【点的空間】		
18	土塀	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	松陰神社	【点的空間】	維新のふるさと、吉田松陰に倣って	〔江戸の歴史属性〕
20	遺跡群	【点的空間】	近代産業遺跡群	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
21	旭地域	【全体像】	参勤交代の宿場町として発展した	〔江戸の歴史属性〕
22	萩往還	【線的空間】	参勤交代の宿場町として発展した、殿様の御成道として開かれた	〔江戸の歴史属性〕
23	吉田松陰東送の碑	【点的空間】	吉田松陰	〔江戸の歴史属性〕
24	歴史的遺跡	【点的空間】	参勤交代の宿場町として発展した	〔江戸の歴史属性〕
25	民間信仰	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
26	伝説・民話	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
27	福栄地域	【全体像】		
28	史跡	【点的空間】	毛利藩ゆかりの	〔江戸の歴史属性〕
29	墓標	【点的空間】	隠れキリシタンの	〔江戸の歴史属性〕
30	須佐地域	【全体像】	須佐之男命にまつわる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
31	神話	【活動】	須佐之男命にまつわる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
32	須佐湾の海岸線	【周縁部】		
33	ホルンフェルス	【周縁部】	約 1400 万年前にできたとされる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
34	吉田松陰、木戸孝允、高杉晋作、伊藤博文などの維新の志士	【活動】	幕末には	〔江戸の歴史属性〕
35	萩焼	【モノ】		
36	窯元	【活動】		
37	長門峡	【周縁部】		

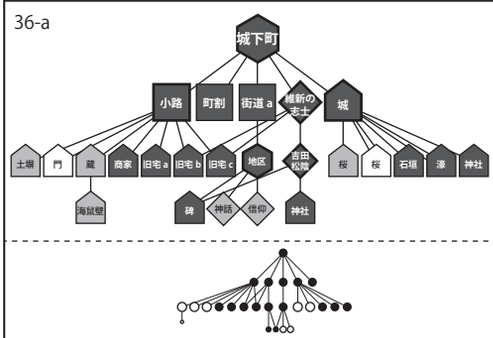
No.36　萩（山口県 萩市）

萩観光ガイド　/　萩市観光課　/　2014

価値グループ

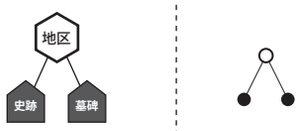
{分散型}

36-a



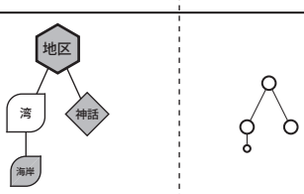
一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用主調

36-b



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般 - 転用

36-c



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般主調

No.37　卯之町（愛媛県 西予市 宇和町 卯之町）

卯之町 街並み散策マップ　/　西予市商工観光課　/　2012

分析単位

A　文化の香る町へようこそ。
アーチ窓のモダンな明治の学舎…。
宇和島藩唯一の宿場町としてにぎわいシーボルトの娘イネや蘭学者たちを育んだ江戸時代の町並み
あなたも歩いてみませんか。

B　楠本イネ・二宮敬作と卯之町
シーボルトを父に持つ日本初の女性蘭方医　楠本イネ
シーボルトの高弟で、イネを指導した町医者　二宮敬作
笠置峠と法華津峠
西予市宇和町は典型的な盆地であるため、近隣との往来には必ず峠道を越えなければなりませんでした。
宇和町の西、八満浜市双岩に通じる笠置峠は、八幡浜地域との交通の要所であったため、イネが敬作をたよって初めて卯之町に来た時にはこの峠を越したといわれています。
現在は、峠頂上付近で古墳時代の遺構が発見され、整備、公開されています。
宇和町の南、法華津峠は、国道が通ってからもしばらくはトンネルが抜けず、国道としての峠道は、その眺めの良さから景勝地として大いにぎわいました。
この峠は、イネが 2 回目に宇和町に滞在した際、宇和島の村田蔵六の元で勉強するため、ひと月に何回か、およそ 30 キロの道のりを歩いて通っていたといわれています。
現在も、イネが歩いた 江戸時代の石畳の山道が旧宇和島街道として残っています。

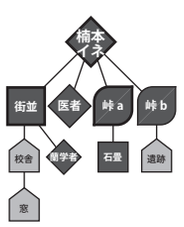
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	卯之町	【全体像】	宇和島藩唯一の宿場町	〔江戸の歴史属性〕
2	アーチ窓	【点的空間】	モダンな明治の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	学び舎	【点的空間】	モダンな明治の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	楠本イネ	【活動】	シーボルトを父に持つ日本初の女性蘭方医	〔江戸の歴史属性〕
5	蘭学者達	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
6	町並み	【線的空間】	江戸時代の	〔江戸の歴史属性〕
7	二宮敬作	【活動】	シーボルトの高弟	〔江戸の歴史属性〕
8	笠置峠	【周縁部】	シーボルトの娘イネ由来	〔江戸の歴史属性〕
9	法華津峠	【周縁部】	シーボルトの娘イネ由来	〔江戸の歴史属性〕
10	遺構	【点的空間】	古墳時代の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	石畳	【線的空間】	シーボルトの娘イネ由来	〔江戸の歴史属性〕
12	山道 (旧宇和島街道)	【線的空間】	シーボルトの娘イネ由来、江戸時代の	〔江戸の歴史属性〕

価値グループ

{集約型}

37



一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用主調

No.38　山鹿（熊本県 山鹿市）

くまもと山鹿 探訪めぐり歩き　/　山鹿市観光課　/　2012

分析単位

A　豊前街道　ゆっくり歩く江戸から大正ロマンのまち

豊前街道を中心に栄えた宿場町・山鹿。

歴史ある商家が軒を連ねる街道筋には風情ある町並みが続き、あちこちに寄り道したり、のんびりと休憩しながら散策することができます。

B　古墳と史跡　菊池川流域に古代の浪漫が甦る

遥か古代から、独特の文化に彩られてきた菊地川流域。

点在する装飾古墳や古代山城、歴史的価値の高い仏像の数々は人々の手で大切に受け継がれ、先人たちの暮らしや文化を今に伝えます。

C　伝統の匠の技と素材に恵まれて育む　山鹿和紙工芸

山鹿に和紙の製造技術が伝えられたのは江戸時代後期。加藤清正公が伴った朝鮮の技術者、道慶や慶春らの手によるといわれています。

特に、楮の生産が盛んだった鹿北地区では、大変に引きの強い和紙が漉かれるようになり、山鹿に設けられた紙楮会所から、大阪へと運ばれていきました。

現在、山鹿の手漉製紙の生産は途絶えていますが、独特の引きを持つ和紙の存在が、山鹿灯籠や来民団扇、山鹿和傘など、今も山鹿を代表する和紙工芸品を支えてきたといえるのです。

D　山鹿灯籠まつり

ゆらゆらと、重なり揺れる灯り…。真夏の夜を彩る「山鹿灯籠まつり」は、山鹿市の風物詩。

ゆっくりと続くゆへほ節の調べと灯籠の灯りに包まれて、優雅で幻想的な世界が広がります。

E　古代から続く "" 灯りの祭典 ”

遥か古代から、人々の間で受け継がれてきた 山鹿市最大の夏の祭り。

その由来は、濃い霧に行く手を阻まれた景行天皇の一行のご巡幸を、松明を掲げた山鹿の里人がお出迎えしたことといわれています。

2 日間にわたって行われる祭りは、「奉納灯籠」や「花火大会」「たいまつ行列」などと盛りだくさんの内容。

なかでも圧巻は、よへほ節の調べにのせて、頭上に灯籠をのせた女性たちが優雅に舞い踊る「千人灯籠踊り」です。

幾重にも重なる灯の輪が、見る人を幻想的な世界へと誘います。

No.38　山鹿（熊本県 山鹿市）

くまもと山鹿 探訪めぐり歩き　/　山鹿市観光課　/　2012

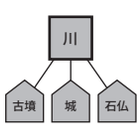
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	山鹿 (宿場町)	【全体像】	江戸から大正ロマンのまち	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	豊前街道	【線的空間】	江戸から大正ロマンのまち	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	商家	【点的空間】	歴史ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
4	町並み	【線的空間】	風情ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	古墳	【点的空間】	古代の浪漫	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	史跡	【点的空間】	古代の浪漫	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	菊池川流域	【全体像】	古代から独特の文化に彩られてきた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	山城	【点的空間】	古代	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	仏像	【モノ】	歴史的価値の高い	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	山鹿和紙工芸	【モノ】	江戸時代後期に製造技術が伝えられた	〔江戸の歴史属性〕
11	山鹿灯籠	【モノ】		
12	来民団扇	【モノ】		
13	山鹿和傘	【モノ】		
14	山鹿灯籠まつり	【活動】	古代から受け継がれて来た , 景行天皇由来 , 古事記 , 日本書紀	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	ゆへほ節の調べ	【活動】		
16	奉納灯籠	【活動】		
17	花火大会	【活動】		
18	たいまつ行列	【活動】		
19	女性たち	【活動】		
20	千人灯籠踊り	【活動】		

価値グループ

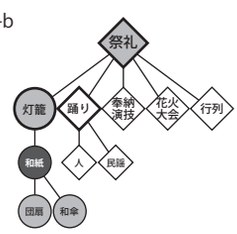
{分散型}

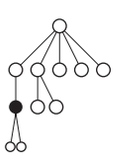
38-a



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	一般主調

38-b





一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般 - 転用

No.39　日田（大分県 日田市）

日田町歩きマップ　/　日田市観光協会・日田市商工観光部観光課　/　2014

分析単位

A　山あいに、思いがけない「都」あり

自然豊かな山々に囲まれた日田盆地。
ここはかつて、政治・経済・文化において九州の中心をなしたと言われる。
歴史的に、豪商達が活躍し、文化人・書家・画家等の往来が盛んで、町人文化の繁栄があった。
栄華を極めたまちの名残が今も随所に光る。
晩秋から春先にかけて、朝霧で包まれるまちの様子は独特で、「湖底から生まれた水のまち」と言われるような神秘的な光景を作り出す。
今も昔も、自然、人情、歴史が、日田の全てを優しく包み込む。

B　天領日田

江戸時代から続く街並みを、歩いて楽しめる観光スポット。
歴史の名残と、「日田人」に触れ合う時空を超えた旅。
季節毎に楽しむ「日田人ご自慢のお祭り」はオススメ。

C　水郷日田

山々の緑と清流の郷「水郷日田」豊かな水と共にあるいとなみ。
自然と共に、山々の緑と清流の里、ひた。
水と森が育む楽しみに、彩られた日田盆地。

D　歴史日田

町がまるごと博物館。古の人々が積み重ねた熱き想い。ひたの宝、歴史的文化遺産。

E　歴史日田

日田が誇る代表的先哲　廣瀬淡窓
江戸時代最大級の私塾「咸宜園」を創設した、日田の先哲。儒学者・観詩人・教育者。
「咸くみな宜し」　国指定史跡「廣瀬淡窓旧宅及び墓」

F　焼物

今でも一子相伝、脈々と受け継がれている、普段使いの民陶「小鹿田焼」や、高取焼の流れを汲む「日田焼」など、焼物ファンのみならずとも楽しめるのが醍醐味。
下駄
家具・漆工芸品など日田では木に関する産業が盛んです。
中でも「日田下駄」は、江戸の頃より代官の命による殖産興業の中核として盛んに製造されてきました。

G　ひたに泊まる

いにしえの舟遊びが、今も残る温泉郷。　日田温泉
豊かな水をたてる筑後川上流の三隈川が流れる日田は、古くから「水郷」と呼ばれるほど水資源に恵まれた地です。
現在では９軒の温泉旅館があり、それぞれに趣向が凝らされています。
その中６軒の温泉宿は、屋形船（遊船）での夕食と鵜飼いを楽しめるのが特徴。
昔より子宝温泉として親しまれており、単純泉で、リウマチ、神経痛、疲労回復をはじめ現代人のストレスなどに効用があると言われています。
昔そのままの天領の町並みや日田温泉に思いをはせて、ごゆっくりお過ごしください。

H　高塚愛宕地蔵尊

奈良時代に行基が開山したといわれている由緒ある地蔵尊。
神仏混淆の形式を残している地蔵尊として知られています。
願い事なら何でも叶えてくれるという所願成就にご利益があると言われており広く信仰を集め、自分の歳の数だけ願い事を書いて奉納すればよりご利益に預かられる (2,000 体以上のお地蔵さまが奉納されている)。

No.39　日田（大分県 日田市）

日田町歩きマップ　/　日田市観光協会・日田市商工観光部観光課　/　2014

I　江戸時代の町割りが残るまち　豆田町

慶長 6 年、小川光氏が丸山城を築城の際、城下町として建設された「豆田町」は、
江戸時代初期から天領（徳川幕府の直轄地）となり、九州の経済、文化の中心として栄えました。
碁盤目状の町並みには旧家や資料館が建ち並び、近世後期の町人・商人町の面影を色濃く残す貴重な地区です。
そのため、平成 16 年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

J　懐かしい町並みと人情味あふれるまち　隈町

隈町には清流・三隈川の河畔に温泉旅館が建ち並び、周辺には往時の町人文化を彷彿とさせるものが数多く残っています。

K　ぐるりと囲む散歩コースは市民に親しまれています。亀山公園

三隈川沿いに位置する、日田三丘陵の一つ「日隈山」を中心とした、緑あふれる公園です。
公園を囲む散歩道は、沈み橋・太鼓橋を亘り、川風も気持ち良い 美しい景色の中、旅館街下へと続きます。
江戸時代の町屋や土蔵・石垣・なまこ壁など、川沿いの歴史的景観も必見。隈町公園横の路から降りて、水郷日田を肌で感じながらの散歩コースをぜひ体験してください。

L　天瀬町　天ケ瀬温泉

別府や湯布院と並ぶ豊後三大温泉の一つ天ケ瀬温泉。およそ 1,300 年前に開湯されたと伝えられ、数々の伝説を持っています。
JR 天ケ瀬駅を中心に、玖珠川の両岸に約 20 軒ほど旅館やホテルが立ち並んでいます。
河川敷にある「駅前温泉」「益次郎温泉」「薬師湯」「神田湯」「鶴舞の湯」の五つの共同露天風呂は、天ケ瀬温泉の名物です。
この地には、古くから多くの文人墨客が訪れており、大昔からここを訪れた人々や土地の先人たちが、天瀬の美しい自然と豊富な温泉を讃えていました。
所願成就にご利益があるとして知られる「高塚愛宕地蔵尊」、バラやコスモスを始めとした季節の花々も豊富でお楽しみスポット満載。
また慈恩の滝や桜滝をはじめとする美しい滝を有し、「滝めぐり」などもおススメ。

No.39　日田（大分県 日田市）

日田町歩きマップ　/　日田市観光協会・日田市商工観光部観光課　/　2014

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	天領日田	【全体像】	天領、江戸時代に町人文化が栄えた	〔江戸の歴史属性〕
2	町並み	【線的空間】	江戸時代から続く、江戸時代に町人文化が栄えた	〔江戸の歴史属性〕
3	お祭り	【活動】		
4	山々の緑	【周縁部】		
5	清流	【線的空間】		
6	廣瀬淡窓	【活動】	江戸時代に咸宜園を創設した	〔江戸の歴史属性〕
7	咸宜園	【点的空間】	江戸時代最大級の私塾	〔江戸の歴史属性〕
8	廣瀬淡窓旧宅	【点的空間】	廣瀬淡窓	〔江戸の歴史属性〕
9	廣瀬淡窓墓	【点的空間】	廣瀬淡窓	〔江戸の歴史属性〕
10	小鹿田焼	【モノ】	今でも脈々と受け継がれる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	日田焼	【モノ】	今でも脈々と受け継がれる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	日田下駄	【モノ】	江戸の頃より盛んに製造されてきた	〔江戸の歴史属性〕
13	日田温泉郷	【全体像】	昔から子宝温泉として親しまれた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	三隈川	【線的空間】		
15	温泉旅館	【点的空間】		
16	屋形船	【活動】		
17	(屋形船での) 夕食	【活動】		
18	鵜飼い	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	高塚愛宕地蔵尊	【点的空間】	奈良時代に行基が開山した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	お地蔵さま	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	町割り	【線的空間】	江戸時代の	〔江戸の歴史属性〕
22	豆田町 (町並み)	【線的空間】 【点的空間】	江戸時代の町割りが残る、江戸時代に天領として栄えた、近世後期の町人・商人町の面影を残す	〔江戸の歴史属性〕
23	旧家	【点的空間】	近世後期の町人・商人町の面影を残す	〔江戸の歴史属性〕
24	資料館	【点的空間】	近世後期の町人・商人町の面影を残す	〔江戸の歴史属性〕
25	亀山公園	【点的空間】		
26	日隈山	【活動】		
27	散歩道	【点的空間】		
28	沈み橋・太鼓橋	【活動】		
29	川風	【点的空間】		
30	町屋	【点的空間】	江戸時代の	〔江戸の歴史属性〕
31	土蔵	【点的空間】	江戸時代の	〔江戸の歴史属性〕
32	石垣	【点的空間】	江戸時代の	〔江戸の歴史属性〕
33	なまこ壁	【全体像】	江戸時代の	〔江戸の歴史属性〕
34	天ケ瀬温泉	【活動】	1300 年前に開湯された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
35	伝説	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
36	玖珠川	【点的空間】		
37	旅館やホテル	【点的空間】		
38	共同露天風呂	【点的空間】		
39	花々	【周縁部】		
40	滝			

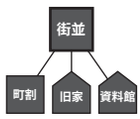
No.39　日田（大分県 日田市）

日田町歩きマップ　/　日田市観光協会・日田市商工観光部観光課　/　2014

価値グループ

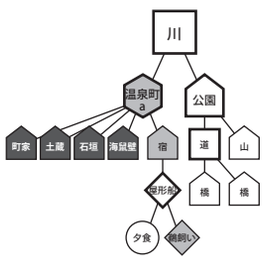
{分散型}

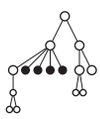
39-a



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	転用主調

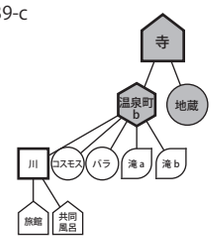
39-b

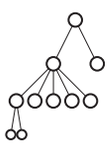




一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散
歴史属性	一般 - 転用

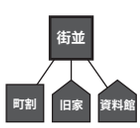
39-c





一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	一般主調

39-d



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	転用主調

No.40　杵築（大分県 杵築市）

時と和が紡ぐ物語　杵築城下町　/　杵築市商工観光課　/　2013

分析単位

A　おもてなしの城下町　武家屋敷と坂道が織り成す和のこころ

江戸時代、徳川家に仕えていた譜代大名・能見松平英親が豊後国高田城主より入封し、以来二二〇余年にわたり松平三万二千石の城下町として栄えた杵築市。

海と断崖に囲まれた台地を上手く利用した城下町で、商人の町を南北の武家屋敷が挟む形は、日本でもめずらしい。

志保屋の坂の上から望むパノラマは、江戸情緒漂う 杵築最大の見どころ。遠くに見える酢屋の坂と、青空に映える美しい緑が調和し、和服の華が城下町を彩る。

ゆっくり歩けば感じる、人々の温かいおもてなしと和のこころ。坂道や武家屋敷に秘められた物語を紐解きながら、杵築城下町散策がここからはじまる。

B　応永元年（一三九四）、大友氏の一族であった木村氏四代頼直が、今の地に城を築いたのが杵築城下町のはじまりである。

杵築城を中心に、谷川に沿って商人町が作られ、この商人町を挟むように北台と南台の台地に武家屋敷がおかれた。

土地の高低をうまく利用した町並みは、立体的な景観を生み出し、今も往年の城下町の姿を感じることができる。

・生い茂る緑と土塀のコントラスト　遥かなる歴史ロマンに浸る　ー北台武家屋敷
・四季の移ろいを感じる美しき庭園の世界　ー大原邸　　・癒しと寛ぎのお茶処　ー能見邸
・自然美あふれる空間に身をゆだねて…　ー磯矢邸　　・文教薫る学びの舎　ー藩校の門
・無邪気に駆け抜ける風景は今も昔も変わらない　ー南台武家屋敷
・穏やかな余生を過ごした風情ある家老屋敷　ー中根邸　・寺院巡りや座禅体験も　ー寺町

C　坂道がつなぐ歴史ロマン

・個性あふれる杵築の「坂道」　・二十の坂道が人と時代をつなぐ

D　歴史を受け継ぐ商人の町　〈町家文化〉

かつて府内（大分）に次ぎ、豊後では屈指の商都であった杵築。

杵築商人は親切丁寧であり、人情の町として知られ、わざわざ遠くから買い物に来る人も多かったという。

南北の武家屋敷の谷間に今も江戸の粋な風情を留める町家界隈。

お客様を迎える心づくしのおもてなしと洗練された伝統の味や技は、今も変わらず息づいている。

・一服のお茶に感じる杵築のおもてなし文化
・手づくりにこだわり曲げ物の技を受け継ぐ
・自然の恵みと時が紡ぐ伝統の味
・出会いから生まれる精魂込めた酒造り
・切れ味と使い心地が匠の技の証

E　和服で歩く城下町　手ぶらで気軽に着物散策を

F　江戸の町には、大衆演劇が似合う　ーきつき衆楽観

・舞台と観客が一体となる瞬間
・よみがえった大衆演劇の殿堂

G　さらに城下町を紐解く

坂道や武家屋敷に秘められた物語を紐解きながら城下町を巡ると、さらに深い歴史を持つ杵築の姿が見えてくる。

過ぎ去りし時の証が記されている貴重な文物や建物に触れ、まだ知らない驚きと発見に出会おう。

・城下町のルーツを学ぶ　きつき城下町資料館
・豊後水道を望む絶景の堅城　杵築城
・浮流に通じた城下町の藩医　佐野家
・贅と粋を尽くした大邸宅　一松邸

No.40　杵築（大分県 杵築市）

時と和が紡ぐ物語　杵築城下町　/　杵築市商工観光課　/　2013

H　城下町の情熱が燃える　城下町の祭り

約三〇〇年の歴史を誇る夏の「天神祭り」をはじめ、大名行列が練り歩く「お城まつり」、秋の風情を楽しむ「観月祭」、町全体が春色に染まる「ひいなめぐり」など、城下町に四季の到来を告げる、華やかな祭りの数々。

自然や祖先を敬い、祈りを捧げる人々の情熱が、今も息づき受け継がれている。

・お祭り男達の血が騒ぐ、真夏の風物詩　ー天神祭り

町をあげてにぎわう伝統の夏祭り

・艶やかな花魁道中に誘われて　ーきつきお城まつり

城下町一帯が江戸時代にタイムスリップ

・月と行燈の灯りが織り成す、光の世界へ　ー観月祭

幻想的な演出が秋の夜を彩る

・表情豊かなおひなさまが、城下町に春を呼ぶ　ーひいなめぐり

伝統のおひなさまをじっくり愛でる

I　もうひとつの杵築

江戸時代の城下町から、さらに歴史をさかのぼり、古代・中世の杵築へ。

山香・大田エリアには、国東半島を中心に繁栄した「六郷満山文化」を物語る遺宝が今もなお色濃く残り、幸せを願う古の人たちの真摯な姿が伝えられている。

・六郷満山の祈りが息づく　ー田原山と津波戸山と雲ヶ岳

・天下御免の有難い神酒　ーどぶろく祭り

・堂々優美な石造美術と木造彫刻　ー財前家宝塔・石丸宝塔・田原家五重塔・木造倶利伽藍竜剣

No.40　杵築（大分県 杵築市）

時と和が紡ぐ物語　杵築城下町　/　杵築市商工観光課　/　2013

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	武家屋敷	【点的空間】	今も江戸の粋な風情を留める	〔江戸の歴史属性〕
2	坂道	【線的空間】		
3	杵築市 , 杵築の城下町	【全体像】	江戸時代から栄えた、徳川譜代大名松平家の城下町、江戸情緒漂う	〔江戸の歴史属性〕
4	志保屋の坂	【線的空間】	江戸情緒漂う	〔江戸の歴史属性〕
5	酢屋の坂	【線的空間】		
6	和服	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	杵築城	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	商人町（町家界隈)	【全体像】	今も江戸の粋な風情を留める	〔江戸の歴史属性〕
9	北台武家屋敷	【点的空間】	今も江戸の粋な風情を留める	〔江戸の歴史属性〕
10	土塀	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	庭園	【点的空間】		
12	大原邸	【点的空間】	武家屋敷	〔江戸の歴史属性〕
13	お茶	【活動】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	能見邸	【点的空間】	武家屋敷	〔江戸の歴史属性〕
15	磯矢邸	【点的空間】	武家屋敷	〔江戸の歴史属性〕
16	藩校の門	【点的空間】	藩校の	〔江戸の歴史属性〕
17	南台武家屋敷	【点的空間】	今も江戸の粋な風情を留める	〔江戸の歴史属性〕
18	中根邸	【点的空間】	家老屋敷	〔江戸の歴史属性〕
19	寺院巡り	【活動】		
20	座禅体験	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	寺町	【全体像】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
22	お茶	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
23	曲げ物	【モノ】	技を受け継ぐ	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
24	味	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
25	酒造り	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
26	匠の技	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
27	大衆演劇	【活動】	江戸の町に似合う	〔江戸の歴史属性〕
28	きつき衆楽観	【点的空間】	江戸の町に似合う	〔江戸の歴史属性〕
29	きつき城下町資料館	【点的空間】	城下町のルーツを学ぶ	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
30	豊後水道	【周縁部】		
31	佐野家	【点的空間】	城下町の藩医	〔江戸の歴史属性〕
32	一松邸	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
33	天神祭	【活動】	約三〇〇年の歴史を誇る	〔江戸の歴史属性〕
34	大名行列	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔江戸の歴史属性〕
35	お城まつり	【活動】	江戸時代にタイムスリップ	〔江戸の歴史属性〕
36	観月祭	【活動】		
37	ひいなめぐり	【活動】		
38	お祭り男	【活動】		
39	花魁道中	【活動】	江戸時代にタイムスリップ	〔江戸の歴史属性〕
40	行燈の灯	【モノ】		
41	おひなさま	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
42	山香・太田エリア	【全体像】	古代・中世の杵築	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
43	田原山	【周縁部】	六郷満山の祈りが息づく	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
44	津波戸山	【周縁部】	六郷満山の祈りが息づく	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
45	雲ヶ岳	【周縁部】	六郷満山の祈りが息づく	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
46	神酒 (どぶろく)	【モノ】		
47	どぶろく祭り	【活動】		
48	財前家宝塔	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
49	石丸宝塔	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
50	田原家五重塔	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
51	木像倶利伽藍竜剣	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

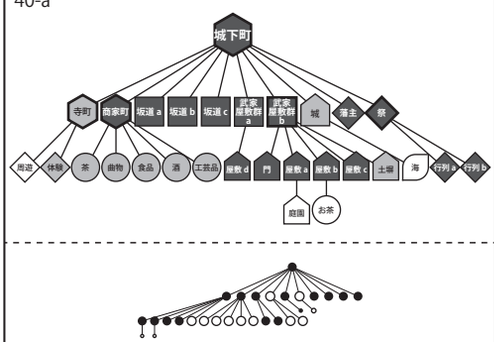
No.40　杵築（大分県 杵築市）

時と和が紡ぐ物語　杵築城下町　/　杵築市商工観光課　/　2013

価値グループ

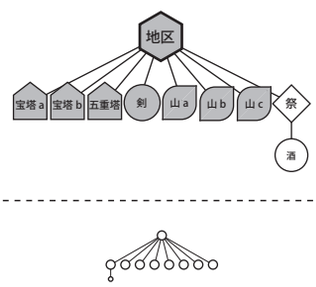
{分散型}

40-a



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：10 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	転用 - 一般

40-b



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：8 複合階層 - 二次の結合 1
歴史属性	一般主調

No.41　美々津（宮崎県 日向市 美々津町）

美々津町歩き　/　日向市観光協会　/　-

分析単位

A　国選定重要伝統的建造物群保存地区　美々津　町歩き
虫籠窓に京格子、町家造りの建物や白壁 土蔵。
江戸・明治時代の赴きある町並みが残る、「美々津」を歩こう。

B　知る　美々津の歴史　神話伝説と廻船問屋の繁栄の歴史
美々津は古くから海の交易の拠点として歴史を刻み、町の背後にある遺跡からは、機内、瀬戸内様式の弥生土器が出土しています。
このことから、美々津が相当古い時代から外地と交流があったことを裏付けています。
美々津が、港町として成立するのは江戸時代初期の元禄の頃 (1688~1703) からで、当時は高鍋藩領に属し、藩主秋月氏の支配の下、重要な港町となっていました。
…彼らの活躍はやがて、「美々津千軒」と言われるほどの繁栄をもたらすこととなり、明治から大正時代にかけて最盛期を迎えることとなりました。
しかし、潮や風の影響を受けやすい帆船を使った古い航海方法に頼りきっていたことや、経営そのものが江戸時代の旧態から脱しきれていなかったこともあり、大正 12 年の国鉄日豊本線開通を契機に廻船業は衰退していくこととなりました。
主幹産業を失った美々津は、均衡の商業地域としての命脈は保ってきましたが、高度成長期における諸産業の飛躍などに伴い、現在は小さな港町となっています。

C　神武東遷物語
美々津は、日向神話「神武東遷説神話お舟出の地」として知られています。
神倭伊波礼毘古命（カムヤマトイワレヒコノミコト）、のちの初代・神武天皇は
「ここは国を治めるには西へ寄りすぎている。東方に青山をめぐらした美しい国があって、すでに饒速日命（ニギハヤヒノミコト）という者が国を拓きつつあるとか。そこへ行って、まつりごとをするにふさわしい都をつくりましょう。」
のちの日本書紀にも描かれる「神武東遷」。歴史の基礎は、日向市美々津の港から始まりました。
お舟出は、旧暦の８月２日の予定でしたが風の都合で舟出が急きょ変更になり、あわてた人々はお祝いに用意していた材料を全部一緒に搗いて急ごしらえの団子を作り、天皇に差し上げました。
そのときの「つきいれ団子」(お船出だんご) は今も美々津の名物となっています。
早朝のお見送りのため寝入っている各家の戸をたたき、「おきよ」「おきよ」(起きよ、起きよ) と人々を起して廻りました。
この故事にちなみ、旧暦８月１日には「おきよ祭り」が行われます。

D　休む　古民家の風情が味わえる個性的な茶房

E　立磐神社例大祭
海上の守り神である住吉三神を祀る立磐神社の、航海の安全・豊漁を祈願するお祭りです。
御こし担ぎや郷土芸能「櫂伝馬踊り」の奉納など、多くの人でにぎわいます。

F　おきよ祭り
旧暦８月１日の未明、子どもたちが短冊を付けた笹竹を降りながら「起きよ、起きよ」と人々を起こして回る神武天皇お舟出の朝を再現したお祭りです。

G　美々津手漉き和紙　宮崎県指定無形文化財
石並川の清流を利用して作られる県伝統工芸品。
無形文化財保持者である佐々木寛治郎さんがその伝統を守りつづけ、味わい深い和紙の心を現在に伝えています。

No.41　美々津（宮崎県 日向市 美々津町）

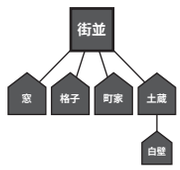
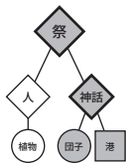
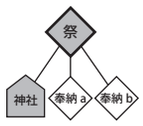
美々津町歩き　/　日向市観光協会　/　-

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	美々津	【全体像】	江戸・明治時代の趣きある , 江戸時代初期に港町として成立	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	美々津 (町並み)	【線的空間】	江戸・明治時代の趣きある , 江戸時代初期に港町として成立 / 相当古い時代から外地と交流があった、明治から大正に最盛期	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	虫籠窓	【点的空間】	江戸・明治時代の趣きある	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	京格子	【点的空間】	江戸・明治時代の趣きある	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	建物	【点的空間】	江戸・明治時代の趣きある	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	白壁	【点的空間】	江戸・明治時代の趣きある	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	土蔵	【点的空間】	江戸・明治時代の趣きある	〔江戸の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	遺跡	【点的空間】	弥生土器が出土	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	弥生土器	【モノ】	畿内・瀬戸内様式の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	神武東遷物語	【活動】	日向神話	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	港	【線的空間】	神武東遷神話ゆかり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	つきいれ団子	【モノ】	神武天皇に差し上げた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	おきよ祭り	【活動】	神武天皇にちなんだ	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	茶房	【点的空間】	古民家の風情が味わえる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
15	立磐神社例大祭	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
16	立磐神社	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	御輿担ぎ	【活動】		
18	櫂伝馬踊り	【活動】		
19	子どもたち	【活動】		
20	笹竹	【点的空間】		
21	美々津手漉き和紙	【モノ】	伝統を守りつづけ、県指定無形文化財	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
22	石並川	【線的空間】		
23	佐々木寛治郎	【活動】	伝統を守りつづけ、無形文化財保持者	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

価値グループ

{分散型}

41-a 		一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
		階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 二次の結合 1
		歴史属性	転用主調
41-b 		一次の価値対象	生活型 - 活動系
		階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散
		歴史属性	一般主調
41-c 		一次の価値対象	生活型 - 活動系
		階層構造	一次の結合数：3 単純階層
		歴史属性	一般主調

資料編

京都を転用する街

No.1　盛岡（岩手県 盛岡市）

盛岡＆いわて観光ガイド 盛岡いいとこドリ　/　盛岡観光コンベンション協会　/　2014

分析単位

A　みちのくの小京都・盛岡のいいとこ全部ご紹介します。
秀峰・岩手山の麓に広がる盛岡は、かつての南部藩の城下町。
素朴で温かな人柄と、奥深い歴史、身近にあふれる自然。
さらに海と大地の恵みを存分に生かした味覚の数々。
皆さんの充実したお集りに花を添えるいやしのまちを散策してみてください。

B　地元の流儀教えます！盛岡おいしいとこドリ！
この地で発達してきた麺文化、雄大な海と大地からの恵みの数々。
盛岡を訪れたらぜひ味の体験を。

C　暮らしを彩る手しごとガイド
工芸から、醸造、菓子づくりまで数々の良品を作り続けてきた盛岡。
すばらしい技との出会いは、まさに旅の醍醐味。
日々使うことで分かってくる伝統の技　南部鉄器
400 年もの歴史を持つ南部鉄器。
重厚な茶釜や、代々受け継がれる鉄瓶のほか、近年は現在の生活様式に合わせた製品も多数。
美しくカラーリングされたキッチンウェアや海外デザイナーによる鉄器も登場している。

D　おすすめ！タウンガイド
駅に降り立ち、北国の爽やかな風と光にふれる。
遠くに岩手山、近くには北上川と中津川。
おだやかな「みちのくの小京都」のタウン散策が、今始まる。

E　祭り＆イベントガイド
盛岡周辺は昔から伝えられる郷土芸能や伝統行事はもちろん、新たに始まったイベントなどが目白押し。

価値対象と歴史属性

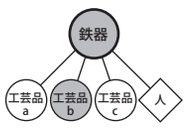
No.	価値対象		歴史属性	
1	盛岡	【全体像】	みちのくの小京都・岩手のいいとこ全部ご紹介します / かつての南部藩の城下町	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	岩手山	【周縁部】	遠くに岩出山、近くには北上川と中津川。おだやかなみちのくの小京都の散策がいまはじまる。	〔京都の歴史属性〕
3	海	【周縁部】		
4	味覚	【モノ】		
5	工芸	【モノ】	良品を作り続けてきた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	醸造	【モノ】	良品を作り続けてきた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	菓子	【モノ】	良品を作り続けてきた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	南部鉄器	【モノ】	400 年もの歴史を持つ	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	茶釜	【モノ】		
10	鉄瓶	【モノ】	代々受け継がれる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	キッチンウェア	【モノ】		
12	海外デザイナー	【活動】		
13	北上川	【線的空間】	遠くに岩出山、近くには北上川と中津川。おだやかなみちのくの小京都の散策がいまはじまる。	〔京都の歴史属性〕
14	中津川	【線的空間】	遠くに岩出山、近くには北上川と中津川。おだやかなみちのくの小京都の散策がいまはじまる。	〔京都の歴史属性〕
15	郷土芸能	【活動】	昔から伝えられる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
16	伝統行事	【活動】	伝統	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

No.1　盛岡（岩手県 盛岡市）

盛岡＆いわて観光ガイド 盛岡いいとこドリ　/　盛岡観光コンベンション協会　/　2014

価値グループ

{分散型}

1-a			一次の価値対象：全体像型 階層構造：一次の結合数：3 単純階層 歴史属性：転用主調
1-b			一次の価値対象：生活型 - 物品系 階層構造：一次の結合数：4 単純階層 歴史属性：一般主調

No.2　岩出山（宮城県 大崎市 岩出山）

伊達な小京都 岩出山観光ガイドマップ　/　大崎市岩出山総合支所商工観光係　/　-

分析単位

A　伊達な小京都　岩出山

岩出山伊達家三代敏親と四代村屋泰が京都冷泉家から夫人を迎えたこともあり、京都からは様々な形で文化が伝わりました。
旧有備館や酒まんぢう、竹細工などに今も受け継がれています。
政宗が築いた伊達文化と京文化が融合した城下町が岩出山です。

B　表紙の写真　旧有備館及び庭園

庭園には 300 年以上の大樹が池面に影を映し、四季折々の花木が彩りを添えています。
また書院造りの簡素な建物は、江戸時代の学問所の姿を今に伝える貴重な文化財です。

C　ゆったりとした古に思いを馳せる　国指定史跡・名勝　旧有備館及び庭園

江戸時代、岩出山伊達家 3 代敏親が家臣の子弟教育のために開設した学問所です。
庭園は仙台藩茶道頭、石洲流 3 代清水道竿の作庭で岩出山城本丸跡の断崖を借景として池中に島を配した回遊式池泉庭園です。

D　素朴さの中にも伝統が光る　300 年の技を継承する　竹工芸館

館内ではしの竹細工の制作・実演などが見学でき、実際に体験することもできます。
また、珍しい竹のオブジェや竹細工の展示、土産品の販売も行っています。

E　政宗公まつりのはじまり

岩出山の町並みを見守るように岩出山城址に建っている政宗像は仙台城跡に建立されていたもの。
袴姿なので「政宗平和像」と呼ばれ､昭和 39 年仙台より政宗ゆかりの地､旧岩出山町に寄贈されました。
「政宗公まつり」はこれを契機として始まり、市をあげて盛大に開催されています。

F　学問の薫りを感じながらのんびり歩こう　学問の道探求ルート

有備館の森公園から、内川の流れに沿った約 2km の遊歩道、その名も「学問の道」。
思索にふけるには、もってこいの道です。
天気の良い日に内川のせせらぎの優しさを感じながら、のんびりと散策してみてはいかが？

G　旧街道をたどれば気分は俳聖・芭蕉？　奥の細道芭蕉ルート

芭蕉が歩いた県内の奥の細道は約 240km。岩出山には、仙台、多賀城、塩釜、松島、石巻、平泉、一関を経て、元禄 2 年 5 月 14 日に訪れ 1 泊しました。
いにしえの漂泊の歌人に心をはせた芭蕉の足跡を、たどってみませんか。

No.2　岩出山（宮城県 大崎市 岩出山）

伊達な小京都 岩出山観光ガイドマップ　/　大崎市岩出山総合支所商工観光係　/　-

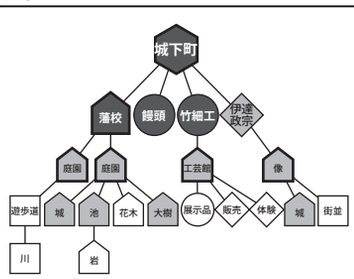
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	岩出山	【全体像】	伊達な小京都 , 城主が京都から夫人を迎えた , 京都から文化が伝わった , 伊達文化と京文化が融合した城下町 / 政宗ゆかりの地 , 芭蕉が元禄 2 年に泊まった	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	旧有備館	【点的空間】	京都から伝わった文化 / 江戸時代の学問所の姿を今に伝える , 江戸時代に開設した学問所	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	酒まんぢう	【モノ】	京都から伝わった文化	〔京都の歴史属性〕
4	竹細工	【モノ】	京都から伝わった文化	〔京都の歴史属性〕
5	政宗	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	旧有備館庭園	【点的空間】	仙台藩茶道頭の作庭	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	大樹	【点的空間】	300 年以上の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	池	【点的空間】		
9	花木	【点的空間】		
10	岩出山城址	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	島 (石)	【点的空間】		
12	竹工芸館	【点的空間】	300 年の技を継承する	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	しの竹細工の制作・実演	【活動】		
14	竹細工の体験	【活動】		
15	竹のオブジェや竹細工の展示	【モノ】		
16	土産品の販売	【活動】		
17	政宗公まつり	【活動】	政宗ゆかり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	町並み	【線的空間】		
19	政宗像	【点的空間】	政宗ゆかり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	学問の道	【線的空間】		
21	有備館の森公園	【点的空間】		
22	内川	【線的空間】		
23	奥の細道	【線的空間】	元禄 2 年に芭蕉が歩いた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

価値グループ

{集約型}

2



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用 - 一般

No.3　村田（宮城県 柴田郡 村田町）

村田浪漫 村田町観光案内絵図 / 村田町地域産業推進課内 村田町観光物産協会 / 2014

分析単位

A　村田浪漫　村田町観光案内絵図

村田　白壁の土蔵、名残の城門、悲恋の伝説ー　藩政時代の光と陰が織り成す、歴史の回廊か。
町の奥は深い…みちのくの宮城の小京都。

B　村田市街

古くから山形と仙台を結ぶ城下町として栄えてきた村田町は、伊達家の家臣であった小山九郎業朝が中世の頃に村田城を築いて、ここを治めたのが始まりです。

C　村田全域

豊かな自然と古くからの伝統に培われた文化が息づく村田町。
時間の審判に耐えながら、今に残る証人たち。
それは、悠久の時のはざまに現れては消えていった先人たちのコスモロジーを鮮やかにとどめる。

D　ふるさとおとぎ苑・夫婦水車

村田町の北東に位置する姥ヶ懐地区は民話の残る地区でもあり、代表的な民話に「姥の手掛け石」があります。
かやぶき屋根の民話伝承館と夫婦水車のある景色は、まるで昔話の里山にタイムスリップしたかのよう。
施設内産直館（そば処）では、人気の地場産品「そらまめ米粉めん」や蕎麦を堪能することができます。

E　姥の手掛け石

京都で渡辺綱に片腕を切られた鬼が、綱の伯母に化けて腕を取り返し、逃げる途中に滑って転び手をついた跡だという伝説があります。

F　表紙写真（村田商人やましょう記念館）

仙台と山形を結ぶ街道の分岐点として、商都の賑わいをみせた「村田」。
村田商人は、伊達藩が栽培を奨励した紅花や藍を仙南地方で買い集め、江戸や上方へ運ぶ商取引を行っていました。
当時の栄華を伝える豪勢な店蔵が、今も町の中心部に残っており、店蔵と門が対を成す景観が村田の特色といわれています。
写真の村田商人やましょう記念館は、村田商人の足跡を伝えるもので、「やましょう」は江戸時代から昭和初期にかけて活躍した村田商人、大沼家の屋号です。
当家は、紅花や生糸などを上方へ出荷する商取引をはじめ、味噌醤油の醸造販売、土地や金銭の貸し付け、株取引などを手広く行った豪商として知られています。

No.3　村田（宮城県 柴田郡 村田町）

村田浪漫 村田町観光案内絵図 / 村田町地域産業推進課内 村田町観光物産協会 / 2014

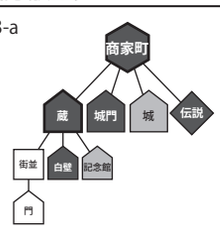
価値対象と歴史属性

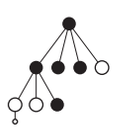
No.	価値対象		歴史属性	
1	村田町	【全体像】	宮城の小京都 / 中世の頃に始まり , 江戸や上方へ運ぶ商取引を行って栄華を極める	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	白壁	【点的空間】	宮城の小京都 / 藩政時代の	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	土蔵（店蔵）	【点的空間】	宮城の小京都 / 藩政時代の , 江戸時代の栄華を伝える	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	城門	【点的空間】	宮城の小京都 / 藩政時代の	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	伝説	【活動】	宮城の小京都 / 藩政時代の	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	村田城	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	姥ヶ懐地区	【全体像】	民話の残る	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	姥の手掛け石	【活動】	渡邊綱ゆかりの伝説	〔京都の歴史属性〕
9	かやぶき屋根	【点的空間】	昔話の里山にタイムスリップしたかのよう	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	民話伝承館	【点的空間】	昔話の里山にタイムスリップしたかのよう	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	夫婦水車	【点的空間】	昔話の里山にタイムスリップしたかのよう	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	風景	【線的空間】	昔話の里山にタイムスリップしたかのよう	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
13	そば処	【点的空間】		
14	そらまめ米粉めん	【モノ】		
15	蕎麦	【モノ】		
16	村田商人やましょう記念館	【点的空間】	江戸時代から昭和初期にかけて活躍した村田商人の家	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	門	【点的空間】	江戸時代の栄華を伝える	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	景観	【線的空間】		

価値グループ

{分散型}

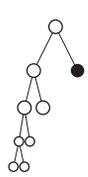
3-a





一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

3-b



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般 - 転用

No.4　角館（秋田県 仙北市 角館町）

角館観光プレス 角館まるごと観光ガイド 2014 年夏号
/　仙北市観光商工部観光課・角館町観光協会　/　2014

分析単位

A　小京都　角館へようこそ！

みちのくの小京都と呼ばれる角館は、元和 6 年 (1620) 芦名義勝によってつくられ、秋田藩の中で最も大きな城下町として発展してきました。

武家町と町人町に分けられた町並みは、390 年近く経った今でもほとんど変わらない、まさに歴史の息づいている町です。

京都の地形をギュッと小さくしたような「角館」、そして近隣にある「田沢湖」の自然豊かで寛ぎと癒しを得られる名所・温泉などは、桜の季節が過ぎてからも、一年中見どころ満載。

ぜひ何度でも足を運んでいただき、1 泊、2 泊とゆっくり寛ぎながら、存分に「日本のふるさとの風景」をお楽しみいただきたく、この「角館観光プレス」をお役立ていただければ幸いです。

B　見る　武家屋敷

通りを歩くと、まるで江戸時代に迷い込んだような錯覚に陥る。

ゆったりめぐると、当時の武士の息づかいが聞こえてくるようだ。

江戸時代から続く景観が守られている武家屋敷通り（表町、東勝楽丁）は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

重厚な黒板塀が続く通り沿いに 6 軒の武家屋敷が公開されており、屋敷内や庭園の眺めが楽しめる。

C　青柳家　秋田県指定史跡（主屋・門・蔵）

角館武家屋敷の中で最も代表的な青柳家には、角館の歴史にまつわる数々の貴重な品々が収蔵されています。

例えば、武田流兜と呼ばれる「六十二間小星兜」があります。武田信玄の武田流ですが、青柳家が甲府にいた時代に武田家の武器作りを担当していた事から代々家宝として伝えられている甲冑です。

芦名氏に仕えた青柳家ですが、芦名氏が世継ぎを失って断絶した後は、佐竹義隣が角館を引き継ぎました。

義隣は京都生まれの公家であった事、息子・義明の嫁が嫁いだ際に枝垂れ桜を持ち込んだ事から、角館が「小京都」と呼ばれるようになったと言われています。

青柳家は、納戸役を多く勤め、実禄は 104 石で、高い格式を誇っていました。他にも初版の「解体新書」や「赤水の日本地図」など、数多くの貴重な所蔵品からも幅広い交流関係や家柄が偲ばれます。

D　舞に酔い、勇壮さに沸く角館祭りのやま行事

角館地区の鎮守神明社と、山の神信仰の拠点となった成就院薬師堂の祭典が連続して行われるため、3 日間にも及ぶ祭りとなっています。

祭典期間中、18 の町内から繰り出された山車が曳き廻され、神明社や薬師堂への参拝、佐竹北家上覧などへ向います。

山車は神の依代（よりしろ）である黒木綿で覆われた「モッコ」、そして合戦絵巻や歌舞伎の場面を題材として勇壮な人形などで飾り付けられます。

山車の中には「おやまばやし」を演奏する囃子方が乗り込み、山車の運行中、絶えず演奏しつづけます。

要所では山車の上に乗った踊り子が優雅に舞い踊ります。

最終日の夜ともなると、山車同士が向かい合い、通行の優先権を巡って「交渉」が行われ、双方譲らない場合、山車を激しくぶっつけ合う「やまぶっつけ」へと発展し、祭りはクライマックスを迎えます。

期間中、角館の町は約 20 万人の観光客で賑わいます。

E　味わう　角館を食す

みちのく角館の味は、どこか懐かしく、そして素朴な味。米も酒も麺も絶品の美味天国。

F　買う　角館の技と土産

角館のお土産は、何を買ったら良いのか？「技」と「伝統」と「味」のお土産が迷ってしまうほど盛り沢山！

G　寛ぐ　角館でくつろぐ

落ち着きと風情あふれるみちのくの小京都・角館。

ゆったりと町並みや自然に触れて、温泉に浸かって過ごす至福のひととき。"

No.4　角館（秋田県 仙北市 角館町）

角館観光プレス 角館まるごと観光ガイド 2014 年夏号
/　仙北市観光商工部観光課・角館町観光協会　/　2014

価値対象と歴史属性

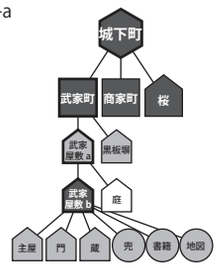
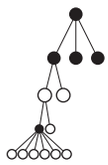
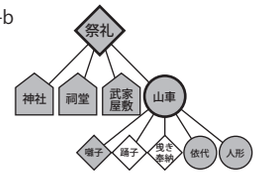
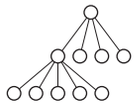
No.	価値対象		歴史属性	
1	角館	【全体像】	みちのくの小京都, 京都生まれの公家ゆかり, 京都の地形をギュっと小さくしたよう / 元和 6 年につくられ秋田藩の城下町として発展	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	武家町 (武家屋敷通り)	【線的空間】	京都の地形をギュッと小さくしたよう /390 年近く経ってもほとんど変わらない , 江戸時代に迷い込んだような , 江戸時代から続く景観が守られ	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	商人町	【線的空間】	京都の地形をギュッと小さくしたよう /390 年近く経ってもほとんど変わらない	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	田沢湖	【周縁部】		
5	名所	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	温泉	【モノ】		
7	桜 (枝垂れ桜)	【点的空間】	京都から持ち込まれた	〔京都の歴史属性〕
8	武家屋敷	【点的空間】	江戸時代に迷い込んだような錯覚	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	黒板塀	【点的空間】	江戸時代に迷い込んだような錯覚	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	庭園	【点的空間】	江戸時代に迷い込んだような錯覚	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	青柳家	【点的空間】	芦名家に仕えた (江戸時代), 甲府で武田家に仕えた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	主屋	【点的空間】	秋田県指定史跡	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
13	門	【点的空間】	秋田県指定史跡	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	蔵	【点的空間】	秋田県指定史跡	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
15	六十二間小星兜	【モノ】	武田流兜と呼ばれる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	解体新書	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	赤水の日本地図	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	角館祭り	【活動】		
19	やま行事	【活動】		
20	神明社	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	成就院薬師堂	【点的空間】	山の神信仰の拠点となった	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
22	山車	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
23	佐竹北家	【点的空間】	佐竹家	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
24	モッコ	【モノ】	神の依り代	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
25	人形	【モノ】	合戦絵巻や歌舞伎の場面を舞台として	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
26	おやまばやし	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
27	踊り子	【活動】		
28	やまぶっつけ	【活動】		
29	米	【モノ】	懐かしい	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
30	酒	【モノ】	懐かしい	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
31	麺	【モノ】	懐かしい	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

No.4　角館（秋田県 仙北市 角館町）

角館観光プレス 角館まるごと観光ガイド 2014 年夏号
/　仙北市観光商工部観光課・角館町観光協会　/　2014

価値グループ

{分散型}

4-a 		一次の価値対象	全体像型
		階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合集中・大
		歴史属性	転用主調
4-b 		一次の価値対象	生活型 - 活動系
		階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
		歴史属性	一般主調
4-c		一次の価値対象	周縁部型
		階層構造	一次の結合数：2 単純階層
		歴史属性	一般主調

No.5　加茂（新潟県 加茂市）

北越の小京都 雪椿のまち 加茂　/　南砺市観光協会・城端観光案内所　/　-

分析単位

A　北越の小京都　雪椿のまち　加茂

B　北越の小京都　街の中心を川が流れる
京都に鴨川があるように、加茂にも加茂川がある。

C　山峡の盆地に静かにたたずむ
山峡の盆地に静かにたたずむ小京都。加茂の町も山の懐に抱かれている。

D　長い歴史を誇る伝統産業がある
自然の中にあるもの、名水、名木を使った伝統産業が、全国的に名声を得ている。

E　いろいろな祭りがある
ふだんは閑静な小京都も、祭りになると盛り上がる。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	雪椿	【点的空間】		
2	加茂	【全体像】	北越の小京都	〔京都の歴史属性〕
3	加茂川	【線的空間】	京都に鴨川があるように	〔京都の歴史属性〕
4	山峡の盆地	【周縁部】	山峡の盆地に静かにたたずむ	〔京都の歴史属性〕
5	産業	【モノ】	伝統	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	名水	【モノ】		
7	名木	【モノ】		
8	祭り	【活動】	ふだんは閑静な小京都も祭りになると盛り上がる	〔京都の歴史属性〕

価値グループ

{集中型}

5-a

一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	転用主調

No.6　城端（富山県 南砺市 城端）

越中の小京都 自然と人が共生する癒される街 城端で休もう
/　南砺市観光協会 城端観光案内所　/　-

分析単位

A　国重要無形民俗文化財　曳山祭

約 300 年の歴史を誇る城端曳山祭は、城端神明宮祭の曳山行事として、重要無形民俗文化財に指定されています。

5 月 5 日には、3 基の神輿を先導して、邪鬼を払う傘鉾が連なり、続いて典雅な旋律を響かせる庵屋台の庵唄、御神体を安置した曳山がまちを巡行します。

この古い神迎え行列の形式がそのまま今に受け継がれていることが、この祭の大きな魅力です。

B　60 周年　むぎや祭

城端の初秋を彩る祭も今年 60 回目を迎える。「むぎや」の唄と踊りに酔いしれる。

富山県を代表する民謡として知られる麦屋節は、五箇山に住みついた平家の落人が都を偲んで唄い踊ったのが始まりと伝えられています。

哀調を帯びた旋律に込められた落人の切ない心情と威風堂々とした風格の舞は時をつなぎ、多くの人を魅了し続けています。

また県内外から集まったチームが五箇山民謡をアレンジした曲に合わせて創作した踊りを披露するストリートパフォーマンス「じゃんとこいむぎや」も華やかに町を飾ります。

C　じょうはな織館

今も耳を澄ませば機織の音がどこからか聞こえてきそう

江戸時代から絹織物で栄えた城端。

そんな町を象徴する建物として昭和 3 年に城端織物会館が建てられました。

レンガの外壁、白壁の高い天井、吹抜けの階段など当時のモダン様式が残され、現在文化財として認定されています。

その建物が絹織物の魅力を伝える空間として、新たに「織館」として蘇りました。カフェも併設しゆっくりと寛いだり、手織り体験も楽しめます。

D　城端別院　善徳寺

城端を見守り続ける、かけがえのない存在

開基から約 540 年、いつの時代も人々の心のよりどころであり続ける古刹「城端別院善徳寺」。

広大な境内には本堂、山門、鐘楼、勅使門、経堂、太鼓楼などがあり、それぞれの随所に見られる各時代の建築様式が歴史の重さを物語っています。拝観はもちろん、予約をすれば宿泊することも可能。

また、宝物収蔵館では、親鸞上人直筆の「唯信抄」をはじめ、数多くの古文書や宝物を鑑賞することができます。

E　南砺市城端伝統芸能会館　じょうはな座

伝統芸能が結ぶ、人と人、心と心

城端の伝統芸能や現代文化を通して、人と人のあたたかい交流や、まちの賑わいを育む「じょうはな座」。

伝統的な町屋の様式や芝居小屋の意匠を巧みに取り入れた建物は、風情漂う街並みと調和した落ち着きのある佇まいで、見る物の心を和ませます。

客席は前後の間合いが広く、列が互い違いに配置され、どの席に座っても舞台をゆったり楽しめます。

定期公演の庵唄とむぎやの演舞は、城端の名物となり町の活気を生み出しています。

また最新の映像・音響設備を備え、シネマ歌舞伎や映画・アニメなどの映像コンテンツを高画質で上映することができ、デジタル映像ホールとしても幅広く利用されています。

F　曳山会館・蔵回廊

心を揺さぶり続ける、先人の心意気と技

城端曳山祭をいつでも体感できる「曳山会館」。

享保から安永・寛政年間に作られた曳山や御神像を間近で鑑賞できます。

また、ロビーでは曳山祭の模様が上映され、情緒豊かな庵唄や車輪の軋む音など、祭の臨場感を味わうことができます。

併設する「蔵回廊」では、曳山や御神像に施された城端塗や人形彫刻などの伝統工芸の源流を見ることができます。

No.6　城端（富山県 南砺市 城端）

越中の小京都 自然と人が共生する癒される街 城端で休もう
/　南砺市観光協会 城端観光案内所　/　-

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	城端	【全体像】	越中の小京都 / 江戸時代から絹織物で栄えた	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	曳山祭	【活動】	約 300 年の歴史を誇る	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	城端神明宮祭	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
4	御輿	【モノ】	古い神迎え行列の形式	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	傘鉾	【モノ】	古い神迎え行列の形式	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	庵屋台	【モノ】	古い神迎え行列の形式	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	庵唄	【活動】	古い神迎え行列の形式	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	ご神体	【モノ】	享保から安永・寛政年間に作られた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	曳山	【モノ】	享保から安永・寛政年間に作られた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	むぎや祭り	【活動】	今年 60 回目を迎える	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	麦屋節	【活動】	五箇山に住みついた平家の落人ゆかり	〔京都の歴史属性〕
12	むぎやの踊り	【活動】	五箇山に住みついた平家の落人ゆかり	〔京都の歴史属性〕
13	ストリートパフォーマンス	【活動】	五箇山民謡をアレンジした	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	じょうはな織館	【点的空間】	昭和 3 年当時のモダン様式	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	絹織物	【モノ】	江戸時代から栄えた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	煉瓦の外壁	【点的空間】	昭和 3 年当時のモダン様式	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	白壁の天井	【点的空間】	昭和 3 年当時のモダン様式	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	吹抜けの階段	【点的空間】	昭和 3 年当時のモダン様式	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	カフェ	【点的空間】		
20	手織り体験	【活動】		
21	善徳寺	【点的空間】	開基から 540 年	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
22	本堂	【点的空間】	各時代の建築様式が歴史を物語る	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
23	山門	【点的空間】	各時代の建築様式が歴史を物語る	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
24	鐘楼	【点的空間】	各時代の建築様式が歴史を物語る	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
25	勅使門	【点的空間】	各時代の建築様式が歴史を物語る	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
26	経堂	【点的空間】	各時代の建築様式が歴史を物語る	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
27	太鼓楼	【点的空間】	各時代の建築様式が歴史を物語る	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
28	宿泊	【活動】		
29	宝物収蔵館	【点的空間】		
30	唯心抄	【モノ】	親鸞上人直筆の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
31	じょうはな座	【点的空間】	伝統的な町家や芝居小屋の意匠を取り入れた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
32	町並み	【線的空間】		
33	客席	【点的空間】		
34	映像・音響設備	【点的空間】		
35	曳山会館	【点的空間】		
36	蔵回廊	【点的空間】		
37	城端塗	【モノ】	伝統工芸の源流	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
38	人形彫刻	【モノ】	伝統工芸の源流	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

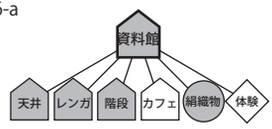
No.6　城端（富山県 南砺市 城端）

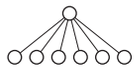
越中の小京都 自然と人が共生する癒される街 城端で休もう
/　南砺市観光協会 城端観光案内所　/　-

価値グループ

{分散型}

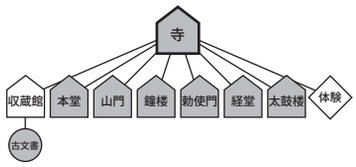
6-a





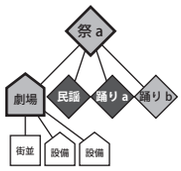
一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：6 単純階層
歴史属性	一般主調

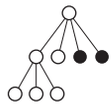
6-b



一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：8 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般主調

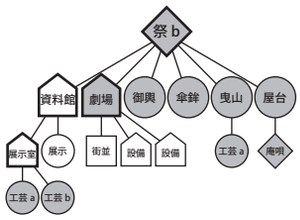
6-c





一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般 - 転用

6-d



一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般主調

No.7　大野（福井県 大野市）

結の故郷 越前おおの 人を結び、時を結び、地域を結ぶ
/　大野市観光振興課・一般社団法人大野市観光協会　/　2014

分析単位

A　ようこそ　越前おおののもてなしの旅で幸せに出会ってみませんか。
越前おおのは、雄大な自然に囲まれ、四〇〇年をこえる城下町の歴史をもつまち。
中心部の丘には越前大野城がそびえ、そのふもとには、東西六条、南北六条の碁盤目状の町割りが今も色濃く残っています。
「北陸の小京都」と呼ばれる、その風情あふれるまちで、訪れる者を迎えるのは、郷土愛をもった地元の人たち。
さまざまな人情味あふれるもてなしにふれることによって、心も体もあたたかく、幸せが訪れることでしょう。

B　旅プラン１　越前おおのでリフレッシュ
北陸の小京都、越前おおの。
歴史的な風情はもちろん、豊かな自然に囲まれたこの地には、多種多様の名所であふれています。
そんな越前おおのをあますことなく味わうため、旅プランを設定。テーマに沿った観光で、どんな出会いやふれあいが待っているのでしょう。
さっそく、自分に合ったプランで出かけてみましょう
小京都とよばれるまちなかをぶらり
時にはアクティブ。時にはリラックス。気分を一新できる数々の名所を満喫しました。

C　寺町通り
中世から近世にかけて建てられた寺院が整然と並ぶ通り。
各寺院には、史跡や仏像など貴重な文化財が数多く保管されています。
大野市観光協会にて御朱印帳を購入すれば、16 ヶ寺の御朱印を収集できます。

D　威風堂々とそびえる城を見上げて　越前大野城
織田信長に仕えていた武将、金森長近が築いた城。
城内には歴代城主の遺品を展示しています。
現在の天守閣は、昭和 43 年 (1968) に復元されたものです。

E　旅プラン２　おおの食を堪能した贅沢旅
食をすみずみまで味わう食めぐり旅を計画。どの「ごっつぉ」も最高です。

F　七間朝市で新鮮食材をゲット
七間朝市
400 年以上も続く 大野の名物朝市。農家の方たちが丹精こめて育てた農産物などが七間通りにズラリ。
新鮮な食材が手に入るとあって朝から大盛況です。出展者と会話を楽しむのもオススメです。

G　旅プラン３　越前おおのでふれあい旅　全国きっての名水にふれる
まちのいたるところで湧く名水。昔から市民生活と共にある姿は今も変わりません。

H　お殿様も使っていた名水に出会う
御清水　名水百選　ふくいのおいしい水
かつては城主の御用水として使われていたことから「殿様清水」とも呼ばれている湧水地。
さっぱりした味が特徴で、住民の社交の場ともなっています。

No.7　大野（福井県 大野市）

結の故郷 越前おおの 人を結び、時を結び、地域を結ぶ
/　大野市観光振興課・一般社団法人大野市観光協会　/　2014

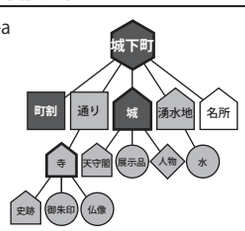
価値対象と歴史属性

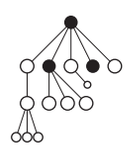
No.	価値対象		歴史属性	
1	越前おおの	【全体像】	「北陸の小京都」と呼ばれる /400 年をこえる城下町の歴史をもつ	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	越前大野城	【点的空間】	「北陸の小京都」と呼ばれる / 金森長近が築いた	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	町割り	【線的空間】	碁盤目状の ,「北陸の小京都」と呼ばれる	〔京都の歴史属性〕
4	地元の人たち	【活動】		
5	名所	【点的空間】		
6	寺町通り	【線的空間】		
7	寺院	【点的空間】	中世から近世にかけて建てられた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	史跡	【点的空間】	文化財	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	仏像	【モノ】	文化財	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	御朱印帳	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	金森長近	【活動】	織田信長に仕えていた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	遺品	【モノ】	歴代城主の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
13	天守閣	【点的空間】	昭和 43 年に復元された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	食	【モノ】		
15	七間朝市	【線的空間】	400 年以上も続く	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	農産物	【モノ】		
17	出展者	【活動】		
18	名水	【モノ】	昔から市民生活と共にある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	御清水	【点的空間】	城主の御用水として使われていた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

価値グループ

{分散型}

7-a





一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

7-b

一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般主調

No.8　古河（茨城県 古河市）

茨城県古河市観光ガイドブック 歴史浪漫の街古河　/　古河市役所観光振興課　/　2013

分析単位

A　ようこそ。関東ド・マンナカ宣言のまち古河市へ。
関東平野のほぼ中央、関東の小京都として知られる古河市。
茨城県の最西端に位置し、利根川、渡良瀬川がつくりだす美しい自然景観に恵まれた水と緑豊かな町です。
万葉集や吾妻鏡に名前が登場するなど、その歴史は古く、中世には、古河公方の拠点として、近世には有力譜代大名の城下町として発展してきました。
風格ある歴史・文化、先人たちの偉大な足跡が織りなす風景に触れ、ひととき、「古河」の魅力を存分にお楽しみください。

B　古河駅西口エリア
古河駅西口エリアは、城下町の風情が色濃く残り、街歩きの楽しさを存分に実感できます。
古河駅西口地区は、市域の西側の旧古河城下、古河宿の一帯を示しています。

C　ガイドと歩く古河　街歩きで再発見。
歴史と伝統の息づくまち、古河を訪れるお客様に喜んで頂けるように、「ふるさと案内人」がご案内いたします。団体、個人を問わず、ご希望のコースを設定しますのでお気軽にご利用ください。

D　ゆっくりと流れた歴史を知る。
万葉集、古河公方、古河城、鷹見泉石、雪華図説…。
古河の歴史が息づくシーンの中で先人たちへの想いをめぐらせてみませんか。

E　古河の歴史を創った偉人
古河城主　江戸幕府初期の大老　土井利勝（1573 ～ 1644）
「雪華図説」の著者　江戸後期の幕府老中　土井利位（1789 ～ 1848）
土井利位の家老　情報収集に長けた参謀　鷹見泉石（1785 ～ 1858）

F　江戸の時代に「雪華」というニューモードの誕生。
天保３年、日本で初めて雪の自然科学書が刊行されました。「雪華図説」と名付けられその本の著者は、古河藩主土井利位。
雪の効能 14 カ条と、雪の結晶 86 種の観察図鑑として誕生したものです。
97 種の雪華図を掲載し、のちに刊行される続編とともに、蘭鏡 (顕微鏡) を用いたこの観察記録は、江戸時代、日本人の科学成果のひとつとして高く評価されます。
…やがて、文様としての華やかさから、さまざまな文様へ取り入れられ、大いにもてはやされ、江戸庶民のあいだに流行するまでになりました。
彼の官途名にちなんで「大炊模様」と名付けられた利位の「雪華」は、江戸庶民に受け入れられ、しゃれたニューモードとして人気の的になります。
科学する殿さま利位の美への欲求なくして、この傑作が生まれることはなかったでしょう。

G　日本唯一の専門美術館　篆刻美術館
平成３年に日本で初めての篆刻専門の美術館として会館しました。
大正９年に建築された３階建ての石蔵を、当時の雰囲気を残して展示室に改修したものです。
平成 10 年には、国の登録有形文化財に登録されました。
篆刻は、印章から発展したもので、14 世紀頃中国におこりました。
四書五経や漢詩などから語句を選び、篆書という二千数百年前の古文字を柔らかい石や木に刻み、朱色の印泥をつけて上に押したものを鑑賞するものです。
館内には、古河出身の故生井子華（いくい・しか）の遺作をはじめ、日本の歴史的作家の作品を常時展示しています。また学習室では、篆刻体験やビデオ鑑賞や篆刻関連図書の閲覧もできます。

H　古河を舞台とした文学にふれる。歴史と文学
あたしとむじなたち　永井路子　　冬の標　乙川優三郎　　南総里見八犬伝　曲亭馬琴
万葉集に詠まれた古河

No.8　古河（茨城県 古河市）

茨城県古河市観光ガイドブック 歴史浪漫の街古河　/　古河市役所観光振興課　/　2013

I　蔵のある風景　そぞろ歩くほどに、古河の道筋に新しい出会いがー。
古河駅西口地区には、古河城を中心とする城下町として、また古河藩時代に日光街道の宿場町として栄えたことから、多くの蔵が建てられ、現在でも多くの蔵が残っています。

J　お休み処　坂長
国の登録有形文化財の商家を喫茶・お食事処として活用しています。
当時を偲ばせる数々の蔵でのひと時をお過ごしください。

K　古河城、歴史散歩。　江戸の文化にふれる。
古河城は平安時代末期あるいは鎌倉時代初期に、下河辺行平が古河の立崎に築いた城館とされています。
古河公方足利成氏が古河へ入った康生元年（1455）当時、「御陣」と呼ばれる程度のものでした。
…江戸時代には、譜代大名の多くが城主を入れ替わりで務めていき、近代城郭として、また行政機能を担うとともに、日光社参時に将軍の宿として機能した城となりました。
しかし明治時代初期になると廃城令とともに古河城も廃城となりその姿を消していきます。
明治末期には渡良瀬川の治水問題のために行われた河川改修工事の際に残された城跡も大半が消滅し、下流の関宿城と同様に城跡が徹底的に破壊されました。
現在ではその面影もあまりなく、土塁や曲輪などの一部が残っているだけです。
そんな遠い昔を思いながら現在の情景と見比べ街中散策し、江戸の文化に触れてみてはいかがでしょうか。

L　ミュージアムタウンで新たなデイを。　ミュージアムめぐり
多くの文化人を輩出した風土を背景に古河駅西口地区には、個性豊かな博物館や美術館があります。
収蔵品はもちろん、建物もアートの一部。歴史、文化、芸術との出会いをお楽しみください。

M　古刹・名刹・宮めぐり　古河公方ゆかりの寺社や江戸時代の貴重な文化財をご案内します。
室町時代から 130 年余にわたる古河公方時代を経て、江戸時代には徳川譜代大名の城下町であった古河。
日光奥州街道の要地として、老中格の大名が城主となり栄え、今もなお、公方ゆかりの寺社や江戸時代からの貴重な文化財などが市内のあちこちにあり、当時を偲ばせます。

N　古河七福神めぐり
古河駅西口周辺に祭られている七福神それぞれの社を 7000 歩で巡るコースをつくり、多くの観光客に巡っていただこうというものです。

O　カレーと麺の街おこし　古河の七幅カレーめん
古河七福神めぐり」と「古河のカレーめん」を合わせて「古河の七幅カレーめん」として提供しています。七福神にちなみ、各店のメニューは七種類の具材を加えることを共通のルールとしています。

No.8　古河（茨城県 古河市）

茨城県古河市観光ガイドブック 歴史浪漫の街古河　/　古河市役所観光振興課　/　2013

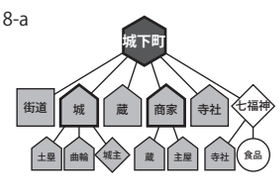
価値対象と歴史属性

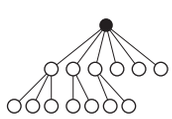
No.	価値対象		歴史属性	
1	古河市	【全体像】	関東の小京都として知られる，中世には古河公方の拠点として栄えた / 万葉集や吾妻鏡に名前が登場する，有力譜代大名の城下町，南総里見八犬伝に登場	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	利根川	【線的空間】		
3	渡良瀬川	【線的空間】		
4	古河駅西口地区	【全体像】	城下町の風情が色濃く残り，旧古河城下，古河宿の一帯	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	ふるさと案内人	【活動】		
6	土井利勝	【活動】	古河城主、江戸幕府初期の大名	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	土井利位	【活動】	江戸後期の幕府老中	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	鷹見泉石	【活動】	土井利位の家老	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	雪華図説	【活動】	江戸庶民に流行した，天保 3 年に刊行，江戸時代の日本人の科学成果のひとつ	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	篆刻美術館	【点的空間】	大正 9 年に建築された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	作品	【モノ】	日本の歴史的作家の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	篆刻体験	【活動】		
13	ビデオや篆刻関連図書	【モノ】		
14	蔵	【点的空間】	現在でも多く残っている（江戸時代のものが）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	道筋 (日光街道)	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	お休み処坂長	【点的空間】	国の登録有形文化財の商家	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	古河城	【点的空間】	江戸の文化にふれる，譜代大名が城主となった，将軍の宿としても使われた，平安末期〜鎌倉初期に築いた城館	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	土塁	【点的空間】	江戸の文化にふれる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	曲輪	【点的空間】	江戸の文化にふれる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	博物館や美術館	【点的空間】		
21	寺社	【点的空間】	古河公方ゆかりの	〔京都の歴史属性〕
22	古河七福神めぐり	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
23	古河のカレーめん	【モノ】		

価値グループ

{分散型}

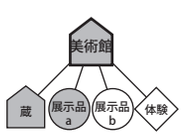
8-a





一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用 - 一般

8-b



一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：4 単純階層
歴史属性	一般主調

No.9　栃木（栃木県 栃木市）

栃木市観光ガイド ぶらりのんびり栃木へようこそ
/　栃木市役所 商工観光課・一般社団法人栃木市観光協会　/　2014

分析単位

A　粋と雅のであう街

蔵の街とちぎは、日光例幣使街道の宿場町として、また、江戸との舟運で栄え「小京都」「小江戸」とも呼ばれており独特の風情を感じさせる街です。

B　蔵の街並み

巴波川沿いや日光例幣使街道沿いには、黒塗りの見事な見世蔵や、白壁の土蔵群が残り、多くの建物は国の登録有形文化財になっています。
今なお現役で活かされている蔵の街並みを、ゆったり、のんびりお楽しみください。

C　蔵の街遊覧船

20 分ほど流れに乗って、船頭が巴波川を案内いたします。
舟の上から蔵の風情をゆっくりとお楽しみください。

D　豪華絢爛な人形山車がとちぎ秋まつりで集う

江戸との舟運で栄えた商都「小江戸とちぎ」には、今でも商人の心意気が残っています。
豪華絢爛な山車が蔵の街を巡行する「とちぎ秋まつり」は､栄華を極めた往時の栃木を彷彿とさせます。
江戸末期から明治にかけての美術工芸の粋を集めた人形山車、そして山車同士がお囃子を競い合う「ぶっつけ」は、祭り一番の見どころです。

E　栃木市ってこんなところです！

栃木市は平成 26 年 4 月の岩舟町との合併により、県南の 1 市 5 町が 1 つになりました。
「三毳山」「岩船山」「大平山」「渡良瀬湧水地」など県南のシンボル的な自然景観と「渡良瀬川」「思川」「巴波川」「永野川」などの豊かな河川を有しています。
古くは律令時代に下野国庁が置かれ、江戸時代には、日光例幣使街道の宿場町として栄え、市内を流れる巴波川の舟運を活用した商人町として発展を遂げました。
喜多川歌麿ゆかりの地でもあり、現在も蔵造りの建物を中心とする歴史的な街並みが残っており、多くの観光客の関心を集めています。
また、米、イチゴ、ぶどうをはじめとする多彩な農産物を生産する県内有数の農業地帯でもあり、今日では、食の地域ブランドとしても認知され、賑わいを呼んでいます。

No.9　栃木（栃木県 栃木市）

栃木市観光ガイド ぶらりのんびり栃木へようこそ
/　栃木市役所 商工観光課・一般社団法人栃木市観光協会　/　2014

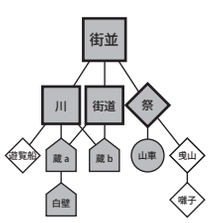
価値対象と歴史属性

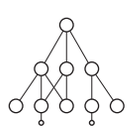
No.	価値対象		歴史属性	
1	蔵の街 (蔵の街並み)	【線的空間】	今なお現役で活かされている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
2	とちぎ	【全体像】	律令時代に下野国庁がおかれた ,「小京都」と称される / 宿場町及び江戸との舟運で栄えた ,「小江戸」と称される , 喜多川歌麿ゆかり	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	日光例幣使街道	【線的空間】	江戸時代には	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	巴波川	【線的空間】	江戸時代には	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	見世蔵	【点的空間】	国の登録有形文化財、今なお現役で活かされている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	白壁	【点的空間】	国の登録有形文化財、今なお現役で活かされている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	土蔵	【点的空間】	国の登録有形文化財、今なお現役で活かされている	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	蔵の街遊覧船	【活動】		
9	人形山車	【モノ】	江戸末期から明治にかけての美術工芸の粋を集めた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	とちぎ秋まつり	【活動】	栄華を極めた往時の栃木を彷彿とさせる (江戸)	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	ぶっつけ	【活動】		
12	三毳山	【周縁部】		
13	岩船山	【周縁部】		
14	大平山	【周縁部】		
15	渡良瀬湧水地	【周縁部】		
16	渡良瀬川	【線的空間】		
17	思川	【線的空間】		
18	永野川	【線的空間】		
19	米	【モノ】		
20	イチゴ	【モノ】		
21	ぶどう	【モノ】		

価値グループ

{集中型}

9





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合分散
歴史属性	一般主調

No.10　小川（埼玉県 比企郡 小川町）

和紙のふるさと おがわまち ロードマップ＆タウンガイド
/　小川町産業観光課　/　2010

分析単位

A　小川町プロフィール

周囲を豊かな自然と外秩父の山々に囲まれ、市街地の中央に槻川が流れる小川町は 1300 年の歴史を誇る小川和紙をはじめ、酒造、建具、裏絹などの伝統産業で古くから栄え、「武蔵の小京都」と呼ばれています。
歴史を秘めてたたずむ史跡や往時の面影をとどめる建物などが、かつての風情を今に伝えています。
郊外には県内の伝統的手工芸品を集めた「埼玉伝統工芸会館」があり、手すき和紙体験などが楽しめる人気の観光スポットになっています。
また、仙元山の中腹には「見晴らしの丘公園」があり休日には多くの人々でにぎわっています。
ふもとには「カタクリとオオムラサキの林」や「カタクリとニリンソウの里」がありさまざまな自然にふれることができます。

B　小川町の特産品　作り手の心意気が伝わってくる　伝統と技に支えられた特産品の数々

C　小川和紙

小川町を象徴するのはなんといっても手すきの小川和紙です。
中でもコウゾだけを使用した「細川紙」の製造技術は、国の重要無形文化財となっています。
千年をはるかに超す時をへて守り育てられて来た小川和紙は、温もりとやさしさが伝わり使う人の心を引きつけます。

D　伝統工芸を体験　昔から大切に守り伝えられてきた伝統の技に挑戦してみよう！

E　埼玉伝統工芸会館

「埼玉伝統工芸会館」は、「生活に潤いと美しさを」という願いを込めて建設された施設です。
小川和紙など埼玉県内の伝統的手工芸品 20 産地 30 品目が常時展示されています。
和紙工房では和紙づくりの職人技を間近に見学でき、実際に体験することもできます。
「工芸の里物産館」では、小川和紙などの工芸品、銘酒、漬物、お菓子などの物産品を販売しています。
道の駅「おがわまち」が併設されています。

F　七夕まつり

昭和 24(1949) 年から続く小川町を代表する祭りです。
地元の和紙をふんだんに使った、北関東一を誇る盛大な竹飾りの中を、歴史ある屋台の引き回し、小川祭りばやし、七夕おどりなどの列がつづきます。
夜には花火大会が行われ、千数百発の花火が夜空を彩ります。

G　歴史を探訪　遠く縄文時代から続く歴史の跡をたどってみよう！

H　吉田家住宅

享保 6 年の棟札があり、建築年代があきらかな民家としては県内最古のものです。
近年復元された建物は、見事な茅葺き屋根と三間広間型の間取りで，広い土間には「かまど」や「うまや」があります。
板の間には「いろり」が切ってあり、障子には伝統的な小川和紙が使用され、かつての民家のたたずまいを今に伝えています。国指定重要文化財。

I　伝統を味わう　受け継がれた美味を食す！

No.10　小川（埼玉県 比企郡 小川町）

和紙のふるさと おがわまち ロードマップ＆タウンガイド
/　小川町産業観光課　/　2010

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	小川町	【全体像】	「武蔵の小京都」と呼ばれる	〔京都の歴史属性〕
2	小川和紙	【モノ】	「武蔵の小京都」と呼ばれる /1300 年の歴史を誇る	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	外秩父の山々	【周縁部】	「武蔵の小京都」と呼ばれる	〔京都の歴史属性〕
4	槻川	【線的空間】	「武蔵の小京都」と呼ばれる	〔京都の歴史属性〕
5	酒造	【モノ】	「武蔵の小京都」と呼ばれる	〔京都の歴史属性〕
6	建具	【モノ】	「武蔵の小京都」と呼ばれる	〔京都の歴史属性〕
7	裏絹	【モノ】	「武蔵の小京都」と呼ばれる	〔京都の歴史属性〕
8	史跡	【点的空間】	（小京都と呼ばれる）かつての風情を伝える	〔京都の歴史属性〕
9	建物	【点的空間】	（小京都と呼ばれる）かつての風情を伝える	〔京都の歴史属性〕
10	埼玉伝統工芸会館	【点的空間】		
11	手すき和紙体験	【活動】		
12	仙元山	【周縁部】		
13	見晴らしの丘公園	【点的空間】		
14	カタクリとオオムラサキの林	【点的空間】		
15	カタクリとニリンソウの里	【点的空間】		
16	伝統工芸を体験	【活動】	昔からの伝統の技	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	伝統的手工芸品の展示	【モノ】	伝統的	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
18	和紙工房	【点的空間】		
19	和紙作りの職人技	【活動】		
20	工芸の里物産館	【点的空間】		
21	道の駅	【点的空間】		
22	七夕まつり	【活動】	昭和 24 年から続く	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
23	竹飾り	【モノ】		
24	屋台	【モノ】	歴史ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
25	小川祭りばやし	【活動】		
26	七夕おどり	【活動】		
27	花火大会	【活動】		
28	吉田家住宅	【点的空間】	享保 6 年	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
29	棟札	【モノ】	享保 6 年	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
30	茅葺き屋根	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
31	三間広間型の間取り	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
32	土間	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
33	かまど	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
34	うまや	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
35	板の間	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
36	いろり	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
37	障子	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
38	美味	【モノ】	受け継がれた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

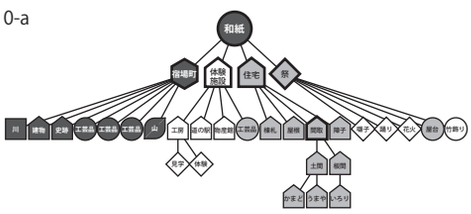
No.10　小川（埼玉県 比企郡 小川町）

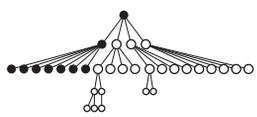
和紙のふるさと おがわまち ロードマップ＆タウンガイド
/　小川町産業観光課　/　2010

価値グループ

{分散型}

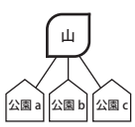
10-a





一次の価値対象	生活型 - 物品系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用 - 一般

10-b



一次の価値対象	周縁部型
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	一般主調

No.11　飯山（長野県 飯山市）

日本のふるさと 信州いいやま 飯山市公式観光ガイドブック　/　信州いいやま観光局　/　-

分析単位

A　おかえり、心に優しさが満ちてくるふるさと、信州いいやまへ。
千曲川のほとりに広がる穏やかな里、飯山市。
千曲川の流れのように、ゆったりと過ぎゆく時の中で、歴史を刻み、祈りを重ね、心通い合う文化をはぐくんできた美しい街、美しいさと、そしてそれを包むよう連なる美しい山々。
雪国の小京都と呼ばれる城下も、どこまでも懐深い森や高原も、四季の彩りをたたえて、訪れる人を迎えます。
歩くほど、ふれるほどに、「帰ってきた」という思いが募る、信州いいやまへ。
元気になりに、やさしくなりに、楽しくなりに、いつでも「おかえり」。

B　日本の原風景の旅　～学歩・考歩・遊歩の旅～
自然と歴史の再発見を目指し、歩きながら健康づくりが楽しめるエリア」として、読売新聞社の提唱により選定された「遊歩百選」。
行ってみたい、歩いてみたい、日本の百ヶ所の一つに飯山市は選ばれています。

C　寺の町いいやま　『雪国の小京都』の風情をたどろう　～千曲川のほとり、寺の町～
ひっそりと佇む寺社群、雁木の町並み、風情ゆかしい寺町の散策をお楽しみください。

D　国指定伝統的工芸品
祈りの風土と、地道な手技が育んだ仏壇工芸。
雪にさらして輝く白さを生み出す内山紙の技。
雪国の人々の静かな情熱が息づく伝統文化です。

E　菜の花公園・小菅・北竜湖・阿弥陀堂
白鳳時代以来の修験の伝統、素朴でのどかなふるさとの情景が息づく地域
おごそかな祈りの庭、鮮やかな四季の庭、心にしみる「阿弥陀堂だより」の里。

F　阿弥陀堂・石仏
福島集落の高台に、映画「阿弥陀堂だより」のオープンセットとして作られたお堂がそのまま残されており、今も「おうめばあさん」が住んでいそうなたたずまい。
映画に語られた癒しを体感できます。
その背後には標高 1272m の石仏山がそびえ、山頂へ向う道沿いで三十三観音に出会えます。

G　風味がいい、のどごしがいい。　飯山のそば
古くから飯山の伝統的郷土料理として受け継がれてきた「そば」。
飯山市内の多くのそば料理店では、それぞれが腕を競い、趣向を凝らして皆様にご提供しています。
北信濃の香り高きそばをお召し上がりください。

H　ふるさとを感じる、楽しむ四季のイベント
懐かしい伝統の祭礼、季節をめでる催事、興味深いイベント、観て、参加して、身近なふるさと実感しませんか。

I　全長 80km のロングトレイル　信越トレイル
いくつもの里と山をめぐり尾根をたどる、「歩く」道。
豊かな自然と、歴史につちかわれた人の暮らしや文化が共存する幾多の里と山を結ぶ信越トレイル。
関田山脈の尾根伝いに長野・新潟の県境をたどりながら「歩くこと」そのものを楽しむ新しいルートの誕生です。

No.11　飯山（長野県 飯山市）

日本のふるさと 信州いいやま 飯山市公式観光ガイドブック　/　信州いいやま観光局　/　-

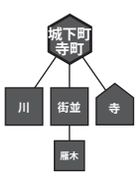
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	千曲川	【線的空間】	雪国の小京都の風情	〔京都の歴史属性〕
2	飯山市 (城下、寺町)	【全体像】	雪国の小京都と呼ばれる	〔京都の歴史属性〕
3	山々	【周縁部】		
4	森	【周縁部】		
5	高原	【周縁部】		
6	寺社群	【点的空間】	雪国の小京都の風情	〔京都の歴史属性〕
7	雁木	【線的空間】	雪国の小京都の風情	〔京都の歴史属性〕
8	町並み	【線的空間】	雪国の小京都の風情	〔京都の歴史属性〕
9	仏壇工芸	【モノ】	国指定伝統的工芸品、伝統文化	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	内山紙	【モノ】	国指定伝統的工芸品、伝統文化	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	菜の花公園	【点的空間】	白鳳時代以来の修験の伝統	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	小菅 (神社)	【点的空間】	白鳳時代以来の修験の伝統	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	北竜湖	【周縁部】	白鳳時代以来の修験の伝統	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	阿弥陀堂	【点的空間】	白鳳時代以来の修験の伝統	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	福島集落	【全体像】		
16	石仏山	【周縁部】		
17	三十三観音	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
18	そば	【モノ】	古くから受け継がれて来た	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	そば料理店	【点的空間】		
20	祭礼	【活動】	懐かしい伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	催事、イベント	【活動】		

価値グループ

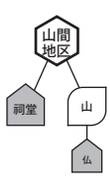
{分散型}

11-a



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	転用主調

11-b



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般主調

No.12　森町（静岡県 周智郡 森町）

遠州の小京都 森町 森町観光案内　/　森町役場産業課　/　-

分析単位

A　遠州の小京都　森町

遠州森町は三方を小高い山々に囲まれ、中央を「太田川」が流れる風情豊かな町。
かつては火伏せの神「秋葉神社」へ通ずる街道の宿場町として、江戸時代中期頃からは「古着の町」として葛飾北斎の「栄える都市の番付」の前頭に、その名が掲げられるほどの盛況をみせていました。
今も街道脇に残る町家や路地裏の土蔵はその時代の名残です。
大正十二年七月、森町を訪れた地理学者「志賀重昂」は山紫水明のこの町を「小京都」と称賛し、以来遠州の小京都と呼ばれるようになりました。
森町の山頂部は南アルプス赤石山系の南端に連なり、雄大な自然を色濃く残しています。
太田川の上流には「カワセミ」や「アマゴ」も棲息するなど、渓谷の美しさもひときわ。
夏には町の中を流れる太田川でも「鮎釣り」が盛んに行われています。
そうした素晴らしい自然に抱かれながら歴史を刻み、人々の信仰を集めている神社・仏閣も数多く、そこに伝承される舞楽や祭りは、森町ならではの独自の文化を創出してきました。
新しい世紀に入り、本当の豊かさとは何かを問われています。
旅にたとえていえば、さっと自動車で通り過ぎるよりもゆっくりと歩いて、見て、触れて、そこにある山や川あるいは草や木あるいはそこに住む人々の「素朴な心」にふれてみる。
それがほんとうの豊かな「こころ」ではないでしょうか。
ここ遠州の小京都「森町」はそんな、人の「こころ」を豊かにできる町でありたいと思います。

B　犬山城をライン河畔の古城に見立て、城下の木曽川を日本ラインと命名し、その景勝を天下に紹介した地理学者志賀重昂氏が、大正十二年に森町を訪れ、この地の風景の美しさに心を打たれ、「森町之賦」を詠みました。
「三方を山に囲まれ、南部一帯に平野が広がっている。帯のように太田川が流れ、左右に賑やかな町並みがある。三味線や太鼓のおはやし、賑やかな歌が川の流れを隔てて聞こえてきたり消えたりしている。その様はまさに小京都である。」
というもので、森町が遠州の小京都と呼ばれるゆえんの詩として伝えられています。

C　歴史探訪

千余年の歳月が育んだ社を仰ぎながら古人の行き交った信仰や交易の道をたどると忘れかけていた歴史との、思わぬ出会いがある。

D　文化見聞

町のあちらこちらから、笛や太鼓の音が響く。
人々のくらしとともに培われた、さまざまな伝承の中に失われつつある、ふるさとを見つける。

No.12　森町（静岡県 周智郡 森町）

遠州の小京都 森町 森町観光案内　/　森町役場産業課　/　-

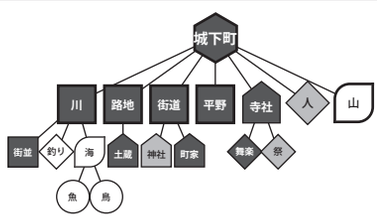
価値対象と歴史属性

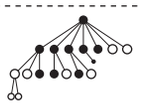
No.	価値対象		歴史属性	
1	森町	【全体像】	志賀重昂が小京都と称賛した / 江戸時代は葛飾北斎に名が掲げられる程栄えた	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	山々	【周縁部】	志賀重昂が小京都と称賛した	〔京都の歴史属性〕
3	太田川	【線的空間】	志賀重昂が小京都と称賛した	〔京都の歴史属性〕
4	秋葉神社	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	街道	【線的空間】	志賀重昂が小京都と称賛した / 江戸時代	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	町屋	【点的空間】	志賀重昂が小京都と称賛した / 江戸時代の繁栄の名残	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	路地裏	【線的空間】	志賀重昂が小京都と称賛した / 江戸時代の繁栄の名残	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	土蔵	【点的空間】	志賀重昂が小京都と称賛した / 江戸時代の繁栄の名残	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	カワセミ	【モノ】		
10	アマゴ	【モノ】		
11	渓谷	【周縁部】		
12	鮎釣り	【活動】		
13	神社・仏閣	【点的空間】	千余年の歳月が育んだ	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	舞楽	【活動】	志賀重昂が小京都と称賛した	〔京都の歴史属性〕
15	祭り	【活動】	伝承される	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
16	志賀重昂	【活動】	木曽川を日本ラインと名称した（大正時代）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	平野	【線的空間】	志賀重昂が小京都と称賛した	〔京都の歴史属性〕
18	町並み	【線的空間】	志賀重昂が小京都と称賛した	〔京都の歴史属性〕

価値グループ

{集中型}

12





一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：7 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

No.13　西尾（愛知県 西尾市）

城下町歴史小径散策マップ 三河の小京都 愛知西尾　/　西尾市観光協会　/　2012

分析単位

A　三河の小京都　愛知西尾

西尾市は戦国時代以降に城下町として栄えた西三河南部の中心的な市であり 明和元年（1764 年）に大給松平氏が入城し、二万三千石から六万石の城下に発展した。

城下の外では京都所司代を務めた板倉勝重・重宗などの板倉家の菩提寺として名高い長圓寺がある。所蔵品の狩野派・松花堂の書画、小堀遠州・石川丈山・本阿弥光悦の書など京文化との関わりあるものを残している。

また、万灯山で 8 月に行われる「かぎ万燈」は、京都の大文字焼と同様に旧盆の行事で、夏の風物詩となっている。

名産である西尾茶は、禅宗の実相寺の僧が茶を飲む習慣を持っていた物と考えられ、市内には抹茶をたしなむ市民が非常に多い。

市内に流れるみどり川は、両側に桜が植えられ、市民の憩いの場である。これにかかる橋は二條橋、三條橋、四條橋など趣のある名前がつけられている。

平成 7 年度、西尾の文化と歴史の再発見を目指し、全国京都会議への加盟が認められ、以来「三河の小京都・西尾」を名乗る。

B　西尾の抹茶

名産である西尾の抹茶は、禅宗の実相寺の僧が文永 8 年 (1271 年）頃に栽培したと伝えられる。

産業としての茶栽培は、明治期に足立順道が宇治より茶種を導入したことに始まる。

西尾の抹茶は矢作川より運ばれた土壌と川霧の恩恵に負うところが大きく、深い緑、上品な香り、まろやかな味が特色である。抹茶の原料となるてん茶は全国一である。

C　八ツ面山の雲母

古くから雲母の産地として知られ､和銅 6 年 (712 年）頃には調（税金）として朝廷に献上していた。

江戸時代に盛んに採掘され、明治期に廃坑となった。

当時の採掘跡はほとんど埋められたが、わずかに北斜面に見られる。

D　長圓寺

寛永 7 年（1630 年)､板倉重宗が勝重の 7 回忌に中島村から現在地に移転させ､板倉家の菩提寺とした。

板倉勝重を祀る肖像堂を中心に大名家の墓石群が並立し、京都の文化人との交流から所蔵品は京文化との関わりのあるものも多く伝わっている。

E　かぎ万燈

約九百年前より伝わるお盆の行事で、万灯山の西面に薪を 108 個かぎ状に連ね、8 月 14 日夜一斉に点火する。

昔この山をはさんで浅井千坊と須美千坊の僧兵が戦い、多くの犠牲者が出たため、この人々を埋めて千人塚を作りかぎ万燈を焚いてその霊を弔ったのが始まりと言われている。

遠く知多沿岸、西三河一帯より見え、夕涼みかたがた見物する人が多く、火つきの善し悪しを見て豊作を占うと言われている。

No.13　西尾（愛知県 西尾市）

城下町歴史小径散策マップ 三河の小京都 愛知西尾　/　西尾市観光協会　/　2012

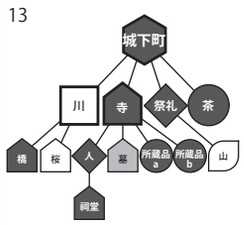
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	西尾市	【全体像】	三河の小京都を名乗る / 戦国時代以降に栄えた , 江戸時代に 6 万石の城下町として栄えた	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	板倉家	【活動】	京都所司代を務めた	〔京都の歴史属性〕
3	長圓寺	【点的空間】	京都所司代の菩提寺 / 藩主の菩提寺	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	書画	【モノ】	松花堂の , 狩野派の , 京文化と関わりのある	〔京都の歴史属性〕
5	書	【モノ】	小堀遠州・石川丈山・本阿弥光悦の , 京文化と関わりのある	〔京都の歴史属性〕
6	万灯山	【周縁部】		
7	かぎ万燈	【活動】	京都の大文字焼と同様に / 約九百年前より伝わる	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	西尾茶	【モノ】	明治期に足立順道が宇治より茶種を導入した	〔京都の歴史属性〕
9	実相寺	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	市民	【活動】		
11	みどり川	【線的空間】		
12	桜	【線的空間】		
13	橋	【点的空間】	二条橋などの名前	〔京都の歴史属性〕
14	矢作川	【線的空間】		
15	八ツ面山	【周縁部】	714 年頃から産地として知られていた , 江戸時代に盛んに採掘された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	雲母	【モノ】	714 年頃頃には調として献上していた , 江戸時代に盛んに採掘された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	肖像堂	【点的空間】	京都所司代を祀る	〔京都の歴史属性〕
18	墓石群	【点的空間】	大名家の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

価値グループ

{集中型}

13



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合分散
歴史属性	複合階層 - 結合分散

No.14　伊賀上野（三重県 伊賀市 上野）

伊賀観光パンフレット 魅力発見感動旅路 奥義の書　/　伊賀市役所商工労働観光課　/　-

分析単位

A　伊賀流忍者の故郷を訪れるべし

謎めいた存在で人々を惹きつけてやまない忍者…。
彼らは主に諜報活動や諜略活動を任務とし、敵の情報を収集する影の立役者として暗躍した隠密集団です。
全国では特に、ここ伊賀の地に優れた忍術が発達。
戦国時代になると本格的に歴史の裏舞台に関わるようになり、今や映画や漫画のモチーフとして使われ絶大な人気を呼ぶ服部半蔵も、江戸幕府に仕えた伊賀をルーツとする人物として知られています。
明治期になり、その役割を終えることとなった忍者でしたが、ここ伊賀には歴史と共に歩んだ忍者の文化が今もなお息づき、その世界を体感しようと多くの人々で賑わいをみせているのです。

B　伊賀流忍者博物館

「忍者屋敷」「忍術体験館」「忍者伝承館」「忍術ひろば」からなる伊賀流忍者の殿堂。
ここでは謎に包まれた伊賀流忍者の世界を垣間見ることができる。

C　伊賀流なりきりの術　おもしろ忍者体験！

"" 忍び "" としての活動を行うための武器や、動きやすく目立たない服装などを、実際に身につけて忍者の生活を体験してみませんか。
あなたにも、隠れた才能が秘められているかも !?

D　上野城・城下町を訪れるべし

伊賀の特徴を知る上で外せない上野城。
この地は、戦国武将でありながら築城の名手として徳川家康に重用され、一六〇八年に伊勢国津藩の藩主に着任した藤堂高虎が改築したものです。
現存する天守閣は昭和十年に復元されたものですが、日本有数の高さを誇る高石垣は高虎が築城した当時のまま。
城内には藤堂藩ゆかりの武具や横山大観をはじめとする名士による貴重な文化財などが展示されており、三階からは城下町の景観を一望することができます。
歴史の深みが体感できる上野城と城下町。ここ伊賀に訪れたのならぜひ立ち寄ってみてはいかがですか。

E　芭蕉の生誕地を訪れるべし

江戸時代前期に活躍し、"" 俳聖 "" と呼ばれた 松尾芭蕉の生誕地・伊賀。
代表的作品「奥の細道」などの紀行文を記し、生涯を旅の中で過ごした芭蕉にとって伊賀の地は、どこにいても忘れることのできない心の拠り所であり、たびたび郷里に戻ってきては、ふるさとへの想いを数々の句にしたためたことでも知られている場所です。
市内各所にはその証として七十数ヶ所の句碑が建てられ、生家のほかにも書斎として使っていた釣月軒など、芭蕉の足跡を色濃く感じ取るスポットがたくさん残されています。
芭蕉のルーツともなった趣ある風土の薫りにふれて、風流なひとときを過ごしてみるのも伊賀ならではの楽しみ方の一つでしょう。

F　面影を辿る歴史慕情

どこか懐かしさを漂わせる小京都とも呼ばれる 古い町並み。
歴史の瞬間が刻まれた地を訪れ、往時に想いを馳せるのも伊賀旅の醍醐味です。

G　旅を満喫　伊賀自慢の伝統工芸品

宿でさりげなく使われる器や、ふと手にするお土産物…そんな品々にも、脈々と受け継がれて来た伝統の技を感じることができることでしょう。

No.14　伊賀上野（三重県 伊賀市 上野）

伊賀観光パンフレット 魅力発見感動旅路 奥義の書　/　伊賀市役所商工労働観光課　/　-

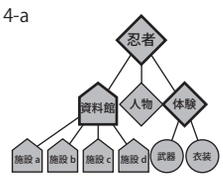
価値対象と歴史属性

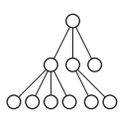
No.	価値対象		歴史属性	
1	伊賀流忍者	【活動】	戦国時代 - 江戸時代にかけて活躍した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	伊賀	【全体像】	伊賀忍者の故郷、松尾芭蕉の生誕地	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	服部半蔵	【活動】	江戸幕府に仕えた人物	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	伊賀流忍者博物館	【点的空間】	伊賀流忍者の世界を垣間みることができる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	忍者屋敷	【点的空間】	伊賀流忍者の世界を垣間みることができる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	忍者体験館	【点的空間】	伊賀流忍者の世界を垣間みることができる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	忍者伝承館	【点的空間】	伊賀流忍者の世界を垣間みることができる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	忍者ひろば	【点的空間】	伊賀流忍者の世界を垣間みることができる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	忍者体験	【活動】	伊賀流なりきりの術	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	武器	【モノ】	伊賀流なりきりの術	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	服装	【モノ】	伊賀流なりきりの術	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	上野城	【点的空間】	藤堂高虎が改築した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	城下町の景観、町並み	【線的空間】	小京都とも呼ばれる / 城下町の景観	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	藤堂高虎	【活動】	戦国武将、徳川家康に重用された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	天守閣	【点的空間】	藤堂高虎が改築したものを復元	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	高石垣	【点的空間】	高虎が築城した当時のまま	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	武具	【モノ】	藤堂藩ゆかりの	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	文化財	【モノ】	横山大観をはじめとする名士による	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	松尾芭蕉	【活動】	江戸時代前期に活躍し俳聖と呼ばれた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	句碑	【点的空間】	芭蕉の足跡を色濃く感じる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
21	生家	【点的空間】	芭蕉の足跡を色濃く感じる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
22	釣月軒	【点的空間】	芭蕉の足跡を色濃く感じる	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

価値グループ

{分散型}

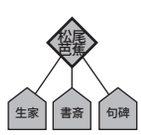
14-a





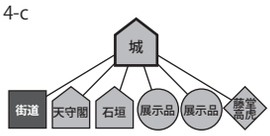
一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：6 単純階層
歴史属性	一般 - 転用

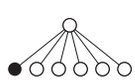
14-b



一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合分散
歴史属性	一般主調

14-c





一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	一般主調

No.15　出石（兵庫県 豊岡市 出石）

出石観光便覧 出石行楽絵図　/　但馬國出石観光協会　/　2013

分析単位

A　心地よい風情と人情、人と街を穏やかに育むゆったりと流れる時。
その佇まいはさまざまな顔をもつ。一見、ミスマッチに見える風景も、なぜか絶妙の融和を見せる。
格子窓のある町屋もただ風情をかもす装飾ではなく、そこに息づく生活に根ざしている。
日常的な会話には、人なつっこく柔らかい物ごしがにじむ。
すべてのものが、いそがず穏やかに移ろってゆく。大時計が刻むゆったりとした時のなかで。

B　太古に思いを馳せて。
天日槍による、但馬の国生み伝説。詩情豊かな逸話の数々。
いにしえ人の営みが綴る、古代の浪漫が展開する。
・古代より信仰深く天日槍を祀る但馬一宮出石神社。
・天日槍、出石乙女　伝説の人々と古代を旅する。

C　情緒豊かな城下町。
城下町の景観が形成された時代を思うとき、その風情あるたたずまいに脈々と続く時を感じる。
・風情にあふれ、情緒が香る城下町。
・家老屋敷　激動の時代を今に伝える上級武士の居宅。"

D　辰鼓楼
出石のシンボル辰鼓楼。
凛としてそびえ立つ大時計はたえまぬ時を刻みながら、人々の暮らしを見守りつづけています。
宗鏡寺
戦国乱世を生きた孤高の禅僧、沢庵ゆかりの寺。

E　町家
観光に訪れた人とそこに暮らす人々が自然な融和を見せる町。
出石の町並みはやわらかに人を包み込んでくれます。
歴史を伝える町家の造り。そこに息づく暮らしの風情。

F　町が沸く季節。
先人達の営みを彷彿とさせる祭りの数々。
信仰や歴史を今に伝える習わしに出石の町と人が沸きかえる。

G　散策便利マップ
長い歴史や風土に育まれた、出石の町並みやそこに暮らす人々のかもし出す風情を肌で感じてみてください。きっとこの町が好きになってもらえるはずです。

H　出石の概要
三方を山に囲まれた出石町は、その中心部を南北に出石川が環流し、なだらかな農地が北へと広がる自然豊かな町です。
江戸時代は五万八千石の城下町として栄え、鉄道敷設を拒否したことから都市化されることなく、城下町の風情を今に伝えています。
明治九年の大火により町屋の大半を焼失しましたが、町割は当時のままで、道路は碁盤の目状に形状を整え、城郭・辰鼓楼・家老屋敷のある内町周辺は、当時の面影を色濃く残しています。
また、町割に沿って瓦葺き、平入りの民家が連続して建ち並び、町並みとの調和を図りながら落ち着いた佇まいを呈しています。これが「但馬の小京都」と呼ばれる由縁です。
城下町の風情や出石皿そばの味、出石焼などの特産品の魅力によって、現在では、約百万人の観光客が訪れる町となりました。

No.15　出石（兵庫県 豊岡市 出石）

出石観光便覧 出石行楽絵図　/　但馬國出石観光協会　/　2013

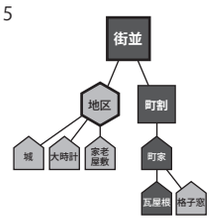
価値対象と歴史属性

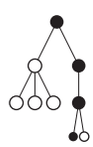
No.	価値対象		歴史属性	
1	格子窓	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
2	町屋 (平入りの民家)	【点的空間】	但馬の小京都と呼ばれる由縁	〔京都の歴史属性〕
3	辰鼓楼 (大時計)	【点的空間】	江戸時代の城下町の当時の面影を色濃く残す	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	天日槍	【モノ】	古代の浪漫	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	伝説	【活動】	古代の浪漫	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	但馬一宮出石神社	【点的空間】	古代より天日槍を祀る	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	城下町の景観	【線的空間】	但馬の小京都と呼ばれる由縁 / 城下町の景観	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	家老屋敷	【点的空間】	江戸時代の城下町の当時の面影を色濃く残す	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	宗鏡寺	【点的空間】	沢庵和尚ゆかり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	祭り	【活動】	先人達の営みを彷彿とさせる、歴史を今に伝える	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	山	【周縁部】		
12	出石町	【全体像】	但馬の小京都と呼ばれる / 江戸時代は城下町として栄えた、城下町の風情を今に伝える	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	出石川	【線的空間】		
14	町割り	【線的空間】	碁盤目状、但馬の小京都と呼ばれる由縁 / 江戸時代のまま	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	城郭	【点的空間】	江戸時代の城下町の当時の面影を色濃く残す	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	内町	【全体像】	江戸時代の城下町の当時の面影を色濃く残す	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	瓦葺き	【点的空間】	但馬の小京都と呼ばれる由縁	〔京都の歴史属性〕
18	出石皿そば	【モノ】		
19	出石焼	【モノ】		

価値グループ

{集中型}

15





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用 - 一般

No.16　龍野（兵庫県 たつの市 龍野町）

播磨の小京都 龍野　/　たつの市商工観光課　/　2012

分析単位

A　夕焼け小焼けの赤とんぼ　童謡の里　龍野

龍野エリアは兵庫県南西部に位置し、総面積 69.75㎢で地勢はおおむね平坦地です。

市域のほぼ中央部を流れる揖保川は遠く鳥取県境に源を発し、延長 70km と県下で三番目に長く 昔から西播四郡の文化、産業の中心地である龍野を育てた母なる川です。

水は播磨平野の穀倉をうるおし播磨工業地帯の原動力となって瀬戸内海に注いでいます。

また、脇坂藩五万三千石の城下町であり、市街では武家屋敷、白壁の土蔵が今なお残っており、「播磨の小京都」ともいわれています。

一方、原生林に包まれた鶏籠山を中心に背後の裏山一帯は、近畿自然歩道、西播丘陵県立自然公園です。この中に聚遠亭、桜の名所である龍野公園があり、大自然の織り成す四季のコントラストは見事なものです。

B　龍野のまつり　武者行列

賤ヶ嶽七本槍で勇名をはせた脇坂安晴をはじめ脇坂藩政二百年の祭神をしのんで四月のさくら祭には武者行列の歴史絵巻が繰り広げられます。

騎馬武者やかわいい少年、少女武者など総勢三百人が城跡や武家屋敷のある古い街並を行列します。

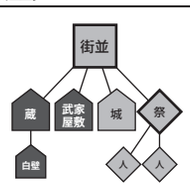
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	童謡	【活動】		
2	龍野	【全体像】	播磨の小京都といわれる / 脇坂藩の城下町	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	揖保川	【線的空間】	昔から龍野を育てた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
4	武家屋敷	【点的空間】	播磨の小京都といわれる / 脇坂藩の城下町のものが今なお残る	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	白壁	【点的空間】	播磨の小京都といわれる / 脇坂藩の城下町のものが今なお残る	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	土蔵	【点的空間】	播磨の小京都といわれる / 脇坂藩の城下町のものが今なお残る	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	原生林	【周縁部】		
8	鶏籠山	【周縁部】		
9	聚遠亭	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	桜	【点的空間】		
11	龍野公園	【点的空間】		
12	武者行列	【活動】	脇坂藩政 200 年の祭神をしのんで	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	騎馬武者	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	少年少女武者	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
15	城跡	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
16	町並み	【線的空間】	古い	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

価値グループ

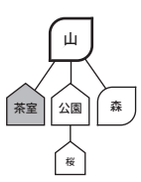
{分散型}

16-a



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般 - 転用

16-b



一次の価値対象	周縁部型
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般主調

No.17　津和野（島根県 鹿足郡 津和野町）

山陰の小京都 津和野　/　津和野町商工観光課・津和野町観光協会　/　-

分析単位

A　山陰の小京都　津和野

津和野は、山あいに白壁と赤瓦の家並みがつづき、西に山城の跡がみえる城下町です。
汽笛は山にこだまします。
どんど焼き、苗木市、鷺舞などがあり、かるた取り（百人一首）も盛んなところです。
町には、たて横につながった水路があります。むかしの家も残っています。
さくら・つつじ・新緑・もみじ、山は四季おりおりに色を変えます。時雨や夕立も風情があります。
秋が深まると町は霧につつまれる日が多くなります。冬の星空はきれいです。
雪が降ると赤い屋根は白に変わります。
狭い町です。歩いてください。津和野ことばも聞いてください。

B　殿町

養老館跡や町役場・多胡家老門など、むかしの門構えとなまこ塀の家が並んでいます。
カトリック教会も殿町の景色の中にとけこんでいるようです。
道沿いの割堀には、しょうぶが咲き、錦鯉が群れています。西の端は大橋です。
むかしに較べて川の水量が減りましたが、橋の下には鯉やうぐいが泳いでいます。
橋を渡ると、左側は郷土館です。城の絵図や西周の肖像画があります。
画は「鮭」で有名な高橋由一の描いたものです。
養老館は藩校でした。西周や森鴎外は幼いとき、ここで勉強しました。
国学者の大国隆正は先生でした。いま民俗資料館になっています。
殿町は、夏、ライトアップされ夕涼みには格好の場所です。

C　津和野城址（国指定文化財）

西の山の上に城の石垣が見えます。
城は蒙古の襲来にそなえて吉見氏が築いたもので、日本海の方を向いています。
その後、坂崎・亀井の殿様の城に成りました。
リフトで山頂までいき、ケヤキやカエデの林を通りぬけると城址にでます。
山城なのに上に井戸があります。城の絵図をみると台所や塩庫がかいてあります。
もちろん天守閣もありましたが、大地震で崩れてしまい、銃眼のついた櫓や塀も明治維新のあと取り壊されてしまいました。
城跡にたつと、正面に青野山、眼下に赤瓦の町並みが見えます。

No.17　津和野（島根県 鹿足郡 津和野町）

山陰の小京都 津和野　/　津和野町商工観光課・津和野町観光協会　/　-

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	津和野	【全体像】	山陰の小京都	〔京都の歴史属性〕
2	山あい	【周縁部】		
3	白壁	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
4	赤瓦	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	家並み	【線的空間】		
6	山城の跡、津和野城址	【点的空間】	蒙古の襲来に備えて吉見氏が築いた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	汽笛	【活動】		
8	どんど焼	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	苗木市	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	鷺舞	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	かるた取り	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	水路	【線的空間】		
13	家	【点的空間】	むかしの	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	さくら	【線的空間】		
15	つつじ	【線的空間】		
16	新緑	【線的空間】		
17	もみじ	【線的空間】		
18	時雨や夕立	【活動】		
19	霧	【活動】		
20	星空	【活動】		
21	雪	【活動】		
22	津和野ことば	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
23	殿町（通り）	【線的空間】		
24	養老館跡	【点的空間】	藩校 , 西周 , 森鴎外 , 大国隆盛ゆかり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
25	町役場	【点的空間】		
26	多胡家老門	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
27	門構え	【点的空間】		
28	ナマコ壁	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
29	家	【点的空間】		
30	カトリック教会	【点的空間】		
31	割堀	【線的空間】		
32	しょうぶ	【点的空間】		
33	錦鯉	【モノ】		
34	大橋	【点的空間】		
35	うぐい	【モノ】		
36	郷土館	【点的空間】		
37	城の絵図	【モノ】		
38	西周の肖像画	【モノ】	西周の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
39	石垣	【点的空間】	蒙古の襲来に備えて吉見氏が築いた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
40	リフト	【活動】		
41	けやきやかえでの林	【線的空間】		
42	井戸	【点的空間】		
43	青野山	【周縁部】		

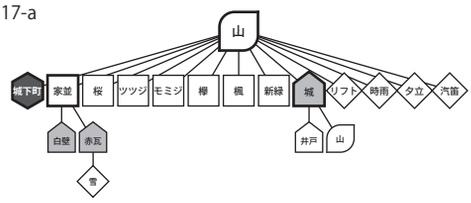
No.17　津和野（島根県 鹿足郡 津和野町）

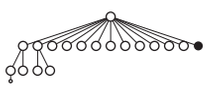
山陰の小京都 津和野　/　津和野町商工観光課・津和野町観光協会　/　-

価値グループ

{分散型}

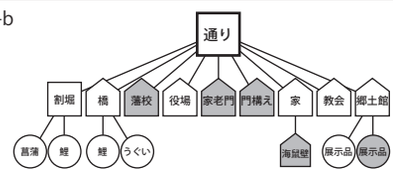
17-a





一次の価値対象	周縁部型
階層構造	一次の結合数：9 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般主調

17-b



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：13 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般 - 転用

No.18　高梁（岡山県 高梁市）

高梁市ガイドマップ　/　高梁市産業振興課　/　2013

分析単位

A　城下町散策　備中松山城をはじめ、数々の文化的価値の高い建物。
JR 備中高梁駅周辺には、国指定の名勝や県指定のふるさと村など、文化的価値の高い建物が集まっています。
のんびり歩きながら、じっくりと「小京都の町並み」を堪能してみてはいかがでしょうか？
実際に歩かなければ見つけることのできない、小さな感動やドラマに出会えるかも？

B　備中松山城
"" つわものどもが 夢の跡 "" 在りし日のもののふの鼓動を感じて。
標高 430m の臥牛山に建つ天守は、国の重要文化財で、現存天守を持つ山城としては最も高い所にあります。
鎌倉時代、秋庭重信が大松山に城を築いたのを起源とし、1683(天和三）年に水野勝宗によって 3 年がかりで修築され、今の天守の姿になりました。
登城坂の周囲には、高さ 10m 以上の巨大で切り立った岩壁がそびえ、"" 難攻不落の名城 "" の面影を感じられます。
白い漆喰塗りの壁と黒い越板のコントラスト、空の青に映える美しい天守。
秋には大手門付近の木々が紅葉し、岩壁が燃えるような朱色に覆われる景色は圧巻です。

C　銅とベンガラのまち　ベンガラが語りかける、繁栄の歴史。
国の重要伝統的建造物群保存地区として選定。
格子や塀など、全てがベンガラ色の古い家が軒を連ねる町の真ん中にたたずむだけで、古き時代へとタイムスリップさせてくれます。

D　吹屋ふるさと村
文化庁から国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。
赤銅色の石州瓦とベンガラ色の外観で統一された、見事な町並みが整然と続く吹屋の町並み。
この町並みこそ、江戸末期から明治にかけ、吹屋の長者達が後世に残した最大の文化遺産です。
豪商が財にあかせて建てた豪邸は、全国各地に見ることができます。
しかし、吹屋の得意な点は、個々の屋敷が豪華さを競うのではなく、旦那衆が相談の上で石州（今の島根県）から宮大工の棟梁たちを招いて、町全体が統一されたコンセプトの下に建てられたという当時としては驚くべき先進的な思想にあります。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	城下町	【全体像】	城下町	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	城下町 (町並み)	【線的空間】	小京都の	〔京都の歴史属性〕
3	備中松山城	【点的空間】	小京都の / 鎌倉時代を起源とする、江戸時代に修築され現在の姿	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	名勝	【点的空間】	小京都の	〔京都の歴史属性〕
5	ふるさと村	【線的空間】	小京都の	〔京都の歴史属性〕
6	臥牛山	【周縁部】		
7	天守	【点的空間】	江戸時代に今の姿になった	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	登城坂	【線的空間】	難攻不落の名城の面影を感じられる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	岩壁	【点的空間】	難攻不落の名城の面影を感じられる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	漆喰塗の壁	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	黒い腰板	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	大手門	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
13	木々の紅葉	【線的空間】		
14	赤銅色の瓦	【点的空間】	江戸時代末期から明治にかけて	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	ベンガラ色の外観	【点的空間】	古き時代へとタイムスリップ	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
16	格子	【点的空間】	古き時代へとタイムスリップ	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	塀	【点的空間】	江戸時代末期から明治にかけて	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	ベンガラ色の家	【点的空間】	江戸時代末期から明治にかけて	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	吹屋ふるさと村	【線的空間】	江戸時代末期から明治にかけて	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

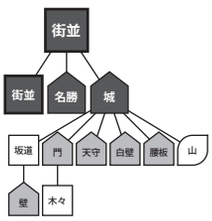
No.18　高梁（岡山県 高梁市）

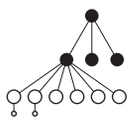
高梁市ガイドマップ　/　高梁市産業振興課　/　2013

価値グループ

{分散型}

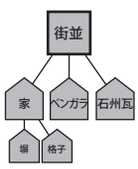
18-a

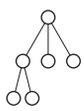




一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	転用主調

18-b





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般主調

No.19　津山（岡山県 津山市）

美作の国 歴史と文化の城下町 津山　/　津山市観光協会　/　2013

分析単位

A　津山の歴史をみる　あの本能寺の変の森一族の舞台をめぐる
かつて五層の天守がそびえた津山城。見事なお城の石垣は、今もその雄大な面影を残し、美作一国を治めた津山藩の足跡を伝える。

B　津山城（鶴山公園）
津山藩初代藩主・森忠政が 12 年の歳月をかけて 1616 年に完成させた平山城。
明治 6 年の廃城令で建物はすべて取り壊されてしまったが、2005 年に城内最大規模の櫓で、内部は畳敷きの御殿様式という特徴を持つ「備中櫓」を復元させた。
城跡の鶴山公園は、日本のさくら名所 100 選にも選ばれている。

C　津山の文化をみる　往時の面影を残す城下町を訪ねて。
津山が生んだ偉人の功績、商家の町並み。
城下町として繁栄した津山の街の人々の文化が領土の誇りとして今も受け継がれる

D　津山洋学資料館
古い町並みに調和するアカデミックな外観　医学のルーツが解る洋学資料館

E　旧津山扇形機関車庫
鉄道発展のシンボルが今も変わらず残る　鉄道近代化遺産ここにあり
奥行 22.1m で 17 線あり、京都の「梅小路」に次ぐ日本で二番目の規模を誇る扇形機関車庫。
地方での鉄道が全盛期を誇った雄大な風景を残し、歴史的にも貴重な文化遺産となっている。
4 月～ 11 月までの第 2・4 土曜、日曜を中心に予約制で見学会を実施している。

F　因美線スローライフ列車の旅
車窓の風景と列車のリズムに身を任せた気まま旅。出発点は「津山駅」だーー。
ここは全国でも珍しい「扇形機関車庫」が姿を残す駅。
京都の梅小路につぐ 2 番目の規模と聞くと、その貴重さに愛好家のみならず継承を願わずにいられない。
地方都市発展の原動力となったかつての "" 鉄道 "" に想いを巡らせ、途中下車したのは「美作滝尾駅」。
昭和レトロな木造駅舎が、ノスタルジックな気分を盛り上げてくれる。
津山・智頭間の因美線沿線は、古き良き時代の駅舎が保存されている。
そして、この旅を代表する「松岸橋梁」へと向うスローライフ列車、心地よい風がいつもの喧噪を忘れさせてくれる。

G　津山の四季彩
小京都ならではの美しく豊かな自然は季節ごとに移ろい訪問者を魅了する
ゆるり時の流れが奏でる原風景

No.19　津山（岡山県 津山市）

美作の国 歴史と文化の城下町 津山　/　津山市観光協会　/　2013

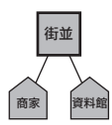
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	森一族	【活動】	本能寺の変の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	津山城 (鶴山公園)	【点的空間】	初代藩主森忠政が 1616 年に完成させた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	石垣	【点的空間】	今もその面影を残す , 津山藩の足跡を伝える	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	備中櫓	【点的空間】	復元した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	鶴山公園	【点的空間】	城跡の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	さくら名所	【線的空間】		
7	城下町 (津山)	【全体像】	小京都ならではの / 往時の面影を残す	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	商家	【点的空間】	城下町として繁栄した往時の面影	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	町並み	【線的空間】	城下町として繁栄した往時の面影	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	津山洋学資料館	【点的空間】	古い町並みに調和する外観	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	旧津山扇形機関車庫	【点的空間】	鉄道近代化遺産	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	見学会	【活動】		
13	因美線	【活動】		
14	津山駅	【点的空間】		
15	美作滝尾駅	【点的空間】	昭和レトロな木造駅舎	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	駅舎	【点的空間】	古き良き時代の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
17	松川橋梁	【点的空間】		

価値グループ

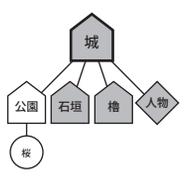
{分散型}

19-a



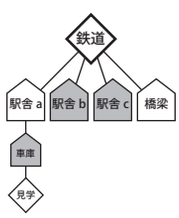
一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般主調

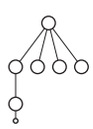
19-b



一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般主調

19-c





一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般主調

No.20　竹原（広島県 竹原市）

竹原市観光ガイドマップ 歴史情緒と潮風が薫る町 たけはら
/　竹原市産業振興課観光交流室・社団法人竹原市観光協会　/　2012

分析単位

A　ようこそ、安芸の小京都へ。ここは、江戸時代の歴史情緒が薫る町。
はるか平安時代、京都下鴨神社の荘園として栄えた竹原。
今も貴重な文化遺産が生き続ける情緒あふれる町です。
特に上市・下市には、江戸時代後期に製塩や製造業で栄えたお屋敷や由緒あるお寺のある町並みが往時の姿をそのままに伝えています。
寺山に沿って南北に走るメインストリートの本町通りのほかはどの通りも道幅が狭く、大小路や板屋小路、中ノ小路など路によって雰囲気もさまざま。
また、高い壁や長屋門の格子、覆いの漆喰壁などが江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え、町の至る所に当時の暮らしぶりを見ることができます。
今を生きる私たちに歴史を語り継いでくれるこの小さな町を、大切に守り続けたい。そんなかけがえのない町並みです。

B　町並み保存地区
歴史の息吹を感じつつ、ゆっくりと歩いてみる。
耳をすませば、往時の町のざわめきが聞こえる気がした。
ノスタルジックな風にふかれていつしか気分はタイムトリップ。

C　竹原格子　意匠を凝らした美しい格子を、一軒一軒楽しむ
竹原の町家には「竹原格子」と呼ばれる独特の格子が見られます。
一階部分には出格子があり、中二階には虫籠窓や武者窓と呼ばれる塗格子などがあります。
古い格子は太く、江戸後期になると隙間が狭く繊細になり、縦格子に横格子を加えた変化のあるデザインとなりました。
切り絵のような羽目板や、模様付の横格子など、そのデザインは一軒一軒あるいは一軒の家の中でもさまざまで、芸術鑑賞をするように美しい格子を見て歩くのも竹原散策の楽しみの一つです。

D　忠海エリア　潮風を浴びて、海岸線を走ろう。
町並み保存地区から車で約 15 分、さわやかな潮風を浴びて海岸線を走ると、小説の舞台となった海辺やかぐや姫美術館などの見どころが集まる忠海町に到着です。

E　湯坂温泉郷　伝説の湯に、心も体も癒される。
負傷した鶴が良質な湯を飲んで傷を癒したことから「鶴の井」と呼ばれ、親しまれてきました。
緑に囲まれ、賀茂川のせせらぎを聞きながら、ゆったりと心も体もほどけるようなひとときを。

No.20　竹原（広島県 竹原市）

竹原市観光ガイドマップ 歴史情緒と潮風が薫る町 たけはら
/　竹原市産業振興課観光交流室・社団法人竹原市観光協会　/　2012

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	竹原	【全体像】	京都下鴨神社の荘園として栄えた , 安芸の小京都 / 江戸時代の歴史情緒が薫る	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	上市・下市（街並）	【線的空間】	江戸時代の歴史情緒が薫る	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	お屋敷	【点的空間】	江戸時代に製塩や製造業で栄えた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	お寺	【点的空間】	由緒ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	寺山	【周縁部】		
6	本町通	【線的空間】		
7	大小路	【線的空間】		
8	板屋小路	【線的空間】		
9	中ノ小路	【線的空間】		
10	壁	【点的空間】	江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	長屋門	【点的空間】	江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	格子	【点的空間】	江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	漆喰壁	【点的空間】	江戸時代の横丁の雰囲気を良く伝え	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	町家	【点的空間】		
15	竹原格子	【点的空間】	江戸後期になると	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	忠海エリア	【全体像】		
17	潮風	【活動】		
18	海辺	【周縁部】	小説の舞台となった	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	かぐや姫美術館	【点的空間】	かぐや姫	〔京都の歴史属性〕
20	湯坂温泉郷	【全体像】	伝説の湯	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	緑	【線的空間】		
22	賀茂川のせせらぎ	【線的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔京都の歴史属性〕

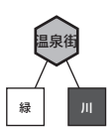
価値グループ

{分散型}

20-a

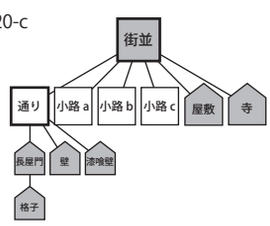
一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般 - 転用

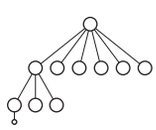
20-b



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般 - 転用

20-c





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般主調

No.21　山口（山口県 山口市）

ぶらり山口 山口市観光ガイドブック　/　山口市観光課　/　2012

分析単位

A　ぶらり山口

思うまま、気ままに、ぶらり
歴史、文化、自然、温泉と、たくさんの魅力と出会いが待っている山口市。
大内文化の面影を感じながら散策する。歴史の道・萩往還を歩いてみる。
SL「やまぐち」号に会いに行く。のんびりと湯田温泉を楽しむ。
北は中国山地、南は瀬戸内海の、大自然を満喫してみる。
あなたが引き寄せられる場所を訪れたら、思いっきり見て、感じて、体験してください。
あなたの思うまま、気ままに「ぶらり」と過ごす山口の旅へ。

B　ぶらり大内文化探訪

室町時代、大内氏が京を模して築いた山口には、華やかな大内文化の面影を色濃く残す史跡が点在しています。
香山公園周辺、堅小路周辺をルートに沿ってぶらりと散策しながら、大内文化の香りを感じてみませんか。

C　大内文化とは？

室町時代、山口を中心に栄えた大内文化。
守護大名の 24 代大内弘世が京に憧れを抱き、山口の地で京に模した街づくりを始めたのをきっかけに、大内氏が滅亡するまでの約 200 年間、京や大陸の文化に影響された独自の文化が生み出されました。
大内氏は、朝鮮王朝や民国との交易で手にした強大な経済力を背景に、水墨画家・雪舟をはじめ多くの文化人を招いて、文化の興隆に尽力しました。

D　ぶらり歴史の道・萩往還

維新の志士たちも駆け抜けた、萩～山口～防府をつなぐ歴史の道「萩往還」。
武士や庶民、幕末の志士たちの想いを感じてみませんか。

E　萩往還とは？

萩市、山口市、防府市をつなぐ萩往還は、毛利氏が慶長 9 年 (1604) 萩城築城後、江戸への参勤交代での「御成道」として開かれました。
日本海側の萩（萩市）と瀬戸内海川の三田尻港（防府市）をほぼ直線で結び、全長はおよそ 53km。
江戸時代の庶民にとって山陰と山陽を結ぶ「陰陽連結道」として重要な交通路であり、幕末には維新の志士たちも往来し、歴史の上で重要な役割を果たしました。

F　ぶらり SL「やまぐち」号で行く

山口線の新山口駅から津和野駅までを走る SL「やまぐち」号。「貴婦人」の愛称で親しまれている蒸気機関車「C571」に乗って、レトロな雰囲気漂う鉄道の旅に出かけませんか？

G　SL「やまぐち」号

新山口を出発し、湯田温泉、山口、長門峡、そして、山陰の小京都・津和野まで、62.9km を約 2 時間かけて走る SL「やまぐち」号。
かつて、全国の蒸気機関車が廃止される中、昭和 48 年 10 月、山口線からも SL は姿を消しました。
その後、多くの SL ファンや地元を中心に SL 復活への気運が高まり、昭和 54 年 8 月、山口線に SL が復活することになりました。
現在も、「貴婦人」の愛称で親しまれる「C571」。多くの人々をのせて山口線を駆け抜けています。

H　ぶらり湯田温泉へ行こう

山口県の中心部に位置する湯田温泉。
豊富な湯量を誇る温泉郷として知られ、古くから親しまれてきました。
山口県の中心部にあることから県内観光地へのアクセスがよく、また、幕末に活躍した維新志士も立ち寄り、詩人・中原中也を輩出したことから、関連史跡も数多く点在しています。
温泉・食事と併せて散策もお楽しみください。

No.21　山口（山口県 山口市）

ぶらり山口 山口市観光ガイドブック　/　山口市観光課　/　2012

I　湯田温泉とは？

湯田温泉の起こりは、約 800 年前といわれ、けがをした白狐が傷を癒すために浸かっていたという白狐伝説が残っています。

湯量が豊富で、アルカリ性単純温泉の肌によく馴染むやわらかい湯が特徴。「美肌の湯」とも呼ばれています。

J　山口イベントカレンダー

歴史ある山口では、山口祇園祭や山口七夕ちょうちんまつりなど、何百年も前から伝わる伝統行事が大切に守られています。

また、地域性を活かしたユニークなイベントも開催されています。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	萩往還	【線的空間】	維新の志士が駆け抜けた , 江戸の参勤交代に毛利氏が開いた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	SL やまぐち号	【活動】	レトロな雰囲気漂う	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
3	湯田温泉	【全体像】	800 年前から , 維新の志士も立ち寄った , 中原中也を輩出した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	中国山地	【周縁部】		
5	瀬戸内海	【周縁部】		
6	山口	【全体像】	室町時代に大内氏が京を模して築いた	〔京都の歴史属性〕
7	史跡	【点的空間】	大内文化の面影を残す	〔京都の歴史属性〕
8	香山公園	【点的空間】	大内文化の面影を残す	〔京都の歴史属性〕
9	堅小路	【線的空間】	大内文化の面影を残す	〔京都の歴史属性〕
10	維新の志士	【活動】	幕末に活躍した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	萩	【全体像】	維新の志士が駆け抜けた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	防府	【全体像】	維新の志士が駆け抜けた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	長門峡	【周縁部】		
14	津和野	【全体像】	山陰の小京都	〔京都の歴史属性〕
15	史跡	【点的空間】	維新の志士ゆかり , 中原中也ゆかり	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	食事	【モノ】		
17	温泉	【モノ】		
18	白狐伝説	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	山口祇園祭り	【活動】	祇園祭	〔京都の歴史属性〕
20	山口七夕ちょうちんまつり	【活動】	何百年も前から伝わる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

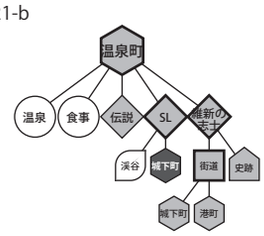
価値グループ

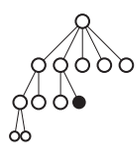
{分散型}

21-a

一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：3 単純階層
歴史属性	転用主調

21-b





一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般 - 転用

No.22　大洲（愛媛県 大洲市）

城下町 大洲 ～ぶらり町並快遊～　/　大洲市観光総合宣伝事業推進協議会　/　-

分析単位

A　肱南エリア町歩きマップ

時代のページをめくりながら、ぶらりぶらりと散策してみませんか？
先人達が、今に残した町並の雰囲気がこころに残ります。

B　肱南　ー肘川と共に綴る　今昔物語ー

大洲城
台所櫓と高欄櫓がＬ字型に連結している天守は、デザインの美しい千鳥破風、唐破風が多数使われ、小さいながらも五重天守と印象が変わらない。
戦国時代後、戸田勝隆、藤堂高虎、脇坂安治、加藤貞泰等が相次いで城主となった。
維新後、廃藩による城郭廃止令からは免れたが、傷みがひどく、明治 21 年に取り壊された。
しかし、台所櫓、高欄櫓、苧綿櫓、南隅櫓は残り、国重要文化財に指定され健在である。
現在の天守閣は、当時の城を再建したいという市民の願いから、平成 16 年に「古写真」、「天守雛形」等の資料を基に、当時のままに復元したものである。

C　臥龍山荘

清流肘川河畔で最も優れた景勝地「臥龍淵」に佇む臥龍山荘は、幕末までは歴代藩主の遊賞地だったが、維新後は自然荒廃した。
現在の山荘は、明治の貿易商河内寅次郎が、自らの想いを地元大工中野寅雄に託し、京都から千家十職等を招いて築いたとされる。
特に、主屋の「臥龍院」建築には、明治 36 年から 4 年の工期をかけている。
丹精な数寄屋造りで、桂離宮や修学院離宮、梨本宮御常御殿等を参考にしたといわれており、欄間の透かし彫りや屋久杉の天井等、細部に至るまで巧みの技が活かされた比類なき名建築である。
延べ 3 千坪の敷地内には、かつて浴室だったものを茶室へと改造した「知止庵」や、「不老庵」もある。
平成 23 年ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン 1 つ星獲得。

D　ふれあい　ー今に繋ぐ　心踊る風物詩ー　鵜飼い

鵜飼いとは、鵜を巧みに操り、鮎などを捕らえる漁法。
大洲は日本三大鵜飼いの 1 つに数えられ、清流肘川を舞台に華麗な水上ショーが開催されている。
屋形船で郷土料理を食べながら鵜匠の船と一緒に肘川を下り、間近で鵜が魚を捕らえる技を見ることができる。
また、捕まえた鮎を鵜匠が屋形船に放り投げてくれるサービスも、大洲鵜飼いの醍醐味である。
昼間も鵜飼いが開催され、周囲の風景を眺めながら楽しむこともできる。

E　臥龍の渡し

かつて肘川を渡るには渡し船を利用するしかなかったが、大正 2 年に肘川橋が建設されたことで、渡し船は最終的になくなってしまった。しかし、昭和 55 年、肘川の渡し船を後世に残すため復活させた。
今では、名建築「臥龍山荘」を屋形船からゆったりと眺めることが出来る風物詩として人々に愛されている。

F　大洲の「ええモン」をセレクト

伊予の小京都・大洲。その中心には愛媛県最大の一級河川「肘川」が悠々と流れています。
肘川は大洲に多くの恵みをもたらし、その恵みを活かして様々な産品を創り出してきました。
その中から選りすぐった、大洲ならではの魅力ある「ええモン」をご紹介します。

G　大洲市広域マップ

大洲は地区によって楽しみ方も様々。里山に、城下町に、港町に。
肘川と共に育まれた自然と歴史を感じてください。

H　おみやげ

藩政時代に芽生えた様々な文化が、今もなお愛される大洲の名物となりました。
大洲へお越しの際は、ぜひ味わってみてください。

No.22　大洲（愛媛県 大洲市）

城下町 大洲 ～ぶらり町並快遊～　/　大洲市観光総合宣伝事業推進協議会　/　-

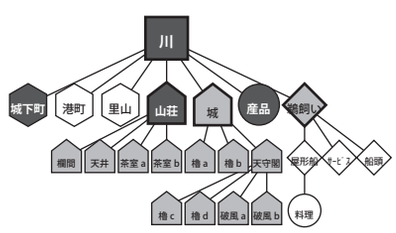
価値対象と歴史属性

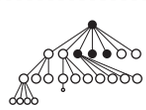
No.	価値対象		歴史属性	
1	町並み	【線的空間】	先人達が今に残した	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
2	肘川	【線的空間】	伊予の小京都の中心	〔京都の歴史属性〕
3	大洲城	【点的空間】	戦国時代後に藤堂高虎らが城主になった	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	台所櫓	【点的空間】	藤堂高虎らが城主になったものが残っている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	高欄櫓	【点的空間】	藤堂高虎らが城主になったものが残っている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	天守	【点的空間】	江戸時代のものを復元した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	千鳥破風	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	唐破風	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	苧綿櫓	【点的空間】	藤堂高虎らが城主になったものが残っている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	南隅櫓	【点的空間】	藤堂高虎らが城主になったものが残っている	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	臥龍山荘	【点的空間】	京都から千家十職を招いて築いた , 桂離宮などを参考にした / 幕末まで歴代藩主の優賞地だった , 明治に築かれた	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	欄間の透かし彫り	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
13	屋久杉の天井	【点的空間】		
14	茶室	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
15	鵜飼い	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
16	屋形船	【活動】		
17	郷土料理	【モノ】		
18	鵜匠	【活動】		
19	サービス	【活動】		
20	臥龍の渡し	【活動】	大正 2 年まであったものを復活させた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
21	産品	【モノ】	伊予の小京都	〔京都の歴史属性〕
22	里山	【全体像】		
23	城下町 (大洲)	【全体像】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
24	港町	【全体像】		

価値グループ

{集約型}

22





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：7 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	転用 - 一般

No.23　中村（高知県 四万十市 中村）

夢のながれ 四万十川　観光ガイドブック　/　四万十市観光協会　/　-

分析単位

A　四万十じかん

四万十川は日本最後の清流といわれる 196km の四国最長の大河です。
人々はめぐる自然の時間とともに日々を営み、その流域は重要文化的景観に選定されています。
四万十じかんはゆっくりとやわらかく川面をながれます。

B　四万十川観光遊覧船

四万十川の風景を楽しみ、風情あふれるひとときを味わうことができます。
定時に運行する船や、貸切船、四万十川の伝統漁法を間近に見られるもの、予約お食事付き遊覧船、白い帆を張った舟母などがあります。

C　土佐の小京都　中村

中村は今から約 550 年前、一條氏が応仁の乱をさけて京都から下向し、京都に擬えて造られた町並みは碁盤目状に広がり、祇園、京町、鴨川、東山などの地名があり「土佐の小京都」とよばれています。
藩政時代には、山内一豊の弟、康豊が治め、後に 3 万石の中村藩が誕生しました。
今なお一條時代、藩政時代の歴史の足跡が点在する四万十市。
時の流れを、ゆっくりとのんびりと歴史散策でお楽しみください。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	四万十川	【線的空間】		
2	四万十川流域	【全体像】	重要文化的景観に選定	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
3	四万十川観光遊覧船	【活動】		
4	漁法	【活動】	伝統	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
5	食事	【モノ】		
6	白い帆	【モノ】		
7	中村	【全体像】	「土佐の小京都」, 一條氏が京都から下向した, 一條時代の足跡が点在する / 藩政時代の歴史の足跡が点在する	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	町並み	【線的空間】	京都に擬えて造られた碁盤目状の	〔京都の歴史属性〕
9	地名	【活動】	祇園や東山などの地名	〔京都の歴史属性〕
10	四万十市	【全体像】	一條時代の足跡が点在する / 藩政時代の歴史の足跡が点在する	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

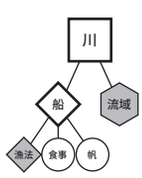
価値グループ

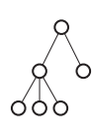
{分散型}

23-a

一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	転用主調

23-b





一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散
歴史属性	一般主調

No.24　秋月（福岡県 朝倉市 秋月）

筑前秋月 秋月城下町　/　秋月観光事業者組合　/　2014

分析単位

A　国重要伝統的建造物群保存地区　秋月城下町

表通りは土蔵の白壁、古びた格子、静かで愛しい城下町秋月は、筑前の小京都、みんなのふるさと、水清く美しいところです。

古くは天領日田と筑前博多を結ぶ、筑紫路に位置する田園の商都ー甘木ーの北方へ約六キロ。

小石原川沿いに行けば、谷間の風はつめたく、路傍の石にも昔が偲ばれます。

鎌倉ー戦国時代の雄、秋月氏が、一二〇三年に築城した山城跡。

秋月時代約四〇〇年、のち一六二四年福岡藩黒田家の分家、五万石城下町として栄えました。

当時千軒五千人といわれた町も今では三百軒千人程の静かな町になっています。

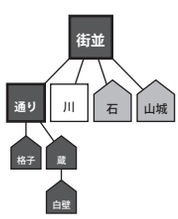
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	秋月城下町 (町並み)	【線的空間】	筑前の小京都 戦国時代、江戸時代に栄えた	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	秋月城下町	【全体像】	筑前の小京都 戦国時代、江戸時代に栄えた	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	表通り	【線的空間】	筑前の小京都	〔京都の歴史属性〕
4	土蔵	【点的空間】	筑前の小京都	〔京都の歴史属性〕
5	白壁	【点的空間】	筑前の小京都	〔京都の歴史属性〕
6	格子	【点的空間】		
7	小石原川	【線的空間】		
8	路傍の石	【点的空間】	昔がしのばれる	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	山城跡	【点的空間】	秋月氏が 1203 年に築城した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

価値グループ

{集中型}

24



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	転用 - 一般

No.25　小城（佐賀県 小城市）

小城 ing 春夏秋冬観光コース ジャンル別観光コース　/　小城市商工観光課　/　-

分析単位

A　しっとり大人の小京都！　小京都小城巡りコース
素敵な雰囲気を漂わせる小京都小城を満喫！
素敵な雰囲気を漂わせる小城市の街は、九州の小京都と言われています。
歴史と風情のちょっと大人な小城市の旅。

B　建築好き & カメラ女子おすすめ！　小城のレトロ建物巡りコース
懐かしい景色にタイムスリップ！小城市のレトロ建築を巡る
今に残る懐かしい建物が小城市内には点在しています。
カメラを片手にレトロな旅に出かけませんか？

C　村岡総本舗羊羹資料館（国登録有形文化財・22 世紀に残す佐賀県遺産）
文化財に登録された建物
趣きのある外観が魅力的な、煉瓦づくりの洋館。
もともとは、蘇油和 16 年 (1941 年) に建てられた砂糖蔵で、昭和 59 年（1984 年）に資料館として改築され、平成 9 年 (1996 年) 国の有形文化財に登録されました。
羊羹の製造道具、珍しい外国産羊羹のレッテルなど貴重な資料が展示されています。

D　小城羊羹　シャリ感がたまらない！昔羊羹
小城では、昔ながらの製法で作られた昔羊羹の製造が盛ん。
表面がかたく、中はしっとり、シャリシャリッとした独特の食感をお楽しみあれ。

E　伝統の技と心を感じる！小城の伝統技見学コース
職人の伝統と技と心を感じる！小城の伝統と技の見学
小城市の地酒に羊羹など歴史ある食に触れたり、昔の石工の技を知る旅。

F　見て！触れて！知って！小城の不思議発見コース
隠された小城市の秘密に迫ります！マジカルミステリー小城市
ムツゴロウの秘密から、小城市の由緒あるお寺まで　知れば小城市がもっと好きになる不思議ツアー。

G　市内各所に老舗が連なる　小城羊羹
昔ながらの製法でつくる小城羊羹は、表面は硬く砂糖のシャリ感が残り、中は滑らかな舌触り、ふんわり漂う小豆の上品な香りと豊かな風味が特徴です。
小城市で羊羹づくりが盛んになったのは、海外との玄関口･長崎から近く、潤沢に砂糖が手に入ったこと。
また、当時は、小豆やいんげん豆が採れ、きれいな水もあったためでした。
現在も、約 20 軒の地元羊羹店が代々伝わる伝統技法を守りつつ、大衆が求める味と心の安らぎをもたらす深みのある小城羊羹を作り続けています。

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	小城市の街	【全体像】	九州の小京都といわれる	〔京都の歴史属性〕
2	建物	【点的空間】	今に残る懐かしい、レトロ	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
3	村岡総本舗羊羹資料館	【点的空間】	昭和 16 年に建てられた砂糖蔵	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	羊羹の製造道具	【モノ】		
5	外国産羊羹のレッテル	【モノ】		
6	小城羊羹	【モノ】	昔ながらの製法で作られた	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
7	見学	【活動】		
8	地酒	【モノ】	歴史ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	石工の技	【モノ】	昔の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
10	ムツゴロウ	【モノ】		
11	お寺	【点的空間】	由緒ある	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
12	地元羊羹店	【点的空間】	代々伝わる伝統技法を守る	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

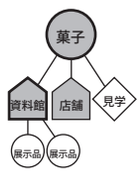
No.25　小城（佐賀県 小城市）

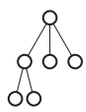
小城 ing 春夏秋冬観光コース ジャンル別観光コース　/　小城市商工観光課　/　-

価値グループ

{集中型}

25





一次の価値対象	生活型 - 物品系
階層構造	一次の結合数：3 複合階層 - 結合集中・小
歴史属性	一般主調

No.26　人吉（熊本県 人吉市）

また来ちゃった 人吉日記　/　人吉市観光案内所・人吉市観光振興課　/　-

分析単位

A　人吉城

「繊月城」「三日月城」とも呼ばれる人吉城は、人吉球磨地方を 700 年あまり統治した相良氏の居城です。
本格的な築城は、戦国時代に始まり、慶長年間、第二十代長毎の時に、近世の人吉城が誕生しました。

B　ひとよし温泉

五百年も前に相良家の殿様が、人吉温泉に入浴したと記録も残っている、歴史ある温泉。
それは、街の中心を流れる球磨川沿いに点在し、地元の人のみならず観光客にも人気となっています。
泉質は、弱アルカリ炭酸泉など。美人の湯でも有名。

C　球磨川下り

日本三急流の一つに数えられている球磨川。
球磨川下りは、人吉城跡の対岸、人吉発船場から球磨村渡までの清流コースと、球磨村渡発船場から球泉洞下までの急流コースがあり、奇岩怪石を見ながら四十八瀬を下ります。
船頭の熟練された舵取りは見事です。

D　小京都を歩く

市内には、小京都と呼ぶにふさわしい趣ある一角があります。代表的なものが「鍛冶屋通り」です。
その昔、鍛冶屋町はその名の通り鍛冶職人の町でした。今も 2 軒の鍛冶職人が鎚を振るっています。
石畳を中心に昔ながらの町並みが軒を連ねています。

E　相良三十三観音めぐり

人吉球磨地方には、一番札所から三十三番札所まで、全三十五の観音様があちらこちらに祀られています。
その昔から春と秋のお彼岸には、三十三ヶ所の観音霊場を巡って仏様の功徳をいただく三十三観音めぐりが行われています。
またこの期間中、各札所には巡礼者へ地域の人たちによる心づくしのお茶や漬け物などがふるまわれます。

F　国宝　青井阿蘇神社

多くの寺院や旧跡、文化財を今も残す人吉。
中でも青井阿蘇神社は、創建大同元年、人吉球磨地方の総鎮守であり最大の神社で、1200 年の時と歴史を越え、五棟社殿群（本殿・廊・弊殿・拝殿・楼門）が平成 20 年 6 月に国宝に指定されました。
神社のシンボルである茅葺きの楼門をはじめ、華麗に飾られた彫刻などは、桃山時代風の豪壮な建築様式を今に伝えます。

G　人吉クラフトパーク石野公園

導遊館（銀の指輪づくりなど）、陶芸館（焼物づくり）、鍛冶館（鍛冶体験）、（民工芸館（郷土玩具づくりなど）、木工館（キーホルダーづくりなど）などの人吉の伝統工芸コースや人吉球磨地方特産の球磨焼酎を紹介する焼酎館、抹茶の接待を受けることができる茶室、高さ 25m の展望所など人吉球磨の歴史や文化を体験を通して知ることができます。
人吉のお土産や伝統工芸を守る職人の作品展示もあります。入園無料。

H　絶景列車の旅

平成 21 年 4 月に復活運行し始めた SL58654 号機。
大正 11 年に常陸製作所にて製造され、昭和 50 年に廃車になりましたが、全国で SL が廃車となっていくなか、最後まで走り続けたのがこの列車でした。
昭和 63 年に「SL あそ BOY」として復活するも、機関車不調のため平成 17 年で運行を終了。
多くの鉄道ファンから復活を求める声を受け、「SL 人吉」として熊本 - 人吉間の運行を開始しました。
レトロな雰囲気を残しつつも、モダンなデザインが施された客室でゆっくり列車の旅を。

No.26　人吉（熊本県 人吉市）

また来ちゃった 人吉日記　/　人吉市観光案内所・人吉市観光振興課　/　-

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	人吉	【全体像】	城下町	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	人吉城跡	【点的空間】	相良氏の居城、戦国時代に建てられた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	相良家	【活動】	人吉を 700 年あまり統治した、鎌倉時代から明治維新まで続いた	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	球磨川	【線的空間】		
5	石段	【点的空間】	相良家 700 年の歴史の重さ	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	石垣	【点的空間】	相良家 700 年の歴史の重さ	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	ひとよし温泉	【モノ】	500 年前に相良家の殿様が入浴した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
8	公衆温泉	【点的空間】	懐かしい	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
9	球磨川下り	【活動】		
10	奇岩怪岩	【点的空間】		
11	船頭の舵取り	【活動】		
12	鍛冶屋通り	【線的空間】	小京都と呼ぶにふさわしい	〔京都の歴史属性〕
13	鍛冶職人	【活動】	その昔	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	石畳	【線的空間】	城下町らしい	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
15	町並み	【線的空間】	昔ながらの	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
16	お茶屋	【点的空間】		
17	茶	【モノ】		
18	相良三十三観音巡り	【活動】	その昔から	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
19	観音様	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
20	地元の人たちによる食べ物	【活動】		
21	青井阿蘇神社	【点的空間】	創建大同元年、1200 年の時と歴史を越え	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
22	本殿	【点的空間】	創建大同元年、1200 年の時と歴史を越え	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
23	廊	【点的空間】	創建大同元年、1200 年の時と歴史を越え	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
24	幣殿	【点的空間】	創建大同元年、1200 年の時と歴史を越え	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
25	拝殿	【点的空間】	創建大同元年、1200 年の時と歴史を越え	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
26	楼門	【点的空間】	桃山時代風の豪壮な建築様式	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
27	茅葺	【点的空間】	桃山時代風の豪壮な建築様式	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
28	彫刻	【点的空間】	桃山時代風の豪壮な建築様式	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
29	人吉クラフトパーク	【点的空間】		
30	銀の指輪づくり	【活動】	伝統工芸	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
31	焼物づくり	【活動】	伝統工芸	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
32	鍛冶体験	【活動】	伝統工芸	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
33	郷土玩具づくり	【活動】	伝統工芸	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
34	キーホルダーづくり	【活動】	伝統工芸	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
35	球磨焼酎	【モノ】		
36	抹茶	【モノ】		
37	展望所	【点的空間】		
38	SL58654 号機	【活動】	大正 11 年に製造、復活運行した	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
39	駅弁	【モノ】		

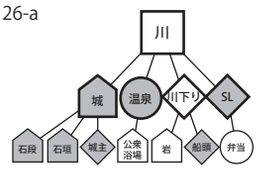
No.26　人吉（熊本県 人吉市）

また来ちゃった 人吉日記　/　人吉市観光案内所・人吉市観光振興課　/　-

価値グループ

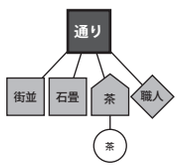
{分散型}

26-a



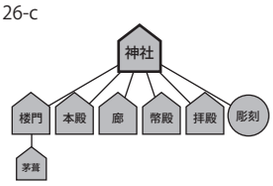
一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 結合分散
歴史属性	一般主調

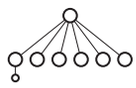
26-b



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：4 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	転用 - 一般

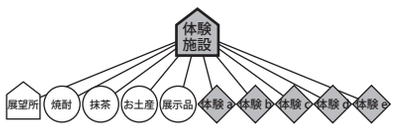
26-c





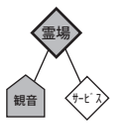
一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：6 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般主調

26-d



一次の価値対象	空間型 - 点的空間系
階層構造	一次の結合数：10 単純階層
歴史属性	一般主調

26-e



一次の価値対象	生活型 - 活動系
階層構造	一次の結合数：2 単純階層
歴史属性	一般主調

No.27　杵築（大分県 杵築市）

時と和が紡ぐ物語　杵築城下町　/　杵築市商工観光課　/　2013

分析単位

A　おもてなしの城下町　武家屋敷と坂道が織り成す和のこころ

江戸時代、徳川家に仕えていた譜代大名・能見松平英親が豊後国高田城主より入封し、以来二二〇余年にわたり松平三万二千石の城下町として栄えた杵築市。

海と断崖に囲まれた台地を上手く利用した城下町で、商人の町を南北の武家屋敷が挟む形は、日本でもめずらしい。

志保屋の坂の上から望むパノラマは、江戸情緒漂う 杵築最大の見どころ。遠くに見える酢屋の坂と、青空に映える美しい緑が調和し、和服の華が城下町を彩る。

ゆっくり歩けば感じる、人々の温かいおもてなしと和のこころ。坂道や武家屋敷に秘められた物語を紐解きながら、杵築城下町散策がここからはじまる。

B　応永元年（一三九四）、大友氏の一族であった木村氏四代頼直が、今の地に城を築いたのが杵築城下町のはじまりである。

杵築城を中心に、谷川に沿って商人町が作られ、この商人町を挟むように北台と南台の台地に武家屋敷がおかれた。

土地の高低をうまく利用した町並みは、立体的な景観を生み出し、今も往年の城下町の姿を感じることができる。

・生い茂る緑と土塀のコントラスト　遥かなる歴史ロマンに浸る　ー北台武家屋敷

・四季の移ろいを感じる美しき庭園の世界　ー大原邸　　・癒しと寛ぎのお茶処　ー能見邸

・自然美あふれる空間に身をゆだねて…　ー磯矢邸　　・文教薫る学びの舎　ー藩校の門

・無邪気に駆け抜ける風景は今も昔も変わらない　ー南台武家屋敷

・穏やかな余生を過ごした風情ある家老屋敷　ー中根邸　・寺院巡りや座禅体験も　ー寺町

C　坂道がつなぐ歴史ロマン

・個性あふれる杵築の「坂道」　・二十の坂道が人と時代をつなぐ

D　歴史を受け継ぐ商人の町　〈町家文化〉

かつて府内（大分）に次ぎ、豊後では屈指の商都であった杵築。

杵築商人は親切丁寧であり、人情の町として知られ、わざわざ遠くから買い物に来る人も多かったという。

南北の武家屋敷の谷間に今も江戸の粋な風情を留める町家界隈。

お客様を迎える心づくしのおもてなしと洗練された伝統の味や技は、今も変わらず息づいている。

・一服のお茶に感じる杵築のおもてなし文化

・手づくりにこだわり曲げ物の技を受け継ぐ

・自然の恵みと時が紡ぐ伝統の味

・出会いから生まれる精魂込めた酒造り

・切れ味と使い心地が匠の技の証

E　和服で歩く城下町　手ぶらで気軽に着物散策を

F　江戸の町には、大衆演劇が似合う　ーきつき衆楽観

・舞台と観客が一体となる瞬間

・よみがえった大衆演劇の殿堂

G　さらに城下町を紐解く

坂道や武家屋敷に秘められた物語を紐解きながら城下町を巡ると、さらに深い歴史を持つ杵築の姿が見えてくる。

過ぎ去りし時の証が記されている貴重な文物や建物に触れ、まだ知らない驚きと発見に出会おう。

・城下町のルーツを学ぶ　きつき城下町資料館

・豊後水道を望む絶景の堅城　杵築城

・浮流に通じた城下町の藩医　佐野家

・贅と粋を尽くした大邸宅　一松邸

No.27　杵築（大分県 杵築市）

時と和が紡ぐ物語　杵築城下町　/　杵築市商工観光課　/　2013

H　城下町の情熱が燃える　城下町の祭り

約三〇〇年の歴史を誇る夏の「天神祭り」をはじめ、大名行列が練り歩く「お城まつり」、秋の風情を楽しむ「観月祭」、町全体が春色に染まる「ひいなめぐり」など、城下町に四季の到来を告げる、華やかな祭りの数々。

自然や祖先を敬い、祈りを捧げる人々の情熱が、今も息づき受け継がれている。

・お祭り男達の血が騒ぐ、真夏の風物詩　ー天神祭り

町をあげてにぎわう伝統の夏祭り

・艶やかな花魁道中に誘われて　ーきつきお城まつり

城下町一帯が江戸時代にタイムスリップ

・月と行燈の灯りが織り成す、光の世界へ　ー観月祭

幻想的な演出が秋の夜を彩る

・表情豊かなおひなさまが、城下町に春を呼ぶ　ーひいなめぐり

伝統のおひなさまをじっくり愛でる

I　もうひとつの杵築

江戸時代の城下町から、さらに歴史をさかのぼり、古代・中世の杵築へ。

山香・大田エリアには、国東半島を中心に繁栄した「六郷満山文化」を物語る遺宝が今もなお色濃く残り、幸せを願う古の人たちの真摯な姿が伝えられている。

・六郷満山の祈りが息づく　ー田原山と津波戸山と雲ヶ岳

・天下御免の有難い神酒　ーどぶろく祭り

・堂々優美な石造美術と木造彫刻　ー財前家宝塔・石丸宝塔・田原家五重塔・木造倶利伽藍竜剣

価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	武家屋敷	【点的空間】	今も江戸の粋な風情を留める	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	坂道	【線的空間】		
3	杵築市、杵築の城下町	【全体像】	江戸時代から栄えた、徳川譜代大名松平家の城下町、江戸情緒漂う	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	志保屋の坂	【線的空間】	江戸情緒漂う	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	酢屋の坂	【線的空間】		
6	和服	【活動】		
7	杵築城	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
8	商人町（町家界隈）	【全体像】	今も江戸の粋な風情を留める	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
9	北台武家屋敷	【点的空間】	今も江戸の粋な風情を留める	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
10	土塀	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
11	庭園	【点的空間】		
12	大原邸	【点的空間】	武家屋敷	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	お茶	【活動】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
14	能見邸	【点的空間】	武家屋敷	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
15	磯矢邸	【点的空間】	武家屋敷	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	藩校の門	【点的空間】	藩校の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	南台武家屋敷	【点的空間】	今も江戸の粋な風情を留める	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	中根邸	【点的空間】	家老屋敷	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	寺院巡り	【活動】		
20	座禅体験	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
21	寺町	【全体像】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
22	お茶	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
23	曲げ物	【モノ】	技を受け継ぐ	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
24	味	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
25	酒造り	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
26	匠の技	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
27	大衆演劇	【活動】	江戸の町に似合う	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
28	きつき衆楽観	【点的空間】	江戸の町に似合う	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
29	きつき城下町資料館	【点的空間】	城下町のルーツを学ぶ	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
30	豊後水道	【周縁部】		
31	佐野家	【点的空間】	城下町の藩医	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
32	一松邸	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
33	天神祭	【活動】	（名称から歴史属性を判断）/ 約三〇〇年の歴史を誇る	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

No.27　杵築（大分県 杵築市）

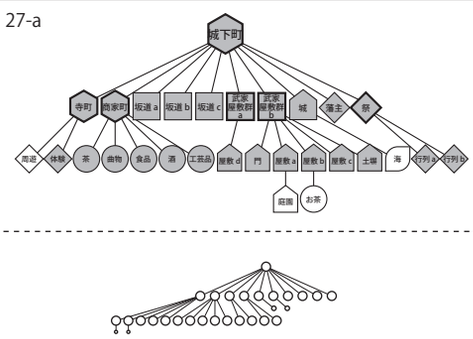
時と和が紡ぐ物語　杵築城下町　/　杵築市商工観光課　/　2013

No.				
34	大名行列	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	
35	お城まつり	【活動】	江戸時代にタイムスリップ	〔〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
36	観月祭	【活動】		
37	ひいなめぐり	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
38	お祭り男	【活動】		
39	花魁道中	【活動】	江戸時代にタイムスリップ	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
40	行燈の灯	【モノ】		
41	おひなさま	【モノ】	伝統の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
42	山香・太田エリア	【全体像】	古代・中世の杵築	
43	田原山	【周縁部】	六郷満山の祈りが息づく	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
44	津波戸山	【周縁部】	六郷満山の祈りが息づく	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
45	雲ヶ岳	【周縁部】	六郷満山の祈りが息づく	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
46	神酒 (どぶろく)	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
47	どぶろく祭り	【活動】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
48	財前家宝塔	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
49	石丸宝塔	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
50	田原家五重塔	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
51	木像倶利伽藍竜剣	【モノ】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
				〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
				〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

価値グループ

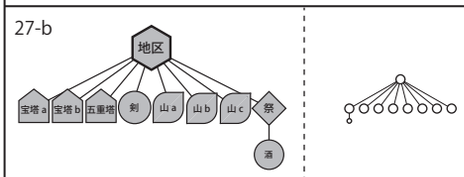
{分散型}

27-a



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：10 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	一般主調

27-b



一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：8 複合階層 - 二次の結合数 1
歴史属性	一般主調

No.28　飫肥（宮崎県 日南市 飫肥）

飫肥城下町めぐり　/　日南市商工観光課内・日南市観光協会　/　-

分析単位

A　九州の小京都　飫肥

苔むした城壁に磨り減った石段、槍の刃先にも似た飫肥杉の林が古都その情緒をかなでている。
飫肥は五万壱千八十石の城下町。
大手門から藩校振徳堂に通じる横馬場通り、豫章館から鯉の遊泳地、小村寿太郎候生誕地付近には武家屋敷の古い石垣がつづく。
商人通りは白壁と格子、瓦屋根に代表される日本建築の美を表現した旧商人町である。
”歩いてふれあう商家の町並み”には水瓶や樽を店頭に置いた商家、格子に壁行灯や番傘を飾った商家、瓦屋根に大樽を乗せた商家など、江戸風に演出された小道具が道行く人を魅了させてしまう。
それらの城下町風情を背景に記念写真におさまるのもいいし、軒下に設けられた”ばんこ”に腰をおろし、しみじみ”心のふるさと”感に浸るのもまたいい。
飫肥の旅情をいっそう引き立ててくれるに違いない。

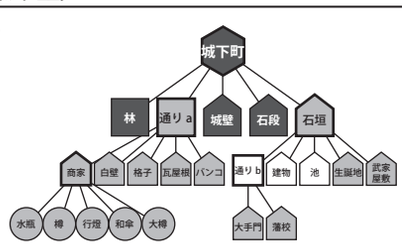
価値対象と歴史属性

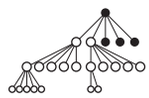
No.	価値対象		歴史属性	
1	飫肥	【全体像】	古都の情緒をかなでる / 五万壱千八十石の城下町	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	城壁	【点的空間】	古都の情緒をかなでる	〔京都の歴史属性〕
3	石段	【点的空間】	古都の情緒をかなでる	〔京都の歴史属性〕
4	飫肥杉の林	【線的空間】	古都の情緒をかなでる	〔京都の歴史属性〕
5	大手門	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
6	藩校振徳堂	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
7	横馬場通り	【線的空間】		
8	豫章館	【点的空間】		
9	鯉の遊泳地	【点的空間】		
10	生誕地	【点的空間】	小村寿太郎	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
11	武家屋敷	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
12	石垣	【点的空間】	武家屋敷の	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
13	商人通り	【線的空間】	江戸風に演出された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
14	白壁	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし
15	格子	【点的空間】	江戸風に演出された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
16	瓦屋根	【点的空間】	江戸風に演出された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
17	商家	【点的空間】	江戸風に演出された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
18	水瓶	【モノ】	江戸風に演出された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
19	樽	【モノ】	江戸風に演出された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
20	壁行燈	【モノ】	江戸風に演出された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
21	番傘	【モノ】	江戸風に演出された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
22	大樽	【モノ】	江戸風に演出された	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
23	ばんこ	【点的空間】	（名称から歴史属性を判断）	〔その他の歴史属性〕- 具体性なし

価値グループ

{集中型}

28





一次の価値対象	全体像型
階層構造	一次の結合数：5 複合階層 - 結合集中・大
歴史属性	転用 - 一般

No.29　知覧（鹿児島県 南九州市 知覧町）

今、ひらく歴史の息吹 ちらん　/　南九州市役所内南九州市知覧観光協会　/　-

分析単位

A　薩摩の小京都 知覧武家屋敷群（国選定重要伝統的建造物群保存地区）
時を超えてさらに歴史の息吹を感じる
武の国・薩摩を歩くと、整然と並ぶ石垣や厳かな腕木門を配した武家屋敷に出会います。
それは島津藩政時代に、藩内に百十三築いたと言われる外城と呼ばれるものです。
第十八代知覧領主島津久峯は、藩主の参勤交代に伴い江戸へあがりました。
道中、京都へ赴き漢詩や書道を学び、家臣共々京の文化に接し、知覧へ持ち帰ったといわれています。
名園の誉れ高い庭は母ヶ岳を借景にし、町並み全体が箱庭のような趣があり、薩摩の小京都と呼ばれています。

B　世界恒久平和を願う　知覧特攻平和会館
時代が教えてくれた平和のすばらしさ
私たちが生きているこの平和な時代をかみしめるとき、あの大東亜戦争末期に、ここから旅立ち、遥か南の洋上に散っていった若い隊員のことを忘れてはいけないと思います。

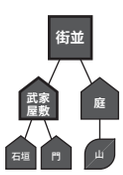
価値対象と歴史属性

No.	価値対象		歴史属性	
1	知覧	【全体像】	薩摩の小京都 , 京の文化を持ち帰った / 島津藩政時代	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
2	知覧武家屋敷群	【線的空間】	薩摩の小京都 , 京の文化を持ち帰った / 島津藩政時代	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
3	石垣	【点的空間】	薩摩の小京都 , 京の文化を持ち帰った / 島津藩政時代	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
4	腕木門	【点的空間】	薩摩の小京都 , 京の文化を持ち帰った / 島津藩政時代	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
5	武家屋敷	【点的空間】	薩摩の小京都 , 京の文化を持ち帰った / 島津藩政時代	〔京都の歴史属性〕 〔その他の歴史属性〕- 具体性あり
6	庭	【点的空間】	薩摩の小京都 , 京の文化を持ち帰った	〔京都の歴史属性〕
7	母ヶ岳	【周縁部】	薩摩の小京都 , 京の文化を持ち帰った	〔京都の歴史属性〕
8	知覧特攻平和館	【点的空間】	大東亜戦争	〔その他の歴史属性〕- 具体性あり

価値グループ

{集中型}

29



一次の価値対象	空間型 - 線的空間系
階層構造	一次の結合数：2 複合階層 - 結合分散
歴史属性	転用主調